

平成8年

## 日本学校歯科医会会誌

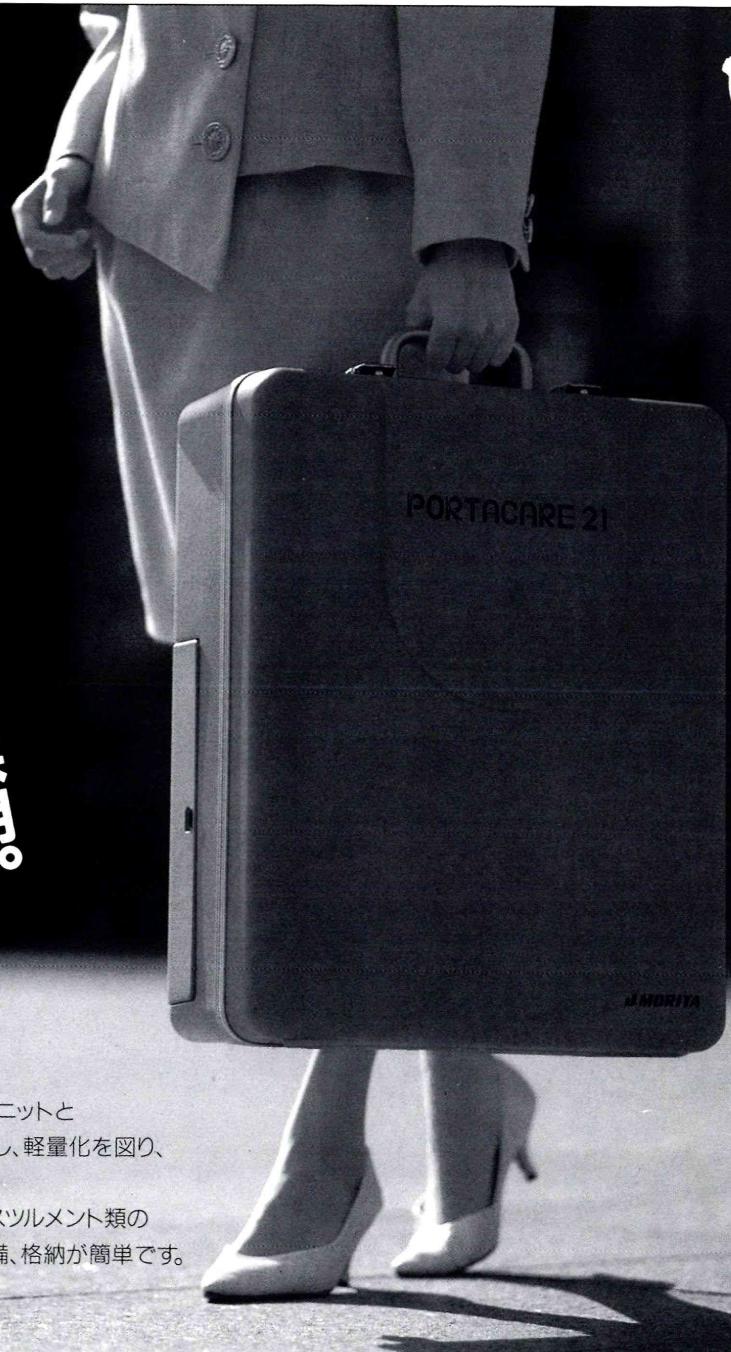
75

平成7年度学校歯科保健研究協議会  
むし歯予防推進指定校協議会



夢を育む丈夫な歯

小型・軽量・スイングアーム採用。



診療ユニット本体の機能をユニットと  
小型コンプレッサーとに分割し、軽量化を図り、  
持ち運びしやすくなりました。  
スイングアームの採用でインスツルメント類の  
操作性が良くなり、診療の準備、格納が簡単です。

歯科用ポータブル診療ユニット

# ポータケアー21

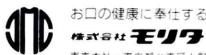
■承認番号 (02B)第1519号

※受注生産品



※写真はフル装備  
仕様です。

資料請求券  
ポータケアー21



お口の健康に奉仕する

株式会社モリタ

東京本社・東京都台東区上野2丁目11番15号 〒110 ☎(03)3834-6161  
大坂本社・吹田市重木町3丁目33番18号 〒564 ☎(06)380-2525

株式会社モリタ製作所

本社工場 京都府伏見区東山南町580番地 〒613 ☎(075)611-2141  
久南山工場 京都府久世郡久南町大字市田小字新珠城190 〒613 ☎(0774)43-7594

株式会社モリタ東京製作所

本社工場 埼玉県与野市上木合二丁目1番24号 〒338 ☎(048)852-1315  
M I C 埼玉県北足立郡伊奈町小室7129番地 〒362

## 平成7年度歯科保健に関する図画・ポスターコンクール

日本学校歯科医会では、次の世代をになう小学校・中学校の児童生徒に対して、口腔保健に関する理解と認識を深めるために「歯科保健に関する図画・ポスターコンクール」を始めて19年目になる。

応募および審査方法は、小学校低学年（1～3年）による図画、小学校高学年（4～6年）によるポスター、中学校によるポスターの3部門を設けて、加盟各団体から各部門1点ずつ日本学校歯科医会へ送付して頂き、小学生・中学生ともに各学年3点ずつを最優秀作品に選出することとした。

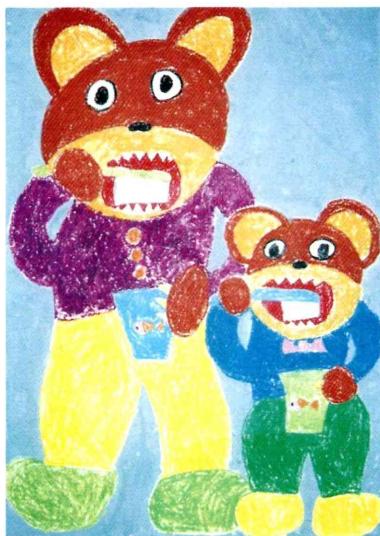
本年度は平成7年8月31日に応募を締め切り、応募作品139点の中から、近岡善次郎画伯（一水会会員）を中心とする審査委員による厳正な審査が行われ、後述のように15作品を最優秀とし、他の作品を優秀とした。

最優秀には賞状と楯、各作品をテレフォンカードにしたもの、優秀賞には賞状、また応募者全員に副賞の図書券が贈られた。

応募された各学校・児童生徒はじめ審査にあたられた都道府県学校歯科医会あるいは歯科医師会の審査員の方々に心から謝意を表します。



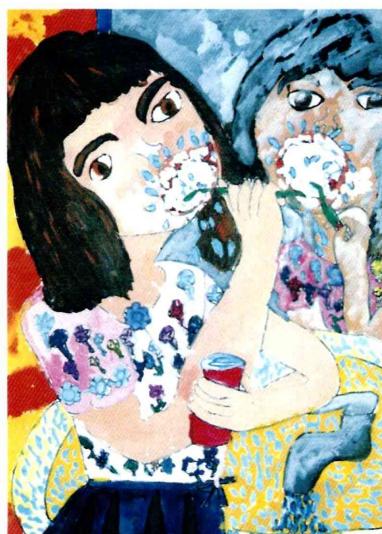
## 最優秀入選作品



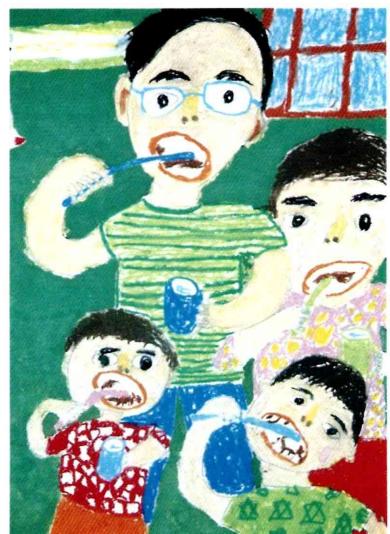
1年生 畠山 咲さん



1年生 森島 史穂さん



2年生 堀田 奈織美さん



2年生 高城 瑞伊くん



3年生 神園 一隆くん



3年生 田中 亜友美さん



4年生 小笠原 光二くん



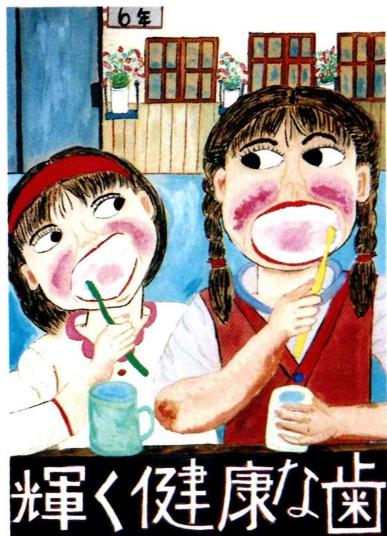
4年生 武内 沙絵里さん



5年生 星野 奈々子さん



5年生 工藤 恵子さん



6年生 株木 マミさん



6年生 村井 いつきさん

中学1年生 坂本 阿須奈さん



中学2年生 岡野 妃佐子さん



中学3年生 山田 奈都紀さん

# 総評

審査委員 近岡 善次郎  
(一水会会員)

色が明るくなってのびのびした絵が多く、昨年より絵が大きく見えたのが今年の最も良いところです。今年はポスターが多く、ポスターに関心が多いのが昨年と違うところでしょう。とても良い絵が多かった。

## 最優秀作品についての画評

### 1年生 畠山 咲さん（北海道）

可愛い熊の親子が色や形も気持ち良く描けていてとても良い。

### 1年生 森島 史穂さん（京都府）

画に強い動きがあり色も新鮮でとても良い。

### 2年生 堀田 奈織美さん（東京都）

少女2人の動きがとても良く出ている。色も良い。可愛い感じがして良い絵です。

### 2年生 高城 瑞伊くん（群馬県）

兄弟がそろって歯をみがいている姿が良く表されている。色もやさしく美しい。

### 3年生 神園 一隆くん（鹿児島県）

歯みがきをしている姿とそれが鏡に写っているところを画の構図に取り入れたところが良い。色も明るい。

### 3年生 田中 亜友美さん（徳島県）

歯をみがいている子供達がみんな優しく可愛い。色が淡く温かいのがこの絵を可愛くしている。

### 4年生 武内 沙絵里さん（神奈川県）

動物をうまく取り入れて構図も元気良い感じをうまく出している。

### 4年生 小笠原 光二くん（青森県）

全体の色の調和が絵をきれいにしている。人物の動きも良く出ている。

### 5年生 星野 奈々子さん（栃木県）

おばあちゃんと僕が元気良く並んでいる感じを良く描いている。色もはっきりして絵を強くしているところが良い。

### 5年生 工藤 恵子さん（山形県）

鏡に写っている感じが良く出ている。色も淡くて優しい感じを出している。

### 6年生 枝木 マミさん（宮崎県）

色がとても美しい。筆の走りも優しく全体を優しく仕上げている。人物の描き方がうまい。

### 6年生 村井 いつきさん（富山県）

色も形も線の強さもみんな良く力強い。ポスターの良い面を出している。

### 中学1年生 坂本 阿須奈さん（岡山県）

色がすっきりしてとても美しい。物の並べ方も強弱、遠近をうまく取り入れて気持ちの良いポスターです。

### 中学2年生 岡野 妃佐子さん（千葉県）

色を優しく美しく配置したところが良い。構図も色も斜線をうまく使った絵に動きを出している。

### 中学3年生 山田 奈都紀さん（和歌山県）

文字の配置、絵の中の物体の配置みんな良い。色も優しく絵の広がりを助けている。

## 平成7年度図画・ポスター応募一覧

地区	小学校低学年図画			小学校高学年ポスター			中学校ポスター		
	学校名	学年	氏名	学校名	学年	氏名	学校名	学年	氏名
北海道	阿寒町立阿寒小	1	★畠 山 咲	帯広市立柏小	6	茂 木 彩 葉	弘前市立南中	3	中 藤 富 熊
札幌	札幌市立西岡北小	1	佐々木 一 人	札幌市立元町北小	4	角 野 み なみ	大 東 町 興 田 中	3	川 森 横 谷
青森県	稻垣村立繁田小	3	波 谷 佳 秀	千和田市立大不動小	4	★小笠原 光 二	秋 田 市 立 勝 平 中	3	七 香 水 健 祥
岩手県	大東町立猿沢小	1	石 井 裕 美	遠 野 市 立 綾 織 小	6	馬 場 望	氣 仙 沼 市 立 松 岩 中	3	大 加 藤 槟 梨
秋田県	秋田市立川尻小	1	ひがし よう すけ	鷹巣町立綾子小	5	藤 島 彩 香	河 北 町 立 河 北 中	3	葉 佐 帆 貴 子
宮城県	栗駒町立宝来小	1	秋 山 千 寻	小牛田町立青生小	6	庄 子 美 穂	白 河 市 立 白 河 中	1	子 森 梶 祥 梨
山形県	天童市立天童南部小	2	深 作 崇 史	天童市立千布小	5	★工 藤 恵 子	下 妻 市 立 東 部 中	3	大 田 部 村 幸 美
福島県	須賀川市立仁井田小	2	森 合 理 絵	白河市立白河第一小	6	成 井 華 明	大 田 原 市 立 大 田 原 中	2	小 部 村 桂 子
茨城県				水海道市立菅生小	4	宮 崎 修 修	西 岸 田 駒 修		西 岸 田 駒 修
栃木県	葛生町立会沢小	1	こじまたかあき	足 尾 町 立 原 小	5	★星 野 奈々子	大 泉 町 立 北 中	3	大 泉 町 立 北 中
群馬県	群馬町立堤ヶ岡小	2	★高 城 瑞 伊	太 田 市 立 城 西 小	4	遠 藤 裕 和	小 見 田 市 立 小 見 田 中	2	★岡 野 関 水
千葉県	鎌子市立若宮小	1	田 杭 具 視	松 尾 町 立 大 平 小	6	和 田 実 咲	浦 和 市 立 常 鮮 中	2	来 季 美 芙
埼玉県	志木市立志木第三小	3	橋 本 雅 也	新 座 市 立 片 山 小	4	本 田 賢 史	調 布 市 立 第 五 中	3	季 美 芙
東京都	千代田区立番町小	2	★堀 田 奈 織 美	品 川 市 立 平 塚 小	5	菅 田 翔			
神奈川県	平塚市岡崎小	3	近 藤 久 美 子	綾瀬市立北の台小	4	★武 内 沙 紗 里			
川崎市	川崎市立井田小	2	秋 山 直 仁	川崎市立新町小	6	桑 原 桂	川崎市立東高津中	3	藤 野 千 春
横浜市	横浜市立並木第三小	2	根 本 夏 樹	横浜市立洋光台第二小	4	有 智 子	横浜市立小田中	2	平 岡 宏
山梨県									
長野県	中川村立中川西小	2	桃 沢 祥 子	岡 谷 市 立 岡 谷 小	5	小 口 征 刚	諏 訪 市 立 諏 訪 南 中	2	西 步 麻 衣 子
新潟県	新発田市立住吉小	2	大 杉 美 奈 子	糸魚川市立小滝小	6	伊 藤 麻 衣	長 岡 市 立 西 中	1	小 中 駒 形
静岡県	磐田市立田原小	2	伊 藤 晓 香	静 駒 市 立 伝 馬 町 小	6	浅 井 一	島 田 市 立 島 田 第 二 中	3	麻 衣 子
愛知県	一宮市立中島小	1	久 保 ま り	津 島 市 立 蛍 間 小	5	沖 美 也 子			
名古屋市	名古屋市立明治小	2	豊 原 愛 美	名古屋市立中田井小	6	大 橋 い づ 美	名古屋市立富士中	3	島 津 玲 奈
岐阜県	養老町立池辺小	1	池 田 佳 菜 子	大 垣 市 立 西 小	6	玉 麻 弥			
三重県	安濃町立安濃小	1	浅 生 納 理	勢 和 村 立 丹 生 小	6	細 川 真 紀 人	大 台 町 学 校 組 合 協 和 中	3	梅 田 恭 子
石川県	穴 水 町 立 兜 小	2	浅 田 奈 津 美	七 尾 市 立 東 湊 小	5	山 嶺 せ り か			
福井県									
富山県	高岡市立成夷小	3	畠 野 小 夜	立 山 町 立 高 野 小	6	★村 井 い つき			
滋賀県	甲南町立中部小	3	森 田 悠 樹	信 楽 町 立 多 羅 尾 小	5	清 水 秀 美	大 津 市 立 唐 崎 中	3	浜 田 美 紀
和歌県	金屋町立峯口小	2	三 木 彩 加	白 浜 町 立 北 富 田 小	5	湯 川 知 美	海 南 市 立 第 一 中	3	★山 田 奈 都
奈良県	山添村立西豊小	2	東 久 保 拓 司	山 添 村 立 北 野 小	5	岡 田 亜 季 子	生 駒 市 立 生 駒 南 中	2	実 保 あ す か
京都府	京都市立花園小	1	★森 島 史 稔	野 田 川 町 立 市 場 小	6	安 岡 ま ゆ み	京 都 市 立 下 鴨 中	3	美 子
大阪府	堺市立福泉小	1	花 田 和 幸	堺 市 立 小 林 寺 小	6	杉 橋 千 玲	堺 市 立 三 国 丘 中	3	堺 高 飯
大阪市	大阪市立今福小	1	西 千 輝	大 阪 市 立 海 老 西 小	5	須 見 那	大 阪 市 立 東 中	2	堺 大 久 保
兵庫県									
神戸市									
岡山県	新見市立高尾小	1	油 木 文 代	新見市立思誠小	5	大 谷 泽 美 泉	勝 山 町 立 勝 山 中	1	★坂 本 阿 須 奈
鳥取県	気高町立浜村小	3	湯 口 翔 太	福 部 村 立 福 部 小	5	岡 村 美 和	吳 市 立 広 央 中	2	島 田 真 好
広島県	因島市立田熊小	1	村 上 真 希	尾 道 市 立 土 堂 小	5	北 和 美 健	多 伎 町 立 多 伎 中	2	三 中 喜 美
島根県	益田市立北仙道小	1	田 原 直 生	大 社 町 立 大 社 小	4	藤 泉 真 希	豊 浦 町 立 宇 賀 中	2	野 田 宅 陽
山口県	大島町立沖浦東小	1	濱 本 美 穂	岩 国 市 立 岩 国 小	6	井 上 宏	山 川 町 立 山 川 中	2	み 子
徳島県	鴨島町立鴨島小	3	★田 中 亜 友 美	阿 南 市 立 椿 小	6	板 井 宏			
香川県	仲南町立仲南北小	1	藤 井 友 美 子	善 通 寺 市 立 筆 岡 小	6	花 井 秀 人	野 村 町 立 野 村 中	2	か 貴 弓 雪
愛媛県	西 海 町 立 船 越 小	3	濱 田 裕 将	八 輜 浜 市 立 松 蔭 小	5	八 輜 野 田 美 世	田 原 町 立 田 原 中	2	か 美 里
高知県	高知市立横浜新町小	2	西 村 彩 音	香 北 町 立 大 宮 小	6	和 田 美 友	南 国 市 立 北 陸 中	3	弓 雪 美 里
福岡県	北九州市立陣山小	3	佐 藤 勇 樹	高 田 町 立 江 浦 小	6	久 保 田 ひとみ	高 田 町 立 高 田 中	3	磨 里 織
福岡市	福岡市立杏椎小	2	三 佐 苦 悠	福 岡 市 立 若 久 小	4	木 田 秀	福 岡 市 立 姪 浜 中	3	美 里 織
佐賀県	佐賀市立勤興小	3	梶 間 倫 太 郎	神 崎 町 立 神 崎 小	5	太 田 泉	佐 賀 市 立 城 南 中	2	弥 大 久 保
長崎県	鹿町立歌浦小	3	吉 永 裕 行	小 浜 町 立 小 浜 小	6	中 田 岛 崎	郷 ノ 浦 町 立 沼 津 中	2	里 織
大分県	別府市立緑丘小	2	馬 場 日 菜 子	中 津 市 立 大 輜 小	6	田 岛 崎 島	別 府 市 立 朝 日 中	3	美 里 織
熊本県	免 田 市 立 免 田 小	2	水 長 渡	玉 名 市 立 月 潤 小	5	辛 田 岛 崎	宮 崎 市 立 赤 江 中	1	幸 美 里
宮崎県	小 林 市 立 小 林 小	2	長 一 隆	国 富 町 立 北 保 小	6	★糸 木 福 太 郎	志 布 志 町 立 志 布 志 中	1	友 浩
鹿児島県	加 世 田 市 立 益 山 小	3	★神 園 一 隆	人 来 町 立 副 田 小	6	南 田 福 太 郎	石 垣 市 立 石 垣 第 二 中	3	誠
沖縄県	名護市立真喜屋小	1	たいら たけ ゆき	具 志 川 市 立 大 頭 小	5	本 田 ひ づ る			

優秀賞 (小低50 小高50 中学39 計139点) ◎特別賞 ★印は最優秀

## 卷頭言

社団法人日本学校歯科医会会長

## 西連寺 愛憲

昨年の3月に開催された第46回総会においてこの執行部が選任され、4月から日本学校歯科医会をお預かり致し早1年の歳月

が過ぎました。加盟団体長の先生方ならびに会員の諸先生のご協力によりまして、平成7年度の事業も計画通りに推移しております。

度々申し上げることになりますが、阪神地区の先生方には今迄に大変なご苦労があったと拝察いたしましたが、それでも最近大分復興して來たということでございます。私達日本学校歯科医会としましても出来る限りのことをしたいと思っており、先の総会において阪神地区への対応についてご承認を頂いたということで、大変嬉しく思っているところでございます。

2月に加盟団体長会を開催いたしましたところ、全国の会長から、熱意あるご要望、ご提言を頂きました。貴重な会務執行のためのご助言として真正面から受けとめて参りたいと思っております。学校歯科保健の重要さにつきましても、責任の重大さをひしひしと身に感じている昨今でございます。

また、昨年4月から学校健康診断の改正がなされました。それにつきましては加盟団体長の先生方のご協力で大過なく乗り越えたと思っております。

しかしながら、毎々申し上げるようにいろいろな問題、課題がでてきております。それらを一つひとつ、C O・G O、頸関節の問題などにつきましても学校現場で学校歯科医の先生方がスムーズに健康診断が行えますように配慮致して参ります。

こどもたちの歯と口の健康つくりのためにその健康診断が役立つような方策を立てていきたいと考えております。

本年11月には第60回全国学校歯科保健研究大会が東京で開催されます。この大会の席上では、60回を記念して学校歯科保健に功績のある多くの先生方に対して文部大臣より表彰していただく折衝を現在進めております。全国的にみると組織的に格差の大変大きい地区もございまして、一律にはいきませんが、出来るだけ全国の熱心な学校歯科医の先生方に授章して頂けるように努力してまいりたいと考えております。

これらを含めて今後も組織の充実、会員の増強など会務の執行に懸命にはげんでいきたいと考えておりますので、会員各位の倍旧のご協力をお願い申し上げます。



奥田幹生文部大臣と懇談される日本学校歯科医会西連寺愛憲会長

## 日本学校歯科医会会誌 No.75 ● 目次

● グラビア	平成 7 年度歯科保健に関する図画・ポスター・コンクール	1
● 卷頭言	社団法人日本学校歯科医会会长 西連寺愛憲	7

## 平成 7 年度学校歯科保健研究協議会 11

● 開催要項／日程・内容	12
--------------	----

## 全体会 14

## 講義 1 「学校歯科保健の現状と課題」 15

● 講師 文部省体育局学校健康教育課 教科調査官 戸田 芳雄

## 講義 2 「これからの学校歯科保健活動」 24

● 講師 日本大学松戸歯学部 教授 森本 基

## 講義 3 「児童生徒の咀嚼など口腔機能に関する諸問題」 32

● 講師 日本大学歯学部 教授 赤坂 守人

## 講義 4 「口腔及び食事と児童生徒の健康」 36

● 講師 日本総合愛育研究所 所長 平山 宗宏

## 分科会 38

● 第 1 部会（教員部会）	39
----------------	----

## 講義 5 「学校歯科保健の考え方・進め方」 39

－障害児の歯科保健を含めて－

● 講師 東京都教育局体育部保健給食課歯科保健担当

係長 森 律子

## 講義 6 「学校、家庭、地域の連携で進める歯・

## 口の健康つくり」 43

● 講師 明海大学歯学部 教授 中尾 俊一

● 第 2 部会（学校歯科医部会）	48
-------------------	----

## 講義 7 「学校歯科医の職務と期待される役割」 48

● 講師 日本体育大学 教授 吉田瑩一郎

## 講義 8 「児童生徒の歯及び口腔の健康診断と事後措置」 54

● 講師 東京医科歯科大学 教授 岡田昭五郎

## 平成 7 年度むし歯予防推進指定校協議会

61

- 開催要項／日程・内容 ..... 62

## 研究報告

## 自分の体を知り、すすんで健康づくりに取り組む子どもの育成

藤岡市立藤岡第一小学校

あいさつ	65
はじめに	66
I 研究の概要	67
II 研究部会の取り組み	73
学習部・実践部・啓発部	
III 学年の取り組み	93
1年・2年・3年・4年・5年・6年	
IV 研究の成果と今後の課題	160

- むし歯予防推進指定校研究主題 ..... 163

## 第45回全国学校保健研究大会

164

## 新しい健診の考え方

166

－疾病指向（検診）から予防指向（振るい分け）へ－

日本学校歯科医会副会長 櫻井 善忠

## 加盟団体長会開催される

167

## 平成 7 年度学校保健統計調査速報

168

## 第60回全国学校歯科保健研究大会開催予告

169

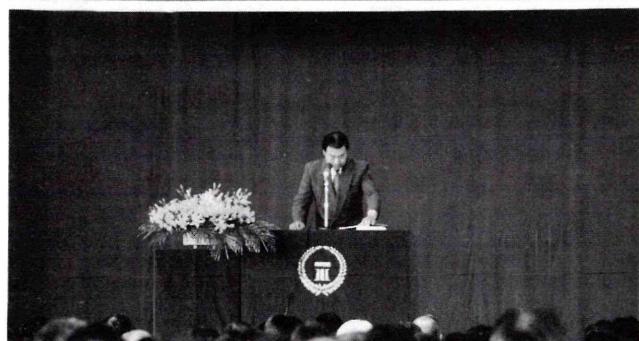
## ◆平成 8 年度むし歯予防推進指定校協議会・学校歯科保健研究協議会開催予告

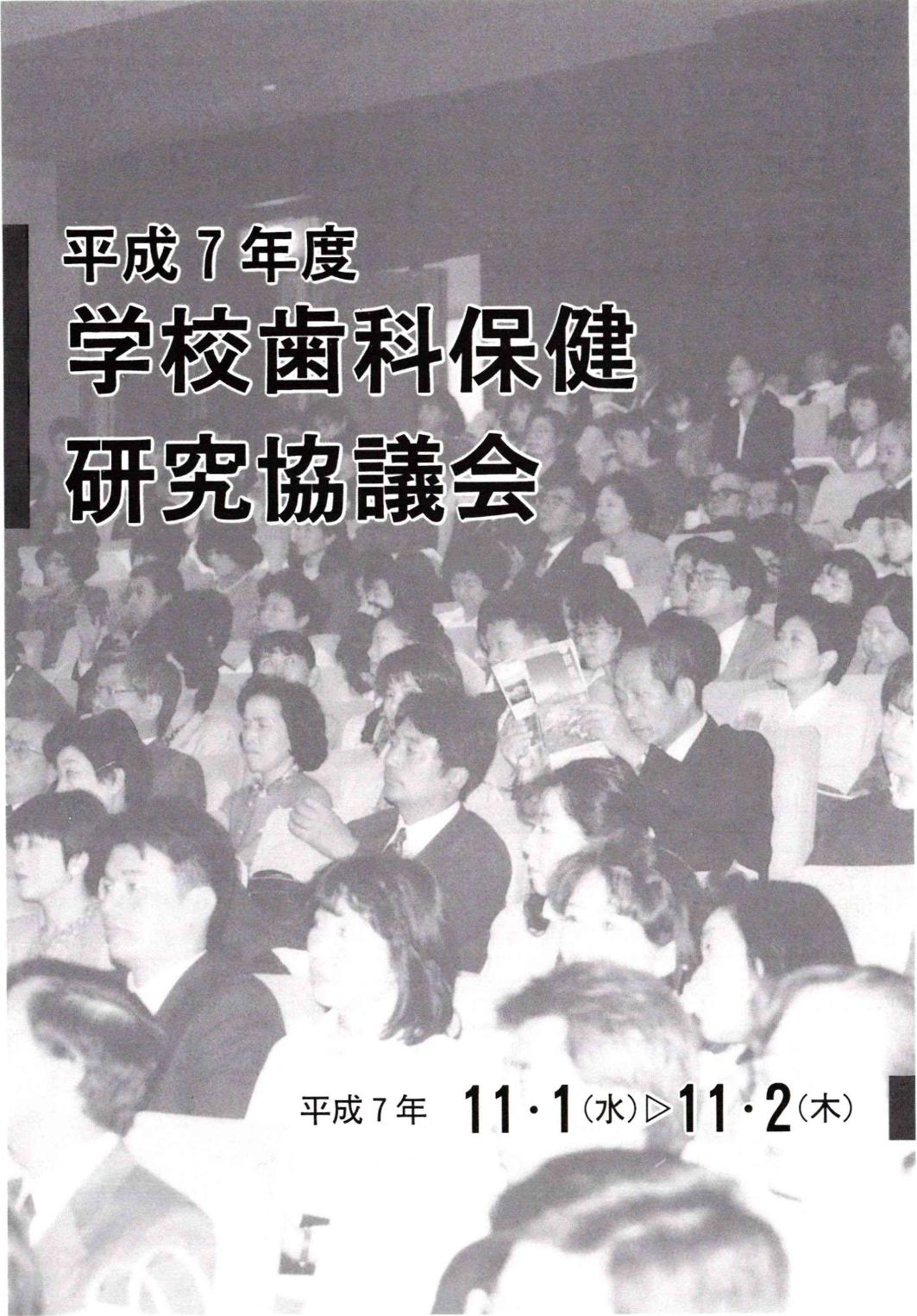
- 編集後記 ..... 170

表紙は平成 7 年度図画・ポスター・コンクール入選作品より  
和歌山県海南市立第一中学校 3 年山田奈都紀さんの作品

大 会 か ら

## 平成7年度 むし歯予防推進指定校協議会





# 平成 7 年度 学校歯科保健 研究協議会

平成 7 年 11・1 (水) ▷ 11・2 (木)

## 開催要項

### ① 趣 旨

歯及び口腔に関する保健活動について研究協議を行い、学校保健における歯科保健活動の充実を図る。

### ② 主 催

文部省、群馬県教育委員会、日本学校歯科医会、群馬県歯科医師会

群馬県学校歯科医会、群馬県学校保健会、前橋市教育委員会、前橋市歯科医師会

### ③ 期 日

平成7年11月1日（水）～2日（木）

### ④ 会 場

第1日	11月1日（水）	全 体 会	前橋市民文化会館大ホール
第2日	11月2日（木）	第1部会（教員部会） 第2部会（学校歯科医部会）	前橋テルサホール 前橋市民文化会館小ホール
前橋市民文化会館 〒371 前橋市南町三丁目32-6 ☎0272-21-4321			
前橋テルサ 〒371 前橋市千代田町二丁目5-1 ☎0272-31-3211			

### ⑤ 対 象

- (1) 国公私立学校の教職員
- (2) 学校歯科医及び都道府県・市町村教育委員会の担当者
- (3) 上記以外の学校歯科保健担当者

### ⑥ 日程及び内容

第1日目	9:00	9:30	10:10	11:20	11:30	12:40	13:40	14:50	15:00	16:10
	受付	開会式	講義1 戸田芳雄	休息	講義2 森本 基	昼食 休憩	講義3 赤坂守人	休息	講義4 平山宗宏	閉会

第2日目	9:00	9:25	9:30	10:50	11:00	12:20
	第1部会	受付	あいさつ	講義5 森律子	休息	講義6 中尾俊一
	第2部会	受付	あいさつ	講義7 吉田肇一郎	休息	講義8 岡田昭五郎

## 日程・内容

第 1 日 目	●オリエンテーション		
	1. 開式のことば	群馬県学校歯科医会副会長	片 野 光一郎
	2. あいさつ	文部省体育局学校健康教育課長 群馬県教育委員会教育長 日本学校歯科医会会长 群馬県歯科医師会会长	北 見 耕一 唐 澤 太市 西連寺 愛憲 今 成 虎夫
	2. 歓迎のことば	前橋市長	藤 嶋 清多
	4. 次期開催地挨拶	東京都教育庁体育部保健給食課長	清 水 裕幸
	5. 来賓紹介		
	6. 閉式のことば	前橋市歯科医師会会长	矢 内 健策
	●講義1 「学校歯科保健の現状と課題」	講師 文部省体育局学校健康教育課	教科調査官 戸 田 芳雄
	●講義2 「これからの中学校歯科保健活動」 -児童生徒の健康診断の改正を中心として-	講師 日本大学松戸歯学部	教 授 森 本 基
	昼食・休憩(60分)		
第 2 日 目	●講義3 「児童生徒の咀嚼など口腔機能に関する諸問題」	講師 日本大学歯学部	教 授 赤 坂 守人
	●講義4 「口腔及び食事と児童生徒の健康」	講師 日本総合愛育研究所(日本小児保健会会長)	所 長 平 山 宗 宏
	閉会		

第 2 日 目	第1部会(教員部会)	第2部会(学校歯科医部会)
	前橋テルサホール	前橋市民文化会館小ホール
	●あいさつ 群馬県教育委員会事務局 保健体育課長 宗 行 彪	●あいさつ 群馬県歯科医師会 会長 今 成 虎夫
	●講義5 「学校歯科保健の考え方・ 進め方」 -障害児の歯科保健を含めて- 講師 東京都教育庁体育部保健給食課 歯科保健担当係長 森 律子	●講義7 「学校歯科医の職務と 期待される役割」 講師 日本体育大学 教 授 吉 田 穎一郎
	●講義6 「学校、家庭、地域の連携で 進める歯・口の健康づくり」 講師 明海大学歯学部 教 授 中 尾 俊 一	●講義8 「児童生徒の歯及び口腔の 健康診断と事後措置」 講師 東京医科歯科大学 教 授 岡 田 昭五郎
	閉会	閉会

# 全体会

11・1 (水)

●前橋市民文化会館大ホール

## 開会式

●開式のことば	群馬県学校歯科医会副会長	片野光一郎
●あいさつ	文部省体育局学校健康教育課長	北見 耕一
	群馬県教育委員会教育長	唐澤 太市
	日本学校歯科医会会长	西連寺愛憲
	群馬県歯科医師会会长	今成 虎夫
●歓迎のことば	前橋市長	藤嶋 清多
●次期開催地挨拶	東京都教育庁体育部保健給食課長	清水 裕幸
●来賓紹介		
●閉式のことば	前橋市歯科医師会会长	矢内 健策

## 講義1 「学校歯科保健の現状と課題」

●講師 文部省体育局学校健康教育課 教科調査官

戸田 芳雄

## 講義2 「これからの中学校歯科保健活動」

—児童生徒の健康診断の改正を中心として—

●講師 日本大学松戸歯学部 教授

森本 基

## 講義3 「児童生徒の咀嚼など口腔機能に関する諸問題」

●講師 日本大学歯学部 教授

赤坂 守人

## 講義4 「口腔及び食事と児童生徒の健康」

●講師 日本総合愛育研究所 所長

平山 宗宏

## 講 義

1

学校歯科保健の  
現状と課題

●文部省体育局学校健康教育課 教科調査官

戸 田 芳 雄

## ① はじめに

「子どもの口から生活が見える」。この言葉を聞いて私は、大変感銘を受けたものである。これは、あるむし歯予防推進指定校に伺い、研究会に参加した際に、ある学級担任がふと漏らした言葉で、むし歯予防の教育上の特質をみごとに表現していると思ったからである。

むし歯予防（学校歯科保健）のねらいは、自分の歯や口の健康状態に关心を持ち、歯や口の健康上の問題を自分で考え、処理できるような態度や習慣を身に付けることにある。つまり、学習によって、健康の大切さに気付き、歯みがきや食生活などの生活行動を主体的に改善し、健康な生活を実現していくことにある。

したがって、むし歯予防に熱心にとりくんでいる先生には、口の中から子供の生活が見えることになり、先の言葉となったのだろうと推察でき、その学校の研究活動の確かさを感じて感銘を受け

たというわけである。

このようなことから、子供の口から生活の見える先生をたくさん増やすことが、学校歯科保健の課題のひとつであるような気がする。

また、むし歯予防（歯・口の健康づくり）に積極的に取り組まれた推進指定校（地域）からは、その成果が、むし歯予防のみにとどまらず学校教育活動全般に及ぶことが報告されている。

例えば、

- 子供が生き生きと主体的に学習に取り組むようになる。（課題解決の楽しががわかる。）
- 子供が自己の健康管理に关心を持つようになる。
- 子供の生活リズムが確立してくる。
- 親子、子供同士、先生と子供、先生と保護者等とのコミュニケーションが密になり、信頼関係が築かれ、生徒指導の機能が強化される。
- 教師の共通理解や協力体制が緊密になる。

- 学校保健委員会が活性化し、保護者や地域社会との連携が円滑となり、開かれた学校づくりが促進される。このことが、児童生徒の心の健康や青少年の健全育成などの円滑な実践につながる。

等々である。

そして、もちろんのことであるが、

- むし歯や歯肉炎が減少する。
- 正しい歯みがきの仕方や食生活など歯・口腔や全身の健康によい生活行動が身に付いてくる。

これらは、全て生涯を通じて健康な生活を送るための基礎を培うことにつながっている。

## ② 学校歯科保健の現状とこれまでの成果

### (1) 児童生徒の健康状況

文部省は、毎年学校保健統計調査を報告書として公表しているが、各学年種類ごとの健康診断結果について確率比例抽出法により抽出した学校での調査結果から、全国の児童生徒の形態的発育状態、健康状態が推察できる貴重な資料となっている。表1は、平成5年度の疾病・異常の被患率であるが、むし歯（う歯）が、幼稚園20～30%，小学校80～90%，中学校80～90%，高等学校90%以上と全ての項目で最高となっており、引きつづき児童生徒の重要な健康課題である。

また、むし歯以外でも、歯周疾患、不正こう合、要注意乳歯などを含む「その他の歯疾」も、小学校10～20%，中学校8～10%，高等学校6～8%と増加し、視力異常に次ぐ第3位の被患率となっている。この詳細な資料はないが、小学校低・中学年は要注意乳歯が多く、高学年以降は歯周疾患が主なものとなっているということが推測できる。

また、表2の主な疾病・異常の推移（学校保健統計）、それをグラフ化した図1～4

（学校保健の動向：財団法人日本学校保健会）及び表3、4をみると、むし歯（う歯）は、着実に減少していることがわかる。これは、長年にわたる学校における歯科保健への取り組みの成果であり、貢献していただいている学校歯科医、校長、教頭、保健主事、養護教諭等の学校の教職員並びに地域の歯科医師会・学校歯科医会の皆様方のおかげと感謝している。

### (2) 国民の健康状況等

昭和32年から6年間隔で実施されている厚生省歯科疾患実態調査等から、国民の歯科保健の現状を見ると、「8020」の目標に到達するにはかなり厳しい現状が浮き彫りにされている。例えば、表5を見ると、歯の平均寿命は年々延びてはいるものの、寿命の長い中切歯、側切歯や犬歯でさえも約60年で、人生75～80年時代としてはかなり短いことがわかる。

また、表6から、その原因として歯肉炎・歯周炎などの歯周疾患が、小学校から中学校の年齢でも40%近くみられ、25歳を越えるころから歯のない者が出現し、55歳を越えるころから多くなっていることがわかる。このことから、学校歯科保健の重要な課題として、むし歯予防と併せて歯周疾患の予防に力を入れて行かなければならないものと考える。

### (3) 学校歯科保健教育の現状から

歯科保健教育の状況については、全国的な統計はないが、財団法人日本学校歯科医会主催による「全日本よい歯の学校表彰最優秀（文部大臣表彰）校」の活動概要をみると、表7のようになっている。これは応募書類と実地調査による聞き取りを加えた結果であるが、学級活動が着実に行われ、歯垢染め出し及び学校行事などが実施されていることがわかる。このような積み重ねが、児童生徒の歯科保健の向上につながっていることが伺え

表1 疾病・異常の被患率

区分	幼稚園	小学校	中学校	高等学校
90%以上				むし歯(う歯)
80%以上~90%未満		むし歯(う歯)	むし歯(う歯)	
70~80	むし歯(う歯)			
60~70				裸眼視力1.0未満の者
40~50				裸眼視力1.0未満の者
20~30	裸眼視力1.0未満の者	裸眼視力1.0未満の者		
10~20		その他の歯疾		
1~10	8~10			その他の歯疾
	6~8			その他の歯疾
	4~6	へんとう肥大	鼻・いん頭炎、その他の鼻・いん頭疾患・異常	
	2~4	その他の疾病・異常	その他の眼疾・異常、その他の耳疾・異常、へんとう肥大、寄生虫卵保有者、肥満傾向、その他の疾病・異常	色覚異常、鼻・いん頭炎、その他の鼻・いん頭疾患・異常
	1~2	鼻・いん頭炎、その他の歯疾、寄生虫卵保有者	色覚異常、結膜炎、ぜん息	色覚異常、その他の眼疾・異常、その他の耳疾・異常、蛋白検出の者、肥満傾向、ぜん息、その他の疾病・異常
	0.5~0.1	結膜炎、その他の眼疾・異常、中耳炎、その他の耳疾・異常、その他の鼻・いん頭疾患・異常、蛋白検出の者、肥満傾向、ぜん息	難聴、中耳炎、慢性副鼻腔炎、口腔の疾病・異常、蛋白検出の者、心臓疾病・異常	難聴、へんとう肥大、口腔の疾病・異常、せき柱・胸郭、心臓疾患・異常
0.1~1	0.1~0.5	慢性副鼻腔炎、口腔の疾病・異常、栄養不良、せき柱・胸郭、伝染性皮膚疾患、心臓疾患・異常、言語障害	栄養不良、せき柱・胸部、伝染性皮膚疾患、腎臓疾患	中耳炎、慢性副鼻腔炎、尿糖検出の者、栄養不良、腎臓疾患
	0.1%未満	トラコーマ、アデノイド、腎臓疾患、寄生虫病	トラコーマ、アデノイド、結核、尿糖検出の者、寄生虫病、言語障害	トラコーマ、中耳炎、アデノイド、結核、伝染性皮膚疾患、寄生虫病、言語障害

(注) 1. 「他の眼疾・異常」とは、疑似トラコーマ、眼炎、麦粒腫、斜視、片目失明等である。  
 2. 「他の耳疾・異常」とは、内耳炎、外耳炎、メニエール病、耳かいの欠損、耳垢栓塞等である。  
 3. 「他の鼻・いん頭疾患・異常」とは、鼻ボリープ、へんとう炎等である。  
 4. 「他の歯疾」とは、歯周疾患(歯肉炎、歯うのう漏等)、不正こう合、班状歯、要注意乳歯等である。  
 5. 「他の疾病・異常」とは、いずれの調査項目にも該当しない疾病・異常である。

(平成6年度学校保健統計文部省)

る。

また、表8は、A県の学校歯科保健活動(平成6年度)の状況であるが、小学校においては昼食後の歯磨きがよく行われ、中学校においては未実施の割合が60%を超えている

ことがわかる。歯垢の染め出しについても同様の傾向がみえる。これは、各都道府県によって異なると思われるが、学校における歯科保健の一定の傾向を示しているように思われる。前述の歯科保健の実態などからみて、

表2 主な疾病・異常の推移

(%)

区分		むし歯 (う歯)	裸1.0 眼未 満視の 力者	鼻 ・ いん 頭炎	へん とう 肥大	寄生 虫卵保 有者	結 膜 炎	肥 満 傾 向	蛋白 検出の 者	せき柱 ・胸郭異 常	心 臓 疾 患 ・ 異 常	ぜ ん 息
幼稚園	昭和59年度	83.9	21.5	1.6	7.3	3.7	1.1	0.6	0.6	0.6	0.5	0.6
	61	83.0	21.6	1.8	6.0	3.6	1.2	0.6	0.5	0.6	0.4	0.7
	63	81.2	23.2	2.0	5.4	2.8	1.1	0.5	1.0	0.4	0.5	0.7
	平成2	80.4	18.6	2.1	5.6	2.1	0.8	0.7	0.5	0.4	0.4	0.7
	4	78.7	20.2	1.5	5.2	2.0	0.8	0.8	0.8	0.4	0.5	0.7
	6	77.0	23.8	1.8	4.8	1.9	0.7	0.8	0.7	0.5	0.4	0.8
小学校	昭和59年度	91.5	19.0	6.0	3.3	3.4	2.3	1.6	0.9	0.7	0.4	0.9
	61	91.2	19.1	6.4	3.1	3.4	2.1	1.7	0.8	0.6	0.5	0.9
	63	90.1	19.6	7.0	2.8	3.0	2.1	1.7	0.8	0.5	0.5	1.1
	平成2	89.5	21.2	6.3	2.6	2.5	2.0	2.2	0.7	0.6	0.5	1.1
	4	89.1	22.5	5.9	2.5	2.5	1.7	2.6	0.7	0.4	0.6	1.2
	6	88.0	24.7	5.3	2.2	2.3	1.2	2.7	0.8	0.4	0.5	1.4
中学校	昭和59年度	92.2	36.7	4.0	1.8	…	2.2	1.1	2.2	0.9	0.5	0.7
	61	91.9	37.2	4.3	1.5	…	1.9	1.2	2.0	0.8	0.5	0.7
	63	90.5	39.4	4.5	1.2	…	1.5	1.3	1.8	0.8	0.6	0.8
	平成2	90.0	41.6	4.9	1.1	…	1.7	1.7	1.8	0.7	0.7	1.0
	4	88.9	45.6	4.3	1.3	…	1.3	1.7	2.0	0.6	0.7	1.1
	6	87.7	48.8	3.3	1.0	…	1.2	1.8	1.9	0.6	0.9	1.3
高等学校	昭和59年度	94.3	51.9	2.4	1.1	…	1.4	0.8	1.9	0.7	0.8	0.3
	61	94.2	53.0	2.7	1.0	…	1.2	1.0	1.7	0.5	0.7	0.3
	63	94.5	54.5	3.1	0.9	…	1.2	0.8	1.8	0.5	0.8	0.4
	平成2	93.7	56.4	2.5	0.8	…	1.0	1.3	1.7	0.4	0.9	0.5
	4	92.6	59.2	2.9	0.7	…	0.9	1.3	1.8	0.4	0.9	0.6
	6	92.0	62.3	2.1	0.6	…	0.8	1.3	1.8	0.4	1.0	0.8

(注) 小数点以下第2位を四捨五入している。以下同じ。

(平成6年度学校保健統計文部省)

生涯にわたる歯科保健の実践にとって極めて重要な基礎を培う学校期の教育と実践が非常に大切な課題であることを改めて強調し、小学校だけでなく中学校、高等学校などにおいても歯科保健活動の充実が望まれる現状と言える。

### ③ 学校歯科保健の課題

(1) 児童生徒の健康状況や生活行動等から  
先に述べた児童生徒の健康状況や生活行動等から、微視的にみると次のような課題がある。

- ① むし歯（う歯）を予防する。
- ② 歯肉炎等歯周疾患を予防する。
- ③ 咀嚼（そしゃく）など口腔機能の健全な発達を期する。

また、やや視点を広く据え、歯科保健を窓口にして、一人一人が健康な生活の実現に向けて実践するためには、次のような課題がある。

- ① 健康によい食生活を実践する。
- ② 健康によい運動生活を実践する。
- ③ 健康によい生活リズムを確立する。
- ④ 健康によい生活行動を習慣化する。

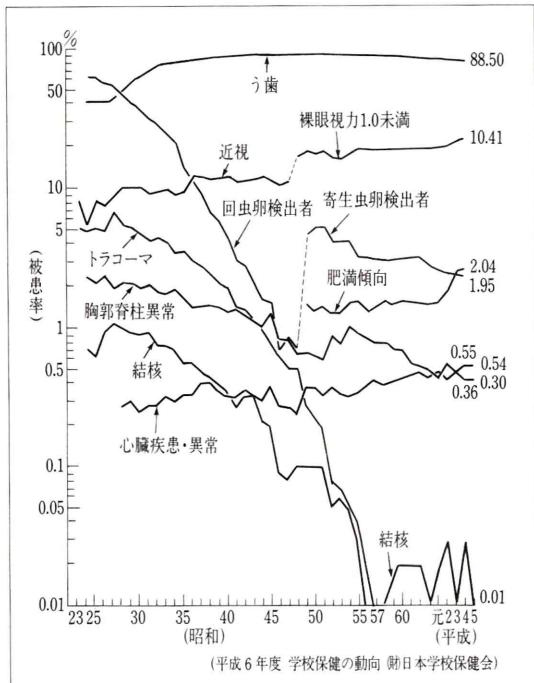


図1 主な疾病・異常被患率の推移（小学校）

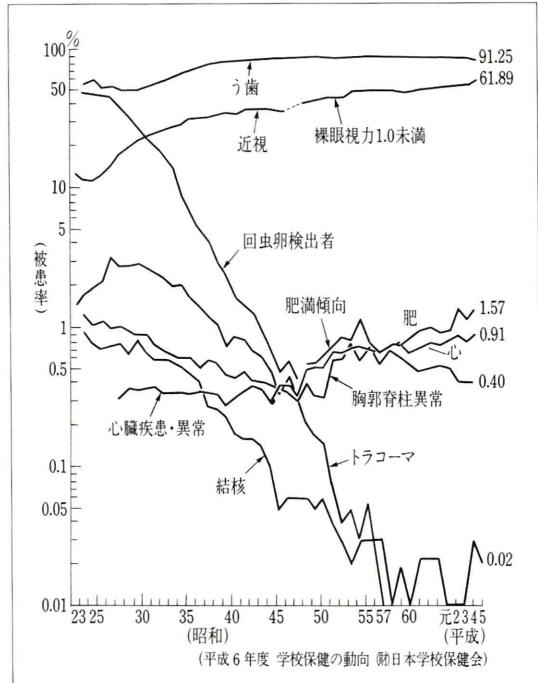


図3 主な疾病・異常被患率の推移（高等学校）

(図1～図3 日本学校保健会)

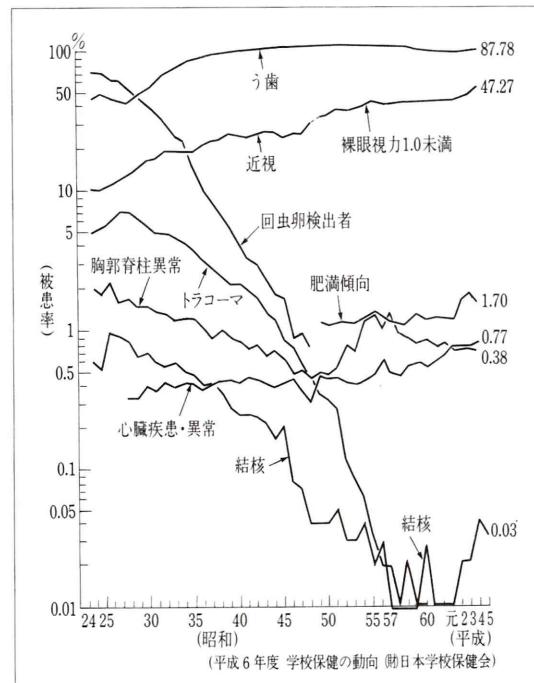


図2 主な疾病・異常被患率の推移（中学校）

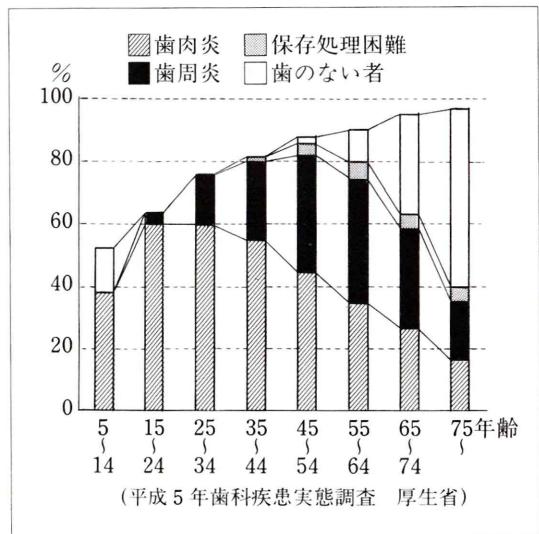


図4 歯肉の所見の有無、年齢階級別

(厚生省)

## (2) 国民の健康状況から

人生80年時代を迎える、生涯を通じて健康な生活を送るために、ライフステージに応じた重点的で計画的な歯科保健活動を充実するとともに、総合的な健康つくりをする。そのような視点から、学校期におけるそれらの基礎を培うために発育発達に応じた計画的な健康教育の充実を図る。

## (3) 学習指導要領における健康教育の位置付けから

学習指導要領では、第1章総則「第1教育課程編成の一般方針」の中で健康教育に関しては、「体育に関する指導」の中で、次のように示している。

3 学校における体育に関する指導は、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとする。特に体力の向上及び健康の保持増進に関する指導については、保健体育科の時間はもとより、特別活動などにおいても十分行うよう努

めることとし、それらの指導を通して、日常生活における適切な体育的活動の実践が促されるとともに、生涯を通じた健康で安全な生活を送るために基礎が培われるよう配慮しなければならない。

このことから、各学校においては、教育活動全体を通じて健康教育が実践できるよう教育課程を編成し、実施できるよう工夫しなければならない。

具体的には、保健体育等の教科、道徳及び学級活動、学校行事、児童（生徒）会活動等の特別活動、さらには課外での個別指導などを総合的に検討し、指導内容の精選、指導時間の確保等に務め、指導計画を作成し、実施しなければならない。

また、学級担任、教科担任、養護教諭などによる教師間の連携による協力授業や学校栄養職員、学校医、学校歯科医、学校薬剤師等との連携による指導などの工夫が必要である。

さらには、地域や学校の実情等に応じ、家

表3 むし歯（う歯）の処置完了状況等の推移 (%)

区分		昭和29	39	49	59	平成2	3	4	5	6
幼稚園	計	81.6	90.5	94.0	83.9	80.4	80.8	78.7	75.7	77.0
	処置完了者	3.2	6.2	9.1	23.6	28.0	29.1	28.4	28.0	28.2
	未処置歯のある者	78.4	84.4	84.9	60.3	52.4	51.8	50.3	47.7	48.8
小学校	計	59.8	87.9	94.3	91.5	89.5	89.3	89.1	88.4	88.0
	処置完了者	2.4	8.0	14.3	30.0	36.3	37.2	37.6	38.3	39.3
	未処置歯のある者	57.4	79.9	80.0	61.5	53.3	52.2	51.5	50.1	48.7
中学校	計	42.9	84.2	93.1	92.2	90.0	89.6	88.9	87.8	87.7
	処置完了者	5.0	16.2	27.7	40.8	41.3	41.4	42.7	42.2	42.5
	未処置歯のある者	37.9	68.0	65.3	51.4	48.6	48.3	46.3	45.6	45.3
高等学校	計	52.6	85.2	94.5	94.3	93.7	93.0	92.6	91.3	92.0
	処置完了者	11.1	21.8	28.8	41.3	45.8	45.9	46.3	46.6	47.5
	未処置歯のある者	41.5	63.4	65.7	53.0	47.8	47.2	46.2	44.7	44.5

(注) 計欄の数値と内訳の合計の数値とは、四捨五入しているため一致しない場合がある。

(平成6年度学校保健統計文部省)

表4 12歳の永久歯の一人当たり平均むし歯（う歯）等数 (本)

区分		昭和59	平成2	3	4	5	6
計	計	4.75	4.30	4.29	4.17	4.09	4.00
	喪失歯数	0.05	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04
	むし歯 (う歯)	計	4.70	4.26	4.25	4.13	4.05
		処置歯数	3.35	3.04	3.03	3.00	2.86
		未処置歯数	1.35	1.22	1.22	1.13	1.14
	計	4.33	3.91	3.91	3.80	3.75	3.69
男	喪失歯数	0.05	0.04	0.03	0.04	0.04	0.04
	むし歯 (う歯)	計	4.28	3.87	3.87	3.76	3.71
		処置歯数	3.00	2.73	2.71	2.69	2.56
		未処置歯数	1.28	1.15	1.16	1.06	1.15
	計	5.19	4.71	4.69	4.56	4.46	4.32
	喪失歯数	0.05	0.05	0.04	0.04	0.05	0.05
女	むし歯 (う歯)	計	5.13	4.66	4.64	4.52	4.41
		処置歯数	3.71	3.36	3.37	3.32	3.18
		未処置歯数	1.42	1.30	1.27	1.20	1.23
	計	5.19	4.71	4.69	4.56	4.46	4.32
	喪失歯数	0.05	0.05	0.04	0.04	0.05	0.05
	むし歯 (う歯)	計	5.13	4.66	4.64	4.52	4.41

(注) 計欄の数値と内訳の合計の数値とは、四捨五入しているため一致しない場合がある。

(平成6年度 学校保健統計 文部省)

庭や地域社会との連携を深めるとともに、学校相互の連携や交流を図ることも重要である。このことは学校歯科保健の実践に当たっても全く同様である。

したがって、学校における歯の保健指導は、そのような趣旨を踏まえ、口腔の環境悪化を防ぐため歯や口の清掃や望ましい間食のとり方を主な内容とした、むし歯や歯肉の病気の予防及び健康診断などの結果に基づく歯や口の健康状態の理解と事後措置に関する事項を中心とした指導を行う。子供の意識や行動の変容を促し、歯や口の健康ひいては心身の健康つくりを自ら実践する態度、能力を身に付けることができるよう指導を、計画的かつ組織的に実践する必要がある。

その具体的な目標や内容については、小学校に限らず中学校、高等学校においても、昭和53年に作成され、平成4年2月に改訂された「小学校歯の保健指導の手引（改訂版）」さらには、日本学校保健会で作成した指導資料「発達段階に即した歯みがき指導のしおり」

（平成4年3月）、「歯・口の健康つくりをめざして—学校における歯の保健指導の進め方—」（平成7年3月）等を参考としていただきたい。

また、実践事例については、日本学校保健会で実施している歯・口の健康つくり推進事業の実践事例集なども参考にされたい。

なお、第五次の歯・口の健康つくり推進事業が8県・各8地区（第四次は5地区）で今年度より3か年にわたって実施され、（宮城県、岐阜県、滋賀県、佐賀県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県）文部省のむし歯予防推進校も各都道府県1校で、今年度より2か年の指定を行っている。これらの実践の成果に期待している。関係の方々の特段のご協力とご支援をお願いしたい。

#### (4) 生涯学習の視点に立った新しい学力観から

現行の学習指導要領は、生涯学習の視点に立って編成されている。これからの教育においては、激しい変化が予想される社会に生きる子供たちが、自分の課題を見付け、主体的

表5 歯の平均寿命の年次推移、性・歯種別（永久歯）

（単位：年）

	年次	中切歯	側切歯	犬歯	小臼歯		大臼歯	
					第一	第二	第一	第二
男	上顎	左	昭和56年	54.9	53.6	54.7	52.2	49.5
			62	56.6	55.6	55.4	53.1	50.7
		右	平成5年	59.6	58.0	58.5	55.4	53.1
	上顎	左	昭和56年	54.4	53.5	54.6	52.1	49.7
			62	56.4	55.7	56.0	52.8	50.9
		右	平成5年	58.9	58.1	58.1	55.4	53.6
	下顎	左	昭和56年	59.7	59.9	59.9	55.7	49.4
			62	61.0	61.4	62.0	57.2	50.9
		右	平成5年	63.3	63.8	64.7	59.5	53.0
	下顎	左	昭和56年	59.6	60.2	61.1	55.9	50.4
			62	60.8	61.3	61.7	57.4	51.4
		右	平成5年	63.8	63.7	64.4	60.0	53.6
女	上顎	左	昭和56年	52.4	50.4	51.0	49.0	45.8
			62	54.0	52.4	52.8	49.9	46.8
		右	平成5年	56.9	55.4	55.7	52.6	49.6
	上顎	左	昭和56年	52.5	51.0	51.6	48.8	46.0
			62	53.8	52.3	53.2	50.5	47.1
		右	平成5年	56.7	55.3	55.9	53.1	50.3
	下顎	左	昭和56年	57.6	57.7	57.3	51.9	45.3
			62	58.9	58.7	58.5	52.9	47.1
		右	平成5年	62.2	61.7	61.8	56.7	50.6
	下顎	左	昭和56年	57.8	57.2	57.9	52.5	45.9
			62	59.0	58.6	59.1	53.9	47.3
		右	平成5年	62.2	61.9	61.2	56.2	50.1

（平成5年歯科疾患実態調査 厚生省）

表6 歯肉の所見の有無、年齢階級別（5歳以上・永久歯）

（単位：%）

	所見のある者				所見のない者	歯のない者
	総数	歯肉炎	歯周炎	保育存置困難		
総数	68.07	42.25	23.38	2.44	20.55	11.38
5～14歳	38.19	37.85	0.34	—	47.84	13.96
15～24	63.91	59.21	4.45	0.25	36.09	—
25～34	75.36	58.90	15.85	0.61	24.44	0.20
35～44	81.15	54.15	25.70	1.30	18.51	0.34
45～54	85.19	43.95	37.76	3.48	12.59	2.23
55～64	79.40	34.47	39.70	5.23	9.99	10.61
65～74	62.92	25.84	32.55	4.53	4.99	32.09
75～	39.22	16.12	19.03	4.08	3.50	57.28

（平成5年歯科疾患実態調査 厚生省）

に判断したり、表現したりして、よりよく解

する必要がある。

決することができる資質や能力の育成を重視

そのためには、子供たちの内発的な学習意

表7 平成7年度全日本よい歯の学校表彰最優秀（文部大臣表彰）候補校の活動等概要

学校名	学校保委	6年生						学級		染めだし						備考	
		被験者数計	う歯数計	未処置う歯数	処置完了歯数	D M F T指數	C者Oのをもつ数	Gある者の所見人の数	単	短	健診	相談	学校保委	学校行事	保健指導	その他	
香川県高松市立太田南小学校	2	189	410	77	333	2.17	13	39	3	9	10~12	10	6	2	3	2	2
岐阜県恵那市立中野方小学校	3	32	46	11	35	1.40	6	17	3	3	14	4	10	3	5	50	1,2年フッ化ゲル塗布(第1臼歯)
長野県岡谷市立岡谷小学校	2	70	60	12	48	0.86	0	0	1	10	12	5	5	1	2	2	2
群馬県吉井町立南陽台小学校	2	40	78	2	76	1.95	13	0	3	0	3	1	3	2	2	1	0
東京都練馬区立旭丘小学校	1	46	26	7	19	0.60	11	2	1~2	6~7	3	3		1	3	3	1
神奈川県横浜市立桜井小学校	1	111	109	10	99	0.98	1	18	1~2	2~3	3	2	5	1	2	1	0

(調査票等より作成)

表8 学校歯科保健活動の状況（平成6年度A県の例）

学校数	定期	健康診断の実施			歯科保健活動（抄）					
		臨時	健康相談	昼食後のはみがき			歯垢の染めだし			
				全員	一部学年	未実施	全員	一部学年	未実施	
小学校	349	349	217	75	236	60	51	238	82	29
		100	62.2	21.5	67.6	17.2	14.6	68.2	23.5	8.3
中学校	144	144	62	22	31	20	93	41	20	83
		100	43.1	15.3	21.5	13.9	64.6	28.5	13.9	57.6

上段…学校数  
下段…百分率（%）

欲を喚起し、自ら学ぶ意欲や、思考力、判断力、表現力などを学力を基本とする学力観に立って教育を進めることができられている。このことは、教科の指導だけでなく、歯科保健教育を含む健康教育を進める際にも重要な観点で、子供達が健康に関する事柄に関心をもち、進んで課題を見付け、自ら考え、主体的に判断したり、表現したりして、課題（問題）を解決する場面や機会をより多く取り入れ、それらの資質や能力の育成を重視する指導に努めなければならない。

また、各都道府県教育委員会や市区町村教育委員会においては、①健康教育・歯科保健

教育のための教職員の研修の充実、②教材の整備、活用への支援、③歯科保健管理に必要な施設設備等の一層の充実、等についてご配慮くださるようお願いしたい。

また、学校歯科医の先生方にあっては、専門的な立場から学校での歯科保健教育に当たっては、健康診断の円滑な実施や事後措置・保健指導等に当たっていただくとともに、サポーター的な立場で保健主事や養護教諭に助言や支援をいただいたり、校長、学級担任等への助言、さらに、場合によってはパートナーとして学級担任等との協力授業の実施など期待する役割は大きいものがある。

## 講 義

2

# これから の 学校歯科保健活動

●日本大学松戸歯学部衛生学教授

森 本 基

### ●●はじめに●●

学校歯科保健活動の目的達成は保健領域として存在するだけでなく学校教育全体の中に位置付けられ、それぞれの分野がお互いの領域と調和して活動して初めて到達可能となるものである。そこで、これらの分野がどの様な順序の組み合せで活動しようとも全体の向上が図られればそれでよいのであるが、わが国が長く行ってきた方法によれば、先ず、健康診断がなされ、この成績をもとに、いかに保健活動を進めるか計画し、実施していくのが最も一般的な方法である。学校保健法の成立した時代は、正にこの方法が原則としてとられてきた。しかし、世の中が疾病志向の時代から健康志向の時代に推移してくるに従って、これら進め方の方法も変化を示してきている。学校保健活動においても大きな変革を示してきた。その時は、文部省が昭和53年「小学校歯の保健指導の手引き」を出し、学級において歯科保健指導に積

極的に取組み、知的理を進めながら、自らの行動変容を適切に進めていく方向がとられ大きなターニングポイントとなったことは確かである。そして、世の中の保健活動全体がこの方向を示すようになってきた意義は大きい。

文部省は、その年昭和53年から全国的に「むし歯予防推進指定校」として研究活動を学校において展開して歯科保健活動を通じて、カリキュラム研究、そして、これをその実践活動として進めてきた。これらの成果は予想を遥かに越える質、量ともに大きなものであった。学校歯科保健の変革を大きく示すことになった。

その上、小学校5・6年生で保健の教科書が使用されるようになり、保健の意義はますます重要なになってきた。その中に、病気の予防の単元があり、日常生活にかかる病気として「むし歯」がとりあげられ、これが、教育の課題として位置づけられるようになったことから歯科保健に関する意識はいやが上にも高まることになった。

昭和53年以来、20年にも近づきつつある「むし歯予防推進指定校」の積み上げられた成果を少しでも多くの小学校での実践に応用して歯科保健活動が向上することを切に願っている。このことは、歯科の立場の人間が我が田に水を引くのではなく、多くの小学校が歯科保健活動の実践の結果として、只、歯科保健の改善・向上だけでなく、夫々の学校が掲げている学校の教育目標の達成に大いに役立つことが証明されてきており、是非、学校歯科保健活動から取り組んで貰いたいと期待している次第である。

## ●●学校における健康診断の意義●●

学校における健康診断には、児童生徒等を対象に行う健康診断、教職員を対象とする健康診断及

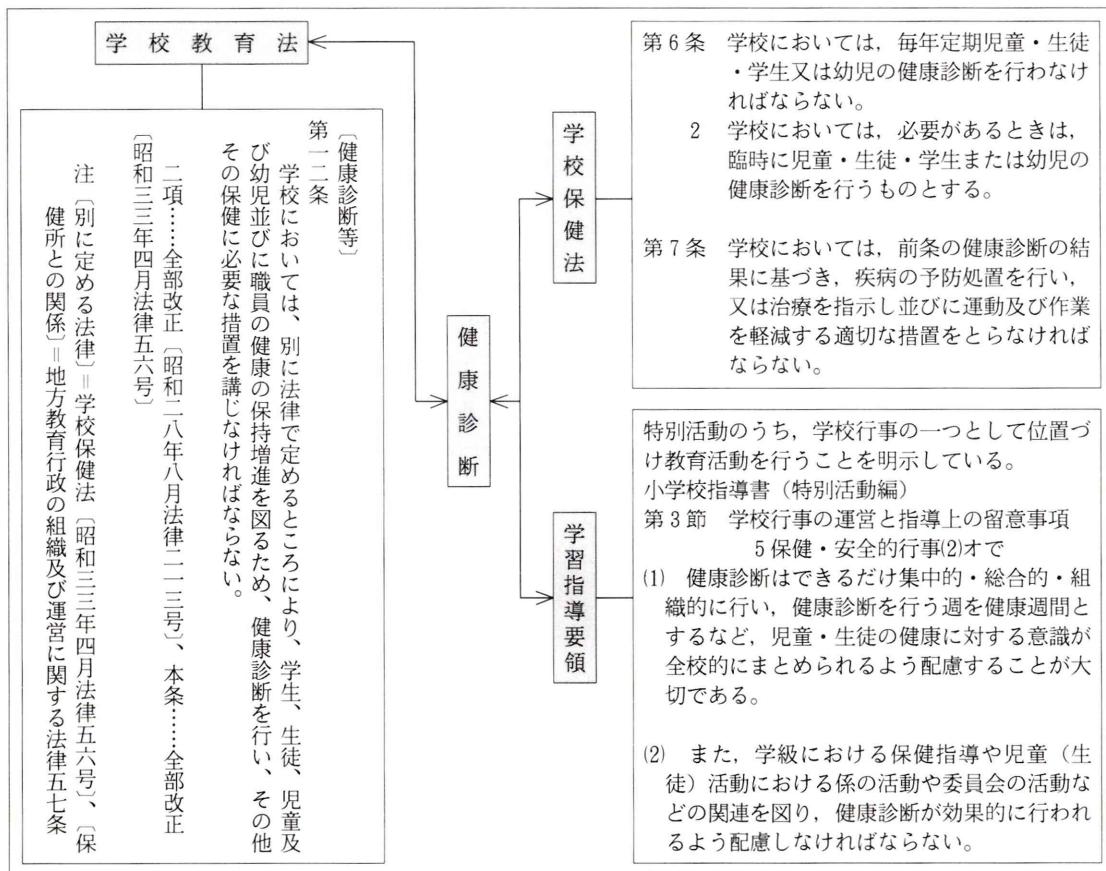
び就学時の健康診断がある。

今回の健康診断の改正の中心は児童生徒等に関するものであるから、児童生徒等の健康診断について説明し、特に、新しく改正された内容の部分について説明を加えるので健康診断についての理解を深めてほしいと願っている。

ところで、学校で行なわれる健康診断は、児童生徒の発育・発達の評価及び疾病・異常の有無を診て、事後の保健指導や疾病治療の受診等を指導することを目的としている。このことは学校保健法第7条の規定で理解することができる。

さらに、第1条に「学校における保健管理及び安全管理に関する必要な事項を定め、児童、生徒、学生及び幼児並びに職員の健康の保持増進を図り、もって学校教育の円滑な実施とその成果の

資料1 学校における健康診断の法的位置づけ



確保に資することを目的とする」としている。これが学校保健の目的であり、活動の大前提であり常にこの規定されている内容を思いだしながら学校保健の実践と取り組んでいくことが必要であると考える。

## ●●今回の改正の主旨●●

学校保健法によって定められている健康診断の今回の見直しは、昭和33年に法律が制定されてから35年以上を経過して始めてのこととも言える改正である。この間の児童生徒の身体発育や健康度の向上を考えても、また、日本における保健医療技術の改善進歩の発達度合いからみても、その上、地域での保健医療を取り囲む条件もすっかり変化しており、健康診断の技術的改善だけでなく健康診断そのものも新しい時代に適合するようにして、学校保健全体の見直しを必要とする時代に入ってきた。

ここに、文部省から委嘱をうけて日本学校保健会で新しい時代に即した方向で検討され、審議された健康診断について解説を試みたい。

## ●●昭和33年以来の 歯・口腔の状態の変化●●

むし歯の有病状況も、学校保健統計で言う被罹率も、時代と共に変化を示し、特に、昭和53年に文部省から「小学校 歯の健康保健の手引き」が出された年から、若干ではあるが有病率で減少の傾向が示されてきている。児童生徒の全体にわたって一人平均のむし歯数（DMF歯数）は学校保健統計には示されていないが、12歳児について統計数値は示されており、この数値をみても、まだ期待値よりはやや高い、とは言え減少の傾向を明らかに示してきている。このことは私どもの学生が全国から収集した資料から分析した小学校3年生と6年生の一人平均むし歯数を見ても、有病率が示している減少率より明確に減少の傾向を示している。

ここに平均むし歯数が減ったことは、単に、むし歯の問題だけでなく歯垢の付着も少なくなったであろうし、当然の結果として歯肉の状態も改善されてきて、口腔の環境改善が大いに進んだことは確かである。口腔保健状態は昭和50年あたりをピークとしてかなりひどい状態となり、その後、努力することによって見違えるほど進んできたことからこのような状況の確保がなされるようになったのであろう。

## ●●文部省「小学校・歯の 健康指導の手引き」●●

昭和53年に文部省から「小学校 歯の健康指導の手引き」が発行された。このような手引きが文部省から発行されたということは学校歯科保健にかかわる者として、勇気百倍やる気をますます大きくかきたてられたものであった。

しかも、平成4年には、昭和53年以来の歯の保健指導を中心とした学級活動の効果が大きく評価されることとなり、学習指導要領の改定も取り入れられることとなり、生涯にわたり健康で充実した生活を送るための健康教育がより一層重視されるようになった。そのことから「小学校 歯の健康指導の手引き」も10年以上にわたって積み上げられた成果を踏まえて大改定されることになった。この改定は、全国の小学校が実践してきた成果を基に改定作業が進められたものであり、より現場に適して実践しやすい内容のものとなったのである。実は、今回の健康診断の改定も基本的にはこれら実践活動の成果を基に編成されたと言っても過言ではないのである。その意味で実施にあたっての問題は、少なくとも今まで学校歯科保健活動と積極的に取り組んできた学校においては何も起こってはいない。より現実に則した改定であるということができるものと信じている。

## ●●改正された 歯・口腔診断の特徴●●

### (1) 改正された健康診断票

先に述べたことであるが、改正の作業は、学校保健関係者が長く馴染んできた3号様式を基本として、新しい時代に要求される内容を組み立てることを狙いとして作成されたものである。

歯・口腔の健康診断に関しては、従来は「3号様式の歯の検査票」によって記載するよう学校保健法施行規則で定められていた。今回の改正では「健康診断を行ったときは、健康診断票を作成しなければならない」となり、健康診断票の様式については各設置者において適切に定めることになった。しか

し、健康診断票は全国的に共通性が保たれ、児童生徒が転校したような場合にも保健指導の一貫性を確保することができるよう参考までに様式例（A4版縦位置）が示されているだけとなった。この点に関しては、できる限り様式例に従って現場での混乱を来さぬよう、同じ内容、同じサイズの健康診断票が用いられることを切望するものである。

### (2) 歯・口腔の健康診断票の特徴

考え方としては、学校における健康診断は以前から健康の度合いを診断するのが目的であったはずであるが実際の場面では、口腔内の疾病や異常の状況を診て治療勧告書を出すことに力点がおかれてしまった傾向があった。本来、健康診断は疾病治療を前提にしたものではなく、健康の保持増進をいかに確実

資料2 児童生徒健康診断票（歯・口腔）

小・中学校用

氏名										性別		男	女	生年月日		年月日														
年齢	年	歯列	歯垢	歯肉	歯式										歯の状態				その他の疾患及び異常	学校歯科医	事後措置									
					咬合	顎関節	状態	現在歯	う歯	未処置歯	処置歯	(例)	A	B	乳歯	永久歯	現在歯数	未処置歯数				現在歯数	未処置歯数	喪失歯数						
歳	平成年	度	0	0	0	8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8	上右	E D C B A A B C D E	上左	月日					
						1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1					1	1	1	1	1
						2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2					2	2	2	2	
歳	平成年	度	0	0	0	8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8	下右	E D C B A A B C D E	下左	月日					
						1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1					1	1	1	1	
						2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2					2	2	2	2	
歳	平成年	度	0	0	0	8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8	上右	E D C B A A B C D E	上左	月日					
						1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1					1	1	1	1	
						2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2					2	2	2	2	
歳	平成年	度	0	0	0	8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8	下右	E D C B A A B C D E	下左	月日					
						1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1					1	1	1	1	
						2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2					2	2	2	2	
歳	平成年	度	0	0	0	8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8	上右	E D C B A A B C D E	上左	月日					
						1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1					1	1	1	1	
						2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2					2	2	2	2	

資料3 児童生徒健康診断票（歯・口腔）記入上の注意

様式	記入上の注意
歯列・咬合・顎関節	歯列の状態、咬合の状態、それに伴って生ずる顎関節の状態について、異常なし、定期的観察が必要、専門医（歯科医師）による診断が必要、の3区分について、それぞれ0、1、2で記入する。
歯垢の状態	歯垢の付着状態について、ほとんど付着なし、若干の付着あり、相当の付着がある、の3区分について、それぞれ0、1、2で記入する。
歯肉の状態	歯肉炎の発症は歯垢の付着とも関連深いものであるが、ここでは歯肉の炎症状態についてのみ診査して、異常なし、定期的観察が必要、専門医（歯科医師）による診断が必要、の3区分について、それぞれ0、1、2で記入する。
歯式	<p>イ 現在歯、う歯、喪失歯、要注意乳歯及び要観察歯は、記号を用いて、歯式の該当歯の該当記号を附する。</p> <p>ロ 現在歯は乳歯、永久歯とも該当歯を斜線又は連続横線で消す。</p> <p>ハ 喪失歯は永久歯の喪失歯のみとする。</p> <p>ニ 要注意乳歯は、保存の適否を慎重に考慮する必要があると認められる乳歯とする。</p> <p>ホ う歯は、乳歯、永久歯ともに処置歯（○）又は未処置歯（C）に区分する。</p> <p>ヘ 処置（○）とは、充填（ゴム充填を除く）、補綴（金属冠、継続歯、架工義歯の支台等）によって歯の機能を営むことができると認められるものとする。ただし、う歯の治療中のものおよび処置がしてあるが、う歯の再発等によって処置を要するものは未処置とする。</p> <p>ト 永久歯の未処置歯（C）は、ただちに処置を必要とするものとする。</p> <p>チ 要観察歯（CO）とは、探針を用いての触診ではう歯とは判定しにくいが初期病変の疑いのあるもの、小窩裂溝の着色や粘性が触知され、又は、平滑面における脱灰を疑わせる白濁や褐色斑が認められるが、エナメル質の軟化、実質欠損が確認できなものである。</p>
歯の状態	歯式の欄に記入された当該事項について上下左右の歯数を集計した数を当該欄に記入する。
その他の疾病及び異常	病名及び異常名を記入する。
学校歯科医所見	規則第7条の規定によって、学校においてとるべき事後措置に関する学校歯科医が必要と認める所見を記入押印し、押印した月日を記入する。要観察歯がある場合には、歯式欄に加えこの欄にも（CO）と記入する。また、歯垢と歯肉の状態が総合的に判断して、歯周疾患要観察者の場合には（GO）、歯科医による診断と治療が必要な場合は（G）と記入する。歯周疾患要観察者（GO）とは、歯肉に軽度の炎症症候が認められているが、歯石沈着は認められず、注意深くブラッシングを行うことによって炎症症候が消退するような歯肉の保有者をいう。
事後措置	規則第7条の規定によって学校においてとるべき事後措置を具体的に記入する。

に児童生徒に図り、児童生徒の学習をより効果的に支援するかのスクリーニング検査であると考えている。

もともと歯・口腔の健康診断は、歯の状態だけを診るものではなく、歯並び、上下の歯の噛み合わせも診査して、その基本にある顎の運動が正常に行われているかどうかを含めて歯・口腔の機能が正常であるかどうかを確かめる必要がある。そして、歯垢や歯石の沈着状態についても診査した上で、歯肉の炎症、口腔の粘膜の状態、軟組織の状態についても診査して、保健指導に役立てる必要がある。

### (3) 健康診断の方法と技術的水準

学校における健康診断については学校保健法の施行規則に定められている。そして、この基準以外のことについては「児童、生徒、学生、幼児および職員の健康診断の方法及び技術的基準の補則的事項について」によって実施されることになっている。

表1に、改正された技術的基準の内、歯・口腔の部分について示しておく。

学校における健康診断はそれぞれ医師・歯科医師が自由にそれぞれの医師の判断で医学的見地から行っているのではなく、あくまでも教育的立場から児童生徒の健康の状態を医学的に調べるものであることを常に確認しておく必要がある。

### (4) 歯・口腔の健康診断票への記載

歯・口腔の健康診断票への記載は、基本的には従来の内容と変わっていない。しかし、診査する項目が、従来の疾病を診たのとは違い、健康状態、機能の状態を診る部分が増えたので、雰囲気は若干ではあるが変わったように感じるかもしれない。

歯科検診の方法と判定にあたっての留意点を挙げると次の通りである。

被検査者と正面から向かい合い、顔全体を観察し、左右のバランスの状態がどうである

表1

歯及び口腔の疾病及び異常	(1) 口腔の検査に当たっては、顎、顔面の全体を診てから、口唇、口角、舌、舌小帯、口蓋、その他口腔粘膜等の異常についても注意すること。 (2) 歯の検査は下記に留意して実施すること。 ア 歯の疾病及び異常の有無の検査は、処置及び指導を要する者の選定に重点を置くこと。 イ 咬合の状態、歯の沈着物、歯周疾患、過剰歯、エナメル質形成不全などの疾病及び異常については、特に処置又は矯正を要する程度のものを具体的に所定欄に記入すること。 ウ 補てつを要する歯如歯、処置を要する不適当な義歯などのあるときは、その旨「学校歯科医所見」欄に記入すること。 エ はん状歯のある者が多発見された場合には、その者を家族における飲料水についても注意すること。 (3) その他、顎顔面全体のバランスを観察し、咬合の状態、開口障害、顎関節雜音、疼痛の有無、発音障害等についても注意すること。
--------------	--

かを診て、次いで、閉口状態と開口状態における顔面変化を観察する。この時に、被検査者の姿勢についても異常の有無を観察しておくことが必要である。具体的な歯科検診は表2の手順で進める。

現在歯数を記入することになった、ここで言う現在歯とは口腔に萌出する乳歯および永久歯の全て〔健全歯、う歯、要観察歯（CO）及び要注意乳歯〕をいう。

「現在歯数」は、幼児・児童生徒・学生の歯を管理し発達段階に応じて萌出する歯の状況を捉えて、現在の児童生徒等がどのような状況にあるのかについて口腔内の全体像を具体的に把握しておくことが重要であるので設定されている。

また、「発育期における正常歯数になって

表2

歯列、咬合、顎関節の状態	歯列の状態が正常か否か、そして、この歯列の上顎と下顎との噛み合わせ、咬合状態が正常であるかどうかを判断して、併せて、この咬合状態に由来する顎関節の状態に異常があるかどうかを検査して、「異常なし」、「定期的に観察が必要」、「歯科医師による診断が必要」を判断し、それぞれ「0」、「1」及び「2」の記号で示す。
歯垢の状態	前歯唇面の歯垢の付着状態を観察し、「ほとんど付着なし」、「若干の付着あり」、「相当の付着あり」と3区分して、それぞれ「0」、「1」及び「2」の記号で示す。
歯肉の状態	歯肉の炎症状態を検査して、「異常なし」、「定期的な観察が必要」及び「歯科医師による診断が必要」と3区分して、それぞれ「0」、「1」及び「2」の記号で示す。 軽度の歯肉炎があるが、定期的な観察と保健指導（適切な歯みがき指導）で症状が消失すると思われるものについては「1」として、GO歯周疾患観察者（注、GOは、Gingivitis under Observationの略）とする。
歯の状態	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在歯、要観察歯、う歯、喪失歯、要注意乳歯は記号を用いて、歯式の該当歯に該当記号を付する。</li> <li>現在歯は乳歯、永久歯とも該当歯を斜線又は連続横線で消す。</li> <li>要観察歯は該当歯にCOと記入する。 (注: COは Questionable Caries under Observationの略)</li> <li>う歯は、乳歯、永久歯とも、未処置歯又は処置歯に区分し、未処置歯はC、処置歯は○に区分し記入する。</li> <li>喪失歯は、永久歯の喪失のみとして△を該当歯に記入する。</li> <li>要注意乳歯は、歯科治療実施にあたって慎重に処置する必要があると認められた乳歯であって、該当歯に記号×を記入する。</li> </ul>
その他の疾患及び異常	う歯及び歯周疾患以外に認められた歯及び口腔疾患については処置及び指導を要するものに重点をおいて診る。例えば、口角炎、口唇炎、唇裂・口蓋裂、舌小帯異常、舌の異常、唾石、過剰歯、円錐歯、癒合歯、先天性欠如歯、エナメル質形成不全等について具体的に所定の欄に記入する。

いるか」あるいは「疾患を持つ歯が全体に占める割合はどれくらいなのか」を知る上で大きな手掛かりとなるものである。

#### ◆ 歯及び口腔にあたっての基本的な用語についての解説を示しておく。

##### (1) う歯（むし歯）

う歯の原因は、口腔常在菌の1種である

ミュータンス菌が摂取した砂糖と作用して粘着性のデキストランを生成し、歯垢を作り出し、糖を分解して乳酸を作る。この酸がエナメル質表層に作用しエナメル質の脱灰（カルシウムをとかし出す）を始め、う歯が発生する。これが、う歯の初発である。その後、歯の硬組織の脱灰と破壊を繰り返し、歯の実質欠損が進行する。これが「う歯（う歯）」である。

歯は、胎児の頃から顎の骨の中で長い時間をかけて形成され、一応、出来上がってから萌出してくれる。しかし、この時点では、歯を構成しているカルシウムの結晶は未完成である。つまり、歯が萌出した時は形は完成しているが質的には未完成ということである。その後、数年かけて歯の結晶が完成して初めて丈夫な歯となるのである。したがって、歯が萌出してから数年間が歯をむし歯から守るために最も重要な時期である。この間のブラッシングやフッ化物の歯面塗布などがむし歯予防に最も有効な時期となる。この時期に、う歯ハイリスクの幼児や児童をできるだけ見つけ出し対処することが大切である。

#### (2) 歯周疾患

学童期に見られる歯周疾患の大部分は、歯垢が原因で起きる単純性歯肉炎であって、炎症が辺縁歯肉にのみ生ずるものである。ブラッシングを適切に行うことによって、歯肉の発赤、腫れ出血などの症状は軽くなるが、時には歯肉ポケット（歯肉が腫れて歯肉と歯の間がポケットのようになる）が形成されることがある。

また、歯周疾患の代表的なものに辺縁性歯周炎があつて、一般的に歯槽膿漏と呼ばれている。これは歯肉炎と異なつて、炎症と破壊が歯根膜や歯槽骨にまで及んでいる歯周組織の慢性炎症性病変を示すものである。

辺縁性歯周炎は、小・中学校の児童生徒に

発症することは少ない。しかし、中学生頃に、原因が分からず、重篤な症状を示す若年性歯周炎と呼ばれる歯周疾患に罹ることがある。この場合は、直ちに歯科医に診てもらい、治療を開始しなくてはならない。

#### (3) 歯列の状態

上顎と下顎では同時に発育をしないが上下の調和をとりながら顎の形成は進む。第二大臼歯の萌出の時期となる小学校6年生から中学校1年生頃、顎の発育も一段落して、上下顎の歯列も調和がとれた正常の咬合状態を示すようになる。この時には、永久歯として一番早く萌出する第一大臼歯が永久歯列の基準となって歯列が形成される。したがって、第一大臼歯の位置関係から歯列の適否を判定することになる。

顎の成長発育の不良、顎の大きさと歯の大きさとが調和されていない場合には、咬合関係、上下歯列の対咬合関係の不適切が生じ、不正咬合と呼ばれる状態となる。

歯列に異常があると、顎、顔、歯、歯周組織の異常から、発育、形態、機能に異常をきたし、また、咬合にも異常をきたして、咀嚼機能の障害を起こすこともある。

#### (4) 顎関節の状態

最近では、軟食傾向に伴って小・中学生の顎関節の発育の問題も注目されている。

顎関節症とは、顎関節痛、顎関節音、異常顎運動などの症状を訴えるものの総称である。原因是、過度の開口、硬いものの咀嚼、異常な顎運動、不適切な歯科処置（充填物や補綴物）、咀嚼筋の異常緊張、精神的ストレス等、原因は様々である。主として成人に見られた症状であるが小・中学生にも見られるようになっている。

#### (5) 要観察歯（C O）

一般的に学校における健康診断のような、歯科集団検診の場で、初期のう歯の病変を

病気の活動性を含めて確実に診断することは困難なことが多い。そこで経過観察が必要と判断されるう歯の初期病変が疑わしい所見の歯に対して要観察歯C O（Questionable Caries under Observation）と称することになった。

要観察歯の定義は「う歯性変化と思われるが実質欠損は存在せず、窩底、窩壁にも軟化が認められないが、探針がひっかかたり、表面が粗慥になった斑点などを認める場合は、う歯とはせず要観察歯C Oと判定する。また、小窩裂溝の場合、探針の陷入だけでなく、除去にあたって僅かに抵抗感のある場合は、う歯とはせず要観察歯と判定する。」となっている。

#### (6) 歯周疾患要観察歯者（G O）

歯周疾患、特に、歯周炎は小学校の5、6年生頃から中学生にかけて発生が多くなってくる。これらの多くは適切なブラッシングで十分に炎症症状が消失する。歯垢の付着が異常に多く、歯石も沈着している炎症症状は、歯肉炎Gと診断されるが、適切な歯みがき指導で症状が消失するような例では、定期的な観察と保健指導が必要であるということから、歯周疾患要観察歯者G O（Gingivitis under Observation）と記入することになった。

#### (7) その他の疾病及び異常

##### (ア) 口唇、舌小帯の疾病及び異常

口唇ヘルペス、剥離性口唇炎、湿疹性口唇炎、口角口唇炎などの口唇炎及び舌小帯の異常がある。

##### (イ) 歯牙の疾病及び異常

歯の石灰化時期に過剰のフッ素を長時間塗布したことによって発生する歯牙フッ素症（斑状歯）や円錐歯、癒合歯、過剰歯、先天（性）欠如歯、着色歯、変色歯などがある。

## 講 義

3

# 児童生徒の咀嚼など 口腔機能に関する 諸問題

●日本大学歯学部 教授

赤坂 守人

## 1 はじめに

歯科保健医療目標として8020運動が提唱されているが、健全な歯を残すことは、咀嚼をはじめとする口腔の機能が豊かに営み得ることにある。一方、この8020運動を達成するには、疾病治療を中心とした現在の保険医療制度での対応では困難であって、口腔疾患の大半の発病時期であり、また歯列・咬合の育成時期でもある小児期に、careを含む口腔の管理が行われることが重要である。この点からも、現在学校歯科保健など地域の公衆衛生活動が果たす役割は大きい。

## 2 咀嚼と全身の健康への影響

咀嚼運動が全身の健康や機能にどのような関わりがあるのか、様々な分野で検討が行われている。小児の肥満が増え、成人病の発病時期が低年齢化していることが指摘されている。肥満あるいは過食と咀嚼は関係が深い。満腹中枢を刺激し満

腹感を形成する神経性の伝達物質に神経性ヒスタミンがあるが、固い食物を噛むと神経性ヒスタミンが分泌され満腹中枢を刺激する。また、咀嚼活動が行われると交感神経系が活動しノルアドレナリンが分泌され、食餌誘発性体熱産生が起きる。咀嚼しないとこのエネルギー代謝が上昇せず、血中の脂肪が組織に取り込まれやすくなり肥満の誘因となる。最近の脳血流分布を測定するポジトンCTの研究によると、ガム咀嚼により局所脳血流量が30%の増加がみられるとの報告があり、このようなことから咀嚼することが、機能的な発達や回復への影響が考えられている。また、固い食物を咀嚼すると反射的に唾液が分泌されることはよく知られている。そして、唾液には疾病を予防し老化を阻止する様々な機能を有することも知られている。

## 3 咀嚼と口腔・歯の健康への影響

咀嚼と口腔・歯の病気、あるいは口腔の衛生状

態とは関係が深い。咀嚼機能の低下が顎骨の劣成長を起こし、それが叢生（乱ぐい）型の歯列不正の原因となっていると指摘するものがいるが、これを個成長的影響として捉えることにはやや問題がある。しかし、咀嚼の低下は、歯・歯列を取り囲む口腔の軟組織の筋圧のバランスの影響を相対的に強くし、歯・歯列を動きやすくしていることは考えられ、それによって歯列不正が多くみられるようになったことも予測される。また、食物の軟食化、咀嚼の低下は、食物の固さの刺激による歯肉へのマッサージ効果や歯面の汚れを清掃する効果が弱まるため、特に、第一大臼歯、第二大臼歯が萌える時期に歯肉が長期間歯冠部を覆っているため、歯の汚れが沈着しやすくなっている歯の萌出直後にう蝕が発生しやすくなる。その他、歯面の汚れ、歯垢・歯石沈着が増加して学童・生徒の歯肉炎が憎悪化し、歯周炎の発病時期の低年齢化の誘因となっている。

## 4 歯・咬合の発育と咀嚼の発達

咀嚼の発達にとって、歯が萌出し、歯根膜感覚受容器からの食物の情報が入力されることが重要である。この点からあらためて健全な歯あるいは正しい咬合関係を持つことが大切である。乳歯列完成期から第一大臼歯萌出期までは咀嚼機能がさらに習熟し、強化される時期である。

### （1）乳歯列完成前後

金子は咀嚼の発達上、基本的機能の獲得期は、離乳期に相当するとしており、二木も咀嚼の発達にとっての臨界期は乳臼歯が萌えそろう11～24ヶ月頃であるとしている。この時期は乳歯が逐次萌出する時期にあたり、乳歯の萌出により口腔の容積が増大し形態的変化が起こると、歯根膜受容器からの感覚刺激に対応した筋群の協調運動が可能になることなどが、咀嚼の発達に関連している。咀嚼機能の発達上重要な離乳期を順調に進めていくには、個人差のある歯の萌出状態に合わせた調

理形態を進めていくことが必要である。

上下顎乳切歯の萌出による咬合接触は顎間距離を増加させたり、前方に位置していた舌を後退させて口腔容積を増大させる。このような口腔内の構造的変化が関係して、哺乳のための吸啜運動から固体食の咀嚼運動への準備状態がつくられている。つづいて上下顎第一乳臼歯が萌出し咬合接触すると、次第に下顎運動を調節する反射が形成され、下顎の前方運動が抑制され下顎の位置が決定される。この時期の乳幼児の食べ方の順序は手に持った食物を初めは口に押し込み、つづいて前歯により食物を引きちぎり、乳臼歯の萌出によって頭を横に向けるようにして食物を口の横の方から噛み込むようになる。

現在わが国で広く普及している厚生省離乳基本案（1980年発表）は月齢11ヶ月が離乳の最終段階となっている。咀嚼機能の発達は歯の萌出に強く影響されることが明らかとなった現在、離乳食指導の完了期は第一乳臼歯が萌出し、咬合接触にする1歳6ヶ月から2歳頃までとし、歯の萌出時期の個人差を十分考慮した指導を行うべきであろう。

乳歯列完成期から第一大臼歯萌出開始までは、さらに咀嚼機能は習熟され発達する時期である。それは、乳歯の萌出による咬合接触面積が増加するだけでなく、筋・神経機構が成熟し、顎関節形態も変化して下顎窩のくぼみが深さを増すことにより下顎の位置が相対的に決定されるようになる。それによって側方運動も限定されるようになる。一般に、幼児期の咀嚼運動の経路は不安定であって変異が大きい。この時期に下顎位が安定性を増していくことは、咬合関係にも影響を及ぼす。幼児前半にみられた機能性の反対咬合が、乳歯が完成する頃には自然に正常咬合推移していくのは、このような間接窩の変化や咀嚼筋の成熟が関係している。

## (2) 第一大臼歯、永久切歯の萌出期

第一大臼歯は咬合の鍵とも言われるほどその咬合関係は永久歯列の咬合に影響を及ぼす。それと同時に第一大臼歯の萌出は咀嚼機能の発達にも大きな影響を及ぼす。

西川は咬合力計を用いて学童の第一大臼歯の最大咬合力を測定している。男子では小学校一年生で約25kg、女子では約23kgを示し、20歳で約60kgのピークに達し以降減少している。また約30年前の吉松らの値と比較した結果、ほとんど変化していないが、小学校1～4年生の女子では現在の方が高い値を示したが、20歳代になると逆に低い値を示したと述べている。緒方はオクルーザルプレスケール法により第一大臼歯の咬合力を測定し、増加率は永久切歯萌出完了期（Ⅲ A）から側方歯群交換期（Ⅲ B）にかけて最大を示し、Ⅲ Bでは同じ測定法による田口の成人（26歳）値とほぼ近い値を示したと述べている。さらに第一乳臼歯、第二乳臼歯、第一大臼歯のそれぞれの咬合力の総和を100とした場合、Ⅲ Bでは第一大臼歯の咬合力が70%を占めるようになり、第二乳臼歯が中心に機能した時期から第一大臼歯へと移行していると報告している。しかし、永久歯が萌出するⅢ A期では歯列全体の咬合力は一時的に低下するとい、その原因は乳臼歯の歯根吸収によるものとしている。そして再びⅢ Bでは咬合力は増加する。この時期は一般には増齧と共に咬合力、咀嚼能力が増加するが、この増加に関連する因子としては、咀嚼筋などの筋力の増大、歯の咬合接触面積の増加、咬合小面の変化、歯根発育による歯根表面積の増加、歯根膜受容器及び咀嚼筋筋繊維の成熟、顎関節の発育による形態変化など、さまざまな因子が複雑に関係している。成長変化に伴う咀嚼能力の変化は、咀嚼筋活動や下顎運動により知ることができる。咀嚼筋の発達は筋付着部

の上下顎骨の発育の影響を受けて変化し、小児での側頭筋優勢から成人の咬筋優勢に移行する。このような咀嚼筋の使い方が乳歯列期と永久歯列期で明らかに違いがみられ、Ⅲ A期からⅢ B期が転換期があって、田村は最大咬合力もこのとき増加することを報告している。

上顎切歯の交換期にう蝕などの原因で乳前歯が早期に喪失したり、後継永久切歯が萌出遅延になると、前歯の咬合がみられない時期が学童期にしばしばみられる。このような時期に食物を咬断出来ないばかりか、食物を前歯でくわえ食物の大きさ、物性を識別する能力に欠けることがある。このようなことは、最近の子どもたちに多く見られるよく咀嚼しないで飲物で食物を流し込む傾向や、食器類の持ち方、使い方によって犬食いする食べ方などとも関係している。咀嚼の発達の面からもこのような食事を摂る時の姿勢は、食器類の選択、食器・箸の持ち方などの指導が必要である。

## 5 咀嚼機能の評価法

学童・生徒への咀嚼に対する保健教育、保健指導を行なう際、何らかの咀嚼評価を行うことは興味、動機づけ、指導目標の設定などの面で重要である。各種の咀嚼評価方法には利点、欠点があり熟知した上で用いるべきである。

### (1) 器具類を用いての評価

咀嚼機能を総合的に評価する方法として咀嚼能力（率）測定がある。従来、食べ物の切断粉碎などを評価する方法としてピーナッツを用いた飾分法が咀嚼能率測定として用いられてきた。咀嚼運動は口腔内で食物を送り込み唾液との混和を行うものである。そこで、粉碎と混和の両機能を評価する方法として近年チューインガム法が用いられている。この方法はとくに小児は違和感も少なく簡便で

あって、集団的なフィールドにも適している。長澤らは無う蝕で正常咬合歯列の各咬合発育段階別の咀嚼能力値を測定し、基準値を報告している。乳歯列では成人の値の68%であったと報告している。

乳歯列期の咀嚼評価としてよく用いられる方法に咬合力の測定がある。従来報告されている咬合力の値は、測定装置、測定方法がそれぞれ異なることがあり、簡単に比較することはできない。西川は咬合力計（MPM-2401型、日本光電）を用いて4～5歳児の最大咬合力を測定したところ20.7kgであったが、30年前の林の値は25.2kgであって、現代は約5kg程低下しているとしており、また15kg以下の低値を示す幼児が増加していることを報告している。

近年、臨床、研究面でオクルーザルプレスケール法が用いられている。測定は簡単でフィルム様のスケールを咬ませ、分析器で測定する。咬合力、咬合圧、咬合接触面積が測定できる。分析器であるオクルーザーが高価であるという難点がある。

## (2) 食物による評価

咀嚼運動を最も反映するのは、咀嚼筋活動であり下顎運動である。食物の様々な物性と筋電図による咀嚼筋活動との関係についてを検討した報告は多くみられる。著者らの教室では前述したテクスチュロメーターによる物性値がヒトの咀嚼筋活動とどのような関係にあるかを検討するため、物性特性の異なる代表的食物11種を選び筋電図による咀嚼筋活動を測定した。その結果、食品のかたさ、弾力性、ひずみの積によって求められる値が咀嚼筋活動量と良好に対応することが明らかとなり、この値を“噛みごたえ”と称して、テクスチュロメータにより測定した144種の食物

について咀嚼筋活動量の大きさによって食品群別に10段階に分類した。塩野らは、咀嚼機能量の測定用に開発されたゼラチンゼリーの物性を検討するため4段階の硬さと5種類の大きさと形を変えたゼラチンゼリーについて筋活動量を測定している。これによると体積、咀嚼回数などの因子と筋活動量との相関係数が高いことがわかる。このように咀嚼筋活動量が既知のゼラチンゼリーを用いることにより簡便に咀嚼機能量が測定可能となったとしている。

## 6 現代の食生活における食物選択の多様性

現代は、食品の加工技術の進歩、食品流通機構の関係など、食品は益々軟食化が進んでおり咀嚼を必要としなくなっている。現代人、特に児童生徒の生活スタイルは、日常の食事を手軽に済ますことを要求するようになり、家庭での食習慣、食事内容を根本的に変えようとしている。また、現代食は高脂肪食でもあるなど、豊富な食品に囲まれた現代人は食物の選択を誤るとむしろ栄養的に多くの問題を生じやすくなっている。

外食の機会が多く、加工食品の摂取量が多くなった現代人は健康維持のためにも食物の選択を自己評価することが大切であり、そのために加工食品を含む食物についての栄養学的な情報が必要である。

咀嚼の様相は食物の物性、大きさに強く影響を受け異なる。近年、食物と咀嚼との関係を科学的に検討を加え、咀嚼面からの食物の分類が行われている。その他、調理科学の分野でも過熱調理による物性変化と咀嚼との関係が検討されている。このような情報をもとに咀嚼機能の発達時期である幼児、学童期に咀嚼の育成を考慮した食物選択、調理法の指導が必要である。

## 講 義

4

# 口腔及び食事と 児童生徒の健康

●日本総合愛育研究所 所長

平山宗宏

### ① はじめに

標記の演題のご指示をいただいたが、私は小児科医の出であるので、子どもの健康全体についての問題点を学校保健の立場から整理して、先生方のご参考に供する事でお許しを頂きたい。口腔と食事といえば、歯科の先生方は咀嚼、顎骨の発達、歯列などの関係をイメージされると思うが、小児内科の立場で頭に浮かぶのは、口腔から咽頭・扁桃にかけての感染症及び感染病巣と全身的疾患であり、食事といえば食生活全般が関係する子どもの心身の健康問題ということになる。これらは学校保健の今日的課題でもあるので、とりまとめてみることにしよう。

### ② 口腔・口唇の疾患

多く見られる感染症は、各種口内炎、咽頭炎、扁桃炎などである。小児に多い口内炎の例は単純ヘルペスウイルスによる急性感染性歯肉口内炎で、有痛性水疱性発疹で、歯肉や上顎などにできる。頬粘膜にできる有痛性潰瘍のアフタ性口内炎は原因不明で別物とされる。ヘルペスウイルスは口内炎治癒後も口唇付近の細胞内に潜伏し、時に口唇ヘルペスとして再発する。ヘルペスウイルス

群にはこのように血中抗体ができるで症状が治癒した後も細胞内に潜伏感染を続け、症状の再発をくり返したり、癌の原因となったりする特徴がある。口角炎はビタミンB群の不足などが原因とされる。上気道炎には多くの微生物がその病原になる。

### ③ 全身性疾患の起因病巣としての 口腔内感染

扁桃炎や、歯肉炎、齲歯などが全身性疾患の起因病巣となりうることは古くから知られている。全身性疾患としては、急性腎炎、リュウマチ熱（いずれも溶連菌）、敗血症（各種細菌）などが古くから知られている。

### ④ 食生活

現在児童生徒をめぐる食の関わる健康問題としては、食生活そのものの問題と、食の関わるアレルギー疾患と、成人病予防の問題とがある。それについて要点を述べよう。

#### (1) 食生活そのものの問題

ア. 朝食抜き

日本学校保健会によれば児童生徒のサベランス事業の調査（小学3年～高校生、

3年間で統計約27,000例)によれば、常習的に朝食抜きの子どもは、小学生では1%以下だが、中学生になると3~5%, 高校生では男子で5~10%, 女子で3~6%となっていた。朝食を食べない理由は、起床が遅いので食べる暇がない、あるいは食欲がないというものが大部分である。朝食抜きは健康上好ましくないのは当然だが、小学生では少ないので救いである。

#### イ. 好き嫌い(偏食)

嫌いな食物のある子は、学年、性別にあまり関わりなく40%弱である。栄養学的には、代償のきく好き嫌いは心配はないというものの、しつけや咀嚼の面からの問題は個々に考えなくてはならない。

#### ウ. おやつ

普段よく食べるおやつは、スナック菓子が60~65%で最も多いため、各種お菓子、飲み物を合わせれば、甘い物は相変わらず多い。スナック菓子は塩分の取りすぎに注意を要するし、甘い物は当然、歯と肥満の上で気をつけたい。ただし、発育期の小児、とくに低年齢児にとっておやつは必要であり、一日の食事トータルとして考える必要がある。「おやつなしデー」という発想はして欲しくない。また、砂糖が骨まで弱くするという事実はないので、砂糖を制限する理由は医学の常識の範囲にとどめたい。

#### エ. 楽しい食事

子どもが家で一人で食事をする(孤食)ことは極力避けて欲しいのも当然だが、学校での給食もかつてのように厳しい食事の戦いの場というより、楽しい食事という面が強調されてきており、これもよいことと考える。楽しく、早食いになりすぎない食事は、消化をよくし、食べ過ぎによる肥満の防止に役立つ。早食いは満腹感を感じる前に食べすぎてしまうからである。

## (2) アレルギーと食物

アレルゲンになるのはたんぱく質であり、一般にたんぱく質は消化管でアミノ酸まで分解されて吸収されるので、アレルゲンにはならない。従って、消化・吸収機能に未熟な場合のある乳児期は食物アレルギーが時として起こるが、幼児期以降は頻度が減ってくる。もちろんまれには激しいアレルギー症状を呈するケースもあるので注意は必要だが、特定の食物除去は医療行為なので、素人判断で食物制限はしないで欲しい。卵や牛乳は子どもにとって有益な栄養食品だからである。アレルゲンとしての特定は、摂取と症状の間に明らかな因果関係が証明された場合に限ると考える。難治性のアトピー性皮膚炎にはダニアレルギーが多く、環境整備で治癒するとの報告もある。

## (3) 成人病のリスクファクターと食生活

小児成人病が増えている、という表現がよく使われるが、小児成人病という病気があるわけではない。小児期から成人病の予防を心がけた生活をしよう、という意味がまず第一で、まれながら遺伝性の素因で小児期から糖尿病や高血圧、高コレステロール血症などが発症してくる人があるので注意しようというねらいも込められている。

遺伝性素因を見つけるためには、家族歴の調査が有効だが、実際に行う時はプライバシー保護への配慮が重要である。青年期から動脈硬化が進んでいるとの警鐘は米国でまず取り上げられ、わが国でも欧米型の食事が増えていることから問題になりはじめた。成人病へのリスクファクターとしては、前述の遺伝性素因の他に、食べ過ぎによる肥満、動物性脂肪の取り過ぎ、塩分の取り過ぎ、といった食事の内容と、運動不足が上げられる。対策としては、食生活上の注意と運動のすすめが重要である。

# 分科会

11・2 (木)

- 前橋テルサホール (第1部会)
- 前橋市民文化会館小ホール (第2部会)

第1部会 (教員部会)

第2部会 (学校歯科医部会)

●前橋テルサホール

●開会のあいさつ

群馬県教育委員会事務局

保健体育課長 宗行 彪

講義 5

「学校歯科保健の考え方・進め方」  
—障害児の歯科保健を含めて—

講師 東京都教育庁体育部保健  
給食課歯科保健担当

係長 森 律子

講義 6

「学校、家庭、地域の  
連携で進める歯・口の健康つくり」

講師 明海大学歯学部

教授 中尾 傑一

●前橋市民文化会館小ホール

●開会のあいさつ

群馬県歯科医師会

会長 今成 虎夫

講義 7

「学校歯科医の職務と  
期待される役割」

講師 日本体育大学

教授 吉田螢一郎

講義 8

「児童生徒の歯および口腔の  
健康診断と事後措置」

講師 東京医科歯科大学

教授 岡田昭五郎

## 第1部会

教員部会

講 義

5

学校歯科保健の  
考え方・進め方

—障害児の歯科保健を含めて—

●東京都教育庁体育部保健給食課 歯科保健担当係長

森 律子

## はじめに

以前は学校歯科保健活動といえば、児童生徒のむし歯への対応として、健康診断、健康診断終了後の治療勧告や食後の歯みがきの一斉指導など、管理中心型の指導が行われていた。しかし、近年、歯科疾患の実態も変化し、学校の自己管理能力を培うことができるような健康教育を中心に捉えた歯科保健活動が求められているといえよう。

## ▷ 学校における健康教育

## (1) 新しい健康のとらえ方

WHO（世界保健機関）は、1946年に「健康とは、身体的、精神的、そして社会的にあまねく安泰な状態にあることであって、単に

病気がなく虚弱でないということではない。」という健康についての定義を提唱した。これは、からだだけでなく、心や社会的な要素も加えた積極的な健康観（ポジティブヘルス）として評価された。最近はさらに積極的な健康観である「健康を、それ自体が目的のではなく、各自の自己実現のための基礎的資源としてとらえ、その人それぞれの健康」というとらえ方がさてきている。

## (2) 新しい健康教育と学校における健康教育

新しい健康観を受けて健康教育の理念も少しずつ変化してきた。従来の指示的な一方への指導ではなく、健康教育を受ける人の主体性を考えること、また、教える者・教えられる者という位置付けではなく、相互に学習

していくことの重要性が認識されてきた。

学習指導要領総則には、教育課程編成の一般方針として、「自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成、基礎的・基本的な内容の指導の徹底、個性を生かす教育の充実」がうたわれているが、この学校教育のねらいには、新しい健康教育の理念に通じるものがある。

## 2児童生徒の歯科疾患の実態と課題

歯科保健活動を進めるには、まず児童生徒の健康課題を明らかにする必要がある。

従来、児童生徒の歯科疾患としてはむし歯が大きく取り上げられてきたが、近年は、歯周疾患（歯肉炎や歯周炎）も課題となってきた。また、口腔機能の健全な発育の重要性が改めて認識されており、咬合や咀嚼等に関することも重要な課題である。

最近「むし歯予防」ではなく、「歯・口の健康づくり」ということばが学校保健でも使われるようになったのは、歯科保健の課題がむし歯以外の歯周疾患、さらには噛むことなどの口腔機能へと拡がり、それを新しい健康観でとらえられるようになったからであろう。

## 3学校歯科保健活動の領域

学校における歯科保健活動は、教育活動全体を通じて様々な場面で実践されることが肝要であり、歯科保健教育、歯科保健管理及び歯科保健に関する組織活動のそれぞれが計画的に行われる必要がある。

そのためには、教育活動のどの場面で、どのような指導を行うかなどについて示した総合的な基本計画としての「全体計画」の作成が不可欠であり、さらに、全体計画に基づいて編成される歯科保健指導の「年間指導計画」の作成も重要である。

### 1歯科保健教育

歯科保健教育は、保健学習と保健指導に分けられるが、その中心である学級活動における保健指導の果たす役割は大きい。しかしながら、児童生徒の課題等それぞれの学校の実情によっては、歯の保健指導の授業を全学年で実施することは必ずしも容易でないと思われる。体育科や関連教科の理科、生活科、家庭科、及び道徳の学習の機会を活用したり、児童・生徒会活動や日常の指導（朝や帰りの話し合い、給食後の歯みがき等）などでも積極的に取り組む工夫が必要であろう。そして、それぞれの活動を関連づけて進めることも大切である。

### 2歯科保健管理

保健管理は、保健教育と車の両輪をなすものである。

学校における健康診断では、結果をその後の保健指導にどのように生かしていくのかという視点が大切である。学校歯科保健活動では、児童生徒の健康診断の結果から浮かび上がってくる問題点が課題として捉えられて、その課題の解決が教育活動となる。また、健康診断は、保健教育の成果の評価の機会ともなる。

したがって、保健管理と保健教育は相互に連携しながら展開していく必要がある。

### 3歯科保健に関する組織活動

学校における歯科保健活動を効果的に進めるためには、校内の協力体制を確立し、家庭・地域との連携を図ることが必要である。

また、組織的に学校歯科保健の課題解決を図るためにも、学校保健委員会を十分活用することが大切である。

## 4 「小学校 歯の保健指導の手引（改訂版）」について

歯科保健活動を実際に学校で推進するときの拠り所となるのが、新しい学習指導要領の趣旨を踏まえて平成4年に改訂された「小学校 歯の保健指導の手引」である。

手引きには歯の保健指導の目標が次のように示されている。

1. 歯・口腔の発育や疾病・異常など、自分の歯や口の健康状態を理解させ、それらの健康を保持増進できる態度や習慣を身に付ける。
2. むし歯や歯肉の病気の予防に必要な歯のみがき方や望ましい食生活などを理解し、歯や口の健康を保つのに必要な態度や習慣を身に付ける。

そして、主な内容としては次のことがあげられる。

### 〔主な内容〕

1. 学級活動における授業としての歯の保健指導のあり方・進め方が示されている。
2. 歯周疾患についての項目が、歯の保健指導に大きな柱として位置付けられている。
  - ・歯周炎は児童が自分で見つけられ、歯みがきで自ら改善できることを生かして、適切な自己管理能力の育成を図れることが示されている。
3. 歯みがきを問題解決学習としてとらえている。
  - ・画一的なみがき方を指導するのではなく、児童自身が基本的な方法を理解したうえで、自分の歯ならびにあった「みがき残しのないみがき方」を工夫し、発見し、自己評価して解決していく過程が重視されている。
4. 新しくはえた永久歯を教材にして歯みがきを学ぶように、「発達段階に即した歯み

がきの到達目標」が示されている。

5. 家庭・地域と連携した歯の保健指導における組織活動のあり方が示されている。

この手引の趣旨や基本的な内容は、中学校・高等学校においても十分応用できると思われる。学校歯科保健を推進していくうえで、「小学校 保健指導の手引（改訂版）」とともに十分な活用が望まれる。

## 5 障害児の歯科保健について

最後に、障害のある児童生徒の歯科保健について若干ふれる。

心身障害者教育における健康教育は、基本的な生活能力の向上を図るとともに、豊かな社会生活を営めるようにするという大きな意味を持っている。障害のある児童生徒は、学校における歯科保健活動を通して、むし歯などの歯科疾患の予防にとどまらず、食生活を中心とした基本的生活習慣の改善、さらには生涯を通じての自主的な健康づくりへと、社会生活を営むための基礎を培っていくことができると考えられる。

心身障害者にとって、咀嚼能力等口腔機能の向上を図り健康な口腔を保持することは、必要な栄養を摂取して全身状態の改善を促すためにも、また、食事を楽しみ、より快適な生活を営み、積極的に社会参加していくためにも大切なことである。そのためには、歯科医療体制を整備して治療に努めるだけでなく、歯科疾患の予防・再発防止などについての歯科健康教育や相談が極めて重要であり、学齢期における対応はその要となる。

近年、盲・ろう・養護学校に在籍する児童生徒の疾病や障害は、年々重度・重複化する傾向にあり、歯科保健上の問題も学校歯科医や教諭のみでは対応しきれない面も多くなってきた感がある。歯みがき指導についても、障害児の発達段階に応じた歯科医学的な対応が必要であり、摂食指導や食生活を中心とした生活習慣の育成などを含めた総合的、継続的、計画的な取り組が不可欠であ

る。これからは、地域の医療機関、保健所や福祉施設、福祉作業所等との連携をより強化し、地域と一体となって児童生徒の歯科保健課題に取り組み、効果的な健康教育と健康管理が行われる体制をつくることが求められているといえる。その中で学校の果たす役割の重要性を再確認し、連携を拡げていく必要があると思われる。

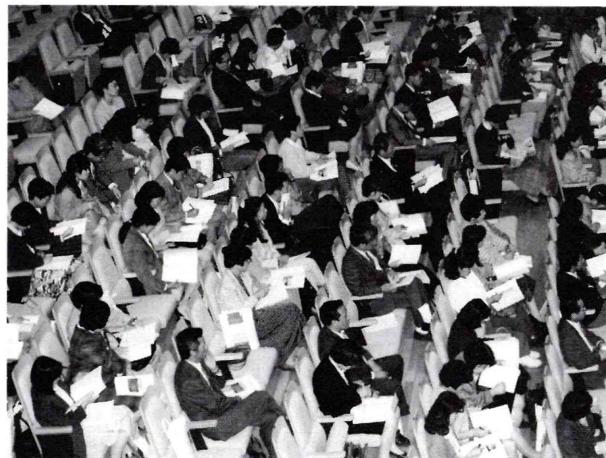
## 終わりに

学齢期は健康の自己管理能力育成に最も重要な

時期であり、学校歯科保健は8020運動の原点ともいわれている。

学校における歯科保健活動は、教育活動のひとつであり、学校の教育目標の達成に機能するものでなければならないが、多くの学校での実践がこの成果を示しているのではないだろうか。

それぞれの学校で、学校の教育目標を見据えた歯科保健活動が、学校の実情にあった形で、組織的、継続的に推進されることに期待したい。



## 講 義

6

# 学校, 家庭, 地域の 連携で進める 歯・口の健康づくり

●明海大学歯学部 教授

中 尾 俊 一

## 1 はじめに

日本学校保健会では、学校保健センター的事業の健康増進事業として、幼児、児童、生徒等歯・口の健康づくり推進事業として「歯・口の健康づくり推進委員会」を設置した。

### 児童生徒等歯・口の健康づくり推進委員会の事業の目的

本事業の目的は、幼児、児童、生徒の時期において歯・口の健康づくりを実践することであり、生涯を通じての健康づくりの基盤となるものである。乳歯から永久歯への転換期、永久歯の形成期において、特に家庭と学校が連携して児童生徒等の歯・口の健康づくりに不可欠な生活習慣を確立させなければならない。

児童生徒等及びその保護者を対象として、これら転換期、形成期の歯・口の自律的・他律的管理のあり方、食生活の工夫、プレークコントロール方法の実践、う歯の早期治療の徹底など歯・口の

健康増進・健康管理に必要な資料の作成・配布、講習会の開催等啓発活動、実践活動などの事業を行いその成果を全国的に普及して学校歯科保健活動の充実に資することにある。

本委員会は、幼稚園と小学校、小学校と中学校という各学校段階の一貫性の問題ならびに学校と家庭・地域社会との連携の問題などを重要な課題として生涯を通して健康な生活を送る基礎を歯・口の健康づくりの推進により達成することをねらいとしている。児童生徒等歯・口の健康づくり推進事業委託県と実施地区ならびに推進中心校は次のとおりである。

熊本県	上益部郡矢部町 御岳小学校、矢部中学校、御岳保育園
三重県	安芸郡美里村 辰水小学校、美里中学校、美里保育園
徳島県	徳島市鴨島町 鴨島小学校、鴨島中学校、牛島幼稚園
栃木県	那須郡小川町 小川小学校、小川中学校、小川幼稚園
広島県	三原市幸崎町 幸崎小学校、幸崎中学校、幸崎幼稚園

これらの5実施地区においては、幼稚園、小学校及び中学校の一貫した歯・口の健康づくりに関する指導計画等を作成し、その計画に基づき推進中心校又は推進校は学校保健活動を展開し、さらに保護者に対し次の事業を行った。

- 家庭における歯・口の健康づくりに資する啓発資料の作成と活用
- 保護者等の本事業に対する啓発活動の実施、学期懇談会、講習会の開催等

## 2 歯・口の健康づくりをめざした学校における歯の保健指導の進め方

学校における歯の保健指導を進めるにあたり、学校歯科保健活動の領域とそれらの特質をどのようにとらえるかである。学校歯科保健の領域を図1に示すが「学校、家庭、地域の連携で進める歯・口の健康づくり」は、歯科保健教育、歯科保健

管理及び歯科保健に関する組織活動でとらえる。

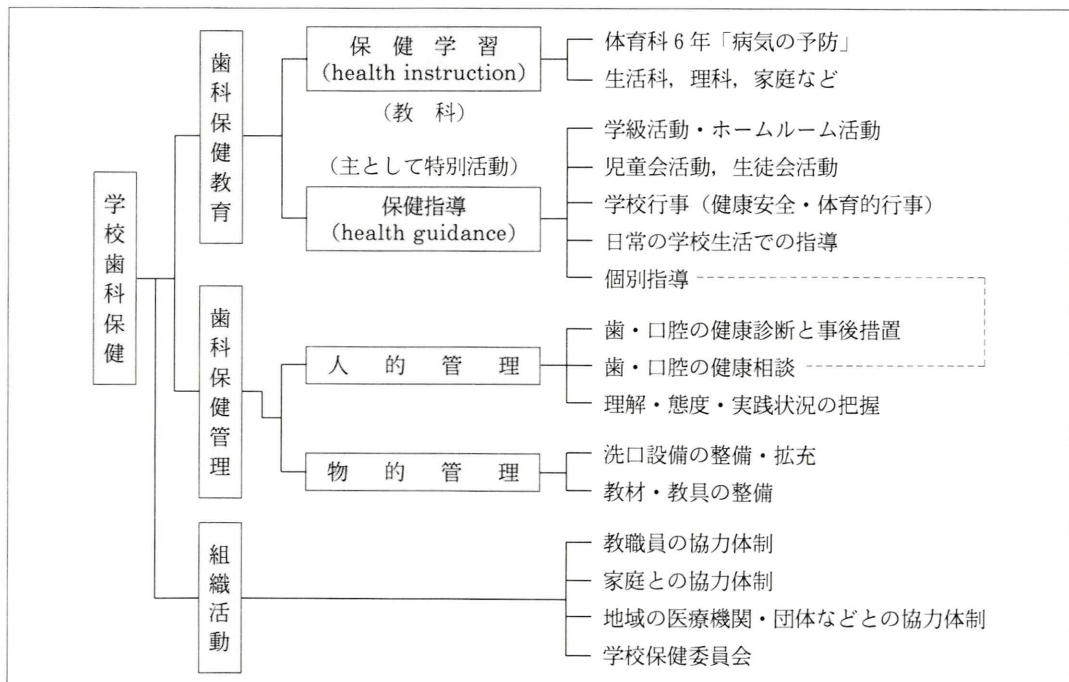
歯・口の健康づくりを学校、家庭、地域の連携で進めるには組織活動をいかに円滑に進めていくかである。これには次のような事項を考慮に入れなければならない。

- 教職員の役割と校内研修体制
- 学校保健委員会の活用
- 家庭との連携
- 学校間の連携、地域関係機関・団体との連携

「歯・口の健康づくり推進委員会」で事業の指導指針について討論された内容は次のとおりである。

- 「小学校歯の保健指導の手引き（改訂版）」の普及と実践の徹底を図る
- 歯肉炎予防の保健指導の重点化
- 自己観察の勧め、学校における指導法の研究（自分で問題発見できる様に）
- 学校における健康教育の体制づくり（全教職員の協働を重視し、それを共

図1 学校歯科保健の領域



（注）歯科保健教育については、平成元年3月告示の小・中・高等学校学習指導要領による。  
吉田豊一郎・西連寺愛憲「歯の保健指導の授業と展開」P 3引用

通の課題とする)

- 歯の健康づくりを通した生涯の健康づくりの方向性を示す
- 家庭啓発、家庭や地域との連携、学校保健委員会の活性化
- 食生活のあり方と正しいライフスタイルの確立（栄養、運動、休養）  
例：歯、口の保健指導（自己管理できる生徒の育成）
- カラーテスター使用による良くみがけない箇所の自己把握（親子で実施）
- 視聴覚教材の自作スライドによる全体指導
- 健康な歯と歯肉を守るための刷掃指導
- むし歯の多い生徒、歯肉炎の生徒の個別指導
- 全身の保健指導（全身の健康から歯・口を見直す）
- 食生活指導——バランスのよい食事（野菜、小魚を多く摂取させる工夫）
- 生活指導——生活点検の結果から生活改善を図る。
- 健康度、疲労度測定により自分の健康状態を把握

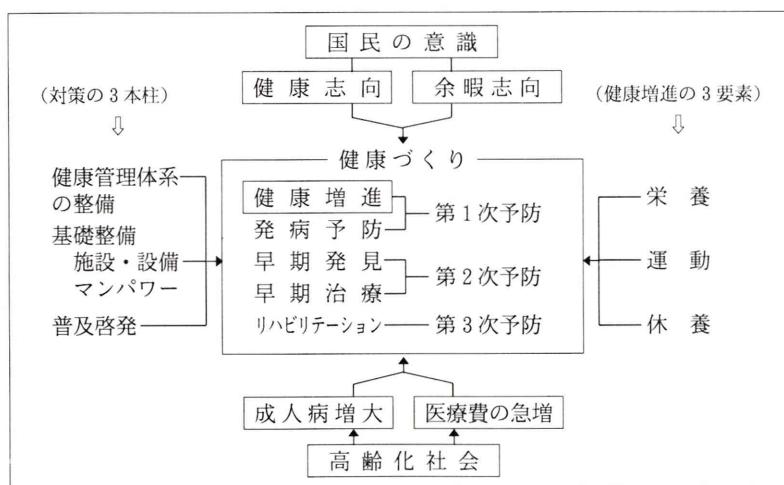
### 3 家庭・地域社会との連携のポイント

家族・地域社会との連携のポイントは、表1のとおりである。

### 4 第2次国民健康づくり対策と歯・口の健康づくり

わが国においては生涯を通じての健康づくりが推進され、現在第2次国民健康づくり対策が実施されている。（図2）これは「アクティブ80ヘルスプラン」と称され、一人一人が80歳になっても身のまわりのことができるよう生き生きした生活を送ることにより、明るく生き生きした社会を形成しましょうというものである。

一方、国民の歯科衛生思想を高揚させるため「8020（ハチマル・ニイマル）運動」を推進している。これは80歳で20本以上の歯を保つことを目標としている。このような健康づくり運動は生涯を通じた歯科保健対策等の推進が必要であり学校歯科保健領域の占める位置は重要である。口腔領域の疾病は生活の仕方にかかわってくる疾病である。歯科保健指導は、生活習慣を変える指導であ



国民衛生の動向 1994より引用

図2 アクティブ80ヘルスプラン（第2次国民健康づくり対策）の背景と意義

表1 家庭・地域社会との連携のポイント

家庭・地域社会との連携のポイントはどのようなことでしょうか

歯・口の健康つくりは、学校・家庭・地域社会が一体となってこそ、その成果が現れてきます。次に示した家庭・地域社会との連携活動例や基本的な考え方を踏まえて実践活動をしていきましょう。

〈具体的な連携活動例〉

学級PTA・保護者会等で話し合いをします。

- ① 健康診断の結果を元にした話し合い  
(う歯・歯肉炎・不正咬合の予防と早期対応)
- ② 家庭会議のもちかた(歯・口の健康つくりについて)
- ③ 基本的生活習慣の確立(睡眠・栄養・運動)  
(食生活に関する自己評価と話し合い)
- ④ 栄養バランスとかみごたえのある食品の調理の工夫
- ⑤ おやつの取り方(種類と量と時間)
- ⑥ 食後の歯みがきの仕方と歯ブラシの選択及び点検について
- ⑦ 8020運動を通しての生活の仕方

講演会、講習会等を開催します。

- ① 歯科医による講演・歯科衛生士による歯みがき指導
- ② 歯・口の健康教室(歯みがきしらべ・歯垢染め出し検査)
- ③ 親子料理教室(歯によいおやつづくり)
- ④ 親子スポーツ教室(日曜参観)での親子歯みがき
- ⑤ 祖父母に学ぶ健康教室
- ⑥ 実践家庭に学ぶ健康教室

健康相談などを実施します。

- ① 学校歯科医による健康相談、学級担任、養護教諭による相談や個別指導(う歯・歯肉炎・不正咬合の予防と早期対応)

家庭健康会議など健康を考える日を設定します。

- ① 家庭みんなで健康を考える日の設定  
(家庭としてのライフスタイルの確立)
- ② 8020運動の理解と実践「重点の日」の設定

広報活動を充実します。

- ① 保健だより・学校だより・学校保健委員会だより・学級だより・PTAだより等の充実、活用

地域の関係機関・団体との協力で健康つくりを進めます。

- 児童生徒等の歯・口の健康つくりは、地域の関係機関・団体と連携を図ることによって効果的に進めることができます。  
具体的には、次のようなことが考えられます。
- ① 歯科医師会・学校歯科医会、保健所、市町村等の主催する研修会や事業への積極的な参加
- ② 地域に共通する課題解決のため、地区学校保健会、地域学校保健委員会等の活動への積極的な参加
- ③ 歯科保健センターや地域の諸団体等と連携し、学校・家庭及び地域での生涯を通じた歯・口の健康つくりの推進
- ④ 学校保健委員会に地域の諸団体等の代表の参加を考慮し、幅広い研究協議や実践活動を展開
- ⑤ 歯・口の健康つくり推進事業の成果を生かし、中学校区等を単位に幼・保・小、中、高の一貫した指導を実施

「歯・口の健康つくりをめざして」学校における歯の保健指導の進め方－日本学校保健会より引用

る。すなわち生活の変容を動機づける指導がなされなくてはならない。これには全身の健康づくりと連動したものが必要で今こそ学校、家庭、地域

の連携で進める歯・口の健康づくりでなければならない。

表2 生涯を通じた歯科保健対策の概要

対象	歯科的特徴	歯科的問題点	歯科保健対策	
			主な具体策	ねらい
胎児期	歯の形成期	バランスのとれた栄養摂取が必要	母親教室における歯科保健指導	丈夫な歯をつくるための食生活指導
			乳児歯科健康診査、歯科保健指導	乳歯むし歯の予防、歯口清掃の動機づけ
幼児期 1～3歳	乳臼歯の萌出時期	乳歯むし歯の発生しやすい時期（甘味の不規則摂取等）	1歳6カ月児歯科健康診査	乳歯むし歯の予防、歯口清掃の確認、指導、間食等に対する食生活指導
	乳歯列の完成期	乳歯むし歯の急増期	3歳児歯科健康診査 幼児に対する歯科保健指導	乳歯むしは、不正咬合等の早期発見、早期治療、予防処置
4～5歳	永久歯の萌出開始時期（第一大臼歯）	永久歯むし歯の発生しやすくなる時期	保育所・幼稚園における歯科健康診査	むし歯予防と早期治療（特に永久歯）
心身障害（児）者	歯の形成不全及び唇顎口蓋裂等	広範性のむし歯発生等 咀嚼・発音障害	歯科保健指導の推進、治療機関の紹介	早期治療、歯科保健状況の改善、形態及び機能の早期回復
学童期（小学校） 6歳～	乳歯と永久歯の交換期	永久歯むし歯の多発期	就学期歯科健康診査	永久歯むし歯の予防と早期治療の推進
（中学校） 12歳～	永久歯列完成期 歯周組織の過敏期	歯ぐきの炎症が始まると時期	定期歯科健康診査及び歯科保健教育	歯科衛生思想の普及啓発 不正咬合の予防
（高等学校） 15歳～	第3大臼歯萌出	むし歯が放置されやすく歯周疾患の発生が始まる時期		歯科衛生思想の普及啓発 歯周疾患の予防
成人期 20歳～	歯周組織の脆弱期	歯周疾患の急増	歯周疾患の予防 及び早期健康診査 歯科保健指導	歯科治療の推奨及び歯口清掃の徹底
「妊娠婦」 40歳～	生理的変化	永久歯むし歯の増加 歯周疾患の急増	妊娠婦歯科健康診査及び歯科保健指導	
	歯の喪失開始時期	咀嚼機能の低下が始まると時期	老人保健事業における歯の健康教育、健康相談 事業所等における歯科健康診査	歯周疾患の早期治療推進 歯の喪失予防
老年期 65歳～ 「寝たきり」	歯の喪失急増期	咀嚼機能の低下 (義歯装着者急増)	義歯等に対する歯科保健指導	咀嚼機能の回復、歯口清掃の徹底（義歯の手入れ等）
			歯科保健に関する訪問指導	

資料 厚生省「保健所における歯科保健業務指針」

# 第2部会

学校歯科医部会

講 義

7

## 学校歯科医の職務と期待される役割

●日本体育大学 教授

吉 田 瑛一郎

### 1 はじめに

学校歯科医は、学校保健法第16条の規定によって「大学以外の学校には、学校歯科医及び学校薬剤師を置くものとする。」(第2項)とされ、「学校歯科医は、学校における保健管理に関する専門的事項に関し、技術及び指導に従事する。」(第3項)とされている。そして同法施行規則において職務執行の準則を規定している。そこで、この準則の趣旨に沿って職務を振り返り、学校歯科保健活動において期待される役割を提言しようとする。

### 2 学校保健法施行規則に見られる学校歯科医の職務 (第24条)

- (1) 学校保健安全計画の立案に参与する。
- (2) 定期及び臨時の健康診断(学校保健法第6条の規定)のうち、口腔及び歯の検査を行う。
- (3) 健康診断の結果に基づく予防措置(法第7条の規定)のうち、う歯その他の歯疾の予防措置及び保健指導を行う。
- (4) 児童・生徒の健康相談(法第11条の規定)のうち、歯及び口腔の相談に従事する。
- (5) 市町村の教育委員会の依頼に応じ、就学時の健康診断(法第4条の規定)のうち、歯及び口腔の検査に従事する。

- (6) 以上に掲げるほか、必要に応じ学校における保健管理に関する専門的事項の指導を実施する。
- (7) 学校歯科医は以上に掲げる事項について職務に従事したときには、その状況の概要を学校歯科医執務記録簿に記入し、校長に提出すること。

### 3 昭和29（1954）年1月文部省初等中等教育局長通達に見られる学校歯科医の職務

- (1) 学校保健計画の企画、実施、評価に参与する。
- (2) 学校歯科衛生に関し、校長の諮問に応じて意見を述べる。
- (3) 学校保健委員会に出席し、必要な指導助言を行う。
- (4) 児童・生徒保健委員会及び職員保健委員会の運営について指導と助言を行う。

- (5) 教職員の口腔衛生に関する保健活動に指導と助言を行う。
- (6) 教職員の口腔衛生に関する現職教育について指導助言を行う。
- (7) 学校身体検査規程により口腔検査を行う。
- (8) 児童・生徒のう歯その他の歯疾の予防上必要な処置を行う。
- (9) 児童・生徒の口腔衛生に関する健康相談を行う。
- (10) 児童・生徒に対して健康指導を行う。
- (11) 健康教育の教育課程に関し必要な指導と助言を行う。
- (12) 学校歯科医は歯科の予防処置その他特別な場合を除くほか、月2回以上出勤するものとする。
- (13) 学校歯科医は学校歯科衛生に関する職務に従事したときはそのつど、その状況を学校歯科医職務日誌に記載し、校長に提出する。

図1 学校歯科保健の領域

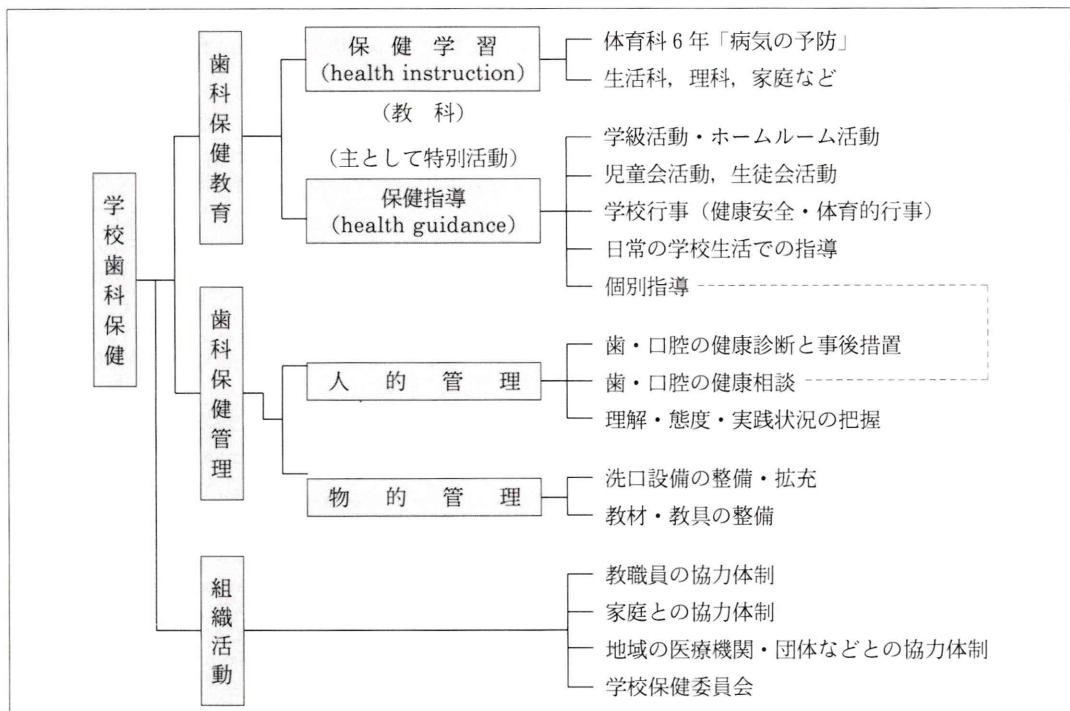


表1 学校歯科保健活動と学校歯科医の役割

事 項		活動の基本・とらえ方	学校歯科医の役割・活動
学校保健安全計画		学校保健法第2条の規定に基づいて作成される学校における学校保健及び学校安全の年間を見通した総合的な基本計画である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●歯科保健の立場から年度の方針、重点を具申する。</li> <li>●原案作成委員会、学校保健委員会などに出席して意見を述べる。</li> </ul>
歯科保健教育	保健学習	小学校は体育科の保健領域、中学校は保健体育科の保健分野、高等学校は、保健体育科の科目保健で行われる。	小学校6学年に歯科保健に関する内容があるが教師からの求めによって、専門的な指導助言を行う（「病気の予防」）。
	学級活動・ホームルーム活動	小学校、中学校は学級活動で、高等学校はホームルーム活動で、学級担任による保健指導が計画的、継続的に行われる。	歯科保健が最も多く扱われる場面なので、指導計画や指導法などについて、必要に応じ指導助言を行う。特に授業に参加を求める場合には積極的に対応する。
	学校行事	学年単位以上の全校的な規模の集団で行われる教育活動で、健康診断や病気の予防に関する行事が含まれている。	学校歯科医が、直接指導を行う機会が多い教育活動である。健康診断のとき、歯の衛生週間のときに講話などを行う。
	児童会活動・生徒会活動	児童生徒の自発的・自治的活動を通して保健に関する活動が行われる。	歯科保健に直接結びつく活動に保健委員会の活動がある。求めがあれば、必要な指導と助言を行う。
歯科保健管理	個別指導	心身の健康や健康生活の実践に問題を持つ児童生徒に対する指導で、学級担任、養護教諭がこれに当たる。	学級担任や養護教諭に対して必要に応じ指導助言を行うこと（「小学校歯の保健指導の手引き（改訂版）」参照）
	健康診断と事後措置	学校保健法第6条の規定に基づき毎学年行われるものである。事後措置は、同法第7条の規定に基づいて行われる。	定期健康診断は、6月までに行われることになるが、その実施計画及び事後措置について、十分意見を述べるとともに、C.O., G.O.の者の指導の徹底について指導助言を行う。
	健康相談	学校保健法第11条の規定に基づいて学校医・学校歯科医によって行われるものである。	歯科保健について問題を持つ児童生徒に対して年間を通じて計画的に相談・指導を行う。
	健康生活の実践状況の把握	学校が年間を通じて定期的に行うもので、保健指導の有力な手がかりが得られる。	歯口清掃の状況、食生活の実態など歯科保健の立場からも必要な内容を盛り込むようにする。染め出しなどの方法による検査も計画的に行なうことが考えられる。
対物管理	洗口場の整備拡充	「学校施設設計指針」（文部省53.10）で1学級当たり6個以上（水栓数）であることが望ましいとされている。	学校で計画を練る段階で、指導・助言を行う。新設の場合には必ず意見を述べる。
	教具・教材の整備	保健指導や保健学習を効果的にすすめるためのスライド、模型、OHP用のTP等の整備である（教材備品で購入可能となっている）	歯・口腔の模型、スライド、OHP用のTP等の整備について指導・助言を行う。
組織活動	職員の協力体制	学校保健安全計画の運営に当たって、できるだけ、全職員が役割を分担し、相互に協力しあって推進できるようにする。	<p>必要に応じて、職員保健委員会に出席する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●学校保健安全計画については、年間の活動がどうなっているかをよく理解しておくようとする。</li> </ul>
	学校保健委員会	学校における保健の問題を研究協議し、推進するための組織である。	必要なときに出席し、専門的立場から、積極的に発言し、家庭を含めた地域ぐるみの歯科保健活動が展開されるように推進することが望まれる。
	地域医療機関・団体等との協力体制	健康診断とその事後措置を効果的かつ適切に行なうためには、地域医療機関、学校医会、歯科歯科医会等との協力体制を確立することが極めて重要である。	●歯科領域においては、治療を効果的に推進するための体制を確立することが大切で、これに積極的に協力する必要がある。

(吉田螢一郎)

## 4 学校歯科保健活動の特質

(1) 学校歯科保健活動は、歯、口腔の健康づくりを通して学校教育の目的・目標の達成に貢献するものであること。

① 教育基本法第1条（教育の目標）：～自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成～。

② 学校教育法第18条7号：健康、安全で幸福な生活のために必要な習慣を養い、心身の調和的発達を図ること。

③ 学習指導要項総則教育課程編成の一般方針

3 体育に関する指導

3. 学校における体育に関する指導は、学校の教育活動の全体を通じて適切に行うものとする。特に、体力の向上及び健康の保持増進に関する指導については、体育科・保健体育科の時間はもとより、特別活動などにおいても十分行うよう努めることとし、それらの指導を通して、日常生活における体育的活動の実践が促されるとともに、生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎が培われるよう配慮しなければならない。

(2) 学校歯科保健活動は、学校保健活動の一環として「歯科保健教育」「歯科健康管理」及びそれらを円滑、効果的に進めるための「歯科保健組織活動」を領域として、教職員全員によって計画的、組織的に進められるものであること（図1）。

(3) 学校における歯科健康管理は、歯・口腔の疾病・異常を発見するだけでなく、その結果が歯科保健教育教材として生かされ、児童生徒のライフスタイルの改善向上に役立てられるものであること。

(4) 学校における歯科保健教育は、むし歯や歯肉炎の予防、咀嚼などの指導を通して児童生徒が「自分の健康に責任をもつ独立心と能力の育成」を目指していること。このため、単なる知識の注入や技能の一方的な押しつけではなく、児童生徒自らが問題に気づき、問題解決の方法を考え、行動するといった「問題解決的学習」が必要になってきていること。

(5) 学校歯科保健活動は、家庭の教育力の向上にも役割を果たしていること。

## 5 学校歯科医に期待される役割

(1) 学校歯科医の役割は、歯・口腔の健康診断や健康相談に当たるだけでなく、学校の教育課題にも目を向け、学校歯科保健活動の特質をよく理解し、広い視野に立った役割を遂行

表2 平成6年度全日本よい歯の学校最優秀校における学校歯科医の出校状況

事 項 学校名	在職年数	歯の検査	歯科健康 相 談	学校保健 委 員 会 席	学校行事 への参加	歯科保健 指 導	そ の 他
山形県大江町立本郷東小	14	2	2	2	1	3	2 (12)
横浜市立千秀小	23	4	2	1	1	2	6 (16)
長野市立鍋屋田小	41	5	5	1	2	2	2 (17)
愛知県常滑市立大野小	34	3	3	2	3	3	0 (14)
富山市立安野屋小	20	2	0	1	0	2	0 (5)
福井県立福井南養護学校	21	2	2	1	0	2	0 (7)

(注) (1) その他の（ ）内の数字は出校回数の合計である。

(2) (幼)日本学校歯科医師会主催による「調査表」より吉田が作成。

表3 歯の保健指導全体計画（例）

項目・学年	指導内容・活動内容				位置づけ	時 期
実施月 学年	4月下旬	6月	9月	11月		
歯の健康の意識を高める	1年 第一大臼歯を見つけよう	第一大臼歯を磨こう	おやつを上手に食べよう	むし歯の原因を知ろう	学級活動 ※ 体育	学期1回
	2年 永久歯を調べよう	前歯をきれいに磨こう	よくかんで食べよう	むし歯の原因を知ろう		
	3年 いろいろな歯の役割を調べよう	前歯の内側をきれいに磨こう	おやつのとり方を考えよう	むし歯の進み方を知ろう		
	4年 自分の歯並びを監察しよう	臼歯をきれいに磨こう	おやつのとり方を考えよう	歯肉炎の原因を知ろう		
	5年 歯肉の様子を観察しよう	歯と歯肉の境目をきれいに磨こう	歯の健康によい物を食べよう	歯肉炎の予防を知ろう		
	6年 自分の歯を検診しよう	自分の歯にあつた磨き方をしよう	そしゃくと肥満の関係を考えよう	むし歯が原因となる病気を知ろう		
歯磨きの意識・技術を高めし検査	1年 ●第一大臼歯のかみ合わせ面がきれいに磨ける				七小タイム	学期1回
	2年 ●前歯の外側がきれいに磨ける					
	3年 ●前歯の内側がきれいに磨ける					
	4年 ●磨きにくい歯（交換期の歯）も、きれいに磨ける					
	5年 ●歯と歯肉の境目をきれいに磨ける					
	6年 ●すべての歯をきれいに磨ける					
健 康 診 断	●むし歯の早期発見・治療・健康な歯づくりの態度育成	学校行事 学校歯科医	4月 10月			
歯肉の健康状態 歯のよごれ検査	●今までの歯磨きの成果を確かめ、よりよい歯磨きの仕方を考える態度の育成	学校行事 学校歯科医	7月・10月 2月			
治 療 の 励 め	●むし歯は自然に治らないので早く治療を受ける。 ●歯肉炎は歯磨きで治ることの指導。	個別指導 担任・養護教諭	4月・7月 10月・12月			
給食後の歯磨き	●「食べたら磨く」という習慣形成……給食後5分間歯磨きタイムを設定。〔手洗い→残さず食べる→きれいに磨く〕を一連の行動をして習慣づける。	保健指導	年間			
かみかみ給食	●ゆっくり食べるため給食時間を50分とする。かみかみ給食日の献立内容を知り、少なくとも20回は噛んで食べる。	給食指導	毎月7日 年間			
歯 ブ ラ シ 点 檢	●適正な歯ブラシの選び方の理解、保管方法、取り替え時期について自覚の強化をはかる。	個別指導 委員会活動	毎月27日 年間			
歯 磨 き がんばりカード	●カードをつけて、自らの歯磨きの反省と工夫をする。	個別指導 委員会活動	年間			
歯 の 保 健 行 事 (むし歯予防集会)	●学校歯科医の講話を聞く。むし歯のない子、歯磨き状態の良い子の表彰をする。 ●保健委員会児童による劇やクイズ。歯科衛生士から歯磨きの方法を教えてもらう。	学校行事 委員会活動	6月			
食 べ 物 集 会	●保健委員会児童による紙芝居・クイズなどで、飲み物・おやつのとり方について啓蒙する。	児童集会	7月			
個 々 の 指 導	●歯の磨き方個別指導（養護） ●歯科健康相談（個々の問題解決）……児童と保護者	保健指導	6月・7月 10月・2月			
広 報 啓 発	学校だより 保健だより きれいな歯	●児童の実態報告 ●家庭での歯の健康づくりの促進	家庭との連携	月2回	4月・7月 10月・11月 3月	7・10 ・2月
	保護者会 新1年 保護者会	●児童の実態報告と学年に応じた協力要請 ●就学時健康診断結果とこれまでの取り組みについての報告と協力要請				
学校保 健 員 会	●歯の健康づくりの実践報告と協力要請	学校歯科医 家庭との連携				
PTA講習会	●歯のみがき方とおやつの作り方・とり方講習会	PTA活動	7月・10月			
親 子 染 め 出 し 検 査	●家庭ぐるみで歯磨き状態を調べ、よりよい歯磨きを考える。	家庭との連携	夏休み中			
調 査 統 計	●おやつ調べ、生活調査・親子染め出し記録・自己歯科検診記録	家庭との連携	8月・10月			

(立川市立第7小学校)

できるようにする（表1）。

(2) 学校保健安全計画とは何かをよく理解し、関心をもち、少なくとも次のような事柄が盛り込まれるよう留意する。

- ① 歯・口腔の健康診断及び健康相談
- ② 洗口設備の整備・拡充
- ③ 学級活動・ホームルーム活動における歯科保健指導の充実（題材、内容、指導回数）
- ④ 学校行事における歯科保健指導の充実（活動内容、実施時期と回数）
- ⑤ 児童会活動・生徒会活動における歯科保健活動の充実（歯の健康集会と開催期日等）
- ⑥ 教師の歯科保健に関する校内研修の充実（歯科保健指導の授業研究を含む、それらの実施時期と回数）
- ⑦ 学校保健委員会の開催（時期と回数）
- ⑧ 父母の歯科に関する研修会の開催（学校参観日その他の社会と開催時期・回数）
- ⑨ その他

(3) 歯・口腔の健康診断の後には、学年ごとに指導上の課題を明らかにし、歯科保健指導に生かされるようにする。その場合、なるべく

教職員全員に対して口頭で「歯科保健懇談会」のような形で分かりやすく課題について説明し、理解が得られるようにする。

- (4) C O、 G Oの児童生徒の個別指導の徹底が図られるようにするとともに、発達段階に応じた学級を単位とした歯科保健指導の授業ができるようにし、そのための指導助言を行うとともに、学校歯科医もゲストティーチャーとして参加するようとする。
- 検診と講話の先生としてだけでなく、児童生徒や保護者にとって「わたしたちの歯科校医の先生」であって欲しい。
- (5) 保健主事や養護教諭とは、平素から交流を深めるようにしたい。
- (6) 保護者の啓発にも積極的に協力する。特に、学校と家庭と地域とを結ぶ「かけ橋」としての学校保健委員会の議題に歯科保健の内容が取り上げられるようにし、指導助言を行うようする。
- (7) 教育委員会や校長会との連携が必要な場合があるものと考えられるが、地区の学校歯科医会・歯科医師会として働きかけるようにし、十分な共通理解が図られていくように配慮する。

## 講 義

8

# 児童生徒の 歯及び口腔の 健康診断と事後措置

●東京医科歯科大学歯学部 教授

岡 田 昭五郎

### (1) 学校における 健康診断のねらい

学校における保健管理は学校教育の円滑な実施とその成果を高めることを目的として行われる。保健管理の一環として行う健康診断は、個々の児童生徒の健康状態の把握のみならず、全校児童生徒の健康状態の把握の上でも必要なもので、保健管理の中核となるものである。

平成6年12月8日に改正され、平成7年度から施行されるようになった学校保健法施行規則では、具体的な疾病名の例示が解除され、疾病の類型を示すように改められた。健康診断における疾病・異常の有無の検査は適切な事後措置を行うことを前提として「精密検査あるいは医療を受ける必要のある者」や「指導を要する者」を的確に選びだすことをねらいとして実施する。また、学校で健康診断を行う目的には児童生徒自身が自分の健康状態や発育状態を知り、それを自分の健康の保

持増進に役立てるという教育的な目的も含まれている。

### (2) 定期健康診断における 歯・口腔の健康診断

歯・口腔の健康診断の結果は文部省体育局長通知（平成6年12月8日）によって児童生徒健康診断票（歯・口腔）【高等学校では生徒学生健康診断票（歯・口腔）】に記入することになった。これらの書式は従来使用されていた「児童（生徒、学生）歯の検査票（第3号様式）」から改められた。

### (3) 事後措置

事後処置は、学校保健法施行規則第7条に9項目にわたって挙げられているが、歯・口腔の健康診断の事後措置としては次のような事項が挙げられる。それぞれの事項の次に示す疾病や異常のある者がその該当者となる。

(1) 疾病の予防処置を行うこと。  
口腔が不潔で、このまま放置するうつになる可能性が極めて高く、うつ予防処置が必要と認められる者。

現在歯肉の炎症はないが、歯石の沈着があって歯周疾患へと進展する恐れが強い者。

(2) 必要な医療を受けるよう指示すること。  
うつ等があって、診療所や病院の歯科で診断を確定し、処置を受ける必要がある者。

(3) 必要な検査を受けるよう指示すること。  
進行した歯周疾患、埋伏歯等が疑われ、エックス線検査等によって診断を確定する必要のある者。

(4) その他発育、健康状態等に応じて適当な保健指導を行うこと。  
定期的観察が必要な者のうち要観察歯のある者、歯周疾患要観察者、歯垢の付着のある者については後日学校で適切に指導する。  
不正咬合のある者については、専門医とよく相談するよう指導するとよい。  
顎関節の異常で定期的観察が必要な者やその他の歯疾、異常のある者について、保健指導を要する場合は実施する。

#### 4 歯列・咬合・顎関節の検査と事後措置

(1) 検査と健康診断票（歯・口腔）への記入  
歯・口腔の検査では、顎、顔面の検査からはじめる。上顎前突、下顎前突を疑わせる顔貌の者、左右非対称の顔貌の者は注意して検査する。問診、視診、触診によって次の基準に基づいて開閉、顎関節の状態、咬合、歯列を検査し、結果を3段階のいずれかで判断して記入する。

0（異常なし）：視診による顔の観察、顎関節部の触診によって異常を認めず、口の開閉に障害がなく、また本人から異常の

訴えもない者

1（要観察）：開口時の顎の偏位等、顎関節になんらかの異常が認められたり、軽度の不正咬合が認められる者。又口の開閉時に痛みはないが顎関節に軽度の異常を訴えるような場合等で、定期的観察が必要な者

2（要精検）：顎関節の雜音、顎の偏位、開口制限等を伴う開口・閉口時の障害のある者。本人が口の開閉時に痛みを訴える者。かなり重度な不正咬合があって、矯正治療を要すると判断される者。本人や保護者から矯正治療の相談の申し出のある者等で歯科医師による精密検査と診断が必要な者

歯列不正、不正咬合については、児童生徒自身、不正咬合をかなり心理的負担に感じている場合は「2」とする。多少不正咬合があっても心理的負担を感じていないような場合は「1」として次回の健康診断の際に注意深く検査するとよい。

#### 2 事後措置

##### 〈顎関節に異常が認められる者〉

「2」（要精検）の者：適当な医療機関（必要に応じて大学病院口腔外科、専門医等）で精密検査を受け、必要な医療を受けるよう指示する。

「1」（要観察）の者：適当な間隔（2、3カ月～6カ月）後に再度診査し、症状の改善が認められない場合や症状が進行しているようならば適当な医療機関で精密検査を受けるよう指示する。

### 〈歯列や咬合に異常が認められる者〉

「2」(要精検)の者：矯正歯科を標榜する歯科医療機関があれば、そこで相談するよう指示する。

「1」(要観察)の者：以後の定期健康診断の際に注意深く観察し、治療を要すると判断されれば、健康相談等の機会に保護者に精密検査または矯正治療について歯科医療機関で相談するよう指示する。

## （5）歯垢の状態の検査と事後措置

### （1）検査と健康診断票（歯・口腔）への記入

主として上下顎前歯部唇面に付着している歯垢を診査する。歯垢の染めだしは行わない。主に視診によって次の基準により歯垢の付着状態を判断し、結果は3段階のいずれかで記入する。

0(良好) : ほとんど歯垢の付着を認めない者

1(若干の付着) : 歯面の1/3以下に歯垢の付着を認める者で、刷掃指導を要すると判断される者

2(相当の付着) : 歯面の1/3を超えて歯垢の付着が認められる者で、刷掃指導は行わなければならぬが、場合によっては生活習慣に問題があつて生活指導や健康相談を行う必要のある者。

萌出途上の第一大臼歯、第二大臼歯で低位にある歯では、咬合面に多量に歯垢が付着していることがある。う蝕予防の見地からこの部位の清掃が大切であるので、このような児童生徒（幼児）については特に十分に指導するよう取り計らうとよい。（「2」と記入する。）

### （2）事後措置

歯垢の状態の欄に「1」または「2」と記入されている者は刷掃指導を必要とする。

保健指導後はいつもきれいにみがくことが身についているかどうか時々注意するとよい。

## （6）歯肉の状態の検査と事後措置

### （1）検査と健康診断票（歯・口腔）への記入

前歯部を主に視診によって観察し、結果は次の3段階のいずれかで記入する。

0(異常なし) : 歯肉に炎症のない者。

1(要観察) : 歯肉に軽度の炎症症候が認められる者で定期的な観察が必要な者。（注意深い歯の清掃を行うことによって、炎症症候が消退する程度の歯肉炎の者）

2(要精検) : 歯科医師による診断が必要な歯周疾患の認められる者。（歯石沈着があつて歯肉に炎症のある者、相当範囲にわたって歯肉乳頭、歯肉縁に著明な炎症のある者、歯周炎の者やその疑いのある者、歯肉肥大症（歯肉増殖症）が疑われる者等で、歯周疾患の診断と、その処置が必要と思われる者

歯肉の状態が1または2の者については、歯垢と歯肉の状態を総合的に判断してG O（歯周疾病要観察者）またはG（歯科医師による診断と治療を要する者）のいずれかを学校歯科医所見の欄に記入する。

その判断の基準は次のとおりである。

G O : 歯肉に軽度の炎症症候が認められるが、歯石沈着は認められず、歯の清掃指導を受け、注意深いブラッシングを続けることに

よって炎症症候が消退するような歯肉の状態の者。

G：歯科医師による診断と治療が必要な歯周疾患の者。具体的には、歯石沈着を伴う歯肉炎の者や、歯周炎、歯肉肥大症（歯肉増殖症）が疑われ、精密検査と処置を必要とする者がこれに該当する。

#### (2) 事後措置

「1」（要観察）の者：直ちに処置勧告の対象とはしない。学校において保健指導（歯の清掃方法や生活指導等）を行い、定期健康診断後、適当な間隔（2、3カ月～6カ月）をおいて再審査する。歯肉の状態の改善が見られず、医療機関で処置を要すると判断されたならばその時点で処置を受けるように勧告する。

「2」（要精検）の者：歯科医療機関において歯周疾患の診断と治療が必要であるので、受診するよう処置勧告を行なう。

学校歯科医は歯垢付着状態や清掃ができるか否か等を勘案した最終判断で、歯肉の状態が「1」の者でも「G」にしたり、「2」の者でも「G O」と学校歯科医所見欄に記入してもよい。事後措置は学校歯科医の所見を尊重して行うように取り計らう。

### (7) 未処置う蝕のある歯の検査と事後措置

#### (1) 検査と健康診断票（歯・口腔）への記入

未処置歯として検出する歯は、探針を用いた触診で、エナメル質に軟化した物質欠損の認められる歯、あるいはう窓の認められる歯である。

う蝕の検査は視診と触診によって行なう。とくに初期う蝕を疑う部位の診査では、軟化した歯質を確認するために触診を併用する必要がある。

「歯式」の欄の該当歯には、乳歯、永久歯

とも「C」と記入する。

#### (2) 事後措置

歯科医療機関で処置を受けるように勧告する。

### (8) 要観察歯（C Oの歯）の検査と事後措置

#### (1) 検査と健康診断票（歯・口腔）への記入

要観察歯：探針を用いた触診でう歯とは判定できないが、初期病変の疑いのある歯である。小窓裂溝の着色や粘性が触知されるが、明らかな軟化底や軟化壁が確認できない歯。平滑面で脱灰を疑わせる白濁や褐色班が認められるが、エナメル質の軟化や実質欠損が確認できない歯が該当する。

「歯式」の欄や該当歯には「C O」と記入し、「学校歯科医所見」の欄にも「C O」と記入する。

#### (2) 事後措置

この歯は処置勧告の対象とはしない。う蝕への進展について1～2年間観察を続ける。定期健康診断後適当な間隔（2、3カ月～6カ月）をおいて再検査し、う蝕への進展がないかどうかを確認する。軟化歯質が認められ、処置を要すると判断されたらその時点で処置勧告を行なう。

### (9) その他の歯疾および異常の検査、健康診断票（歯・口腔）への記入と事後措置

歯や歯肉だけでなく、口唇、口角、舌、舌小帯、口蓋、口腔粘膜についても診査し、処置や精密検査を必要とする場合にはその他の歯疾及び異常の欄に病名又は異常名を記入する。

精密検査や処置が必要と認められる者であるので、その旨勧告する。

児童生徒健康診断票（歯・口腔）

氏名										性別		男	女	生年月日		年 月 日																					
年 齢 度 数 歳	年 齢 度 数 歳	歯 列 咬 合 の 状 態 態	歯 垢 肉 の 状 態 態	歯式										歯の状態				その他の 疾病 及び 異常	学校		事 後 措 置																
				• 現在歯 • う歯 • 菓失歯（永久歯） • 要注意乳歯 • 要観察歯										(例 A B)		乳歯			永久歯			学校															
				未処置歯		処置歯		C		○		現 在 歯 数		未 処 置 歯 数		現 在 歯 数			未 処 置 歯 数			歯科医															
				C		△		X		CO		E		D		C			B			A		B		C		D		E							
				E		D		C		B		A		A		B			C			D		E		上		左		月							
				上		右		下		右		E		D		C			B			A		A		B		C		D		E		下		日	
				8		7		6		5		4		3		2			1			1		2		3		4		5		6		7		8	
				8		7		6		5		4		3		2			1			1		2		3		4		5		6		7		8	
				8		7		6		5		4		3		2			1			1		2		3		4		5		6		7		8	
				8		7		6		5		4		3		2			1			1		2		3		4		5		6		7		8	

児童生徒健康診断票（歯・口腔）〔生徒学生健康診断票（歯・口腔）〕

（図は2学年分の記入欄を示してある。小中学校用は9年分の欄、高等学校用は5年分の欄がある。）

児童、生徒、学生および幼児の健康診断の方法及び技術的基準

（平成6年12月8日 文部省体育局長通達）

〈歯及び口腔の疾病及び異常〉

歯及び口腔の検査に当たっては、下記に留意して実施すること。

- (1) 口腔の検査に当たっては、顎、顔面の全体を診てから、口唇、口角、舌、舌小帯、口蓋、その他口腔粘膜等の異常についても注意すること。
- (2) 歯の検査は下記に留意して実施すること。
  - ア 歯の疾病及び異常の有無の検査は、処置及び指導を要する者の選定に重点を置くこと。
  - イ 咬合の状態、歯の沈着物、歯周疾患、過剰歯、エナメル質形成不全などの疾病及び異常については、特に処置または矯正を要する程度のものを具体的に所定欄に記入すること。
  - ウ 補綴を要する欠如歯、処置を要する不適当な義歯などのあるときは、その旨「学校歯科医所見」欄に記入すること。
  - エ はん状歯のある者が多数発見された場合には、その者の家庭における飲料水についても注意すること。
- (3) その他、顎顔全体のバランスを観察し、咬合の状態、開口障害、顎関節雑音、疼痛の有無、発音障害等についても注意すること。

## 児童生徒健康診断票（歯・口腔）記入上の注意

(平成6年12月8日 文部省体育局長通達)

各欄の記入については、次によること。

- 1 「歯列・咬合・顎関節」の欄 歯列の状態、咬合の状態、それに伴って生ずる顎関節の状態について、異常なし、定期的観察が必要、専門医（歯科医師）による診断が必要、の3区分について、それぞれ0、1、2で記入する。
- 2 「歯垢の状態」の欄 歯垢の付着状態について、ほとんど付着なし、若干の付着あり、相当の付着がある、の3区分について、それぞれ0、1、2で記入する。
- 3 「歯肉の状態」の欄 歯肉炎の発症は歯垢の付着とも関連深いものであるが、ここでは歯肉の炎症状態についてのみ診査して、異常なし、定期的観察が必要、専門医（歯科医師）により診断が必要、の3区分について、それぞれ0、1、2で記入する。
- 4 「歯式」の欄 次による。
  - イ 現在歯、う歯、喪失歯、要注意乳歯及び要観察歯は、記号を用いて、歯式の該当記号を附する。
    - 現在歯は、乳歯、永久歯とも該当歯を斜線又は連続線で消す。
    - ハ 喪失歯は、永久歯の喪失歯のみとする。
  - ニ 要注意乳歯は、保存の適否を慎重に考慮する必要があると認められる乳歯とする。
  - ホ う歯は、乳歯、永久歯とも処置歯（○）又は未処置歯（C）に区分する。
    - ヘ 処置歯（○）とは、充填（ゴム充填を除く）、補綴（金属冠、継続歯、架工義歯の支台等）によって歯の機能を営むことができると認められるものとする。ただし、う歯の治療中のもの及び処置がしてあるがう歯の再発等によって処置をするものは未処置とする。
  - ト 永久歯の未処置歯（C）は、ただちに処置を必要とするものとする。
  - チ 要観察歯（CO）とは、探針を用いての触診ではう歯とは判定しにくいが初期病変の疑いのあるもの。小窩列溝の着色や粘性が触知され、又は、平滑面における脱灰を疑わせる白濁や褐色斑が認められるが、エナメル質の軟化、実質欠損が確認できないものである。
- 5 「歯の状態」の欄 歯式の欄に記入された当該事項について上下左右の歯数を集計した数を該当欄に記入する。
- 6 「その他の疾病及び異常」の欄 病名及び異常名を記入する。
- 7 「学校歯科医」の欄 規則（註：学校保健法施行規則を指す。）第7条の規定によって、学校においてとるべき事後措置に関連して学校歯科医が必要と認める所見を記入し押印し、押印した月日を記入する。
 

要観察歯がある場合には、歯式欄に加えこの欄にも（CO）と記入する。また、歯垢と歯肉の状態を総合的に判断して、歯周疾患要観察者の場合は（GO）、歯科医による診断と治療が必要な場合は（G）と記入する。歯周疾患要観察者（GO）とは、歯肉に軽度の炎症症候が認められているが、歯石沈着は認められず、注意深いブラッシングを行うことによって炎症症候が消退するような歯肉の保有者をいう。
- 8 「事後措置」の欄 規則第7条の規定によって、学校においてとるべき事後措置を具体的に記入する。

## （10）補綴を要する欠如歯、不適当な義歯の検査、健康診断票（歯・口腔）への記入と事後措置

補綴を要する者については「学校歯科医所見」の欄にその旨記入する。

補綴を要する者の事後措置としては、歯科医療機関で相談するよう指導する。

## （11）保健調査の活用

歯口腔の健康診断を行なうに先立って、児童生徒の発音・発達段階に即した質問による保健調査を行い、その結果を踏まえて視診触診による診査を行なうと、より適切な健康診断を行うことができ、その後の保健指導にも役立てることができる。保健調査は学校保健法施行規則第5条の10に示すように「学校歯科医による診断の前に実施することになっているので、質問の内容においては、事前に学校歯科医、保健主事、養護教諭等がよく相談してから実施するとよい。

## （12）定期健康診断後の再検査（臨時健康診断）について

定期健康診断は毎学年6月30日までに行なうように定められており、夏季休業日の直後に処置勧告をした者の状況や新たな歯の発生、う蝕の進行状態等について再診査することは保健管理のうえで意義が深い。この再診査は法令に定められたものではないが、これを実施することによって処置を受けねばならない者が放置している場合には早期にその事態を把握することができ、処置率の向上、ひいては歯科疾患の進行の防止に結びつく。また、臨時の健康診断は必ずしも全員の検査を行う必要はない。

## （13）健康相談について

健康相談は健康診断の結果、必要な治療や予防処置、保健上問題ある事項に関して、学校歯科医、学校医、教職員、保護者、児童生徒（幼児）の将来を考えて最善の策を講ずることである。

# 平成 7 年度



## むし歯予防推進 指定校協議会



平成 7 年 10・31 (火)

## 開催要項

### ① 趣 旨

むし歯予防推進指定校の運営について研究協議を行い、研究・実践活動の充実を図る。

### ② 主 催

文部省、群馬県教育委員会、日本学校歯科医会、群馬県歯科医師会、群馬県学校歯科医会、群馬県学校保健会、藤岡市教育委員会、藤岡多野歯科医師会

### ③ 期 日

平成7年10月31日（火）

### ④ 会 場

藤岡市立藤岡第一小学校（午前） 〒375 藤岡市藤岡1848-2

群馬県みかぼみらい館（午後） 〒375 藤岡市藤岡2728

### ⑤ 対 象

(1) 平成7・8年度むし歯予防推進指定校の研究担当者、学校歯科医及び都道府県・市町村教育委員会の担当者

(2) 上記以外の学校歯科保健担当者

### ⑥ 日程及び内容

9:00 受付	9:30 オリエンテーション	10:00 ～9:55	10:45 ～10:30	休 （児童会活動）	11:30 ～11:30	13:00 ～13:00	13:30 ～13:30	15:20 ～15:10	15:40 ～15:40	16:00
	公開授業Ⅰ （児童会活動）	休 （12学級）	移 動 昼食休憩	開会式	実践発表	休 （12学級）	研究協議	指導助言	閉会	

#### (1) 公開授業 藤岡市立藤岡第一小学校

①オリエンテーション

塚本章三校長 山田雅美研修主任

②公開授業Ⅰ（児童会活動）

小林幸子養護教諭 木村保美教諭

③公開授業Ⅱ（学級活動）

12学級

#### (2) 実践発表・研究協議 発 表 平成7・8年度むし歯予防推進指定校（5校）

福島県田島町立荒海小学校

千葉県成田市立本城小学校

滋賀県びわ町立びわ北小学校

愛媛県城川町立魚成小学校

宮城県都農町立都農小学校

座 長 群馬県小学校長会会長

関口 宗男

指導助言 文部省体育局学校健康教育課教科調査官 戸田 芳雄

日本学校歯科医会会长

西連寺愛憲

## 日程・内容

<b>●オリエンテーション</b>		
1. 学校長あいさつ		塚本 章三
2. 平成5・6年度研究の概要について		山田 雅美
<b>●公開授業1</b>		
児童会活動「むし歯予防の取り組みと保健委員の活動」		小林 幸子
		木村 保美
<b>●公開授業2</b>		
学級活動(12学級)		
昼食・休憩		
移動		
<b>●開会行事</b>		
1. 開会のことば	藤岡多野歯科医師会会長	飯島 弘
2. あいさつ	文部省体育局学校健康教育課課長 群馬県教育委員会教育長 日本学校歯科医会会長 群馬県歯科医師会会長	北見 耕一 唐澤 太市 西連寺 愛憲 今成 虎夫
3. 歓迎のことば	藤岡市教育委員会教育長	岡田 要
4. 来賓紹介	次期開催地等	
5. 閉会のことば	藤岡多野歯科医師会副会長	守谷 正
<b>●実践報告・研究協議</b>		
(1) 実践発表 平成7・8年度むし歯予防推進指定校		
福島県田島町立荒海小学校	愛媛県城川町立魚成小学校	
千葉県成田市立本城小学校	宮城県都農町立都農小学校	
滋賀県びわ町立びわ北小学校		
(2) 研究協議		
座長	群馬県小学校長会会長	関口宗男
(3) 指導助言		
指導助言者	文部省体育局学校健康教育課教科調査官 日本学校歯科医会会長	戸田芳雄 西連寺愛憲
閉会		

研

究

報

告

研 究 主 題

自分の体を知りすすんで  
健康づくりに取り組む  
子どもの育成

●報 告

藤岡市立藤岡第一小学校



## あいさつ

藤岡市立藤岡第一小学校

校長 塚 本 章 三

本校は、平成5年度・6年度、文部省からむし歯予防推進指定校の指定を受け、「自分の体を知り、すすんで健康づくりに取り組む子どもの育成——むし歯・歯肉炎予防の取り組みを通して——」の研究主題のもとに研究を推進し、去る平成6年11月に研究発表を行いました。その後、さらに県教育委員会の依頼を受け、本研究を継続的に行い実践を積み重ねて、今日に至っております。

これから社会は、ますます高齢化が進むことが予測され、子どもたちに生涯を通して健康で安全な生活を送るための基礎を培うことは、きわめて重要なことと考えております。本校の研究も、ただ単に「むし歯をなくす」ことのみにとどまらず、自分の「健康に留意する態度を養う」ことを通して、「望ましい基本的な生活習慣を育成すること」を目指しながら実践を進めてきました。

ご家庭・地域の方々や関係機関との連携を図り、ご協力をいただきながら、全教職員が一丸となって研究を進めてきております。日々の子どもたちの姿から、少しずつではありますが、実践推進の成果が定着しつつあることが感じられます。

最後になりましたが本研究を進める中で、いつも適切なご指導をいただきました群馬県教育委員会、西部教育事務所、藤岡市教育委員会の先生方、並びに県・市の歯科医師会・学校歯科医会、歯科衛生士会の皆様をはじめとする多くの方々に深く感謝申し上げて、ごあいさつといたします。

## はじめに

藤岡市立藤岡第一小学校

前校長 五十嵐 甫

人間が自分以外のたくさんの他人とかかわりあって社会生活を営んでいくためには、「人として、しなくてはならないこと」と「人として、してはならないこと」が正しく理解でき、しかもきちんと実践できることが絶対に必要であり、児童をそのように導いていくのは、地域と家庭と私たち教師のつとめであります。

学校において児童を導くということは、心がけや知識や技能や習慣を正しく身につけさせるということであり、これはいたずらに目先を変えたり、小手先で処理しようしたり、いわゆる指示を何度も繰り返したりしても効果のあがるものでは決してありません。確かな理念と優れた技術に裏付けられた教師のたゆまぬ指導によってはじめて能力として“定着する”ものであると思います。

平成5年5月、文部省から「むし歯予防推進」の指定を受けて開始した本校の研究は、ただ単に“むし歯をなくす”ことにのみとどまらず、自らの“健康に留意する心がけと態度を養う”ことを通して、他の“基本的な生活習慣の育成”にまで発展することを目指しながら実践が進められてきました。

児童たちの日常の姿を見ていると、実践推進の成果がまちがいなく、“定着しつつ”あることが感じられます。これは児童の学力を向上させるために日々研修に励んでいる本校職員の指導の結晶にほかなりません。そして、その姿は、当然のこととはいながらとても嬉しいことであり、それが現在の藤岡第一小学校を支えているのであります。

最後になりましたが、本研究をすすめるなかで、いつも適切に御指導くださった群馬県教育委員会、西部教育事務所、藤岡市教育委員会の先生、並びに県・市の歯科医師会、歯科衛生士会の皆様をはじめとする多くの方々に深く感謝申し上げて、はじめの言葉といたします。



## 1. 研究主題

自分の体を知り、すすんで健康づくりに  
取り組む子どもの育成  
—むし歯・歯肉炎の予防の  
取り組みを通して—

## 2. 主題設定の理由

### 1 本校の児童、保護者の実態から

本校の児童は、明るく活動的で、ものごとを素直にとらえるよい特性をもっている。また、決まったことや指示されたことを真面目に実行でき、学級や学校の集団生活を伸び伸びと営んでいる。しかし、学習や諸活動を粘り強く最後までやり遂げようとする態度や、自分の生活を改善しようとするすんで取り組む姿勢に弱さがみられる。

本校の健康上の問題としては、むし歯、視力低下、肥満増加等があげられる。なかでも、むし歯罹患者率は、他の疾病に比べて高い数字を示している。この原因としては、生活様式、食生活が豊かになり多様化している反面、むし歯を病気としてとらえていないいた

め、歯や口の健康に関する意識が低く、むし歯予防を重要視していなかったことに起因しているものと考える。さらに、歯みがきの仕方が十分身に付いていないことや、バランスを崩した食生活で、翌年、再びむし歯になってしまうという悪循環をくり返す児童のいることも一因となっている。

保護者の学校教育に対する期待は大きく、教育活動に対して非常に協力的である。昨年からの啓発活動により、むし歯予防に関する取り組みに関心をしめる家庭が増えつつある。しかし、具体的な手だてや取り組みが見いだせない家庭や、継続の難しい家庭もあり、児童のむし歯予防や食生活改善の定着化は十分とはいえない。

### 2 社会的な要請から

WHOは、21世紀までに12歳児のむし歯を三歯以下にしようと呼びかけている。日本歯科医師会でも「8020運動」がすすめられている。このように、むし歯予防は本校だけの問題ではなく全国的、全世界的な問題である。平成4年度より完全実施された学習指導要領では、児童一人一人が、21世紀に主体的に生きるための資質や能力の育成を目指している。なかでも生涯を通して、健康で安全な

生活をおくるための基礎を培うことは、小学校教育の重要な課題である。

### ③ 教育目標の具現化から

本校では、新しい時代に対応する人間性豊かな児童の育成をめざし、ひろい心、すこやかな身体、正しい判断力と調和のとれた能力や意志・態度の伸長を図っている。そのため教育目標に

- ① 豊かな特性を育む
- ② たくましい気力、体力を練る
- ③ 高い知性を磨く

の三つを掲げ、教育活動を進めている。本研究をすすめるにあたり、家庭と連携を図りながら、むし歯・歯肉炎予防を通して、健康の保持増進に関する知識だけでなく、児童が自分の健康状態に関心をもち、すんで病気の予防や健康な生活実践ができるよう計画的、組織的、継続的な指導を行い、教育目標の具現化を図っている。

### ④ 本主題の考え方

本主題の「自分の体を知る」ということは、歯のつくりや働き、間食のとり方、むし歯・歯肉炎の恐ろしさ等を、学習を通して科学的に理解し、むし歯予防の大切さ、早期発見、早期治療の必要性に気づくことである。

また、「すんで健康づくりに取り組む子ども」とは、自分自身の健康づくりの課題解決のため、

- ① 自分の歯の様子がわかる
- ② 自分から歯をきれいにみがける
- ③ 健康を考えた食生活ができる

の三点から自分なりのめあてをもって取り組み、生涯に通じる健康の基礎づくりを自らの判断と意志決定により行動できる力を身に付けた子どもと捉えた。

以上のことから、本主題を設定した。

## 3. 研究のねらい

児童一人一人が自分の体を知り、すんで健康づくりに取り組めるようにするにはどうすればよいか。学級活動の授業、日常の歯みがき指導、保護者との連携を通して実践的に明らかにする。

## 4. 研究の仮説および研究内容、検証計画

### 仮説1

学級活動の授業で、むし歯・歯肉炎予防に関する自分の課題をすんで解決できるような学習過程を工夫するとともに、教師の支援を大事にしながら計画的に指導すれば、日常生活における健康づくりに対する実践意欲が高まるであろう。

### ▶ 内容

#### ① 学校保健年間計画の見なおし

学校保健目標、月別生活目標、学校行事、健康管理、学級活動、教科（保健体育、社会、理科、生活、家庭）道徳、個別指導、児童活動、PTA保健活動、学校保健委員会などを見なおし、各活動が有機的に関連した活動となるようにする。

#### ② 学級活動年間計画の見なおし

学校保健年間計画等を考慮しながら、新しい学年で再度学級活動年間計画を見なおしていく。

#### ③ 指導案の形式、指導過程の工夫

- ・1単位時間のなかで児童の興味・関心を高めていく
- ・児童の活動を中心とした学習を展開する
- ・「新しい学力観」に立った支援をおこなっていく
- ・実践意欲を高める評価をしていく
- ・事前、事後指導を効果的におこなっていく

## ▶検 証

目 標	検証資料	収集場面	処 理
実践意欲が高まったかを調べる。	評価カード 事前・事後 ワークシート 観察 個別面談	授業 給食後の歯 みがき 面談	検証資料の 分析考察

## 仮説 2

日常の歯みがき指導で、むし歯・歯肉炎予防に関する自分の課題にすすんで取り組める方法を工夫するとともに、児童会活動との連携を図りながら組織的に指導すれば、日常生活における健康づくりへの実践態度が身に付くであろう。

## ▶内 容

- 1児童活動を中心とした計画と指導
  - ・むし歯予防ポスター作成・掲示
  - ・むし歯予防 標語 作成・掲示
  - ・むし歯予防カルタ、むし歯予防カレンダー等
  - ・歯みがき集会等の集会活動
- 2歯みがきカレンダー作成・分析、まとめ
  - ・児童保健委員会作成
  - ・各学年印刷
- 3カラーテスト計画・分析、まとめ
- 4給食後の「歯みがきタイム」の指導
  - ・高学年、低学年用のブラッシングビデオの作成
  - ・ビデオの使い方統一
- 5児童保健新聞の発行

## ▶検 証

目 標	検証資料	収集場面	処 理
態度や習慣が身についたかを調べる。	・歯みがきカレンダー集計 ・カラーテスト ・歯みがき集会	・毎月の歯みがき状況 ・6月、11月、3月の判定状況 ・児童活動状況	・分析・考察 ・集計の分析・考察 ・意識・意欲の分析

## 仮説 3

保護者との密接な連携で、むし歯・歯肉炎予防に関する家庭生活における習慣形成を目指すとともに、児童をとりまく校内の保健環境を整備・活用しながら継続的に指導すれば、日常生活における健康づくりへの定着が図れるであろう。

## ▶内 容

- 1児童・保護者の実態調査、分析のまとめ
  - ・昨年度実施した実態調査と同じもので、児童・保護者の意識、取り組みの変容を見る。
- 第1回 6月4日 第2回 11月8日
- 2歯の資料展示室の準備、廊下等の掲示物・資料の作成、展示、保管
  - ・資料展示室……各学年で整備
  - ・廊下等への掲示物……「歯のものしり博士になろう」コーナーを学年掲示板につくり、年間計画に沿った関連内容を掲示
- 3『ピカピカくんだより』の発行
  - ・保護者の意見を反映させた啓発だよりづくり（月2回）
- 4学校保健委員会、講演会、その他PTA保健・社教委員会行事への協力

### ►検 証

目 標	検証資料	収集場面	処 理
関心・意欲が高まり、むし歯・歯肉炎予防の定着化が図れたかを調べる	・むし歯治療勧告 ・意識調査 ・啓発資料 (ピカピカくん だより)	・回収時集計 ・実施の前後 (6月, 11月) ・月2回 アンケート回収	・回収率数量化 ・アンケート集計 の分析, 考察 ・保護者の意識 意見の回収 分析, 考察

## 5. 研究組織

図1のとおり。

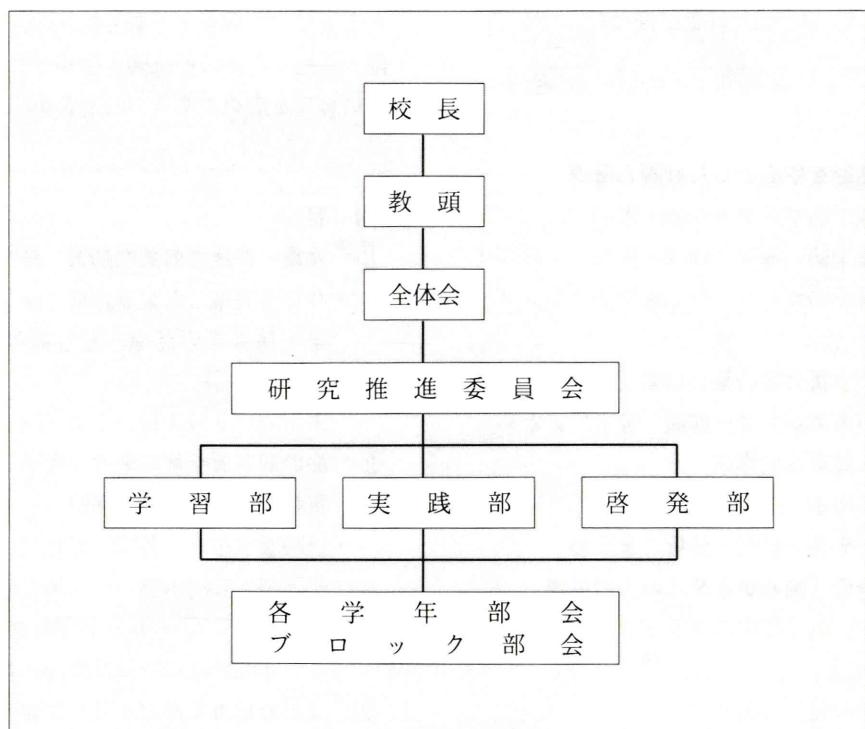


図1 研究組織

## 6. 研究の全体構想

表1 全体構想



表1のとおり。

## 7. 研究経過（2年次）

表2のとおり。

表2 研究経過

月	研修推進	学習部	実践部	啓発部	学年・ブロック
4	研究主題、全体構想、組織再編成、研修計画立案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間活動計画立案</li> <li>・指導案形式提案</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ものしり博士コーナー 資料展示（4・5月分）</li> <li>・ピカピカくんだより 第1号</li> <li>・ピカピカくんだより 第2号</li> </ul>	・給食後の歯みがき指導
5	計画訪問準備 年度始訪問 研究紀要構想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯の保健指導要素表</li> <li>・歯の保健指導系統図</li> <li>・歯の保健指導学年指導計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯みがきカレンダー 5月号</li> <li>・むし歯予防ポスター</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ものしり博士コーナー 資料展示（6・7月分）</li> <li>・児童・保護者実態調査集計、分析</li> <li>・P T A講演会協力</li> <li>・ピカピカくんだより 第3・4号</li> </ul>	・よい歯の図面・ポスター作成 ・計画訪問準備 指導案検討 教材教具準備  計画訪問
6	計画訪問  研究紀要 執筆分担 要請訪問準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健年間計画</li> <li>・学級活動年間指導計画</li> <li>・学習指導検討</li> <li>・歯の保健指導活動内容一覧表</li> <li>・歯の保健指導における支援のあり方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯みがきカレンダー 6月号</li> <li>・カラーテスト</li> <li>・むし歯予防標語募集 掲示発表、表彰</li> </ul>		・歯科衛生士による歯の みがき方講習 対象1、3年生 保護者
7	研究紀要 原稿づくり  要請訪問	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年別評価の観点一覧表</li> <li>・学習指導検討</li> <li>・学年別用語配当表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯みがきカレンダー 7月号</li> <li>・歯みがきカレンダー 8月号</li> <li>・洗口場、保健室の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピカピカくんだより 第5号</li> <li>・ピカピカくんだより 第6号</li> <li>・学校保健委員会への協力</li> </ul>	・要請訪問準備  要請訪問
8	研究紀要 内容検討 原稿締切	・指導略案	・「歯みがきタイム」ビデオ作成		・研究紀要作成
9	研究発表会 名簿作成発送	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材研究</li> <li>・授業研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯みがきカレンダー 9月号</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ものしり博士コーナー 資料展示（9・10月分）</li> <li>・ピカピカくんだより 第7号</li> </ul>	・歯科衛生士による歯の みがき方講習会対象 2、6年生
10	研究紀要完成 配布資料完成 環境整備開始	・指導案修正	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯みがきカレンダー 10月号</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピカピカくんだより 第8号</li> <li>・ピカピカくんだより 第9号</li> <li>・ピカピカくんだより 第10号</li> </ul>	・研究発表会準備 指導案作成 教材教具作成 教室環境整備
11	会場準備  研究 発表 大 会	・研究発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯みがきカレンダー 11月号</li> <li>・カラーテスト</li> <li>・歯みがきカレンダー 12月号</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ものしり博士コーナー 資料展示（11・12月分）</li> <li>・児童・保護者実態調査集計・分析</li> <li>・ピカピカくんだより 第11・12号</li> </ul>	公開研究授業
12	研究のまとめ 来年度の研究の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究のまとめと反省</li> <li>・次年度の取り組み</li> <li>・2年間の研究のまとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯みがきカレンダー 1月号</li> <li>・歯みがきカレンダー 2月号</li> <li>・歯みがきカレンダー 3月号 まとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健委員会への協力</li> <li>・ものしり博士コーナー 資料展示（1・2・3月分）</li> <li>・研究のまとめ</li> <li>・資料展示室整理</li> </ul>	学年のまとめと反省

## II

## 研究部会の 取り組み

### 1. 学習部

#### ◇ 本年度の取り組み

昨年一年間の取り組みの結果、一貫した歯の保健指導ができるようになったが、次のような課題が残された。

- ① 歯の保健指導と教科、道徳、特別活動との関連を図れるようにする必要がある。
- ② 児童の活動を中心とした学習指導の工夫  
・改善やチームティーチング・合同学習を取り入れた指導体制の工夫・改善をしていく必要がある。
- ③ 授業で身に付いた意欲や技能、知識をどのように評価して、自己実現を支援する評価にしていくかを明らかにする必要がある。

これらの課題を解決するためには、より児童の学習活動に密着した研究を進める必要があると考え、名称を「計画指導部会」から「学習部」と変え、次のような仮説を立てた。

#### 仮説 1

学級活動の授業で、むし歯・歯肉炎予防に関する自分の課題を進んで解決できるような学習過程を工夫するとともに、教師の支援を大切にしながら計画的に指導すれば、日常生活における健康づくりに対する実践意欲が高まるであろう。

上記の仮説に基づいて、学習部では本年度次のような取り組みをしてきた。

#### ① 学校保健年間計画の改善

学校保健目標を「自ら心と体の健康づくりにがんばる子」と定め、歯の保健指導と月別生活目標、学校行事、学級活動、各教科、道徳、PTA保健活動との関連が図られるようにし、歯の保健指導がより効果的に行われるようにした。

#### ② 学級活動年間計画の改善

昨年一年間の実践を通じて、他教科や道徳との関連がうまく図られていない部分や歯の保健指導の順番が適切でないものがあった。そこで、他教科や道徳との関連を図りながら歯の保健指導の順番を入れ替えた。

#### ③ 歯の保健指導要素表の改善

昨年度は、ちりょう学級が歯の保健指導要素表に位置付けられていなかった。そこで、本年度はちりょう学級の歯の保健指導も考慮し、歯の保健指導要素表に位置付けた。

#### ④ 歯の保健指導年間計画一覧表の改善

歯の保健指導要素表と同様にちりょう学級の位置付けが普通学級との違いからなされていなかった。そこで、歯の保健指導年間計画一覧表に位置付けをし、一年間計画的に取り組んでみることにした。

#### ⑤ 歯の保健指導系統図の見直し

歯の保健指導年間計画の見直しに伴い、歯の保健指導系統図も見直しをした。

#### ⑥ 歯の保健指導学年指導計画の改善

昨年一年間の実践をふまえ、各学年の指導内容や学年間の指導内容を検討し、改善を図った。さらに、ちりょう学級の指導計画を作成した。

#### ⑦ 歯の保健指導活動内容一覧表の作成

歯の保健指導の要素ごとの指導内容をさらに具体的に検討し、活動内容まで明らかにした。各学年でどこまで学習してきているのかを明らかにすることにより、指導の重複や欠落がないようにした。

#### ⑧ 歯の保健指導における支援のあり方の作成

歯の保健指導において「自ら学ぶ意欲」、「学び方」、「基礎的・基本的な内容」を身に付けさせるためには教師はどのように支援していくべきかを授業研究会を通して明らかにしてきた。

#### ⑨ 指導案形式の検討

授業に向けての意欲を高め、効率的に授業が行えるようにしたり、授業後の実践意欲を継続させ実践力の定着を図ったりするため、事前・事後の学習と本時の展開とが密接に関連をもって指導ができるような指

導案とした。

#### ⑩ 学年別評価の観点一覧表の作成

各学年の学習活動の内容ごとに四観点（関心・意欲・態度、思考・判断、表現・技能、知識・理解）で評価できるようにした。これにより、児童一人一人をより正確に理解することができ、個を大切にした指導ができるようにした。さらに、次の学年に申し送りをすることにより継続した指導ができるようにした。

#### ⑪ 学年別用語配当表の作成

歯の保健指導では日常あまり使用しない特別な用語があるため、用語の解説と取り扱う学年の一覧表を作成した。

#### ⑫ 指導略案の作成

歯の保健指導年間計画に基づき、すべての授業の指導略案を作成した。作成にあたっては、「新しい学力観に立つ教育」、「子どものよさや可能性を生かす教育」となるよう配慮した。

### ② まとめと今後の課題

昨年度一年間の実践をふまえ、学年会や実践部、啓発部と連携を図りながら上記のような取り組みを行ってきた。その中で得られた成果と課題は次の通りである。

#### ① まとめ

##### ① 指導計画の作成を通しての成果

- ・歯の保健指導と各教科、道徳、特別活動等との関連が図られ、「自分の体を知り、すすんで健康づくりに取り組む子ども」の育成が効果的に行われるようになった。

歯の保健指導だけの取り組みではなく、各教科、道徳、児童会活動などと有機的に関連づけて取り組めるようになった。そのため児童の健康に対する関心が高まり、むし歯予防だけでなく、ハンカチや爪など身の回りの衛生についても注

意を払える児童が増えてきた。

- ・歯の保健指導年間計画や歯の保健指導学年指導計画の見直しにより無理なく指導が行えるようになった。

児童の発達段階より指導内容が難しそうなものや指導内容が多すぎて指導しきれない面があったが、歯の保健指導年間計画や歯の保健指導学年計画の見直しにより無理なく指導が行えるようになってきた。

- ・指導内容に重複や欠落がなくなった。

各学年での指導内容が具体的に検討され、活動内容が明らかになったため指導に重複や欠落がなくなった。

- ・ちりょう学級の取り組みが計画的に行えるようになってきた。

ちりょう学級の活動内容を明らかにすることにより、より計画的に指導が行えるようになってきた。

#### ① 学習過程の工夫を通しての成果

- ・児童主体の授業が展開されるようになり、児童が生き生きしてきた。

自ら学ぶ意欲と学び方、基礎的・基本的な内容を身に付けさせるために、児童一人一人の主体的な活動にどのように支

援していったらよいかが明らかになってきたため、授業のなかで児童が生き生きと活動する姿が多くなってきた。特に資料や用具の工夫により授業に関心をもって取り組んだり、活動に対する賞賛や励まし、共感により嬉々として活動する児童が多くなってきた。

#### ② 今後の課題

二年間の研究を通して得られた成果を今後いかに継承、発展させていくかがこれから大きな課題となっている。そのためには次のような取り組みが必要であると考えられる。

- ・主体的な学習の場の設定や体験的な活動
- ・問題解決的な学習の導入を進めるなど、学習指導の工夫・改善をさらに進めが必要がある。
- ・グループ学習、個別学習などの学習形態やチームティーチング、合同授業などの指導体制の工夫を図るなどして、個に応じた指導を進める必要がある。
- ・評価の方法をさらに具体化させ、自己実現を支援する評価にしていく必要がある。

表1 歯の保健指導要素表

平成6年度

要素	指導内容	ちりょう	1年	2年	3年	4年	5年	6年
自分の口の健康状態	自分の口の中のようす	・	・	・	○	○	○	○
	歯垢染め出しテスト	◎	○	○	○	○	◎	◎
	歯科検診の大切さ	・	・	・	・	・	・	・
歯のつくりとはたらき	歯の種類とはたらき	◎	○	◎	○	・	・	・
	乳歯と永久歯	・	・	○	◎	・		
	6歳臼歯、12歳臼歯		◎	○			○	◎
	歯の3つの役割				・	◎	○	
歯や口の中の病気	むし歯の原因(4要素)と予防		○	○	○	◎	○	
	むし歯の進行と症状	・	・	・	○	○	◎	・
	むし歯の早期治療の大切さ	・	・	・	・	・	・	・
	口の中の病気						○	○
歯のみがき方	歯ブラシの選び方・保管の仕方	○	○	・	・	・		
	歯みがきの仕方	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	ブクブクうがいの仕方	○	・	・				
望ましい食生活	むし歯とおやつ	◎	◎	・	◎	○	◎	・
	かむことと歯の発達	・				・	◎	○
	歯によい食べ物	・	・	◎	○	◎		
	栄養のバランス						○	◎

◎は重点的に、○は普通に、・隨時に扱う。

表2 「歯の保健指導」年間計画一覧表

	4・5月	6・7月	9・10月	11・12月	1・2・3月
ちりょうう学級 一年	◎じょううな歯のみがき方 ・歯垢染め出しテスト ・歯ブラシの持ち方と動かし方 ・歯みがきの順序 ・よい歯ブラシと悪い歯ブラシ	◎汚れが残りやすい所のみがき方 ・歯垢染め出しテスト ・歯と歯の間、臼歯の溝、歯と歯肉の境目、切歯の裏側などのみがき方	◎いろいろな歯の種類と働き ・乳歯と永久歯 ・切歯、犬歯、臼歯の形と働き ・形に応じたいねいなみがき方	◎ブクブクうがい ・ブクブクうがいの上 ・手な仕方 ・ブクブクうがいと歯みがき	◎おやつの取り方 ・おやつ歯になりやすい ・おやつ ・おやつの時間と回数 ・おやつ後の歯みがき
二年	○歯の汚れとむし歯 ・ブラークとむし歯 ・歯みがきの大切さ ・自分の口の中を見る	○歯ブラシの選び方・使い方と歯のみがき方 ・歯垢染め出しテスト ・よい歯ブラシと悪い歯ブラシ ・歯ブラシの持ち方と動かし方 (コチョコチョみがき)	○いろいろな歯の形 ・切歯、犬歯、臼歯、白歯の形 ・生える位置	○6歳臼歯(第一大臼歯)の大切さ ・6歳臼歯の特徴 ・6歳臼歯の生える位置 ・6歳臼歯のみがき方 (つっこみがき)	○むし歯とおやつ ・むし歯になりやすいおやつ ・すぐみがくことの大切さ
三年	○子どもの歯とおとなの歯 ・自分のむし歯の確認 ・乳歯と永久歯 ・6歳臼歯(第一大臼歯)	○歯ブラシのあて方と動かし方 ・歯垢染め出しテスト ・磨き方-圧力、角度、動かし方	○むし歯のでき方 ・ブラークとむし歯の関係 ・いねいにみがくことの大切さ	○歯の形とはたらき ・歯によい食べ物 ・好き嫌いしないことの大切さ ・よくかむことの大切さ	○じょううずなおやつのとり方 ・歯によいおやつ ・おやつの時間と回数 ・おやつの後の歯みがき
四年	○自分の歯のようす ・ぬけている歯 ・自分のむし歯の位置と数 ・これから生える歯	○生えかわる時の歯のみがき方 ・歯垢染め出しテスト ・生えかわる歯のみがきにくいわけ ・ぬけている歯の横や生えかわる歯のみがき方(形に応じたみがき方)	○永久歯は今は ・歯の生えかわるしくみ、時期、順序 ・永久歯の大切さ	○むし歯のできるわけ ・食べ物の糖分への変化 ・ミュータンスが出す酸の働き ・むし歯の4要素(糖質・歯質・細菌・時間)	○歯垢染め出しテスト ・歯と歯の間、臼歯のみみぞ、歯と歯の境目、切歯の裏側などみがき方
五年	○自分の口の中のようす ・自分の口の中の観察 ・自分のむし歯の位置と数 ・歯列図へのむし歯の記入	○「むし歯の進行と症状」 ・むし歯の進み方と症状 (C <sub>1</sub> ～C <sub>2</sub> ) ・早期治療の大切さ	○「歯の3つの役割」 ・歯の発達とそしゃく ・歯と発音 ・歯ならびと容姿	○汚れが残りやすい所のみがき方 ・歯垢染め出しテスト ・歯と歯の間、臼歯のみみぞ、歯と歯の境目、切歯の裏側などみがき方	○歯と毎日の食事 ・カルシウムを含む食べ物 ・歯によい食事の仕方
六年	○自分の歯や歯肉のようす ・自分の歯の進行状況(歯列図) ・自分の歯内の状態 ・12歳臼歯(第二大臼歯)	○歯ならびに合わせたみがき方 ・歯垢染め出しテスト ・自分の歯の形や歯並びに合わせたみがき方の工夫	○歯肉の病気とその予防 ・歯肉炎の原因と症状 ・正しい歯のみがき方	○おやつと砂糖 ・むし歯とおやつ ・おやつや飲み物に含まれる砂糖 ・栄養のバランス	○そしゃくの大切さ ・そしゃくと消化促進 ・むし歯や抜けた歯とかむ力の関係
	○自分の歯や口の中のようす ・むし歯の位置と数、程度(歯列図) ・歯肉の状態 ・歯列のようす	○歯肉の病気を予防するみがき方 ・歯垢染め出しテスト ・ブラークと歯肉炎 ・正しい歯みがきと歯肉炎予防 ・歯周病の進行、症状と予防	○かむこと歯の発達 ・そしゃくとあごの発達 ・歯の発達と発音 ・歯の発達と容姿	○12歳臼歯(第二大臼歯)の大切さ ・12歳臼歯の位置、生え方 ・12歳臼歯の特徴とみがき方	○よい歯のための食事 ・6つの基礎食群とバランスのよい食事 ・歯の健康を考えた食生活の改善

表3 歯の保健指導 活動内容一覧表

平成6年度

要素	自分の口のなかの健康状態						重点活動学年		
	(1) 自分の口のなかのようす	(2) 染め出しテスト	治療	1年	2年	3年	4年	5年	6年
指導内容	(3) 歯科検診の大切さ			○ ○					
具体的な活動内容	前歯と奥歯の区別を付ける。		◎ ○	○ ○					
	自分の口のなかのようすを観察し、歯列図と照らし合わせる。		◎ ○	○ ○					
	乳歯、永久歯の数を知る。		◎ ○	○ ○					
	生えかけの歯、引っ込んでいる歯、むし歯を知る。		○ ○						
	自分の歯を観察し、歯のつくりと特徴を知る。		◎ ○						
	むし歯と治療済みの歯を歯列図に記入する。		○ ○						
	自分の口のなかと健康な歯、歯肉とを比較し観察する。		○ ○						
	6歳臼歯にむし歯が多いことを知る。		◎ ○	○ ○					
	12歳臼歯が生えはじめていることを知る。		○ ○	○ ○					
	健康な歯肉と歯肉炎の歯肉を見分ける。		○ ○	○ ○					
	歯垢染め出しテストの意味やその方法について知る。		◎ ○	○ ○					
	歯垢染め出しテストを実施する。		○ ○	○ ○					
	みがき残しの多いところ(生えはじめの歯や抜けている歯の隣、前歯の裏側、歯と歯の間、歯と歯肉の境目)を知る。		○ ○	○ ○	○ ○				
	歯ブラシを当てる強さ、角度、動かし方に気を付け、みがき残しをなくすようにみがく。		○ ○	○ ○	○ ○				
	むし歯は病気であること、治療をしなければ治らないことを知る。		○ ○	○ ○	○ ○				
	C1は簡単に治療できることがわかる。		○ ○	○ ○	○ ○				
	乳歯のむし歯が永久歯にも影響することを知る。		○ ○	○ ○	○ ○				
	早期治療の大切さに気づく。		○ ○	○ ○	○ ○				
	歯の検査表の見方を知る。		○ ○	○ ○	○ ○				

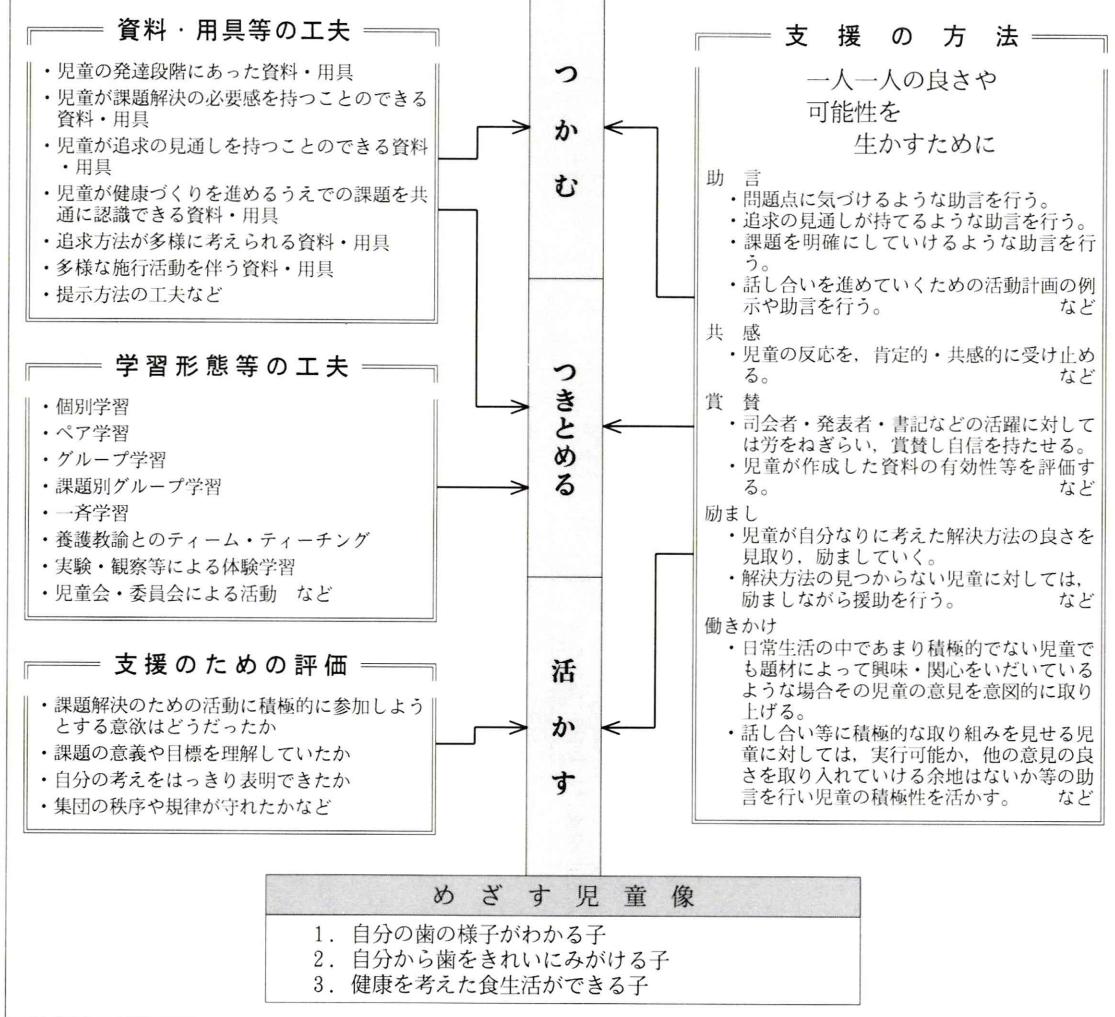
表 4 歯の保健指導 活動内容一覧表

平成 6 年度

要素	歯のつくりとはたらき	重点活動学年					
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
指導 内容	(1) 歯の種類とはたらき (3) 6 歳臼歯、12 歳臼歯	(2) 乳歯と永久歯 (4) 歯の 3 つの役割	治療	1 年	2 年	3 年	4 年
具 体 的 な 活 動 内 容	切歯、犬歯、臼歯の形・生えている位置がわかる。 切歯、犬歯、臼歯の役割を知る。 歯には乳歯と永久歯のあることを知り、大切にしようとする気持ちを持つ。 永久歯はもう生え変わらないことを知り、大切にしようとする気持ちを持つ。 生えかげの歯はむし歯になりやすいことを知る。 歯の生えかわる仕組みを知り、自分たちの歯が交換期であることに気づく。 乳歯と永久歯のつくりのちがいを知る。 6 歳臼歯の位置や形、生え方を知る。 6 歳臼歯の役割について考え、その大きさに気づく。 6 歳臼歯のみがき方（つっこみみがき）を工夫する。 6 歳臼歯がむし歯になりやすいことに気づく。 12 歳臼歯の位置や形、生え方を知る。 12 歳臼歯の役割について考え、その大きさに気づく。 12 歳臼歯のみがき方について考える。 12 歳臼歯がむし歯になりやすいことに気づく。 12 歳臼歯の 3 つの役割（咀嚼、発音、容姿）について知る。	◎	◎	◎	◎	◎	◎

表5 歯の保健指導における支援のあり方

実 態 及 び ね が い					
1年	1. 歯の生えかわりについての関心を生かし、口の中全体の観察への意欲へとつなげたい。 2. 技術的に未熟な面があるので、みがき残しの多い部分に焦点を当て、みがく技術を高めたい。 3. おやつに対する関心が高いので、歯の健康を考えたおやつのとり方を考えさせたい。	4年	1. 歯が生えかわった時や、むし歯になった時以外も自分の歯の様子に気を配らせたい。 2. どの子にも、進んで歯をきれいにみがけるようにさせたい。 3. 好き嫌いをなくし、歯を丈夫にする食べ物をとるようにさせたい。		
2年	1. 歯の生えかわりについての関心を、しきみについてまで発展させたい。 2. 正しくていねいにみがけるよう、みがき方を工夫させたい。 3. 食べ物に好き嫌いがないようにさせたい。	5年	1. 自分の歯に対する関心を生かし、自分の歯の様子を正しくとらえさせたい。 2. 形式的なみがき方から、すみずみまでみがくみがき方へと発展させたい。 3. おやつのとり方に対する知識のみにとどまらず、実践へとつなげさせたい。		
3年	1. 歯の生えかわる仕組みについての知識を生かし、永久歯を大切にしようとする態度を身につけさせたい。 2. 自分から進んでみがく意欲を、形に応じたみがき方へと発展させたい。 3. 歯をつくる食べ物や、歯によい食べ物の知識を、生活中で生かせるようにさせたい。	6年	1. ブラッシングの時の体験を生かし、歯肉まで気をつけようとする態度を身につけさせたい。 2. 12歳臼歯の萌出状況に個人差があるので、自分の歯にあったみがき方を考えさせたい。 3. 偏食の児童が多いので、栄養のバランスを考えた食事のとり方を工夫させたい。		



## 2. 実践部

### ◇ 本年度の取り組み

#### 仮説 2

日常の歯みがき指導で、むし歯・歯肉炎予防に関する自分の課題にすすんで取り組める方法を工夫するとともに、児童会活動との連携を図りながら組織的に指導すれば、日常生活における健康づくりへの実践態度が身に付くであろう。

上記の仮説に基づき、次のような取り組みをしてきた。

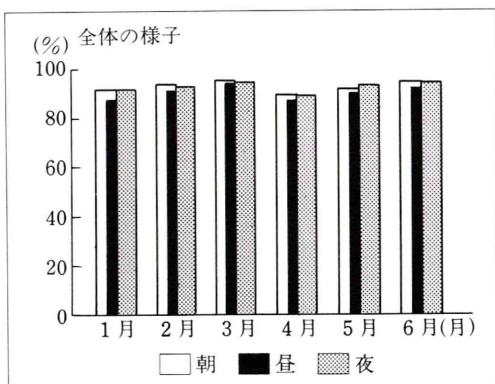
#### ① 給食後の歯みがき活動の工夫

##### ▷ 歯みがきカレンダー

保健委員会の児童が、毎月作成する歯みがきカレンダーに1日3回（朝・昼・夜）の結果を記入し、児童一人一人がすすんで歯みがきに取り組むようにした。集計結果は次の通りである。

##### \* 割合の出し方

$$\text{割合} = \frac{\text{クラス全員のみがいた日数}}{\text{日数} \times \text{クラスの児童数}}$$



昨年6月より実施した『歯みがきカレンダー』の集計結果では、児童自身がカレンダーを付けることにより、歯みがきを頑張ろうという意欲が湧き定着の様子が見られた。

「朝の様子」では、昨年度よりよくみが

いている傾向が見える。ただ「昼の様子」がグラフで低い傾向にあるのは、家庭での土・日曜日の歯みがきがまだ定着していないためと考えられる。

今後の課題として、家庭での昼の歯みがきが定着するよう、啓発部とも連係し、継続して働きかけていくようにしたい。

##### ▷ 歯みがきビデオ

学級活動等を通して歯みがきの大切さを児童に考えさせてきたが、歯みがきの方法については、校医や歯科衛生士等による正しいブラッシング指導を参考にして、本校独自の歯みがきビデオを保健委員会の6年生を中心として作成し、実践してきた。

ていねいなブラッシング指導となると最低10分程度の時間が必要となるが、昼食後の休み時間との兼ね合いを考え約5分程度に編集した。みがき方の順番はみがきにくい所を優先した。ブラッシングの方法は、歯ブラシを歯に当て、出来るだけ小刻みに動かすようにし、一ヶ所につき10回程度みがくようにした。また、歯みがきビデオは各クラス一本ずつ用意し、昼食後クラスごとに使用した。主なビデオの内容は下記の通りである。

- ① 下顎左奥歯の内側から前歯、そして右奥歯の内側
- ② 上顎右奥歯の内側から前歯、そして左奥歯の内側
- ③ 下顎左奥歯の上面、右奥歯の上面
- ④ 上顎右奥歯の下面、左奥歯の下面
- ⑤ 下顎左奥歯の外側から前歯、そして右奥歯の外側
- ⑥ 上顎右奥歯の外側から前歯、そして左奥歯の外側

歯みがきビデオを使用しての長所は、ビデオを見ながら児童が歯のいろいろな

部位を意識的についにみがくことが出来るということ、クラス一齊にみがくことで一人ひとりの歯みがきの様子を担任が把握できるということである。課題としては、歯みがきビデオによる歯みがきがマンネリ化してしまうということ、また、児童一人ひとりのみがき方に一つの癖が出来、染めだしテストを実施すると、特定の場所でのみがき残しが意外に多かったことである。歯みがきビデオを見て、ただ単に歯をきれいにするということだけでなく、歯肉のブラッシングや歯垢の除去にまで意識を向けさせて、歯のすみすみまできれいにしようという意識を育てることが大事である。

歯みがきビデオを使用することで、歯全体をみがくことは出来るようになってきたが、今後は、歯みがきビデオに頼らず児童が手鏡を使用して、一人ひとりにあつたついにみがき方ができるようになることであろう。

#### ウ歯みがきタイム

全校一齊の歯みがきタイムは、設けないが、給食時間を5分間延長し、給食をゆっくり食べる時間を確保した。給食が終わり次第、各クラスごとに歯みがきを開始する。

#### エ歯ブラシの保管方法

歯ブラシは、ランチセットに入れ、持ち運びさせる。この方法のよいところは、家庭において保護者が、歯ブラシの状態を点検できる点である。

#### ② 染め出しテストの実施

#### △染め出しテストの方法

自分の歯の汚れ・みがき方の足りない部分を知るため、全校一齊に6月に行つた。1・2年生は、養護教諭に検査液を塗布してもらい、担任が、判定を行つ

た。3年生以上は、錠剤を用いて行った。児童が用意するものとしては、歯ブラシ、コップ、タオル、手鏡、半分に切った牛乳パック、色鉛筆、洗濯ばさみなどがある。

#### イ染め出しテスト記入用紙

今年度は、〈低学年用〉〈中・高学年用〉の2種類作つた。前年度と比較し工夫した点は、前歯の裏・奥歯の表、裏が記入できるようにした点である。

#### ウ染め出しテストの判定

歯の汚れの判定は、下の表に従い担任が行う。

表6-1 歯の汚れの判定

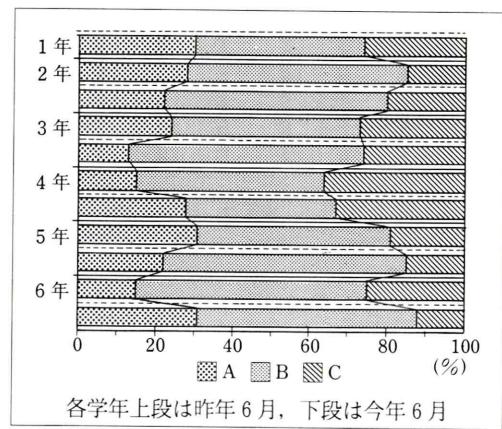
汚れの程度	A	B	C
判定	A きれいにみがいている	B 少しよごれている	C よごれている

結果は、次の通りである。

表6-2 染め出しテスト集計結果表

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
A	30	22	13	28	22	31
B	44	58	61	39	63	57
C	26	20	26	33	15	12

表6-3 カラーテスト結果集計グラフ



### ③ 児童会活動

#### ▷むし歯予防標語

児童の自発的、自治的な実践活動を通して、歯や体の健康を保持増進する態度や能力を育てるために、むし歯予防標語の募集を児童会活動として行った。全校児童を対象に作品を募り、代表委員会で審査し、その後実践部で最終的に審議した。作品の内容としては、歯みがきの習慣化を訴えるものが多く、保健指導の成果がうかがえる。また、低学年では、親子で標語に取り組み、家庭での意欲的な実践に結び付いたようである。最優秀作品については、全校の児童が合い言葉として生活していくように、校舎ベランダの壁に掲示することにした。

#### ▷むし歯予防ポスター

毎年行われている「よい歯の子」コンクール実施に伴い、図工部との連携により、むし歯予防ポスターを全校児童から募集した。1～3年は図画、4～6年はポスターとした。全体に、歯みがきの習慣の大切さを訴えるものが多くったようである。審査は、学級1点を持ちよって各学年2点にしほった。その中から、1～3年で2点、4～6年で2点にしほったものを「よい歯の子」コンクールに出品した。校内には学年で集まった残りの8点を掲示し、むし歯予防や歯を大切にする気持ちを高める環境を整備した。

#### ▷保健委員会の活動

##### ・歯みがき集会

むし歯予防デーに関連させて、6月2日の事前活動の時間に、体育館でむし歯ゼロを目指して歯みがき集会を実施した。初めに「むし歯となかよしだあれ」という劇を行った。この劇では、食べたら、すぐに歯をみがく習慣

を身に付けることをねらいとした。次に第一小の実態を報告した。500名もの児童にむし歯があったことに驚いていたようである。その後、むし歯のない6年生3名に歯みがき方や食事などで気を付けていることを発表してもらった。最後に集会のまとめとして、歯みがき方や歯によい食べ物などについての説明を行った。集会後、児童から「食べたら、早く歯をみがくといいんだな。」「もっと、歯をていねいにみがこう。」などといった声が聞かれた。

##### ・歯みがきカレンダーの発行

保健委員会担当の教師と相談しながら、毎月歯みがきカレンダーの発行を行った。楽しみながらカレンダーの絵をかいたり、集計の部分を工夫したりしてより良い物を作り上げようとした。児童は、楽しんで記入し、歯みがきにすすんで取り組んだ。

##### ・歯ブラシの検査

毎週月曜日に行う「せいけつ検査」の1項目にはブラシの有無・毛先がはみ出しているいかなどの歯ブラシの状態を入れ、調べた。その結果を保健室前の廊下に掲示し、歯ブラシへの関心を高めるのに役立った。

##### ・「保健新聞」の発行

保健委員会で発行する「保健新聞」に歯に関する内容を多く載せて児童の啓発に努めた。主な内容は、次の通りである。

5月号……「むし歯について」で全校のむし歯の様子を知らせる。

6月号……「歯をじょうぶにする食べ物」「歯ぐきのみがき

方」で歯をじょうぶにする食べ物を食べて健康な歯にしましょうと呼び掛ける。

7月号……むし歯の治療のすすめ。  
夏休み号…「むし歯にならない3つの約束」「むし歯の治療の様子」として各クラスの治療率を知らせ、再度治療のすすめをした。

### ③まとめと今後の課題

#### ①まとめ

##### ▷食後の歯みがき活動の工夫

- ・日常の歯みがき指導においては、全体的には、よくみがけるようになり、食後の歯みがきは、ほぼ定着したと言える。
- ・歯みがきカレンダーを作り、記入させたことは、児童に歯みがきへの意欲を持たせるとともに意欲を継続させることにも大いに役立った。
- ・「歯みがきビデオ」の使用については、形式的になりがちな毎日の歯みがきを振り返るよい機会となり、大変有意義であった。
- ・今年度は、給食時間を5分間延長したことにより、給食をゆっくりとことができ、歯みがきも落ち着いてきちんとできるようになった。
- ・歯ブラシをランチセットに入れて持ち帰ることにより、保護者の歯ブラシへの関心も高まり、衛生状態や形状について注意を払うようになった。

##### ▷染め出しテスト

- ・染め出しテストについては、用紙を〈低学年用〉〈中・高学年用〉とわけたり歯の全面が記録できるように工夫したので記入しやすくなり、正確な記

録が残せるようになった。

- ・全体的によくみがけていて正しいみがき方がほぼ身に付いてきたと言える。

##### ▷児童会活動

- ・児童会を中心に「むし歯予防標語」・「むし歯予防のポスター」の募集に取り組んだことは、児童のむし歯予防への意識を高めるばかりでなく、保護者の意識向上にもつながった。最優秀作を掲示することで意識の継続を図った。
- ・全児童対象に行った歯みがき集会では、全校のむし歯の様子や歯によい食べ物などを知らせ、児童への啓発の一つとなった。
- ・「歯ブラシ」の検査を行うことにより、常に児童が自分自身の歯ブラシに注意を払うようになった。
- ・保健委員会発行の「保健新聞」は、児童にとって身近に感じられよく読まれているので、この中でむし歯に関する記事を多く載せたことは、児童へのよい啓発となった。

#### ②今後の課題

- ・昼食後の歯みがきが、朝食・夕食後に比較してみがけている割合が少なくなっている。土・日の家庭での歯みがきが、まだ定着していないのではないかと考えられるので、今後は啓発部との連携をより図りながら定着を目指していきたい。
- ・おやつ後の歯みがきについては、授業などで扱うだけだが、おやつは、むし歯の原因になるあまいものを多くとる機会でもあるので「歯みがきカレンダー」に項目を設けて歯みがきをさせていきたい。
- ・染め出しテストの判定については、基準があるが、各担任により見方が異なるために他との比較が難しい。より分かりや

すい統一的な基準作りをする必要がある。

- ・今後も児童会活動をたくさん取り入れていきたい。

### 3. 啓発部

#### ① 本年度の取り組み

研究主題達成のための仮説

##### 仮説 3

保護者との密接な連携で、むし歯・歯肉炎予防に関する家庭生活における習慣形成を目指すとともに、校内の保健環境を整備・活用しながら継続的に指導すれば、日常生活における健康づくりへの定着が図れるであろう。

昨年度成果として、児童や保護者の歯に対する関心が予想以上に高まってきてている。そこで、本年度は、昨年度の実績を踏まえ、保護者同士での情報交換や意見の吸い上げ、および児童を取り巻く歯の保健環境の整備・活用等をも行い、日常生活における健康づくりへの定着を図りたいと考え、上記の仮説を設定した。仮説に基づいて、啓発部では次のようなことを実践した。

##### ① 児童、保護者の意識調査と分析

本指導を進めるにあたり、児童および家庭の歯みがきや歯の健康に関する関心、基本的生活習慣について再調査し、結果を昨年6月実施した結果と比較分析した。分析結果は、日常の授業や歯みがき指導に生かし、調査結果を児童への指導に結び付けた。また、昨年度と比較しての本年度の児童の変容の様子は、9月のピカピカくんだよりに載せ家庭に知らせた。

##### ② 歯の資料展示室の整備

児童をとりまく歯の環境を考えるために、資料展示室の整備を行った。各学年の「歯

の保健指導」年間計画にそって資料展示内容を決定し、資料が重複したり、系統性が薄くならないよう配慮した。また、各学年別のコーナーを「歯のつくりとはたらき」「歯や口の中の病気」「歯のみがき方」「望ましい食生活」の4要素に分け、系統的に指導内容を見ることができるようにならした。

##### ③ 廊下の掲示コーナーの活用

常設されている歯の資料展示室とは別に、各学年にその月に応じた指導内容を掲示する「歯の博士コーナー」を設けた。歯に対する関心を高めるため、児童が毎日使用する段階の踊り場や、児童の目につきやすい廊下の壁に資料掲示を行った。内容も、即実践に結び付く内容、児童に問い合わせる内容、歯の情報を伝える内容等を取り上げ、児童の視覚に訴える掲示を工夫し、関心が高まるようにした。

##### ④ 「ピカピカくんだより」の発行

本年度は保護者の意見を吸い上げそれを生かすために、取り上げてほしい内容や現在歯の健康づくりで悩んでいる内容をアンケート調査し発行内容を決め、月2回の発行を行った。さらに、保護者同士での情報交換を図るため、たよりの中に保護者の実践例を載せ紹介した。実践例としては、「歯ブラシの選び方に関するもの」「歯のみがき方・みがかせ方の工夫に関するもの」「おやつの選び方・あたえ方に関するもの」の3項目につき、親からの意見を集め、たよりの中で紹介した。

##### ⑤ 学校保健委員会への協力

平成6年7月8日学校保健委員会を開催した。その場で、平成6年健康教育について提案した。提案内容として、平成6年度本校における研究主題と研究概要および各部会、各学年の取り組みの現状を掲示し保

護者の理解と協力を依頼した。また、保護者からの問い合わせの多かった「不正咬合と歯並びの矯正方法、および時期について」学校医坂井先生の話をうかがい、情報提供を受けた。

#### ⑥ 講演会、教養講座との連携

##### ▷親と子のブラッシング教室の開催

平成6年6月22日、1年生・3年生の親と子を対象に歯科衛生士を4名招いて、親と子のブラッシング教室を開催した。「歯ブラシの選び方」「歯ブラシの持ち方」「むし歯になりやすい歯とみがき方」「はみがき剤について」等を実際のブラッシングを通して学習した。この活動により、家庭における正しいブラッシングの仕方の啓発を行った。

##### ▷講演会「歯の健康」の開催

「しっかりかんで健康づくり」の副題で歯科衛生士・相馬ますみ先生の講演会を開催した。噛む効用とむし歯・歯周病の予防の関係や顎の成長・発達と歯の関係、食生活の見直し（清涼飲料の糖分）など、家庭での実践に役立つ内容の話をうかがった。あわせて、「調理法によるかむ回数の違い」「調理形態による違い」「加熱時間とかむ回数の違い」「食材料とかみごたえ」の資料提供があった。

### ② 資 料

#### ① 実態調査の結果と考察

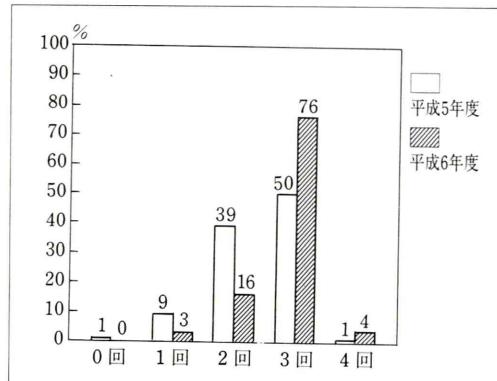
対象：藤岡第一小学校児童及び保護者全員

実施期間：平成5年度、6年度ともに6月4日

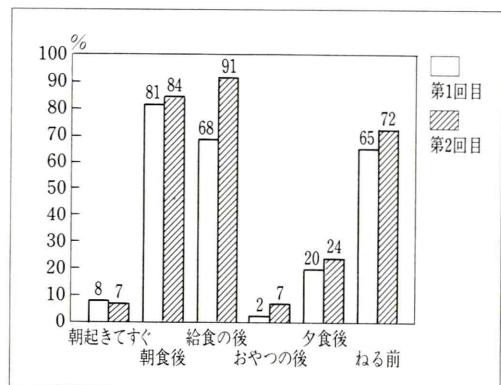
##### ▷歯の健康づくりの実態について (児童対象)

\* グラフの数字は全て%

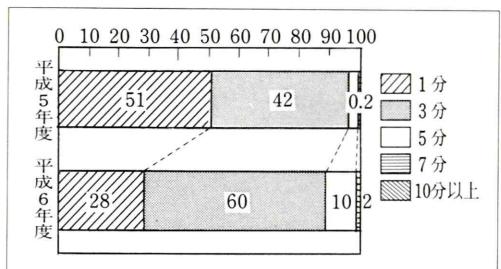
#### ① あなたは、1日に何回歯をみがきますか。



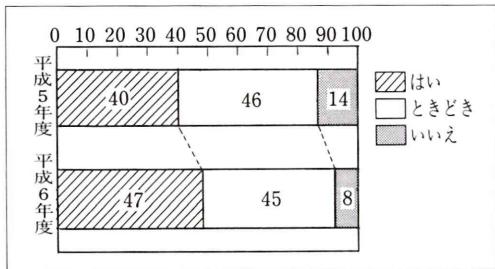
#### ② あなたは、いつ歯をみがきますか。



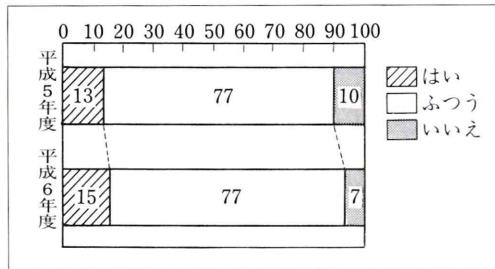
#### ③ あなたは1回の歯みがきに何分くらいかけますか。



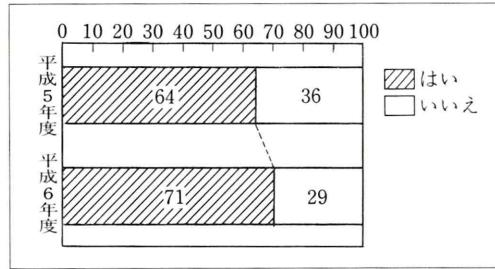
④ あなたは人に言わぬいで歯みがきをしていますか。



⑤ あなたは自分の歯がきれいにみがかれていると思いますか。



⑥ あなたは歯ブラシのようすに気をつけていますか。



⑦ なぜ歯みがきをするのだと思いますか。  
ともに「むし歯にならないように」という回答が最も多かったが、今年度の調査では次のような記述も見られた。

・口の中が汚れていると気持ち悪いから  
(1年)

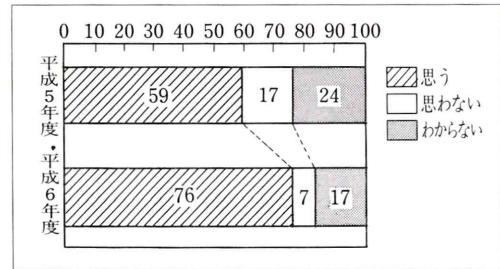
・歯についた歯垢や砂糖を落とすため  
(3年)

・声が出なくなったり、顔の形が変になったり、よくかめなくなる  
(4年)

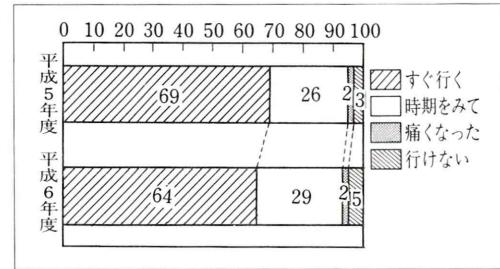
・一生使う大事な歯だから  
(5年)

・歯周病にならないように (2・6年)

⑧ むし歯は病気だと思いますか。



⑨ 歯の受診票をもらったらどうしますか。



## 考 察

問1、3の結果を見ると、1日3回歯みがきをするという回答が26ポイント、3分くらいかけてみがくという回答が18ポイントと大きく増えてきている。また、問2の結果をみると、給食後の歯みがきが23ポイント増えるなど顕著な伸びを見せていている。給食後の歯みがきタイムや歯みがきカレンダーなどの指導を通して、1日3回食後に時間をかけてみがく習慣が身についてきているといえるだろう。

また、問8についてもむし歯は病気であるという児童が増えている。指導の結果、むし歯に対する認識は深まっているといえる。

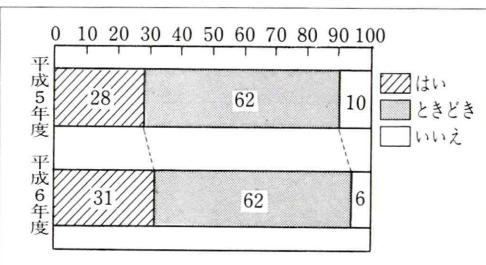
問4、6を見ると自主的に歯をみがき、歯ブラシの管理に気をつけている児童がふえている。しかし、上記の内容と比較すると変容の度合は顕著ではない。また、問5でも「はい」という回答は増加しているが、依然として「ふつう」がほとんどを占めている。より一層自主的に歯みがきに取り組めるようにするとともに、その質を高めるよう指導していく必要がある。

問9では「すぐ行く」がやや減少し、「時期を見て行く」「行けない」という回答が増えている。むし歯の治療に関しては家庭の協力が不可欠であり、今後も早期治療を呼びかけていく必要がある。

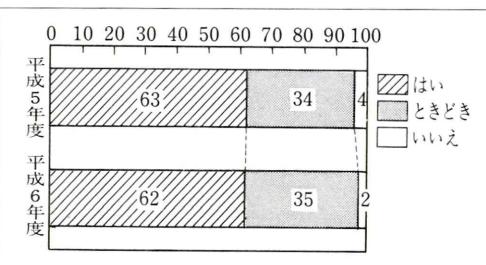
以上のことから、これまでの指導の結果歯みがきが習慣化され、意識的に取り組めるようになってきているといえる。しかし、変容が十分でない部分もあり、今後、より一層の指導が必要であるといえる。

▷歯の健康づくりの実態について  
(保護者対象)

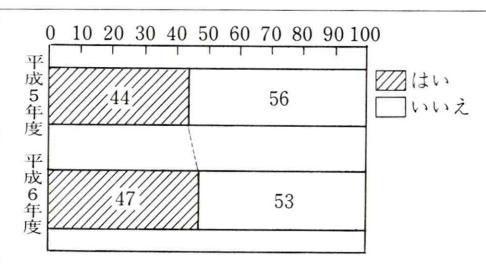
① お子さんの口の中を見ることができますか。



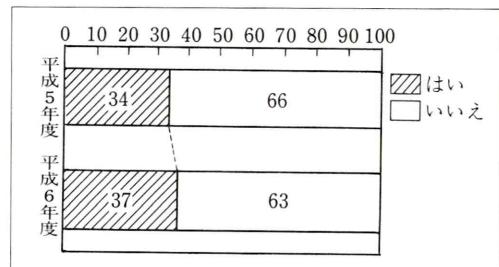
② お子さんが歯みがきをきちんとするように気をつけていますか。



③ むし歯予防のために食べ物に気をつけていますか。

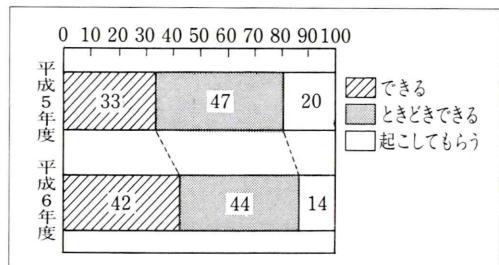


④ むし歯予防について家庭で行なっていることがありますか。 (食べ物以外の場合)

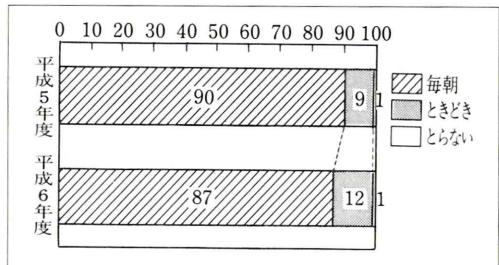


▷生活のようすについて (児童対象)

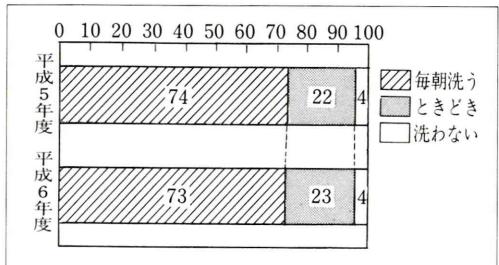
① 朝、自分で起きることができますか。



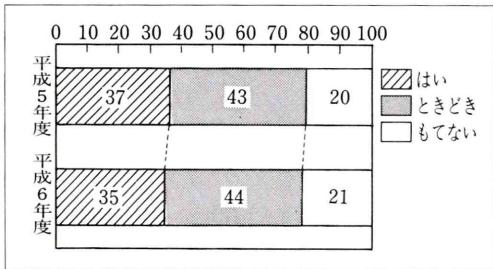
② 毎朝、きちんと朝食をとりますか。



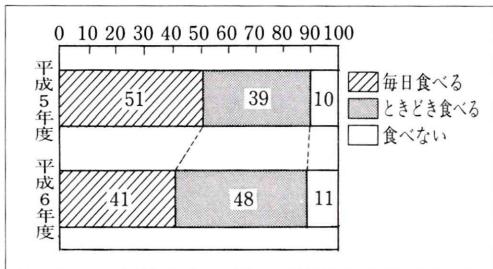
③ 毎朝、顔を洗いますか。



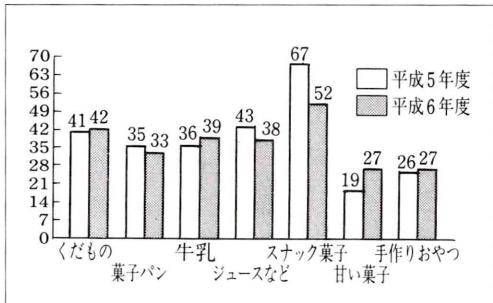
④ 朝起きてから登校するまでゆっくりと時間がもてますか。



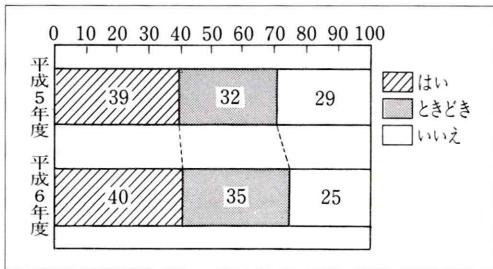
⑤ 家に帰ってから夕食までの間におやつを食べますか。



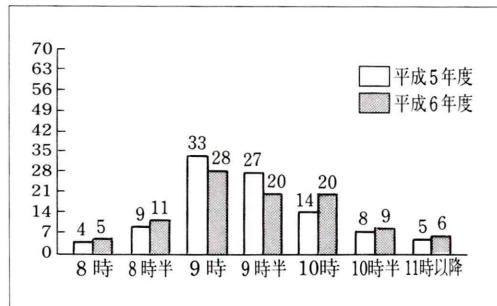
⑥ どんなものをたべますか。 (複数回答)



⑦ 体をじょうぶにするために何か運動をしていますか。



⑧ ねる時間は何時ごろですか。



### 考 察

全般的には大きな変化は見られないが、食生活、特におやつのとり方については昨年度と比べて変容が見られる。

おやつを食べる度合いについては「ときどき食べる」が9ポイント増え、「毎日食べる」が10ポイント減ってきてている。おやつの種類についてもスナック菓子が依然として最も多いが、昨年度に比べ、15ポイントも減少している。

ピカピカくんなど等の啓発資料や学級活動を通して、おやつのあり方等について情報を提供したり、具体的に指導してきた結果が表れてきているといえる。

## ② 歯科検診結果と考察

### ▷ 平成6年度歯科検診結果（表7-1）

- ・乳歯のう歯保有者は、低、中学年に多くその割合は80%以上にのぼる。歯が生え変わるために高学年になるにしたがって低下している。乳歯のう歯保有者は昨年度と比較すると減少している。
- ・永久歯う歯保有者は3年生で急に増加している。学年が進むにつれて増加している。

る。永久歯う歯保有者は処置完了者、未処置者ともに昨年度より減少している。

- ・不正こう合は昨年度よりやや減少傾向にある。
- ・歯周疾患は昨年度2.3%（19人）から今年度は0.2%（2人）となり減少している。
- ・う歯なしは今年度全校で6.7%（54人）となり昨年度より増加した。

表7-1 歯科検診結果

学年	検査人員	人數・割合	乳歯			永久歯			不正こう合	歯周疾患	う歯なし
			処置完了者	未処置者	う歯保有者	処置完了者	未処置者	う歯保有者			
1年	130	人 数	46	58	104	11	25	36	5	0	14
		割 合	35.4	44.6	80.0	8.5	19.2	27.7	3.8	0	10.8
2年	129	人 数	28	86	114	16	33	49	3	0	9
		割 合	21.7	66.7	88.4	12.4	25.6	38.0	2.3	0	7.0
3年	113	人 数	20	74	94	26	51	77	4	0	7
		割 合	17.7	65.5	83.2	23.0	45.1	68.1	3.5	0	6.2
4年	157	人 数	40	88	128	53	58	111	1	0	12
		割 合	25.5	56.1	81.5	33.8	36.9	70.7	0.6	0	7.6
5年	140	人 数	69	22	91	55	70	125	3	1	5
		割 合	49.3	15.7	65.0	39.3	50.0	88.0	2.1	0.7	3.6
6年	142	人 数	36	16	52	57	76	133	5	1	7
		割 合	25.3	11.3	36.6	40.1	53.5	93.7	3.5	0.7	4.9
合計	811	人 数	239	344	583	218	313	531	21	2	54
		割 合	29.5	42.4	71.9	26.9	38.6	65.5	2.6	0.2	6.7
参考資料 平成5年度	827	人 数	416	223	639	209	362	571	33	19	49
		割 合	50.3	27.0	77.3	25.3	43.8	69.1	4.0	2.3	5.9

表7-2 う歯治療状況

### ▷ 平成6年度う歯治療状況（表7-2）

まだ治療をしていない児童の個別指導と、家庭への協力をよびかける必要がある。

学年	在籍	治療を指示した児童数	勧告率	8月18日までに治療を完了した児童数	治療率
1年	130	71	54.6	65	91.5
2年	129	92	71.3	68	73.9
3年	113	85	75.2	58	68.2
4年	157	103	65.6	79	76.7
5年	140	80	57.1	56	70.0
6年	142	82	57.7	64	78.0
合計	811	513	63.3	390	76.0

## ▷平成 6 年度う歯罹患状況（表 7-3）

永久歯のう歯は C 1 がほとんどで C 2 ,

C 3 はわずかしかみられない。

表 7-3 う歯罹患状況

学年	検査人數	乳歯			永久歯					総時定期 処数	D M F T 指 本 歯 数	歯一 人 平均 指 本 歯 数	処時定期 完 了 歯 数	置 永 久 了 歯 率 う 歯 % 処						
		処置	未処置	乳要注 歯意	処置	未処置														
						C1	C2	C3	C4											
1年	130	710	160	10	24	32	2			34	58	0.4	24	41.4						
2年	129	518	296	11	55	63				63	118	0.9	55	46.6						
3年	113	483	223	7	108	95				95	203	1.8	108	53.2						
4年	157	393	217	8	251	119	2	2		123	374	2.3	251	67.1						
5年	140	292	39	8	361	141	3			144	505	3.6	361	71.5						
6年	142	103	23	10	465	212	6			218	683	4.8	465	68.1						
合計	811	2,499	958	54	1264	662	13	2		677	1941	2.4	1264	65.1						

## ▷平成 6 年度 DMFT 指数県平均との比較（表 7-4）

県平均と比較するとやや高い指数である。5, 6 年で急に高い指数となってい

る。

表 7-4 DMFT 指数比較

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全体の平均
第一小	0.4	0.9	1.8	2.3	3.6	4.8	2.4本
県平均	0.3	1.0	1.5	2.2	2.8	3.4	1.9本

（県平均は 5 年度）

表 7-5 (資料) 第一小過去 3 年間の DMFT 指数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全体の平均
3年度	0.3	0.9	1.5	2.8	2.4	3.6	2.0本
4年度	0.6	1.1	2.1	2.4	3.4	3.4	2.2本
5年度	0.4	1.1	1.9	3.1	3.8	4.3	2.4本

## ▷男女別むし歯罹患者率（表 7-6）

男子より女子の方が永久歯の未処置者率が高い。

男女とも永久歯未処置者率、要注意乳歯保有者率、その他歯疾患者率は平成 6 年度に減少した。

その他歯疾患者……不正こう合・歯石・歯肉炎

表 7-6 男女別むし歯罹患者率

項目	年度	
	平成 5 年度	平成 6 年度
男 子	乳歯未処置者率	30.5
	永久歯未処置者率	42.0
	要注意乳歯保有者率	12.9
	その他歯疾患者率	11.5
女 子	乳歯未処置者率	23.7
	永久歯未処置者率	44.0
	要注意乳歯保有者率	11.1
	その他歯疾患者率	11.6

### ▷ う歯保有者年度別比較

(図 2-1, 2-2)

6年生を除いては各学年ともに減少傾向にある。

4年度から比較すると6年度は減少している。

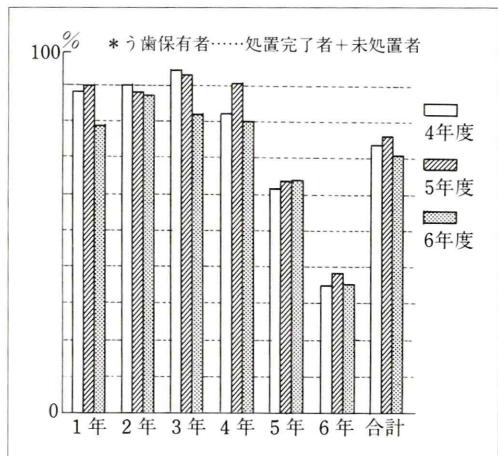


図 2-1 乳歯う歯保有者年度別比較

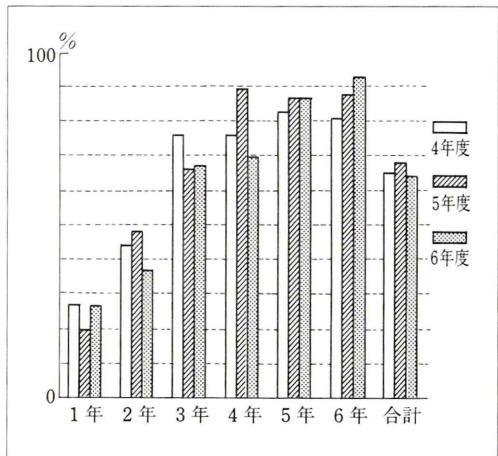


図 2-2 永久歯う歯保有者年度別比較

### ▷ 歯周疾患罹患率年度別比較

3年生以上の学年に歯周疾患がみられる。

4, 5年度と比較すると6年度はわずかしかみられない。

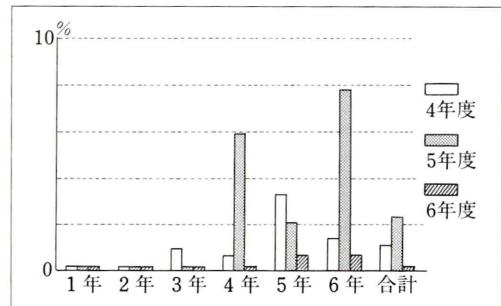


図 3 歯周疾患罹患率年度別比較



### ◆◆ ちりょう学級の取り組み ◆◆

本学級は、4年生の男子4名、女子2名で構成している。児童は、言語に不明瞭な点はあるが、全員簡単な会話ができ、簡単な指示も分かる。身

体的には、発作を持っている児童と心臓病の児童がそれぞれ1名ずついるが、動く活動には、ほとんど支障がない。

## 1. 学級の児童の実態、重点目標

児童の実態	
日常の観察から	アンケート結果から
<p>◆ 基本的な生活習慣</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・着替え、排泄、食事等は、ほぼ自立している。</li> <li>・明るく元気で素直。</li> <li>・自分でするという意欲が弱い。</li> </ul> <p>◆ 学習面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・好奇心が旺盛である。</li> <li>・集中力が長続きせず、最後まで頑張れないことが多い。</li> </ul> <p>◆ 健康・安全面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きなかがをする児童は少ない。</li> <li>・自分の健康管理ができない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 歯の健康づくり（保護者の取り組み）           <ul style="list-style-type: none"> <li>・歯みがきや食事には、気を配っている。</li> </ul> </li> <li>② 健康な歯づくり（児童の取り組み）           <ul style="list-style-type: none"> <li>・歯みがきの時間が短く、丁寧にみがけていない。</li> </ul> </li> <li>③ 生活のようす（児童）           <ul style="list-style-type: none"> <li>・おやつは、食べなかつたり、時間や量を決めて食べていたりしている。</li> <li>・朝起きてから登校するまでの時間にゆとりがない。</li> </ul> </li> </ul>

### 重 点 目 標

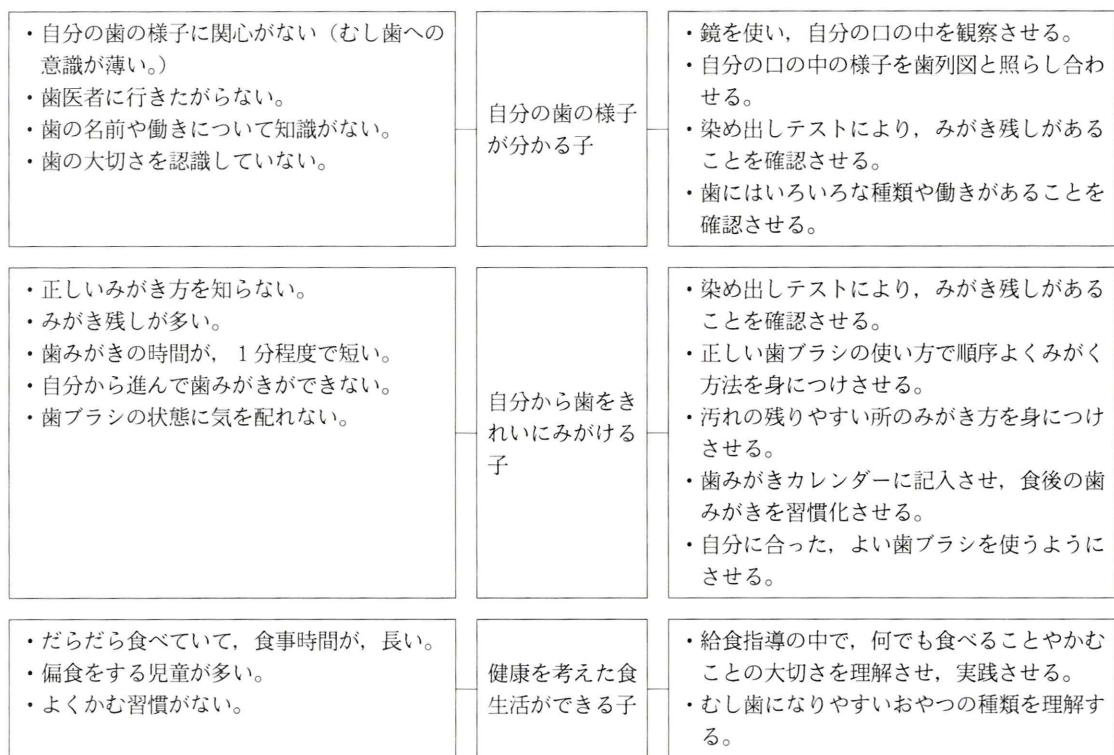
・自分の歯の種類や働きを知るとともに、歯の大切さに気づき、ていねいにみがこうとする態度を身につける。

・上手なおやつの取り方を知ったり、好き嫌いしないで食べることが大切であることを理解する。

歯の健康づくりに関する実態

めざす児童像

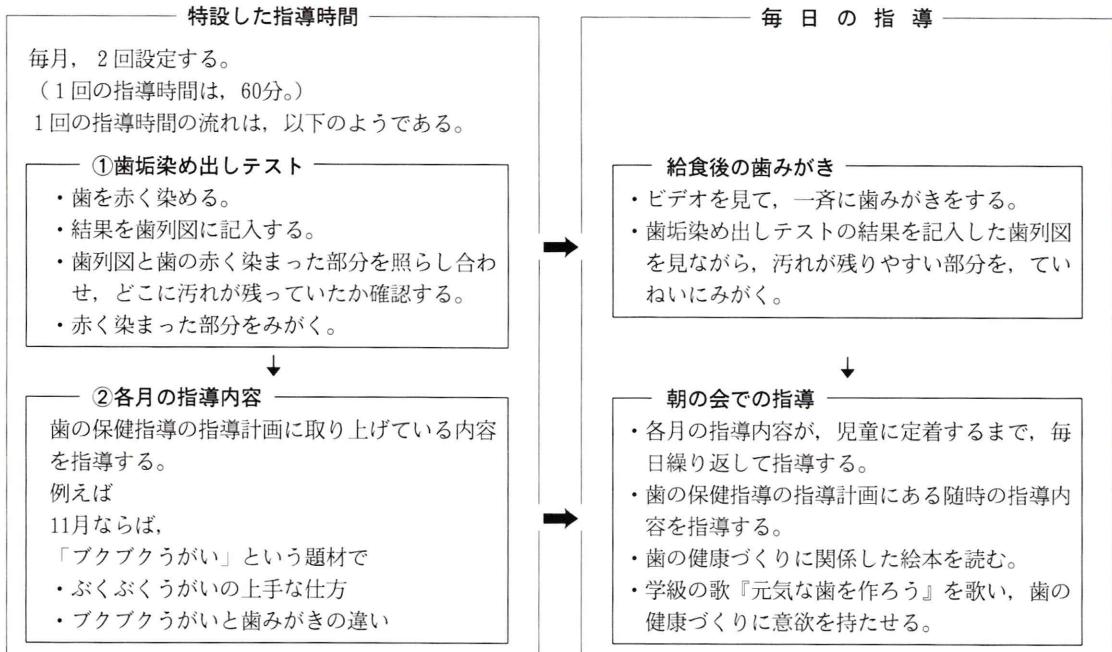
指導の手立て



## 2. 研究の経過

月	研究の内容	児童への取り組み
4	・本学級は、単独に研修を勧めることになる。 →研究方向・研修計画の決定。	・歯みがきの指導、歯みがきカレンダーへの記入の開始。
5	・①毎週の学級だよりに、歯の健康に関する事を載せる。②2週間ごとに染め出しテストを行うことを決定。 ・学級独自に、保護者に“歯の健康づくり”についての意識調査を行う。	・染め出しテストを開始。
6	・歯の健康づくりへの児童の関心・意欲を高めるため、歌を作る。 ・全校規模の、“歯の健康づくり”についての意識・	・『元気な歯を作ろう』の歌。
7	生活実態調査を行う。	・意識・生活実態調査を実施。
8	・親子染め出しテストを実施。 ・研究紀要、指導案検討。	・親子染め出しテストを実施

### 3. 「日常生活の指導」における歯の保健指導の進め方



今年度は、上の図で示したように、特設した指導時間の中で取り扱った、歯の健康づくりに関する態度、知識、技能を、毎日の指導（朝の会、給食後の歯みがき）の中で、定着化・実践化していくと考えた。

### 4. 実践例

#### (1) 歯みがき指導

##### ① 歯みがき指導の工夫

昨年度の給食後の歯みがき指導では、全部の歯を一通りみがけることをねらって、ビデオを見ての一齊歯みがきを行った。歯みがきの順序は覚えたが、通り一遍の歯みがきになってしまい、歯垢染め出しテストの結果を見ると、いつも同じような部分に

汚れが残っていた。

そこで、本年度は、昨年度の反省を受け、児童の理解力も大分高まってきていることから、給食後の歯みがき指導を、3「日常生活の指導」における歯の保健指導の進め方で述べたような流れで行い、一人一人に自分の汚れの残りやすい部分を確認させ、みがき残しのない歯みがきができるように指導を進めていくことにした。

具体的には、以下のように行った。2週間ごとに歯垢染め出しテストを行い、一人一人に汚れが残っている部分を確認させた。そして、給食後の歯みがき指導で、ビデオを見ての一齊歯みがきの後、歯垢染め出しテストで確認した汚れが残りやすい部分をていねいにみがかせた。

## ② 指導の経過

〈5月〉

### 歯垢染め出しテストの様子

歯垢染め出しテストを2回実施する。

◎赤く染め出した部分が汚れの残っている部分であることが分かる。

先ず、教師が、児童一人一人に、染め方を説明しながら、テスターの液をふくませた綿棒で歯を染めてやった。口をすすぐせた後、児童に鏡を見て歯に赤く染め出た部分があるか確認させた。そして、赤く染め出た部分があるならば、その部分が汚れの残っている部分であり、よくみがけていない部分であることを説明した。「汚れの残っている部分を、指でさしてみましょう。」というと児童全員が、鏡を見て赤く染め出た部分を指で示した。その後、教師が、児童一人一人に、赤く染め出た部分はどこかと話し掛けながら、赤く染め出た部分を歯列図に赤くぬった。

◎赤く染め出た部分をみがく。

「赤く染め出た部分を、赤い色が落ちるように、ていねいにやさしくみがきましょう。」と説明し、児童に鏡を見ながら歯をみがかせた。はた目には、児童一人一人が、赤く染め出た部分に歯ブラシをあててみがいているように見えたが、実際には、なかなか赤い色が落ちなかった。歯ブラシが、赤く染め出た部分をしっかりとらえなかったようだ。



### 給食後の歯みがきの様子

歯垢染め出しテストの結果を見て、汚れの残っている部分の中から、児童にとって、みがきやすい部分を一ヶ所選んだ。ビデオを見て一斉歯みがきの後、児童一人一人に、その部分のみがき方を教え、みがかせた。回数を重ねるごとに、自分で、どの部分をみがけ

ばよいのか分かってきたようだ。しかし、児童の様子を見ていると、一生懸命になればなるほど、みがき方が、強く激しくなってしまうことがうかがわれた。歯ブラシと一緒に持って、児童の歯をみがき、「やさしく、そおっとみがこう。」と話し掛け、歯ブラシを動かす加減を教えた。

〈6月・7月〉

### 歯垢染め出しテストの様子

歯垢染め出しテストを3回実施する。

第3回は、親子歯垢染め出しテスト。

(2)保護者への啓発を参照。

◎鏡を見ながら、自分で歯を染める。

児童全員が、楽しそうに口の回りを真っ赤に汚しながら歯を染めることに取り組んだ。最後に、教師が、全部の歯を染めることができたか確認した。回を重ねるうちに、奥歯の外側や上下の前歯の内側まで、一人で染められるようになった児童もいたが、上下の前歯の外側程度しか染められなかった児童もいた。しかし、児童全員、自分でやってみようという気持ちで取り組めたようだ。

◎テストの結果を赤くぬった歯列図を見て、自分の歯のどの辺りに、汚れが残っているのか分かる。

児童一人一人に、歯列図の赤くぬった部分を指して、それが自分の歯のどの部分であるか、鏡で歯を見せて教えた。歯列図と自分の歯との、歯一本一本の対応はまだ難しいが、『上の前歯の辺り』、『下の前歯の辺り』、『左下の奥歯のかみ合わせの辺り』、『上の犬歯の辺り』等大まかな部分の対応はできるようになってきた。



### 給食後の歯みがきの様子

ビデオを見て一斉歯みがきの後、児童一人一人に、歯垢染め出しテストの結果を赤く

塗った歯列図を見せて、汚れの残りやすい部分をみがかせた。児童一人一人に、それぞれの歯列図を指して、「この赤くぬった所はどこかな。」と話し掛けながら、その部分を教え、みがかせることから始めた。どの部分からみがくか順番を決めてやると、自分で、赤く塗った部分の辺りの歯をみがける児童も出てきた。また、歯ブラシの動かし方が、少しずつ上手になってきた。力加減が分かってきたようで、ていねいにやさしくみがける児童も出てきた。

## (2) 保護者への啓発

児童の実態から、本学級で、“健康な歯づくり”を推進していくには、保護者の理解や協力が不可欠であると考えた。

そこで、学校全体で取り組んでいる保護者への啓発運動『『ピカピカくんだより』』の発行、講演会、実態調査等の他に、学級独自の保護者への啓発活動を行った。

### ① 学級だよりでの取り組み

本学級では、週に一回、学級だより『きずな』を発行している。その『きずな』に、「歯の保健指導」の授業での児童の取り組みや歯みがきの様子、児童にとって今必要な歯に関する情報、“健康な歯づくり”を推進していくうえで今直面している児童の課題等を載せた。

発行の回数が重なるにつれて、保護者は、連絡帳に感想や課題解決に向けた家庭での取り組みの様子を寄せてくるようになり、“歯の健康づくり”への関心が高まってきた。

### ② “歯の健康づくり”についての調査の実施

食事、歯みがき、おやつの三点について、家庭での児童の様子や保護者が課題として考えていることを、記述してもらった。

学級全体として、以下のような結果が出た。

食事については、偏食が取り上げられている。給食では、嫌いな食べ物も一口は口にするが、家庭ではなかなか食べられないという回答や、少しずつ嫌いな食べ物を食べられるようになったという回答が寄せられた。歯みがきについては、食後促せば、嫌がらず歯みがきをするようになってきたようである。今は、食後の歯みがきの習慣化をはかったり、ていねいにしっかりみがくことを教えていたりするそうである。おやつについては、量や時間や種類について考えているそうである。

これらの結果から、それぞれの家庭で、児童の実態や家庭の事情に即した取り組みを始めたことが分かった。

### ③ 授業参観『おやこ歯垢染め出しテスト』の実施

先ず、保護者に、給食後の歯みがきを見てもらい、その後、児童が歯垢染め出しテストをするのを手伝ってもらった。保護者は、自分の子どもが歯を全部テスターで赤く染められたか確認したり、赤く染め出した汚れの残っている部分を歯列図に記入したり、子どもに汚れの残っている部分のみがき方を教えたりした。

保護者からは、授業参観後の学級懇談会で、以下のような感想や意見が出た。

- ・家庭での歯みがきの様子と比べて、大分ていねいにみがけている。しかし、結果を見て、がっかりした。この結果から推し量ると、家庭での歯みがきではもっと汚れが残っているのではないだろうか。
- ・家庭でも、ビデオを見ながら歯みがきをさせたい。
- ・歯をきれいにみがくことは、思っていたより難しいことだった。家族全員で頑張

りたい。

- ・歯のみがき方とみがき残しの部分とを照らし合わせて見ることができた。

## 5. まとめと今後の課題

### (1) まとめ

- ① 特設した指導時間の指導を通して
  - ・“歯垢染め出しテスト”で、児童全員が、赤く染まった部分は、汚れが残っている部分であると分かるようになった。
  - ・昨年度は、教師が“歯垢染め出しテスト”的テスターを児童の歯にぬってやっていたが、今年度は、児童が自分でテスターをぬれるように指導を進めてきた。まだ、ぬり残しがあったり、部分的にしかぬれなかったりするが、どの児童も、テスターをぬることに興味を示し、テストを実施するたびに、自分でするという気持ちを持ち意欲的に取り組めるようになってきた。
  - ・本学級の児童に、新しい指導内容を身につけさせようとする場合、一度指導しただけではなかなか身につかないという実態がある。繰り返しの指導が大切な児童にとって、特設した指導時間の中で取り扱った指導内容を、毎日の指導（朝の会、給食後の歯みがき）の中で定着化・実践化していくという方法は、いろいろなことが少しづつ身についてきていることから、効果があったと考えている。

### ② 毎日の指導を通して

- ・今年度の給食後の歯みがき指導では、ビデオを見ての一斉歯みがきの後、再度汚れが残りやすい部分をみがかせるようにした。昨年度からの今学期の7月までの“歯垢染め出しテスト”的結果を見ると、汚れの残っている部分を表す赤く染

まった部分が、少なくなってきたことから、この方法は、歯をきれいにみがくことに少なからず効果をあげているといえる。

- ・給食後、歯みがきをすることが習慣化してきた。

### (3) 家庭との連携を通して

- ・保護者への啓発活動（学級だより、授業参観『親子歯垢染め出しテスト』等）の結果、保護者から、それぞれの児童や家庭の実態に合わせた取り組みを始めたことや、「このような時はどうしたらよいのか」というような質問を聞くようになってきた。保護者が、わが子の歯の健康づくりに、積極的に取り組み始めたのではないだろうか。

### (2) 今後の課題

- 先ず、歯みがきをしっかりできるようにしたいと考え、1学期は、歯ブラシの持ち方や動かし方、汚れが残りやすい所のみがき方等を指導してきた。

2学期以降は、歯みがきの仕方を指導するだけでなく、むし歯のでき方やおやつの取り方等の歯の健康づくりに関する知識も、徐々に授けていきたいと考えている。これらの知識を理解させることにより、歯を大切にしようという気持ちをより高めていくことができると考える。

- “歯垢染め出しテスト”的結果から、汚れが残っている部分が少なくなってきたことは分かる。しかし、給食後の歯みがきの様子を見ていると、まだ、歯のどの部分にも同じ歯ブラシの当て方やみがき方をしている等の問題点がある。今後は、歯のそれぞれの部分を効果的にみがけるようなみがき方を、身につけさせていきたいと考える。

## ◆ 1 年 の 取 り 組 み ◆

### 1. 学年の児童の実態、重点目標

児童の実態	
日常の観察から	アンケート結果から
<p>◆ 基本的な生活習慣</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明るく、素直である。</li> <li>・決められた仕事はしっかりできる。</li> <li>・忘れ物が目立ち、姿勢が悪い。</li> <li>・人に頼ることが多い。</li> </ul> <p>◆ 学習面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・与えられた課題に、まじめにきちんと取り組む。</li> <li>・思考を練る力に欠け、すぐあきらめる。</li> </ul> <p>◆ 健康・安全面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・廊下の歩き方は比較的よくでき、歯みがきもよくしている。</li> <li>・気候に応じての衣服の調節ができない。</li> <li>・登下校に際しての安全に対する意識がうすい。</li> </ul>	<p>①歯の健康づくり（保護者の取り組み）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食後の歯みがきには気をつけているが、まだまだみがき残しが多い。</li> </ul> <p>②健康な歯づくり（児童の取り組み）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みがく時間が短く、あまり丁寧にみがけていない。</li> <li>・自分の歯を大切にしようとする意識がうすい。</li> </ul> <p>③生活の様子（児童）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝起きてから登校するまで、ゆっくり時間がもてない。</li> <li>・おやつにスナック菓子が目立つ。</li> </ul>



### 重 点 目 標

- ・自分の歯の様子を知るとともに、歯の働きや大切さに気付き、丁寧にみがいていこうとする態度を身につける。
- ・むし歯になりやすい種類のおやつを知り、好き嫌いなく何でも食べることが大切であることを理解する。



#### 歯の健康づくりに関する実態

- ・むし歯の有無への意識がうすい。
- ・むし歯があっても、なかなか歯医者にいかない。
- ・歯のはたらきを知らない。
- ・歯の大切さがわからない。

#### めざす児童像

自分の歯の様子  
がわかる子

#### 指導の手立て

- ・鏡を使い、自分の口の中の様子を確認させる。
- ・歯の個人カードを作成し、自分の歯の様子を確認させる。
- ・クラス全体のみがき残しの多い部分の歯列図を作り、どこがむし歯になりやすいかを確認させる。
- ・歯みがきチェックカードでみがき残しの多い部分に焦点をあててみがく技術の向上を図る。
- ・染め出しテストにより、みがき残しがあることを確認させる。
- ・歯にはいろいろな形やはたらきがあることを理解させる。
- ・6歳臼歯（第一大臼歯）の特徴を理解させる。

・歯みがきの時間が1分程度で短い。 ・みがき方がわからない。 ・自分ではきちんとみがいているつもりだが、みがき残しが多い。 ・おしゃべりしながらみがく児童が多い。 ・一日、三回歯みがきをしない児童が多い。	自分から歯をきれいにみがける子	・染め出しテストにより、みがき残しがあることを確認させる。 ・正しい歯ブラシの使い方を身に付けさせる。 ・自分の歯の形に合わせて、ていねいにみがける。 ・順序よくみがく方法を、身に付けさせる。 ・歯みがきカレンダーを記入させ、一日三回の歯みがきを習慣化させる。
・朝、時間にゆとりのない児童が多い。 ・おやつにスナック菓子を毎日食べている。 ・健康を考えた食物への関心が低い。	健康を考えた食生活ができる子	・むし歯になりやすい種類のおやつを理解させる。 ・日常生活の中で、歯によい食物をすすんでもらるようにさせる。 ・食べたら、すぐ、みがくことの大切さを理解させる。 ・給食指導の中で、健康を考えた食事が大切であることを理解させ、実践させる。

## 2. 研究の経過

月	研究の内容	児童への取り組み
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究組織（学習部、実践部、啓発部）配属</li> <li>懇談会での保護者に対しての啓発</li> <li>「歯のはかせコーナー」への掲示物の検討および作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入学時に歯ブラシの配布</li> <li>ぶくぶくうがいの指導</li> <li>「歯みがきの勧め」「よい歯ブラシ、わるい歯ブラシ」「はやくむし歯をおいましょう」についての掲示</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食後の歯みがき指導の開始</li> <li>歯科定期検診の集計および結果分析</li> <li>学級だより配布</li> <li>歯みがきカレンダーによる指導</li> <li>学級活動「歯の汚れとむし歯」指導</li> <li>むし歯予防週間への取り組み検討</li> <li>学年だよりの発行</li> <li>6、7月分「歯のはかせコーナー」への掲示物の検討および作成</li> <li>歯みがきカレンダーの集計、考察</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歯ブラシはランチセットとともに毎日、コップは週末にもちかえりを指導</li> <li>むし歯のない児童への賞状配布</li> <li>むし歯治療の勧告書配布</li> <li>むし歯治療の済んだ児童の賞賛と保護者に対し早期治療の啓発</li> <li>カレンダーは教室保管、学校で記録することを指導</li> <li>歯みがきの大切さの指導</li> <li>空の牛乳パックの使い方の指導</li> <li>「むし歯0学級をめざそう」掲示による治療意欲の喚起</li> <li>歯みがきの絵制作、作品掲示</li> <li>よい歯の標語作成</li> <li>保護者に対し早期治療の啓発</li> <li>むし歯治療の勧告書配布2回目</li> <li>「ブラークとむし歯」「歯みがきじょうずの3つのポイント」について掲示</li> <li>取り組みのよい児童への賞賛</li> </ul>

6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオによる歯みがき指導の開始</li> <li>・歯みがきカレンダーによる指導</li> <li>・児童の実態調査の集計、考察</li> <li>・染め出しテストの実施</li> <li>・計画訪問指導案作成</li> <li>・事後指導への取り組ませ方の手立てと考察</li> <li>・鏡で口の中を見させながら歯みがき指導開始</li> <li>・歯科衛生士による歯みがき指導の実施</li> <li>・歯みがきカレンダーの集計、考察</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みがく順序と力の入れ方の指導</li> <li>・歯みがきカレンダーの記録は登校後記入し提出するよう指導</li> <li>・歯に関するアンケート実施</li> <li>・チェックカードの記入</li> <li>・学級指導「歯みがきのチャンピオンになろう」授業実践</li> <li>・実践カードへの記入</li> <li>・口の中がよく見える鏡の見方の指導</li> <li>・歯プランの点検</li> <li>・親への参加の呼び掛けと家庭における歯みがき指導の見直し</li> <li>・取り組みのよい児童への賞賛</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯みがきカレンダーによる指導</li> <li>・ポイントを決めた歯みがき指導の開始と染め出しテストの実施</li> <li>・保護者への啓発と家での取り組みのアンケート調査</li> <li>・未治療家庭への働きかけ</li> <li>・「6歳臼歯のみがき方」指導案作成と検討</li> <li>・紀要原稿素案作成</li> <li>・要請訪問</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯みがきカレンダーの記録は家庭で行うよう指導</li> <li>・チェックカードへの記入とみがき残しのないみがき方への取り組みへの意欲化</li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「歯の健康とおやつ」指導案作成と検討</li> <li>・実践授業に向けての資料収集と教材の作成</li> <li>・紀要原稿の中間検討と仕上げ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・むし歯治療の勧告書配布3回目</li> </ul>

### 3. 実践例

#### ◇ 授業

##### (1) 指導案

###### 学級活動（保健指導）指導案

###### 授業の視点

実際に歯をみがかせることにより、問題点に気付かせ歯ブラシの持ち方・みがき方を理解させれば、一つ一つの歯をていねいに磨きむし歯を防ごうとする意欲を高めることができるであろう。

**1. 題材名** 歯みがきチャンピオンになろう  
(歯ブラシの選び方・使い方と歯のみがき方)

#### 2. 考察

##### ① 題材に関わる価値

平成5年度・群馬県学校保健調査の健康面での県内の子どものむし歯の多さが指摘された。特に幼児は処理完了と未処理を含めて、85.4%と全国平均よりも6.7ポイント高かった。一方、処理完了者の割合は全国平均より上で、むし歯の発生は多いものの処理は全般的に行き届いていると報告されている。

当学級においては処理完了児40.6%未処理児56.3%むし歯のない児童6.3%となっており県内平均よりも処理完了と未処理者の割合のポイントが高く、処理も行き届いているとはいえない。一年生のむし歯予防の取り組みは、入学以前は保護者の指導で行われてきており、家庭で

の歯みがき指導の不徹底にその原因の一端があったと考えられる。日常の歯みがきの様子からも、そのみがき方は、ただ口のなかで歯ブラシをくわえているだけの児童が数多く見受けられる。

歯みがきの目的は、歯の表面に付着したブラーク（歯垢）を取り除くことである。みがいてもブラークが取れていなければみがいたことにならない。母親との会話の中に「毎日みがいているのにむし歯になってしまう。」という内容がよくでてくるが、これは家庭では正しくみがけていない。つまりみがいていないに等しいと推察される。日頃からよく歯みがきをしているのに、むし歯や歯周疾患になってしまう場合が多くみられるのは、それはみがき残しがあったからである。みがき残しのないみがき方ができれば生涯健康な歯と歯ぐきを保つことが可能であると考えられる。

そこで、一年生に入学して間もないこの時期に、口の中を見ながら、みがき残しのないみがき方を身に付けさせることは、むし歯予防につながることであると考えこの題材を設定した。また、児童の歯みがきに対する関心と技能を高めることで親の歯みがきに対する関心をも高め家庭との連携まで繋いでいきたいと考える。

あわせて、この授業を一つのきっかけとして歯を観察する習慣を身に付けさせ、「自分の体を知り積極的に健康つくりに取り組む児童の育成」を図りたいと考える。

## ② 系統（略）

## ③ 児童の実態

（男子14名 女子18名 計32名）

5月の歯科健診を基に、児童の処置

歯、未処置歯の状況を調査した。（表1）

表1 児童の処置歯、未処置歯の状況

		6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6
上	永 久 歯	総本数(本)	19	0	0	0	9	9	0	0	0	0	19
	処理歯(本)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	未処理歯(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
下	乳 歯	総本数(本)	E	D	C	B	A	A	B	C	D	E	
	処理歯(本)	31	31	32	28	16	16	27	31	30	32		
	未処理歯(本)	13	16	9	9	8	8	9	17	16			
下	乳 歯	総本数(本)	E	D	C	B	A	A	B	C	D	E	
	処理歯(本)	31	31	32	16	8	8	15	30	31	30		
	未処理歯(本)	20	23	3	2	1	1	1	5	21	21		
下	永 久 歯	総本数(本)	4	1	2	0	0	0	0	1	1	2	
	処理歯(%)	24	0	0	0	11	22	20	9	0	0	0	25
	未処理歯(%)	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7

乳歯の処置歯未処置歯の状況はどの歯もむし歯になっているといえる。特に上・下・右・左ともE・D歯が多い。乳歯全部がむし歯の児童も2名いるが治療は済んでいる。全般的に治療はよくしてあるが、治療後また新しいむし歯をつくり、むし歯になりやすい上・下・右・左のD・E歯に未処理のむし歯が多く見られる。

永久歯の処置歯未処置歯の状況は、上・下・右・左とも第一大臼歯に処置歯未処置歯があり、特に、下の第二大臼歯は左46%右44%が罹患していて、治療済みの割合も低い。

以上の結果から、乳歯・永久歯とともに、手前の見やすくみがきやすい前歯に比べ、みがきにくい奥歯のむし歯が多いことがわかる。このことから、歯ブラシの選び方・使い方と歯のみがき方の指導が必要である。

## ○歯みがきに関する調査

平成6年5月23日調査 対象保護者

朝	(人)
朝食前にみがく	0
朝食後にみがく	31
朝食前と後両方みがく	0
みがかない	1

## みがかない理由

食後にうがい

## みがく時の鏡の使用

見ている	8
見ていない	24

## おやつの時

みがく	1
時々みがく	13
みがかない	16

## みがかない理由

習慣化していない  
うがいをさせている  
みがかなくてもよい  
と思った  
そのまま遊んでしまう

## 歯みがきの様子から

よくみがけていると思う	15
みがけていないと思う	17

## 夜

夕食後にみがく	7
ねる前にみがく	24
みがかない	1

## みがかない理由

めんどうくさがる

仕上げは親がする	9名
みがけていないと思う理由	
歯ブラシの使い方がわからない	
奥歯や歯の間に汚れが残っている	
本人まかせだから	
歯みがきしているのにむし歯が多い	
時間をかけない	
みがき方にむらがある	

食べたらみがくという習慣はまだ身についていない。特に、おやつの後の歯みがきはきちんとみがいている児童は1名で、ほとんどの児童が食べたまま遊んでいる。朝食後31名がみがいていると答えたが、登校後の歯みがきカレンダーの記入を見るとみがいていない児童が数名いて、親が確かめをしていない状況が感じられる。また、鏡を見てみがいている割合は低い。みがき方については、歯ブラシの使い方、みがき方、歯みがきにかける時間等に問題があることがうかがえる。

○児童の歯みがきは給食後については徹底してきている。ビデオを見たり鏡を見たりしてみがいており歯みがきにかける時間は確保されているといえる。歯みがきが正しくできているかどうかの視点で観察すると①歯ブラシの持ち方②歯ブラシの動かし方③歯ブラシの力のいれ方④みがいている場所の4点が特に出来ていない。しかし、児童は「きちんとみがけているか。」の問に8名を除いて全員が「みがけている。」と答えており、児童の意識と歯みがきの実態には、ずれがあるといえる。

## ④ 指導方針

## 〈事前の学習〉

⑦ 事前学習として、染め出しテストを行い、どこが染まったかを「歯みがきチェックカード」に記入させ、みがき残しに対する意識を高めたい。

## 〈本時〉

① つかむ段階では、歯みがきの必要なわけを劇化することにより、歯の汚れを落とすことがむし歯を防ぐには大切であることを気付かせる。また、よい歯ブラシ、悪い歯ブラシを提示して、

自分のつかっている歯ブラシへの関心を高める。

④ つきつめる段階では、歯みがきに対し楽しいゲーム感覚で取り組めるように、「歯みがきのチャンピオンになろう」という課題を与え意欲付けを行う。

⑤ 歯ブラシの持ち方を考える場面では、いろいろな持ち方を体験させ実際にみがかせて、自分にあった持ち方を自分で考え判断させる。その時、持ち方の違いをわかりやすくするため「ゲーの持ち方」「こんにちは・さようならの持ち方」「えんぴつの持ち方」などと児童にわかりやすい名称を示し行わせる。持ち方について話し合わせ教えたり教えてもらったりしながら学習を進めさせる。

⑥ 汚れがつきやすい場所に気づかせる学習では、ビスケットを食べさせ鏡で実際に口の中を見させ話し合わせる。発表をもとに、汚れがつきやすい場所を歯列図に示し、一つ一つみがくことの大切さに気づかせる。また、事前学習で行った染めだしテストの結果をビスケットの残りかすがつく場所との関連性にふれ、汚れやすいところに気を付けてみがこうとする意欲を高める。

⑦ 活かす段階ではどの場所を気を付けてみがいたらよいか考えさせ、「きれいにみがく」「ていねいにみがく」というような漠然とした目標にならないようにする。〈事前学習〉

⑧ 事後の学習として、「ぼく（わたし）は はみがきチャンピオン」に目標達成の状況を毎日記入させ実践への取り組みを促す。

⑨ 家庭への協力を呼び掛ける。

#### 〈同和教育上の配慮〉

⑩ 染め出しテストの結果みがき残しの多かった児童をからかわないよう配慮し、みんなで励まし合いながら直していくこうとする態度を育てる。

⑪ 友達の発表をよく聞き、友達の考え方のよさを認め一緒に考えることができるようにする。

#### 〈学校教育目標との関連〉

学校教育目標	学級教育目標	指導方針との関連
きまりを守り 仲よくする子	なかよくしよう	④ ⑨ ⑩
じょうぶな体で がんばりぬく子	さいごまで がんばろう	③ ⑥ ⑦ ⑧
すすんで学び よく考える子	しっかりきいて はっきりいおう	① ② ④ ⑤

### 3. 活動の経過

#### ① 事前の活動

染め出しテストを行い、汚れがついている場所を「はみがきチェックカード」に記入する。

#### ② 本時の活動

##### ③ ねらい

- ・自分にあった歯ブラシの持ち方がわかる。
- ・汚れのつきやすい場所がわかり、一つついでいねいに磨くことができる。

##### ④ 準 備

児童……手鏡・歯ブラシ・コップ・吐き出し用パック・タオル・はみがきチェックカード・むし歯くんのお面と槍

教師……むし歯くんのお面と槍・さとうくんのお面

歯ブラシさんのお面と大きな歯ブラシ

歯みがきチャンピオンの絵・歯ブラシの持ち方の図

師範用の歯の模型と歯ブラシ

・ビスケット

染め出しテストの結果

「ぼく（わたし）ははみがき

「チャンピオン」のカード

## ④ 展 開

過程	学習活動	教師の支援および留意点	資料・用具
つかむ7分	<p>1. むし歯の進むようすがわかり、歯みがきをすることでもむし歯が防げることに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○むし歯菌だけではむし歯にならないことを知る。</li> <li>○むし歯菌とさとうが結び付いてむし歯になることを知る。</li> <li>○むし歯を防ぐには歯みがきが必要だと気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・むし歯菌と糖分が結び付いて、むし歯になることを劇化することにより、学習に対する意欲を喚起する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・むし歯くんのお面と槍</li> <li>・さとうくんのお面</li> <li>・歯ブラシさんのお面と大きな歯ブラシ</li> </ul>
つきつめる33分	<p>2. 歯をきれいに磨くために、歯ブラシの持ち方、磨き方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○色々な方法で磨いてみて、自分にあった歯ブラシの持ち方を知る。</li> </ul> <p>○汚れがつきやすいところに気付き発表する。</p> <p>歯とはぐき・歯と歯の間 前歯の裏側 奥歯のくぼみ</p> <p>○汚れやすい所に気を付けて一つ一つていねいに磨く</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「はみがきのチャンピオンになろう」という課題を与え、意欲を喚起する。</li> <li>・色々な持ち方があるので指名しみんなの前で実演させ違いに気づかせる。</li> <li>・どれがいいと強調するのなくいろいろな方法を試させて自分にあった方法に気づくよう援助する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「はみがきのチャンピオン」の絵</li> <li>・歯ブラシの持ち方の図 グーの持ち方 こんにちは・さようならの持ち方 えんぴつの持ち方</li> </ul> <p>児童</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歯ブラシ</li> <li>コップ</li> <li>空き牛乳パック</li> </ul> <p>教師</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歯ブラシ</li> <li>・ビスケット</li> <li>・鏡</li> <li>・染め出しテストの結果</li> <li>・歯列図</li> </ul>
	3. これまでの歯みがきをふりかえり、これから直そうとすることを考える。		

<b>活 か す 5 分</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○どこを特に気を付けてみがくか考え、カードに記入する。</li> <li>○自分の考えを発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・染め出しテストの結果や黒板に掲示されている歯列図を見ながら具体的に書くよう助言する。</li> <li>・なるべくたくさんの子に発表させ、どんな小さいことでも励まし実践しようとする意欲を高める。</li> <li>・歯みがきチャンピオンの王冠をきれいな色がぬれるよう、毎日の歯みがきをしようと励ます。</li> </ul>	『ぼく（わたし）は はみがきチャンピオン』のカード
----------------------------------	---	---	---------------------------

### ② 評価の観点

- ・歯についた汚れを落としむし歯を防ぐために、歯みがきが必要だとわかったか。
- ・自分にあっか歯ブラシの持ち方ができたか。
- ・汚れやすい場所がわかり、一つ一つていねいに磨こうとする態度が培われたか。
- ・友達の意見や発表をしっかり聞くことができたか。

### ③ 事後の活動

- ・「ぼく（わたし）は はみがきチャンピオン」のカードに目標達成の状況を記入する。
- ・学年だより、学級だよりを通して家庭での協力を呼び掛ける。

### （2）事前の活動での児童の様子

6月3日第2校時に染め出しテストを実施した。歯みがきを学校ではしていない状況で、歯の汚れを調べた。始める前に「きょう、朝、歯みがきをしてきた人」との問に5名を除いて27名が「みがいてきた。」と答え、自信がある様子が伺えた。染め出し液は養護教諭が塗り、結果の判定は担任が行った。はみがきチェックカードの歯列図に汚れを記入させる学習は、児童にとってはじめての経験であるため鏡を見ながらの記入には無理があると考えられた。そこで、担任が口の

中を見ながら汚れを記入し一人ひとりに汚れている場所を教えた。結果が「A」の児童は「私きれいにみがいているよ。見て。」などと満足そうに友達に自慢していた。結果が「C」の児童は「歯みがきをしてきたのに」とか「毎日きれいにみがいているよ。」と意外そうな答えが返ってきた。染めだしテストの結果はA (18%) B (44%) C (38%) と汚れが落ちていない児童が多い結果となった。この事前活動によって、毎日みがいていても汚れが落ちていない事実に気付かせることができたとともに、これからは気を付けてみがいていこうとする意欲を高めることができた。

### （3）授業反省

つかむ段階で、歯みがきの必要な訳を劇化したことで、むし歯菌と砂糖が結び付いて歯の汚れがつくことがわかり、汚れをおとすための歯みがきの必要性に関心を持って考えることができた。劇の場面でX（男）の活動が意欲的であった。砂糖君役としての活動であったが、むし歯と糖分との結び付きに気付き活動できた。その後の学習にも積極的に取り組んでいた。

つきつめる段階では、体験的な活動を十分に取り入れた学習ができた。歯ブラシの持ち方を考えさせる場面でいろいろな持ち方を実際にさせて考えさせたところ、ほとんどの児童が「えんぴつのもち方がよい。」と答

えた。えんぴつの持ち方の紹介をしたB(女)は自分の持ち方が皆さんから認められたことに対し自信を高め、その後の授業でも積極的に発言し、歯みがきの場面では鏡を見ながら大きな口を開けてみがくなど、実践への意欲が培われた。

ビスケットを食べさせ汚れがどこにつくか鏡で確かめさせた。チョコレート味のビスケットを用いたので、汚れが目で確認できたが、歯と歯ぐきの間にはつかなかった。

活かす場面で、歯みがきチャンピオンの王冠にきれいな色をぬろうと働きかけたことは、目標にそって歯みがきしようとする意欲を持たせるために効果的であった。

劇の時に使用した歯の模型が汚れがついたままだったが活かす場面でその汚れを落とす活動があったから、歯みがきしようとする意欲がさらに高まったのではないかと考えられる。

#### (4) 事後の活動での児童の変容と考察

事後の活動として、『ぼく(わたし)ははみがきチャンピオン』に記入させ実践化に結びつけた。

「歯と歯の間に気をつけてみがく。」「一本一本気をつけてみがく。」「奥歯の溝に気をつける。」等自分の歯の汚れに応じた目標の実践が行われた。教室での歯みがきの実践でも、鏡を見ながら自分のめあてにあった場所を真剣にみがく姿がみられるようになった。また、家庭からの連絡で「今までふらふら歩きながら、また、まわりの人と話をしながらみがいていることがよくありましたが、ここ一週間は、鏡を見ながらゆっくり丁寧に落ち着いてみがけるようになってきたと思います。」「姉が一生懸命みがくので妹もきちんとみがくようになりました。」等、家の取り組みにも変化が現れた。さらに家族の者の歯

みがきに関する関心を高めることができた。

#### ② 毎日の実践

##### 〈4月・5月〉

###### 歯みがきカレンダーの利用

歯みがきが習慣化し児童自ら進んで取り組めるよう歯みがきカレンダーを利用している。入学当初の4月は給食指導に時間がかかり、食後の歯みがきは行うのが困難だったため、ブクブクうがいの指導を行った。5月の連休明けから歯みがき指導を取り入れそれと同時に歯みがきカレンダーへの記入で意欲化をはかった。5月中は給食後一斉に、前日の夜・当日の朝の分もまとめて記入させ、机間巡回を行いながら、よく取り組めている児童に対しては賞賛を与え、取り組みにつまづきの見られる児童へは励ましを行った。

##### 〈6月〉

###### 染め出しテストの実施

6月3日に染め出しテストを行い、一人ひとりの児童の染め出しの結果を歯みがきチェックカードに記入させ考えさせた。その結果、みがき残し「歯のうらがわ」「奥歯のみぞ」「歯と歯の間」「歯と歯ぐきの間」に多いことを明確に理解させることができた。

###### 歯みがきのビデオの利用と手鏡の活用

給食後の歯みがきは空の牛乳パックを準備し、コップに水を汲んできて自分の席で行わせた。ブラッシングさせながら、歯ブラシの当て方・動かし方・力のいれ方の指導もあわせて行った。また、歯みがきチェックカードの記入により、みがき残しの多い場所が分かったので、順序よく歯をみがき、みがき残しをなくすよう、保健委員会が作成した歯みがきのビデオを見ながらブラッシングさせた。その結果、みがく順序が分かりみがき残しがないよう気を付けてみがけるようになった。ビデオを2回習慣視聴させ、みがき方をマ

スターさせた後、各自が手鏡を持って自分の歯の様子に合ったみがき方でみがくよう工夫させる指導を行った。

〈7月〉

歯みがきカレンダーの家庭での取り組み

7月に入り、家庭との連携をはかり、歯みがき実践をより高める目的で家庭へカレンダーを持ちかえらせ記入させた。「色をぬるのが楽しみで家でも忘れずに歯をみがくようになりました。」「目につく場所に貼って利用しています。」等、家庭からの反響も大きく歯みがきの習慣化に役立った。

ポイント染め出しテストの実施

歯みがきのみがき方もていねいになり、取り組みの意欲も高まってきたので7月に入りポイントを決め歯みがき指導を行った。第1週目は「歯と歯のあいだ」「歯と歯ぐきのあいだ」のみがき方の指導を重点的に行い、家庭へも協力依頼した。週末の金曜日にはポイント染めだしテストを実施し、取り組みへの評価を行った。「ちいさくなつてぼくのくちにはいってむしばをころしたい。」「もうすこしきれいに。ばいきんをころしてそまんないようにしたい。」「もっときれいにみがきます。こんどAになるよ。」等意欲を持ってみがくようになった。チェックの結果もCの子が少くなり技術の向上がはかられた。第2週目は「歯のうらがわ」「奥歯のみぞ」の指導を行った。チェックの結果では、6歳臼歯の歯の裏側がみがけていない児童がクラスの半数近くいてAの児童が少なくなった。ポイントみがきでも見落としてしまう場所があることに児童も気づき、よりていねいにみがくようになった。

### ③ 保護者への啓発

〈学級通信・チェックカードの利用〉

ポイント染め出しチェックカードを利用し

学校で取り組んでいるポイントおよび染め出しの結果を家庭に連絡した。そして、家での取り組みの様子や変わってきたところなどの回答を書いてもらうことで児童の指導とともに親への啓発を行った。また、学級通信を利用して、その週にするポイントを知らせたり、染め出し結果の良かった児童の紹介や、前回よりもみがき方の良くなった児童の紹介を行った。チェックカードに対しては児童も親も関心が高く親の返事の中にも「前にテストした時の結果と同じ部分がみがき残り、今まで以上に注意してみがかせたいと思います。」「1日3回みがいていますが、少しそっかしい結果がBになっていると思います。」等の意見があった。歯列図によってみがき残しの部分が親にもわかり、今後の家の歯みがきのポイントになったり、チェック結果が毎回でるのでそれを見て今までの歯みがきの反省を行ったりしている結果と考えられ、親への啓発の効果が高かった。

〈親と子のブラッシング教室〉

「歯の染め出しテスト」「歯みがきチャンピオンになろう」の家の取り組み、「ピカピカくんだより」による啓発などで親の歯に対する関心が高まってきた時に、親と子のブラッシング教室が1年生を対象に行われた。保護者にとって歯ブラシの持ち方から選び方、みがき方などを実際のブラッシングを通して学習でき大変参考になったようである。親からの通信でも、学んだ技術を家庭で実践している様子が伺えた。

## 4. まとめと今後の課題

### (1) まとめ

- ① 学級活動の指導を通して
  - ・「歯みがきチャンピオンになろう」の授業実践を通して児童ばかりでなく親も家

庭における歯みがき指導に気を配るようになってきた。事前の染め出しテスト、事後の実践カード「ぼく（わたし）は歯みがきチャンピオン」活動を含めて、みがき残しの多い場所がわかりめあてを持ってみがけるようになってきた。また、実践カードの利用により、言われてするのではなく自分からしようとする意欲の高まりがみられるようになった。

② 日常の実践を通して

- ・ポイントをきめみがき方の指導をした後、染め出しテストを実施したことにより、みがき方の技術が向上してきた。また、親子ブラッシング教室を開催し児童ばかりでなく親の技術の向上を図った。その結果、「仕上げみがき」をする親が増えてきている。染め出しテストは児童の口の中に対する関心をも高める効果があり、歯の生えかわり、むし歯の有無等を手鏡で調べ報告する児童もみうけられるようになってきた。
- ・歯みがきカレンダーの利用、給食後の歯みがき指導、ポイントチェックカードの利用、家庭での実践により、児童は自分の歯の様子を知るとともに、歯の働きや大切さに気付き、ていねいにみがこうとする態度が身に付いてきている。

③ 家庭との連携を通して

- ・学級通信、チェックカードにより学校での取り組みの様子を家庭に知らせた。それにより、家庭での取り組みがより具体的になり歯に対する関心の高まりがみられるようになった。
- ・「ピカピカくんだより」による啓発で親の歯に対する関心が高まってきた時に、ブラッシング教室が行われた。それにより、みがき方を具体的に保護者に知らせ

ることができ、歯のみがき方の技術の向上がはかられた。

(2) 今後の課題

- ・みがき方の技術の向上のためポイントをきめ指導した。しかし、染め出しテストの結果、歯と歯ぐきのあいだおよび6歳臼歯の裏側のみがき残しはまだ多くの児童に見られた。ブラークを完全に除去できなければむし歯の原因となるので今後も引き続きポイントみがきの指導を行う必要がある。特に6歳臼歯が萌出している児童の臼歯のみぞや裏側のみがき残しがあるので6歳臼歯に視点を当てた指導が必要と考えられる。
- ・学習過程における資料のより有効的な活用の仕方を考えるとともに、児童の興味関心を呼び起こす資料の作成を今後も行う必要がある。
- ・歯みがき指導は給食後一斉に教室内で指導しているが、ポイントの染め出しテストをするとなると時間確保が難しい。しかし、染め出しテストの結果には児童は大変興味を示し、良い結果を得ようとして歯みがきをよりていねいにし、それが実践力に結び付いている。そこで、児童が自主的に自分で染め出しテストを行い、その結果を見てみがき残しのない歯みがきの仕方を工夫できるよう、染め出し液の塗り方や汚れの見分け方の指導が今後必要である。
- ・むし歯のでき方や歯みがきの指導を主に行ってきたが、むし歯と糖分の関係についての学習は十分とは言えない。そこで、糖分がとられやすいおやつに着目し、むし歯になりやすい種類のおやつを理解させる必要がある。あわせて、家庭との連携をはかりながら好き嫌いなく何でも食べることの大切さを教えていく必要である。

## ◆◆ 2 年 の 取 り 組 み ◆◆

### 1. 学年の児童の実態、重点目標

児童の実態	
日常の観察から	アンケート結果から
<p>◆ 基本的な生活習慣</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明るく、元気がよい。</li> <li>・指示された仕事はしっかりできる。</li> <li>・整理整頓が上手にできない。</li> <li>・学用品などの忘れ物が多い。</li> </ul> <p>◆ 学習面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・与えられた課題には、熱心に取り組める。</li> <li>・集中力が持続せず、他のことに気を取られやすい。</li> </ul> <p>◆ 健康・安全面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席しがちな児童はほとんど見られない。</li> <li>・食生活が偏りがちである。</li> </ul>	<p>①歯の健康づくり（保護者の取り組み）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・むしば予防のために、定期的に口の中を見たり、歯みがきをきちんとさせたりする家庭が多い。</li> <li>・食生活に対する関心がやや減少ぎみ。</li> </ul> <p>②健康な歯づくり（児童の取り組み）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食後歯みがきをする児童が増えた。</li> <li>・歯をみがく時間が長くなった。</li> <li>・むし歯があっても歯医者にいけない児童がいる。</li> </ul> <p>③生活のようす（児童）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝、自分で起きたり、顔を毎朝洗ったりできる児童が増えた。</li> <li>・朝食をきちんと食べてこない児童が見られる。</li> </ul>



重 点 目 標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の生え変わった歯に興味を持つとともに、乳歯と永久歯の違いを知り、歯の形に応じたていねいなみがき方を身につける。</li> <li>・歯によい食べ物を知り、好き嫌いなく何でも食べることが大切であることを理解する。</li> </ul>



歯の健康づくりに関する実態	めざす児童像	指導の手立て
<ul style="list-style-type: none"> <li>・むし歯は病気だと思う児童が増えた。</li> <li>・生え変わった永久歯を大切にしようといった意識が薄い。</li> <li>・う歯保有者の数が増加した。</li> <li>・歯の汚れがむし歯のもとであることを十分に理解していない。</li> <li>・いろいろな歯の形がわかる。</li> </ul>	<p>自分の歯の様子が分かる子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鏡を使い、自分のむし歯の数を確認させる。</li> <li>・乳歯と永久歯のちがいを知り、自分の乳歯と永久歯を確認させる。</li> <li>・6歳臼歯がどうなっているか調べさせる。</li> <li>・ブラークとむし歯の関係について理解させる。</li> <li>・切歯、犬歯、臼歯の形とはたらきを理解させる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・食後の歯みがきは、だいぶ習慣化してきた。</li> <li>・歯ブラシの正しい持ち方や動かし方のできる児童は少ないようである。</li> <li>・ただ歯ブラシをくわえて無意識に動かしているだけといった児童が多い。</li> </ul>	<p>自分から歯をきれいにみがける子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・染め出しテストにより、みがき残しがあることを確認させる。</li> <li>・歯ブラシの正しい当て方と動かし方を身に付けさせる。</li> <li>・歯の形に応じたていねいなみがき方を身に付けさせる。</li> </ul>

・好き嫌いする児童が多い。 ・手作りおやつを食べたり牛乳を飲んだりする児童が増えた。スナック菓子を食べる児童も減少している。 ・一方甘いお菓子を食べる児童が増加している。	健康を考えた食生活ができる子	・歯によい食べ物があることを知らせる。 ・何でも好き嫌いなく食べることが大切であることを理解させる。 ・歯によいおやつについて理解させる。
---	----------------	---

## 2. 研究の経過

月	研究の内容	児童への取り組み
4	・校内研修組織配属 ・歯みがきカレンダー各月集計開始 ・歯みがきタイムの検討	・歯みがきカレンダーの記入開始 ・歯みがきビデオの視聴 ・ピカピカくんよりの配布
5	・公開授業者の決定 ・研究紀要のまとめ方についての検討 ・計画訪問における学級活動の授業者の決定 ・計画訪問における質問事項の検討 ・公開授業に向けての教材研究 ・むし歯予防ポスター学年審査	・学級活動 「子どもの歯と大人の歯」 ・むし歯予防ポスターの作成
6	・学級活動年間計画の改善 ・資料展示室の掲示物の検討 ・歯の保健指導の年間計画の見直し ・歯の保健指導の要素表の検討 ・歯の健康づくりの実態についてのアンケート実施、集計、分析 ・公開授業に向けての教材研究 ・学力向上・いきいき体験活動校内推進組織配属 ・いきいき体験活動年間計画の作成 ・歯の健康づくり活動内容の一覧表の検討 ・公開授業に向けての教材研究	・学級活動 「歯ブラシの當て方と動かし方」  ・染め出しテスト実施 ・歯の健康づくりの実態についてのアンケートを実施 ・むし歯予防標語の募集 ・学年だより「こんにちは、ピカピカくん」のコーナーを設置
7	・学年別評価の観点一覧表の検討 ・歯の保健指導における支援のあり方について検討 ・夏季休業中の研修計画について（話し合い） ・要請訪問の準備 ・紀要内容の検討	
8	・今後の研究の進め方について（話し合い） ・歯の保健指導の略案作成	

### 3. 実践例

#### ① 授業

##### (1) 指導案

学級活動（保健指導）指導案

##### 授業の視点

「おしゃい作り」の活動や視覚教材を工夫することにより、大人の歯と子どもの歯の違いがつかめたらば、歯を大切にしようとする意識が高まるであろう。

##### 1. 題材名

「大人の歯と子どもの歯」

##### 2. 考察

###### ① 題材に関わる価値

低学年の児童は6歳臼歯が生えそろい、上下の前歯（切歯）が生えかける乳歯と永久歯の混じった、混合歯列期である。つまりあごの骨の成長に伴って乳歯は抜け落ち、かわって永久歯が生えてくる。

しかし生えて2～3年の間は永久歯のエナメル質の結晶が十分完成していないため酸に弱く、歯みがきを怠れば、すぐにむし歯になるのである。また初めの永久歯である6歳臼歯は1年かかるため、萌出を終えるまでに上の歯が28パーセント、下の歯が60パーセントもむし歯になっているという報告もある。また一般に「乳歯は永久歯に生えかわるのだから」と、乳歯のむし歯を安易に考え、歯医者に行かなかったりする傾向も見られる。しかし乳歯のむし歯を放っておくと、根元に膿がたまったり、出ようとしている永久歯に、残っていたむし歯菌が付いてむし歯になるのである。

この大事な時期に、学級の児童のむし歯を防ごうとする意識と理解は、まだま

だ不十分である。歯をみがいてはいても、人に言われるからであったり義務で歯をみがいていたりすることが少なくなっている。そのために6歳臼歯をすでにむし歯にしてしまった児童も見られる。

そこで乳歯と永久歯の違いを自ら考え、はっきりと理解し、乳歯の段階から歯を守ろうとする意識をもたせることが必要である。生え変わらない大人の歯を楽しみに待ち、ていねいにみがいて大切に守っていこうとする意識を育てていきたいと考える。そこで本題材を設定した。

###### ② 系統 略

###### ③ 児童の実態

本学級の児童は男子19名、女子13名、計32名である。春の健康診断では、むし歯の治療を要する児童は表のように、72パーセントに及んだ。昼食後ビデオを見ながらの歯みがきを続けているが、6月初旬実施の歯垢染め出しテストでは、歯と歯の間や奥歯にみがき残しがあり、まだまだ丁寧にみがけていない児童も見られた。

う歯保有者最多本数	10本
要注意乳歯保有者	1名
治療勧告者	23名
う歯以外の病気の者	歯石1名

次に大人の歯と子どもの歯の違いについて、知っている事をアンケートに書かせたところ、次頁のような結果となつた。

（人数は複数回答あり）

1. 自分の歯のうち、大人の歯が何本あるか知っていますか。

知っている 23名 知らない 9名

2. 大人の歯と子どもの歯の違いについて、知っていることは何ですか。

- ・大人の歯は、生え変わって出てくる。  
(1名)
- ・大人の歯は、前歯の形が違う。  
(1名)
- ・大人の歯はぎざぎざしてきる。  
(3名)
- ・大きさが違う。  
(5名)
- ・大人の歯は根が深く、子どもの歯は浅い。  
(2名)
- ・大人の歯のほうが数多い。  
(1名)
- ・大人の歯は抜けない。  
(1名)

3. 大人の歯を大切にするためには、何をしたらよいですか。

- ・しっかり歯をみがく。  
(29名)
- ・好き嫌いなく食べる。  
(5名)
- ・甘いものを食べたあとには、よく歯みがきをする。  
(1名)
- ・甘いものをあまり食べないようにする。  
(2名)
- ・魚や小魚をよく食べる。  
(1名)

1の問に対して、「6歳臼歯も大人の歯ですか」という質問があり、どの歯が大人の歯か、はっきりとはかっていない様子であった。2の問に対しては無答も多く、大人の歯についての知識はまだまだ少ないようである。3に対しては、ほとんどの児童が「歯みがきをすること」を挙げていた。

④ 指導方針〈事前の活動〉

⑦ 自分の歯と父母の歯の観察を通して乳歯と永久歯を比べ、その違い（大きさ、色、形、根の深さ、数、丈夫さ、

生えかわるか）を調べさせたい。

① 役割演技である短い「おしばい」をすることを知らせ、グループで役割を決め、意欲化をはかりたい。〈本時〉

⑦ 目で訴える教材の工夫（ペーパーサークル、歯の寿命テープ）により、児童に興味を持たせて、大人の歯と子どもの歯の違いを考えさせたい。

② 児童が中心となって活動する場（「おしばい作り」として、役割演技をする）を設定することにより、児童自らの歯の気持ちになって、楽しく授業に参加し、健康の大切さを考えさせたい。

〈事後の活動〉

⑧ 毎月歯の日を決めて、歯みがきの様子について話し合い、歯の健康を増進する意欲や実践力を高めたい。

〈同和教育上の配慮〉

⑨ しっかり友達の発表を聞いたり、自分の考えが言えたりできるようにする。

⑩ 仲良く協力しあって、グループで「おしばい作り」ができるようにする。

〈教育目標との関連〉

学校教育目標	学級教育目標	指導方針との関連
きまりを守り 仲良くする子	友達にやさしく する子	⑥ ⑦
じょうぶな体で がんばりぬく子	すすんで仕事を する子	④ ⑤
すすんで学び よく考える子	しっかり聞いて 考える子	① ② ③

### 3. 活動の経過

① 事前の活動

- ・児童は事前に父母の歯を観察し、乳歯と永久歯の違いを見つけておく。
- ・グループ内で、「 」以外を読む者、大人の歯役、子どもの歯の役を話し合

い、決めておく。

## ② 本時の活動

### ⑦ ねらい

歯には乳歯と永久歯がある事を理解し、生えつつある大人の歯を大切にしようとする意欲が育つ。

### ⑧ 準 備

鏡、児童の抜けた乳歯、抜けた永久歯、生えかわりの模型のペーパーサート「おしばい作り」の脚本シート、大人の歯と子どもの歯のお面、歯の寿命テープ、乳歯とむし歯のむし歯罹患率の関係図、歯の模型図

## ⑨ 展 開

過程	学習活動	教師の支援および留意点	資料・用具
↑ つかむ 7分 ↓	1. 家で父母の歯と自分の歯の違いを見つけてきたことを発表しあう。 ・鏡で観察したり抜けた歯を見たりする。	・アンケート2の問い合わせに答えられなかった児童を中心に意図的に指名する。同じ意見の者にも同意の挙手を促し、調べてきたことへの満足感を持たせる。 ・大人の歯がぎざぎざしていること、大きいこと、根が深いことに気付くよう助言する。	鏡 抜けた乳歯 永久歯
↑ つきつめる 33分 ↓	2. 生えかわりの仕組みを知る。 ・永久歯は乳歯の下で、生えかわるまで待機していることを知らせる。 3. 大人の歯と子どもの歯の生えかわりの「おしばい」をする。 ・吹き出しを書く。 ・班で話し合う。 ・おしばいをする。 4. 永久歯は、一生使う歯であることを知る。 ・歯の寿命を考える。	・ペーパーサートを使って楽しく説明し、興味を持たせる。 ・乳歯の根がだんだん小さくなつて永久歯が出てくることに気づくようにする。 ・大人の歯と子どもの歯になったつもりで脚本シートに吹き出しを書くよう伝える。 ・仲良くグループで「おしばい」のセリフ（吹き出し）を話し合えるよう、机間巡視をして励ます。 ・班ごとにお面をかぶって、大人の歯と子どもの歯の生えかわりの時期の会話の「おしばい」を発表できるよう援助する。 ・歯の寿命テープを黒板に少しづつ貼り、時間の長さに共感させる。	生えかわる仕組みのペーパーサート 脚本シート 大人の歯と子どもの歯のお面 歯の寿命テープ
↑ 活かす 5分 ↓	5. 大人の歯のために必要なことを話し合う。 ・歯みがきが大切 ・好き嫌いなく食べることが大切 6. 自分はこれからどうすべきかを考える。	・「歯みがき」が必要なことはすぐに出でてくるが概念的であるため、「むし歯罹患率関係図」を見せ、なぜみがくことが必要なのか、詳しく補足説明する。 ・むし歯のある児童を意図的に指名する。 ・昼食後の歯みがきに進んで取り組むよう励ます。	むし歯罹患率関係図 歯の模型図

## ⑩ 評価の視点

- ・乳歯と永久歯の違いがわかったか。
- ・進んで「おしばい作り」に取り組み、歯を大切にする意欲が高まったか。

## ⑪ 事後の活動

月に1回歯垢染め出しテストを行い、自分に合った歯みがきの仕方の工夫を考えるようにする。

## (2) 事前の活動での児童の様子

① 自分の歯と父母の歯の観察を通して、乳歯と永久歯を比べ、その違いを見付ける。

家で父母の歯を見て、そのあと自分の歯を鏡で見ながら違いを探してくるようにと、事前に課題を出した。その結果は下のようである。(31名中)

・大きさの違いに気付いた	～26名
・数の違いに気付いた	～21名
・生え代わるかの違い	～12名
・色の違い (永久歯は黄色っぽい)	～7名
・形の違い (乳歯はギザギザ・溝の深さ)	～7名
・歯と歯の間にすき間があるか	～5名
・永久歯のじょうぶさ (堅さ) に気付いた	～3名
・歯の根が深いか、浅いか	～2名

ほとんどの児童が、乳歯と永久歯の違いをおおまかにつかめたことがうかがえた。したがって授業では、違いを確認しあい理由まで話し合う必要を感じた。

② 役割演技である短い「おしばい」をすることを知らせ、グループで役割を決め、意欲化を図る。

席が近い者同志で5、6人のグループを6班作った。班ごとに「おとなのはと 子どものは」のプリントを配り、役を決め、「どんなお話しをしているかな」と投げ掛けてみた。国語で役割を決めて音読発表会をしているので、歯の役を決めるのはスムーズにいったが、吹き出しに書き込むのは授業前ということもあり、難しかったようである。しかし「どんなおしばいか」という声も聞かれ、興味を持った様子がうかがえた。

## (3) 授業反省

① 題材名について

「大人の歯と子どもの歯」という題材名としたが、「大人の歯と子どもの歯の違いをしらべよう」といった、活動に結びつくものはどうか、という提案があった。

② 「おしばい」の活動について

子どもが楽しく、主体的に活動する場面であった。低学年の児童ということもあり、6班が同じ内容の劇であったが、時間をかけてそれぞれ違う内容のものを作させても、おもしろいであろうという意見があった。また班によっては、劇でなく紙芝居にしたり、いろいろ工夫できるという意見がでた。今回は劇の練習をやっていくうちに、班によっては机の下に隠れていた子が現れて歯が生えた様子を表したり、気持ちをこめて演じているところも見られた。これからも子どもが活躍する場面を授業の中に取り入れたい。

③ 特別活動において身に付けさせたい資質

- ・能力の育成について
- ・関心、意欲、態度の面から

児童が課題意識を持って取り組めるよう、事前から歯を鏡で見て調べたり「おしばい」の役割を決めたりしていたので、興味・関心を持って取り組めた。また永久歯の寿命を紙の長さで表す場では、真剣に考えていた。生え代わりの説明の場では、ペーパーサートの使用が効果的であった。

- ・思考、判断の面から

グループの中で役割を考え、おしばいをすることによって、乳歯と永久歯を大事にしようと考えたり、判断したりできたと考えられる。しかし永久歯と乳歯の違いについては事前に調べ、おおまかにわかっていたため、指名や発表の仕方に

工夫が必要であった。

・技能、表現の面から

話し合いの場において消極的な児童がおり、自分の考えを的確に表現することが困難な場合も見られた。本時に限らず、一人一人に目を向けた授業が大切である。

・知識、理解の面から

乳歯と永久歯に対する基礎的な知識は身に付いたと思われる。しかし児童一人一人のよさや可能性をどの場面で生かすか、明確に考えておく必要がある。今後事後の活動に「自己評価」の時間を加え、健康づくりへの意欲が十分に発揮できるよう支援していきたい。

#### (4) 事後の活動での児童の変容と考察

① 歯みがきの様子について話し合い、歯の健康を増進する意欲や実践力を高める

1カ月後に歯垢染め出しテストを予告なしで行うこととした。はじめに鏡で自分の歯を確認させ、歯列図の載ったプリントに下のことを記入させた。

・まだ生えかけの歯に○印を付ける。	・赤く染まった所に色をぬりましょう。
・引っ込んでいる歯に△印を付ける。	・みがき残しの多いところはどこか。
・大人の歯の数と場所を調べる。	

上の表の左側を調べたうえで、みがき残しの多そうな所を話し合った。その結果、引っ込んでいる歯や奥歯、歯の裏側にみがき残しが多いのでは、という意見が多く見られた。

次に歯垢染め出しテストを行った。液を綿棒に浸し、一人一人の歯に教師が塗っていった。口の中を覗くと、赤く染まっていて、朝みがいてこないと思われる児童も見

られた。染まった歯の場所は、児童の予想通りの場所であるため、一人一人工夫して歯垢を落とすよう声をかけた。

(丁寧にみがけるようになった例)

・A子～歯科健診で乳歯のむし歯の数がクラスで最も多かった。俗に言うみそっ歯である。そのため治療を呼び掛けていたが、なかなか通わなかった。2、3日前治療が終わったという報告があったばかりなので、口の中を覗くと、何本もかぶせてあった。また赤く染まった所がほとんどなく、よくみがけていた。

(昼食時にみがくようになった例)

・S夫～歯科健診ではむし歯が全くなく、要注意乳歯が1本あるのみである。しかし歯ブラシの忘れ物が多いので、歯みがきの大切さを呼び掛けてきた。今回の染め出しテストで、赤く染まった部分が多く、家でみがいてこないことがはっきりした。家庭に協力を呼び掛け、本人の意識を高めるよう励ました。その後歯ブラシの忘れ物が減り、昼食後みがくようになった。

② 考察

歯垢染め出しテストの結果は家に持ち帰らせ、家庭で見てもらうことにした。むし歯治療に早めに通う児童が増え、「むし歯は治らない病気である」ことや、「乳歯のうちから、むし歯にならないようにしたい」という気持ちが高まっている様子がうかがえる。むし歯を防ぐ、個に合ったみがき方の工夫に、さらに目を向けて考えること。

## ② 毎日の実践

## (1) 時間差歯みがきの工夫

- ・食後児童が自動的に自分にあった速度でじっくりと歯みがきができるよう、給食を食べ終わった児童から順に歯みがき指導を行っている。特に前歯と6歳臼歯の正しいみがき方が身に付くよう心掛けている。

## (2) 歯みがきビデオの利用

- ・食後の歯みがきは、だいぶ習慣化されてきているが、児童の給食後の歯みがきの様子を見てみると、ただ歯ブラシをくわえて無意識に動かしているだけであったり、1分ぐらいしかみがかない子が多くみられる。そこで、3分間以上時間をかけて丁寧にみがけるようビデオを利用して一斉歯みがきを行い、正しい歯みがきの指導を行っている。

## (3) 歯ブラシの保管方法

- ・歯ブラシは衛生面を考え、毎日家庭で洗浄できるよう、ランチセットの中に入れ持ち帰るようにしている。また、この方法だと親の目にもふれやすいので、家庭で歯ブラシのチェックをし、傷んだ歯ブラシを交換するよう、協力を呼び掛けている。

## (4) 歯みがきカレンダー、染め出しテスト等の取組みの工夫

- ・歯みがきが習慣化し、児童自ら進んで取り組めるよう歯みがきカレンダーを利用している。カレンダーの記入は朝自習の時間を使って行っている。家に持ち帰ると紛失が多くなるため、学校でまとめて記入させたり、ファイルに綴じ込んだりさせている。
- ・歯垢染色剤をつかって歯垢の様子を染めだし、歯のみがき残しがどこにあるか調べさせた。一人一人の児童に自分の目で

鏡やデンタルミラーを使って確認させ、自分にあった正しいみがき方を身に付けさせるよう心掛けた。

## ③ 保護者への啓発

## (1) 日常の実践から

2年では、児童の毎日の実践が保護者にもなるべく伝わるよう心がけてきた。例えば次のようなことが挙げられる。

- ・歯みがきファイルを持ち帰って、親の目に触れるようにしている。
- ・ピカピカくんだよりも歯みがきファイルに綴じ、なくさないようにした。
- ・一学期に行った染め出しテストもファイルし、保護者に見せた。
- ・ランチセットの中に歯ブラシを入れて、歯ブラシの状態が保護者にわかるようにしている。

## (2) 保健カードや歯の治療カードの利用

健康診断の結果を記入した保健カードを保護者に見てもらい、歯の治療カードを出して早めに治療することを呼びかけた。今年度は治療に早めに行く児童が多くなった。

## (3) ピカピカくんだよりから

ピカピカくんだよりは、ファイルに綴じて学校に保管させ必要に応じて家庭に持ち帰らせ保護者への啓発に利用した。ぴかぴかくんだよりの下段のアンケートを見ると、「参考になった」という意見が多く、家庭での実践に役立てようとしている姿が伺える。また、「電動歯ブラシについて知りたい」「歯みがき粉について知りたい」などの要望が書かれていることがあり、ピカピカくんだよりへの期待も感じられる。

## (4) 学年通信から

ピカピカくんだよりと並行して、学年通信に「こんにちは ピカピカくんコー

ナー」を設け、隨時歯の話題を取り上げている。

## 4.まとめと今後の課題

### (1) まとめ

本学年では、研究主題を受け、児童一人一人が主体的に健康づくりに取り組むことを目指して研究を行ってきた。その結果、以下のような成果が見られた。

#### ① 学級活動の指導を通して

- ・指導過程や指導方法を工夫・改善したことにより、乳歯や永久歯のちがいがわかり、自分の歯を大切にしようとする意欲を持つ児童が増えてきた。

また、給食指導などと関連させて指導した結果、健康に関する意識に深まりが見られるようになってきた。

- ・正しい歯のみがき方や歯ブラシの持ち方が定着してきており、自主的に歯をみがく児童が増えてきた。また、手作りのおやつを食べたり牛乳を飲んだりする児童が多くなってきた。

#### ② 日常の実践を通して

- ・給食後の歯みがきを工夫したり、歯みがきカレンダーの習慣化を図ったりしたことにより、むし歯や歯肉炎予防に対する

態度や習慣が定着しつつあるようである。

- ・歯垢染め出しテストの結果から、正しい歯のみがき方ができるよう個別に指導を行ってきた。少しずつではあるが、成果が表れてきているようである。

#### ③ 家庭との連携を通して

- ・健康を考えた食生活ができる児童を増やすために、家庭に向け、むし歯の治療勧告書を配付したり、学級懇談会・学年だよりなどで保護者に理解や協力を呼びかけたりした。その結果、むし歯予防のために、定期的に口の中を見たり、歯みがきをきらんとさせたりする家庭が多くなってきた。

### (2) 今後の課題

- ・指導過程や指導方法をさらに改善したり、自己実現を支援する評価の工夫に努めたりする。
- ・児童一人一人に望ましい基本的生活習慣が身に付くよう個別指導に重点を置き指導していく。
- ・正しい歯のみがき方やおやつのとり方など、今後も引き続き家庭に協力を呼びかけていく。

## ◆◆ 3 年 の 取 り 組 み ◆◆

### 1. 学年の児童の実態、重点目標

児童の実態	
日常の観察から	アンケート結果から
<p>◆<b>基本的な生活習慣</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>明るく素直で、活動的な児童が多い。</li> <li>忘れ物や落とし物が多く、身の回りの整理整頓ができない。</li> <li>返事や挨拶がはっきりできない。</li> </ul> <p>◆<b>学習面</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出された作業的課題には喜んで取り組む。</li> <li>人の話が聞けない。</li> <li>じっくり文章を読んで、考える力が足りない。</li> </ul> <p>◆<b>健康・安全面</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大きなかががあまりない。</li> <li>廊下の歩行の仕方が悪い。</li> </ul>	<p>① 歯の健康づくり（保護者の取り組み）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昨年に比べて、子どもの口の中の点検をしたり、歯みがきや食べ物などに気を配ったりしている家庭が増えてきた。</li> </ul> <p>② 健康な歯づくり（児童の取り組み）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分から進んでみがかない児童がまだいる。</li> <li>一日2回、しかも夜みがかないで寝てしまう子が多い。</li> <li>よい歯ブラシの選び方はわかつてきただが、みがく時間は一分程度と相変わらず短い。</li> </ul> <p>③ 生活の様子（児童）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>夜遅く寝る児童が多く、早起きできず、登校するまでの時間にゆとりのある児童が少ない。</li> <li>おやつには、ジュース、スナック菓子が多いが、くだもの、牛乳などを選んでとる児童も増えてきた。</li> </ul>



### 重 点 目 標

<ul style="list-style-type: none"> <li>歯の生え代わる仕組みを理解し、自分の生えかわる歯の様子に関心を持ちながら、形に応じたていねいなみがき方を身につける。</li> <li>歯によいおやつを知り、食べ方を工夫することが大切であることを理解する。</li> </ul>
---



歯の健康づくりに関する実態	めざす児童像	指導の手立て
<ul style="list-style-type: none"> <li>歯の数、名前、働きを知らない。</li> <li>むし歯があっても治療にいかない児童がある。</li> <li>むし歯のこわさに対する意識がうすい。</li> <li>言わないと歯みがきができない。</li> <li>生えたばかりの前歯や六歳臼歯をむし歯にしてしまった児童がいる。</li> </ul>	<p>自分の歯の様子 が分かる子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のむし歯や抜けている歯、生えかけの歯、引っ込んでいる歯などを歯列図に記入させる。</li> <li>歯の生えかわる仕組み、時期、順序を理解させる。</li> <li>生えかわることのない永久歯の大切さについて理解させる。</li> <li>ミュータンスが出る歯のはたらきについて理解させる。</li> <li>むし歯の原因（むし歯の4要素）と予防について理解させる。</li> <li>むし歯には早期治療が大切であることを理解させる。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯みがきの時間が短い。</li> <li>・自分ではきちんとみがいているつもりだが、みがき残しが多い。</li> <li>・一日3回、歯みがきをしない児童がいる。</li> <li>・自分にあった歯みがきの仕方を知らない。</li> <li>・生えたばかりの前歯や6歳臼歯をむし歯にしてしまった児童がいる。</li> </ul>	<p>自分から歯をきれいにみがける子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鏡を見ながら、みがき残しをしないように気をつける習慣を身につけさせる。</li> <li>・歯みがきカレンダーを記入させ、一日3回の歯みがきを習慣化させる。</li> <li>・歯ブラシの使い分けを知り、自分の歯にあったみがき方を身につける。</li> <li>・染め出しテストにより、みがき残しがあることを確認させる。</li> <li>・歯ブラシの持ち方や当て方に気をつけてみがくようにさせる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・おやつに、スナック菓子やジュースをとる児童が多い。</li> <li>・野菜を嫌い、偏食する児童が多い。</li> <li>・おやつのあと歯みがきをする児童が増えてきているが、まだみがかない児童もいる。</li> <li>・おやつの「ながら食べ」をする児童が多い。</li> </ul>	<p>健康を考えた食生活ができる子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・むし歯になりやすいおやつ（甘いもの、甘くなくても歯につきやすいもの）について理解させる。</li> <li>・歯によい食べ物を知り、好き嫌いしないで食べられるようにさせる。</li> <li>・おやつの後の歯みがきの大切さを理解させる。</li> <li>・時間を決めた食べ方が大切であることを理解させる。</li> </ul>

## 2. 研究の経過

月	研究の内容	児童への取り組み
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修組織（学習部、実践部、啓発部）配属</li> <li>・歯みがきタイム実施方法検討</li> <li>・「歯のはかせコーナー」への掲示物の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯みがきタイム継続実施</li> <li>・歯ブラシはランチセットとともに毎日、コップは週末に持ち帰りを指導</li> <li>・「3年生の歯の様子」について掲示</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科定期検診の集計及び結果分析</li> <li>・歯みがきカレンダーによる指導及び集計、考察</li> <li>・むし歯予防デーへの取り組み検討</li> <li>・学級活動における指導方法の研究</li> <li>・6、7月分の「歯のはかせコーナー」掲示物の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・むし歯のない子への賞状配布</li> <li>・むし歯治療の勧告書配布</li> <li>・歯みがきカレンダーの記録</li> <li>・「むし歯0学級をめざそう」掲示による治療の意欲の喚起</li> <li>・歯みがきの絵制作</li> <li>・グループ活動、話し合いの活動を積極的に行わせる。</li> <li>・むし歯治療の勧告書配布2回目</li> <li>・「カラーテストによる染め出しの様子」の写真掲示</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯みがきカレンダーによる指導及び集計、考察</li> <li>・歯に関する児童の実態をつかむ</li> <li>・計画訪問指導案作成</li> <li>・計画訪問反省</li> <li>・歯みがき講習会 (歯科衛生士による歯みがき講習)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯みがきカレンダーの記録</li> <li>・歯に関するアンケート実施</li> <li>・学級活動「生えかわる時の歯のみがき方」</li> <li>・授業実践（3の1）</li> <li>・1年と3年の児童参加</li> <li>・よい歯の標語作成</li> </ul>

7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯みがきカレンダーによる指導及び集計、考察</li> <li>・紀要原稿素案作成（実態、重点目標、指導の手立て、日常の実践、授業実践、まとめと課題）</li> <li>・資料展示室への掲示物の検討</li> <li>・要請訪問</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯みがきカレンダー記録</li> <li>・むし歯治療の勧告書配布3回目</li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料展示室の作成</li> <li>・「むし歯のできるわけ」指導案作成と検討</li> <li>・実施授業に向けて資料収集と教材の作成</li> <li>・紀要原稿の中間検討と仕上げ</li> </ul>	

### 3. 実践例

#### ◇ 授業

##### (1) 指導案

###### 学級活動（保健指導）指導案

###### 授業の視点

生えかわるときの歯がむし歯になりやすいことを理解させ、そのみがき方を模型を使って考えさせた上で、実際にみがかせれば、自分にあったみがき方で歯みがきをしようとする意欲が高まるであろう。

###### 1. 題材名

###### 2. 考察

###### ① 題材に関わる価値

むし歯のできるわけやむし歯予防についての学習を通して、児童の毎食後の歯みがきは習慣化されてきている。しかし、歯みがきは毎日のことであり、時には歯みがき本来の意義を忘れ、形だけのブラッシングになりがちな児童も少なくない。また、歯みがきを励行しているにもかかわらず、みがき方が適切でないために、みがき残しのある児童も見られる。

特に、この時期の児童は、中切歯はほぼ生えかわりが完了に近づき、側切歯も下顎では生えかわりが完了している。さらに、犬歯・第一小臼歯・第二小臼歯も

生えたかわりの時期にさしかかっている。

したがって、喪失歯のある児童や歯と歯の間に隙間のある児童、生えかけの歯がある児童、歯に重なりのある児童が見られるのが特徴である。そのことから、この時期の児童の歯は、非常にみがきにくい状態にある。また、児童の歯列は一人一人異なり、個人差も大きい。

一生使う永久歯をむし歯から守るためにも、乳歯から永久歯へと生えかわるこの時期、自分の歯列にあったみがき方をすることがとても大切である。そこで、染め出しを行い、よごれが残っているところを確かめさせ、今までの歯みがきの仕方を見直させ、自分にあったみがき方ができるように本題材を設定した。

###### ② 系統 略

###### ③ 児童の実態（男子20名、女子17名、計37名）

4月の歯科検診の結果では、本学級の児童全員の現在の歯の総数は880本で、そのうちむし歯（処置歯、未処置歯を含む）が295本ある。すでに、34%の歯が健康でないことがわかる。中には、むし歯の1本もない児童が3名いるが、15本もむし歯になっている児童もあり、一人平均8本もむし歯になっていることにな

グラフ 処置歯を含むむし歯の保有状況  
表 乳歯、永久歯の状況

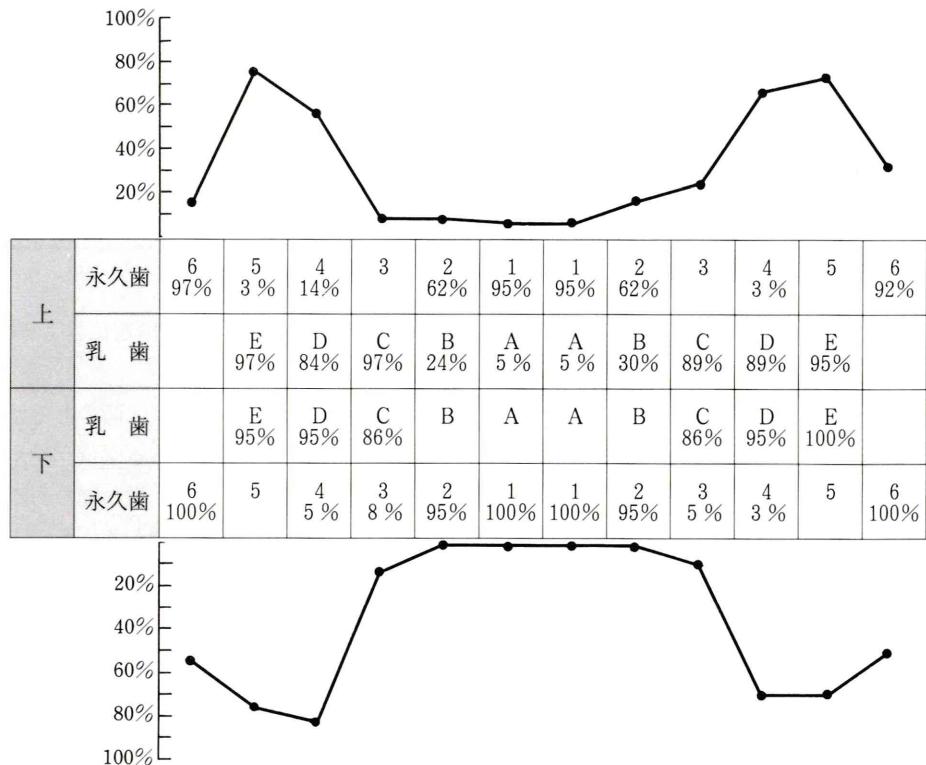


図1 児童の歯の状況

る。特に、奥歯の噛み合わせ部分に多い。(図1参照)

児童の歯みがきは、給食後については習慣化されているが、朝食後については、3名の児童が身につけていない。

カラーテストの結果ではAの児童が7名、Bの児童が18名、Cの児童が12名であった。特にみがき残しの目立ったところは、①大きい前歯に隠れた2番の歯、②生えかけの小さい歯、③奥歯の噛み合わせの部分、④奥歯の内側であった。

歯みがきにかける時間は、だいたい2分から3分である。中には、1分程度の

児童もいる。

本題材に関わって、歯みがきの意識調査をしてみた結果は以下の通りである。

1. 「きれいにみがけていると思いますか。」

きれいにみがけていると思う。	5名
だいたいきれいにみがけていると思う。	27名
よごれが残っていると思う。	3名

2. 「気をつけてみがいているところがありますか。」

ある	23名
ない	12名

3 「どんなところに気をつけていますか。」

奥歯	7名	その他 ・歯の裏側 ・歯と歯の間 ・歯と歯ぐきの間 ・1本1本でいねいにみがく
奥歯の 噛み合わせ	6名	
前歯	4名	

- \* 題材に関わる歯を有している児童数
  - ・生えかけの歯のある児童 16名
  - ・ひっこんでいる歯のある児童 11名
  - ・抜けている歯のある児童 13名
  - ・抜けそうな歯のある児童 13名

④ 指導方針

〈事前の活動〉

- ⑦ 4月の歯科検診の結果から、自分の歯がむし歯になっているところを確かめさせ、歯列図に記入させる。さらに、全体としてどの歯がむし歯になりやすいかを気づかせる。
- ⑦ 歯垢染め出しテストを行い、むし歯になりやすい箇所とみがき残しの多い箇所との関係をとらえさせ、みがき残しのないように歯みがきを工夫してみようという問題意識を持たせる。
- ⑦ 学級活動の係には、放課後等を使い、進行の仕方を指導しておく。

〈本時〉

- ⑦ 生えかけの歯が、むし歯になりやすいことを写真を提示してわからせる。
- ⑦ 模型を用いて、生えかえの歯のみがき方を理解させる。
- ⑦ 歯列図への記入を通して、自分にあった歯みがきの仕方の実践意識を高めさせる。

〈事後の活動〉

- ⑦ 自分にあった歯みがきの仕方を実践しているか、給食後のブラッシング指導でチェックする。

〈同和教育上の配慮〉

- ⑦ 友達の意見や発表は、しっかり聞くようにさせる。
- ⑦ むし歯が多かったり、染め出しのよごれが多かったりする児童をからかったりすることのないように配慮する。

〈教育目標との関連〉

学校教育目標	学級教育目標	指導方針との関連
きまりを守り 仲よくする子	旧友のがんばった姿を たたえられる子	⑧ ⑨
じょうぶな体で がんばりぬく子	最後までねばり強く がんばる子	⑥ ⑦
すすんで学び よく考える子	じっくりと考え、 はっきりと意見の いえる子	① ② ③ ④ ⑤

③ 活動の経過

① 事前の活動

- ・歯列図の生えかけの歯や引っ込んでいる歯、抜けている歯に色を塗る。(前日、朝の短学活)
- ・歯垢染め出しテストをして、歯みがきの状態を確認する。(6月3日1校時)
- ・学級活動の係は進行の準備をする。(前前日、前日の放課後、当日業前)

② 本時の活動

⑦ ねらい

生えかわる歯がみがきにくいためにむし歯になりやすいということを知り、生えかわりの歯や引っ込んでいる歯、抜けている歯の横などのみがき方を自分なりに工夫することができるようとする。

④ 準備

教師：4月の歯科検診の結果の表、提示用写真、歯列模型、大型歯ブラシ、液状歯垢染め出し液、綿棒、ワークシート、デンタルミラー

児童：手鏡、歯ブラシ、コップ、吐き出し用パック、タオル、洗濯ば

## さみ、歯の学習ファイル

### ④ 展開

過程	学習活動	教師の支援および留意点	資料・用具
つかむ 5分	1. クラス全体のむし歯り患の図表から、どの歯がむし歯になりやすいか考える。	○奥歯にむし歯が集中していることや6歳臼歯がすでに半数以上むし歯になっていることに気付かせたい。 ○なぜ奥歯にむし歯が多いのかという疑問があれば次へのステップに生かしたい。	クラス全体のむし歯り患の図表
つきとめる 30分	2. 生えかけの歯がむし歯になっていることについて考える。 ・やわらかい ・みがき方が悪い ・すぐみがかない 3. 歯みがきの時に、みがきにくい所を考える。 ・奥歯の内側。 ・前歯の裏側 ・生えかけの歯 4. みがきにくい所のみがき方を模型を使って考え、発表し合う。 ・生えかけの歯 ・抜けている歯の横 ・引っ込んでいる歯 ・前歯の裏側 5. 歯垢染め出しテストで赤く染まった部分を染め出し液で染め、みがき方を工夫する。	○生えかけの歯なのに、むし歯になってしまったという驚きを与える、なぜむし歯になってしまったのか原因を考えさせたい。  ○事前調査の設問になっていたので、意見はスムーズに出るだろうが、ここでは生えかわるときの歯の状態を重点に考えさせたい。  ○模型の使い方（持ち方）について注意を促す。 ○児童から出されたみがき方について、模型とブラシを使って確認する。 ・歯ブラシのつま先を使う。 ・歯ブラシのわきを使う。 ・歯ブラシのかかとを使う。 ・歯ブラシのかかとを使う。 ○確認した歯ブラシの使い方を基本にして、自分の歯の様子にあったみがき方を工夫させたい。 ○男7と9については、工夫したみがき方ができているか配慮し、うまくみがけていない時には歯ブラシのあて方や使い方について援助する。	写真4枚（生えかけの歯がむし歯になる過程）  歯の模型（生えかわり状態にある歯を含む） 大型歯ブラシ ワークシート  歯垢染め出し液、手鏡、綿棒、コップ、歯ブラシ、デンタルミラー、吐き出し用コップ タオル、洗濯バサミ
活かす 10分	6. 自分にあった歯みがきの仕方をまとめる。	○汚れが残らない自分にあったみがき方を歯列図にまとめさせ、実践の見通しを持たせたい。 ○みがき方を工夫しようとしている児童に発表させ、賞賛していくことにより意欲づけを図りたい。	ワークシート

### ⑤ 評価

- ・生えかけの歯がむし歯になりやすいことがわかったか。
- ・生えかけの歯のみがき方を工夫して

できたか。

- ・自分にあった歯みがきの仕方を継続していこうとする意欲が持てたか。
- ・友達とともに良い歯をつくろうとい

う気持ちになれたか。

(3) 事後の活動

給食後の歯みがきタイム時に、自分に合った歯みがきの仕方を実践する。

(2) 事前の活動での児童の様子

- ・前列図に色を塗る活動では、大きな口を開けて自分の歯のすみずみまで観察する様子が見られた。
- ・歯垢染め出しテストでは、みがき残しのために染まった箇所を的確にとらえられなかつたが、鏡を見ながら指摘してあげるとうなづく児童が多かった。
- ・学級活動の係は班長を使ったが、資料作りや進行の仕方などたいへん活発に行った。

(3) 授業記録および反省

ア <つかむ段階>

司会：今日は生え変わるときの歯のみがき方について勉強します。

はじめに、4月の歯の検査の結果を見てもらいます。

(説明)

この図から、どんなことが分かりますか。

児童：前歯の方はむし歯がないけど、奥歯の方はむし歯が多い。

イ <つきつめる段階>

司会：次に、生えかけの歯がむし歯になってしまった写真を見てもらいます。

(説明)

2年生の時におしたはずなのに、またむし歯になってしまった新しく出てきた歯がむし歯になってしまう理由を、班で話し合ってください。

(話し合い)

児童 ①生えてきたばかりで、歯の質が弱いから。

②よくみがいていないから。

③食べた後、すぐみがかないから。

司会：

歯みがきをするとき、みがきにくい所はどこですか。

児童 ①前歯の裏側

②奥歯の内側

③6歳臼歯のみぞ

発表 ①生えかけの歯

②引っ込んでいる歯

司会：それでは、これから先生に、みがきにくい所のみがき方を説明してもらいます。

教師：説明する前に、歯の模型と歯ブラシを使って、どうみがいたらきれいになるか、班でやってみてください。

(操作活動)

教師：みがきにくい所のみがき方を、児童の発表からまとめる。その後、各自みがきにくい所を染め出させ、みがき方を工夫させる。

(机間巡査)

\* 反省

・まだ、学級活動の運営がスムーズに進まず、説明の仕方や意見の取り上げ方が不十分なところがみられた。しかし、班での操作活動は活発に取り組めた。

・歯列模型を班で1つ使って、みがきにくい歯のみがき方を班で考えさせたが、一人1つずつ持たせながら行った方が効果的であったと思う。

・留意児童も主体的に活動に取り組み、赤く染まった部分を懸命に落と

していた。

- ・全体、班、個人と学習形態を変えながらつきつめていくことができ、児童が集中して活動に取り組めた。
- ・各自がみがきながら試行錯誤して、自分の歯の状態に合わせたみがき方を工夫する展開も考えられる。しかし、ここでは、みがき方をわかってからじっくりと自分の赤くなった所をみがき落とせたので、事後の活動への意欲も高まった。

#### (4) 事後の活動での児童の変容と考察

- ・ワークシートに書きこんだことを、ときどき想起させて自分にあったみがき方を心掛けさせたところ、自分から進んで、鏡を見ながら丁寧にみがいている児童が多くなった。
- ・歯こう染め出しテストを再度行った結果、A13名、B19名、C5名となった。これらのことから、生えかわるときの歯がむし歯になりやすいことを理解することにより、自分の歯を工夫してみがこうとする意欲が高められ、授業の視点は検証されたといえる。

### ② 毎日の実践

#### 歯みがきへの意欲づけと継続化

##### 〈4月〉歯みがき活動

昨年度から引き続き給食後の歯みがきは全員一斉にするのではなく給食を食べ終わってから順に歯みがきを行った。そのためには、水道が混雑せず、食べ終わってすぐ自分から進んでみがく児童がほとんどで、学校の歯みがき活動がスムーズに始まった。

流しの鏡や自分の手鏡で口の中を見ながら丁寧にみがく子の姿があり、昨年度の研

修の成果を感じる事ができた。しかし、昨年度の本学年の課題にもあげられているように、歯みがきへの取り組みに個人差が見られ、歯ブラシを忘れて給食後の歯みがきをしない子や、ただ歯ブラシで口の中を一様にみがけばよいという子もみられた。そのような個人差に対応して、歯ブラシを持ってくるように指導したり、鏡を見て丁寧にみがいている子を褒める等して、毎日丁寧にみがく事の大切さを意欲づけしていった。

##### 〈5月〉学級活動「自分の歯のようす」の実施

4月に実施された歯科検診の結果から実施した学級活動「自分の歯のようす」で、ぬけている歯・自分のむし歯の位置と数・これから生える歯などを知った3年生の子どもたちは、より歯に対する関心が高まってきた。

学校から、むし歯が一本もなかった子に賞状を渡した事により、子どもたち自身にこれ以上むし歯をふやしたくないという気持ちが表れ、歯みがきを丁寧にする児童が増えていった。丁寧にみがく事がむし歯を防ぐ方法の一つである事を折にふれ指導し、丁寧な歯みがきの継続化を図っていった。

##### 〈歯みがきカレンダー〉

歯みがきカレンダーが軌道にのってきた事によって、給食後歯ブラシを忘れてみがかない子や家庭での歯みがきの様子を把握できるようになり、歯みがきカレンダーの色があまり塗っていない子を個人的に指導していった。

##### 〈6月〉歯垢染め出しテストの実施

歯垢染め出しテストを実施、自分の歯がどれだけ丁寧にみがけているか調べた。ただ単にA B Cの評定をするだけでなく、歯

のどこが赤く残ったかを手鏡を見ながら記録し、自分のみがき方の反省材料とした。また、赤く残った歯垢部分をきれいに落とすみがき方について、二年生の時の学習「圧力・角度動かし方」を思い出させるようにし、それ以後のみがき方の意欲化につなげていった。

#### 〈学級活動「生えかわる時の歯みがき方」の実施〉

学級活動「生えかわる時のみがき方」で、生えかわる歯のみがきにくいわけやぬけている歯の横や生えかわる歯のみがき方を学習した事によって、今の自分の歯にあったみがき方を知った。この事によって、今まで丁寧にみがいていた子はより関心をもって生えかわる歯を意識しながらみがくようになり、あまり丁寧にみがけていなかった子の中には、どのようにみがけばよいかわかったので、それまでより丁寧にみがけるようになった子もいた。

#### 〈7月〉むし歯の標語

児童会からのむし歯の標語を考える。

#### 〈歯みがきカレンダー〉

歯みがきカレンダーの集計をして、学級全体や一人一人の歯みがきの様子を子どもたちに知らせることによって、歯みがきの継続化を図っていった。

#### 〈7・8月〉夏休みの歯みがき

夏休み中も家庭で歯みがきカレンダーの色塗りを実施し、生活が乱れがちな、休みの中の歯みがきについても毎日実施するよに継続化を図った。

#### 歯みがきカレンダーの取り組みの工夫

カレンダーへの記入は、朝自習の時間に、前日の給食後からその日の朝までの歯みがきの様子を記入するようにしている。個々にファイルを持ち、月々のカレンダーは綴じておくようにしている。マンネリ化

しないように前月までの一月の集計と比べてどうだったか、クラス全体ではどうかなどを話し合う時間を設け、賞賛励ましを行い意欲化継続化を図っていった。

#### ③ 保護者への啓発

##### ・「ピカピカくんだより」の利用

啓発部で発行している「ピカピカくんだより」を中心に保護者への啓発を行った。正しい知識がわかりやすく掲載されていて、保護者の質問に答えるような内容もあり、とても参考になったようである。

##### ・むし歯予防の絵に全員で取り組み、後半は家庭で仕上げるようにした。親子で一緒に組んだ家庭もあったようだ。

##### ・親子ブラッシング講座と講演会の開催

一年生と三年生の親子と全保護者を対象に親子ブラッシング講座と講演会を行った。三年生は乳歯と永久歯が生えかわる大切な時期である。毎日の歯みがきの仕方を親子で知り、家庭でも実践してほしいという目的で開かれたものであったが、たくさんの保護者が参加し、関心の深さがわかつた。

##### ・むし歯治療の勧め

5月から7月にかけて、3回にわたりむし歯治療の勧告書を配付し、むし歯のある児童の家庭に治療を勧めた。

## 4. まとめと今後の課題

### (1) まとめ

#### ① 学級活動の指導を通して

・「自分の歯のようす」の学習を通して、現在どの歯が抜けているのか、すでに永久歯となっているのはどの歯かなど、自分の歯に現れている成長のようすに関心をもつようになってきている。自分のむ

し歯についても日ごろから鏡で見たり、指でさわってみたりすることによく把握しており「こんなに大きな穴になってしまった。」「少し茶色になっているので気をつけたい。」と教師に届けなく話しかけてくる児童が多くなっている。

- ・「生えかわる時の歯のみがき方」での学習や、日常の歯みがきの指導を通して、一人一人の歯の生え方や形状に応じたみがき方がわかり、鏡で確かめながらみがき残しのないようにしようと努力する姿が、多くの児童に見られるようになった。このつみかさねにより、自分の体を知り、すんで良い状態を保とうとする態度が培われつつある。
- ・研究を継続して行ってきたことにより、教材の開発、学習資料の収集、充実が図られ、併せて資料展示室の設置もあって、学年をこえて広く活用し合えるようになった。そのことが、指導の過程に工夫をしたり、より身につく学習の手立てを研究していくにあたっての助力となつた。

## ② 日常の実践を通して

- ・今年度は校時表が工夫され、給食の後の歯みがきの時間がとりやすくなり食べ終わるのが遅い児童も自分のペースに合わせて歯みがきの時間をとることができた。食べ終わった児童から順に歯みがきを行うという方法は水道の混雑が緩和される、食後、時間をおかずについ歯みがきができる、児童の自主性を育てる、などの点で効果があった。
- ・「自分の歯のようすがわかる子」「自分から歯をきれいにみがける子」「健康を考えた食生活ができる子」という児童像をつきつめて考えると、自ら問題意識を持って探究し、判断し、解決の方法を見

つけ、実践していく、というすべての学習にあてはまる児童の理想の姿がうかんでくる。これは、私たちが学校教育で日々めざしている児童像にほかならない。そこで、歯の保健指導に限らず、教科の指導も含め、さまざまな場面で児童の自主性や実践力を育てるよう心がけてきた。また、自分の歯のようすを知り、自分からきれいにみがけるようになってきたことが教科の学習や日常生活の中で、自分を知ること、やる気を持って取り組むことへつながってきており、今後もこれらの芽生えを大切に育てていきたいと考えている。

## ③ 家庭との連携を通して

- ・ピカピカくんより、保健だより、保健新聞の配付、親子ブラッシング講座の開催を前年度から継続して行ってきた。歯の大切さやむし歯を放置しておくことのこわさが十分理解され、みがき方にとどまらず、食生活のあり方にも関心が高まっていることがアンケートやピカピカくんより寄せられた意見、感想から読み取れる。

## (2) 今後の課題

- ・給食の食べ終わった児童から順に歯みがきを行うという方法は、短時間に全員の歯みがきのようすをつかみ、適切に助言するという能率の面でもどかしさを感じることがあった。ときには学級で一齊に歯みがきをする日を設けることにより、学級全体の歯みがきのようすを定期的に確かめていくようにしたい。また、その際にみがき方のポイントを確認し、みがき方が雑になってきている児童や意欲を持てない児童に助言したり、歯みがきのじょうずな児童のみがき方を紹介したりする場を作っていく

い。

・児童は自分の歯の様子に关心を持ち、自ら歯の健康を守ろうとする意識を持てるようになってきているが、そのことが早めに治療に行くという処置に必ずしもつながっていないようすがうかがえる。引き続き家庭との連携をはかりつつ、早期治療の実践化への手立てを考える必要がある。また家庭によって歯の健康づくりに対する関心に大きな差がでてきていることも否めない。むし歯治療のすすめを受け取っても、なかなか治療を始める家庭が少くないのが本学年の特徴である。むし歯についての知識は増えても、なかなか実践にうつせない家

庭、通院させる時間のゆとりを生活の中で作りづらい家庭があるのが現状なので、今後の課題としたい。

・家庭において保護者の手から少しづつはなれ、身の回りのことが自分でできるようになってくる時期ではあるが、まだ完全に自立できているわけではないことが学級での日常アンケート調査（6月実施）からうかがえる。そのため低学年の時より忘れ物が増えたり、生活のリズムが崩れがちだったり、ということが目につく。学んだことが毎日の生活に生きるよう基本的な生活習慣の定着化を図っていきたい。



## ◆◆ 4 年 の 取 り 組 み ◆◆

### 1. 学年の児童の実態、重点目標

児童の実態	
日常の観察から	アンケート結果から
<p>◆ 基本的な生活習慣</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明るく、外で元気に遊ぶ。</li> <li>・忘れ物などが多く、身のまわりの整理整頓ができない。</li> <li>・指示されたことはきちんとできるが、自主的に行動できない。</li> </ul> <p>◆ 学習面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・与えられた課題にしっかりと取り組むことができる。</li> <li>・作業的な学習を好む。</li> <li>・人の話がよく聞けず、お互いの意見を出し合いながら考えを深めていくことが苦手である。</li> </ul> <p>◆ 健康・安全面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・危険な遊びはしない。</li> <li>・物事に最後まで粘り強く取り組めない。</li> </ul>	<p>① 歯の健康づくり（保護者の取り組み）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歯みがきがきちんとできるよう気をつけている家庭が多い。</li> <li>・食べ物以外でもし歯予防のための実践をしている家庭は少ない。</li> </ul> <p>② 健康な歯づくり（児童の取り組み）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歯みがきの時間や回数がふえてきている。</li> <li>・自分から進んで歯みがきができる児童が多くなってきているが、言わわれないとできない児童もあり、個人差が大きくなっている。</li> </ul> <p>③ 生活のようす（児童）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就寝時間が遅い児童がいる。</li> <li>・朝、登校するまでの時間が忙しい。</li> <li>・おやつはスナック菓子が多い。</li> </ul>



### 重 点 目 標

- ・自分のむし歯を確認し、むし歯の原因と進行について理解し、汚れが残りやすいところのみがき方を身につける。
- ・歯によい食べ物を知り、栄養バランスを考えて、好き嫌いなく食べることが大切であることを理解する。



歯の健康づくりに関する実態	めざす児童像	指導の手立て
<ul style="list-style-type: none"> <li>・むし歯は病気であるととらえている児童は多くなっている。</li> <li>・歯が生えかわったときやむし歯になったときは関心をもつが、ふだんはあまり関心をもたない。</li> <li>・むし歯があっても歯医者に行けない児童が数人いる。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">自分の歯の様子 が分かる子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の口の中を観察させる。</li> <li>・自分のむし歯、乳歯、永久歯の位置を歯列図に記入させる。</li> <li>・歯の三つの役割（そしゃく、発音、容姿）について理解させる。</li> <li>・むし歯の進み方や症状、早期治療の大切さを理解させる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から進んで取り組める児童とそうでない児童があり、個人差が大きい。</li> <li>・歯みがきの時間は3分くらいの児童が多い。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">自分から歯をきれいにみがける子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食べたら必ずみがく習慣を身につけさせる。</li> <li>・カラーステターによりみがき残しがあることを確認させる。</li> </ul>

・正しいみがき方が身についていない児童がいる。	自分から歯をきれいにみがける子	・汚れの残りやすいところのみがき方を身につけさせる。 ・自分に合った、よい歯ブラシを使うようにさせる。
・食べ物の好き嫌いのある児童が多い。 ・おやつはスナック菓子類が多い。 ・よくかまことに食べている児童が多い。	健康を考えた食生活ができる子	・歯の健康を考え、歯によいおやつが取れるようにさせる。 ・歯によい食べ物を知り、栄養のバランスを考えて食べられるようにさせる。 ・かむことの大切さを知り、よくかんで食べられるようにさせる。

## 2. 研究の経過

月	研究の内容	児童への取り組み
4	○学年会 ・研修組織（学習・実践・啓発）配属 ・歯みがきの実態把握と歯みがきタイムの実施方法について ・4、5月の歯の博士コーナーの掲示内容について	・4月の歯みがきカレンダー ・牛乳パックの使用、コップに水を汲んでおくこと等を指導 ・「歯の博士になろうコーナー」に資料を掲示
5	○校内研修 ○校内研修 ○学年会 ・歯科検診の集計及び結果の参考 ・歯の健康ファイルについて ○学年会 ・むし歯予防デーの取り組みについて ・6、7月の歯の博士コーナーの掲示内容について ・指導案検討	・むし歯のない子、保護者への賞状配布  ・5月の歯みがきカレンダー ・むし歯健康ファイルの作成・保管 ・児童のむし歯地図を作成  ・歯みがきポスターの作成 ・「歯の博士になろうコーナー」に資料を掲示
6	・授業研究 「むし歯の進行と予防」4年1組、4年4組 ○校内研修 ○学年会 ・授業反省、今後の課題	・健康な歯づくりアンケート (児童・保護者対象) ・がんばりカードでむし歯予防の継続化を図る。 ・むし歯治療勧告書2回目配布 ・学年通信でむし歯治療について呼びかけをする。 ・6月の歯みがきカレンダー
7	○校内研修 ○学年会 ・紀要原稿作成 ・2学期の指導の重点について ○要請訪問	・むし歯治療勧告書3回目配布 ・学年通信でむし歯治療について再度呼びかけをする。 ・夏季休業中の歯みがきカレンダー
8	○校内研修 ○学年会 紀要原稿作成・校正・完成	

### 3. 実践例

#### ◇ 授業

##### (1) 指導案

###### 学級活動（保健指導）指導案

###### 授業の視点

むし歯の進行について知り、むし歯予防の大切さを理解したならば、歯を大切にしようとする意欲が高められるであろう。

###### 1. 題材名

###### むし歯の進行とその予防

###### 2. 考察

###### ① 題材に関わる価値

本題材は学習指導要領の学級活動(2)日常生活や学習への適応及び健康や安全に関することの中の「健康で安全な生活態度の形成」に位置づけられているものである。

むし歯は一つの原因で起こるものではなく、様々な要因が複雑に影響しあっておこる多因性の疾患である。最初は歯の表面だけの小さなむし歯でも、放置しておくと象牙質まですすみ、歯の中に通っている神経まで炎症がすすむようになると激しい痛みが出てくる。そして、神経を通って歯の周りの組織まで炎症が広がると、歯と歯がかみ合っただけでも痛みが出て、ものをかむこともできなくなる。さらに進行すると歯冠はほとんどなくなり、根だけが残る状態になってしまふ。こうなると治療法は抜歯するしかなく、むし歯が永久歯であれば大切な歯を一生失うことになってしまう。しかも進行したむし歯を長い間放置しておけば、歯性病巣感染をおこすなど様々な影響もでてくる。むし歯は風邪などのように自然治癒することのない放置しておくと確

実に進行してしまう疾患である。このことから、その予防に努めるとともに早期治療が大切になってくる。

児童の様子をみると、昨年度からの歯みがき指導により、朝、昼、晩、歯をみがくことは定着しつつある。しかし、給食後の歯みがきの様子を見ていると、ただ歯ブラシをくわえているだけであったり、私語が目立ったりと、自分の歯列にあわせて真剣に歯みがきにとりくんでいる児童は少ない。むし歯になれば治しに行くが、なる前から予防に努め、進んで自分の健康を守ろうとする意識はまだ低いように思われる。これは、むし歯の進行とその症状について十分に理解していないからであると考える。

そこで、C1～C4までのむし歯の進行の様子を学習することを通して、一度むし歯になると徐々に進行してしまうことを知らせ、あらためてむし歯予防の大切さを理解させるとともに、常に歯や口を清潔に保とうとする意欲を高めたいと思い、本主題を設定した。

###### ② 系統（略）

###### ③ 児童の実態

（男子17名 女子22名 計39名）

〈4月の歯科検診の結果〉

処置	乳歯			永久歯				計	その他の疾患
	未処置	要注意	処置	C1	C2	C3	C4		
男子	49	12	0	21	3	0	0	0	なし
女子	66	32	1	27	19	0	0	0	なし

処置歯・未処置歯のない者

6名（男子4名 女子2名）

う歯保有者

21名（男子8名 女子13名）

〈6月6日現在〉

## う歯治療済み

15名（男子4名 女子11名）

## う歯治療中

3名（男子1名 女子2名）

## 未治療者

3名（男子3名）

未治療者の3名は乳歯のむし歯が多く、うち2名にはかなり大きなむし歯がみられた。また、むし歯の経験やそのときの症状などについてアンケート調査を行ったところ次のようない結果になった。

## Ⓐ むし歯になったことが

ある34名 ない5名

## Ⓑ その時の症状は

特にない19名 しみた5名

痛かった10名

## Ⓒ むし歯を放置しておくと

痛くなる30名

歯がだめになる4名

（複数回答） 病気になる5名

## Ⓓ むし歯の原因は

甘いもの24名

歯をみがかない28名

（複数回答）

偏食3名 食べかす3名

ミュータンス7名

むし歯になったことがあると答えた児童の半数近くが冷たいものを食べるとみた、ものを食べると痛みを感じたという経験をもっていたが、未治療者も含め、はげしい痛みを経験している児童はいなかった。

むし歯を放置しておくと進行し痛みが強くなることは知識としてもっており、治療にも比較的早く行っているが、日常の歯みがきのとりくみの様子を見ると、むし歯予防の減員については前学年で四要素（糖質・歯質・細菌・時間）について

て学習してきているが、それらを十分にふまえて回答できた児童はなく、復習する必要がある。

## ④ 指導の方針

## 〈事前の活動〉

⑦ 「歯のはかせになろう」コーナーで初期のむし歯の図とそのままにしておくとどうなるかという問い合わせを掲示しておき、むし歯の進行について関心をもたせておきたい。

⑧ 「自分の口の中のようす」の学習で作った歯列図を使い、自分のむし歯の位置と数を確認させ、あらためて自分の口の様子を把握させておきたい。

## 〈本時〉

⑨ むし歯の進行を表す断面図を段階ごとに掲示することにより、放置しておくと取り返しのつかないことになることを具体的につかませたい。また、C1～C4の用語やその意味をしっかりとおさえるようにしたい。

⑩ むし歯予防の方法について考える場面では、むし歯の原因をもとに予防方法を考えさせていきたい。また、グループでの話し合いをとりいれお互いの意見を出し合ふことで、考えを深めさせていきたい。

⑪ 治療済みの歯が再びむし歯になった写真を使って治療した歯でも再びむし歯になることを知らせ、日頃の食生活に気をつけるとともに、しっかりと歯をみがく習慣を身につけるなどの予防が大切であることを理解させたい。

⑫ グループでの話し合いをもとに、個人のめあてをたてさせる場面では、染め出し結果等をもとに実践が可能で具体的なめあてをたてせるよう働きかけたい。

〈事後の活動〉

④ 現在むし歯になっている歯は、早い段階で治療するように児童だけではなく、連絡帳等を使って家庭にも働きかけていきたい。

⑤ 学習後は、「むし歯予防がんばりカード」をつかって、各自のめあての実践化を図りたい。

〈同和教育上の配慮〉

⑥ 友だちの発表をよく聞き、自分の意見をしっかり言えるようにする。

⑦ グループで意見をまとめていくときは、一人一人の意見を大切にしてまとめるようにする。

⑧ むし歯のある児童や治療していない児童の個人名を出さないようにする。

〈教育目標との関連〉

学校教育目標	学級教育目標	指導方針との関連
きまりを守り仲よくする子	だれとでも仲よくする子	④ ⑨ ⑩ ⑪
じょうぶな体でがんばりぬく子	じょうぶな体で最後までがんばる子	⑤ ⑦ ⑧
すすんで学びよく考える子	すすんで学習する子	① ② ③ ⑥

3. 活動の経過

① 事前の活動

6月14日までに、学級活動の時間を使って全員で「自分の口の中のようす」の学習で作った歯列図を使い、自分のむし歯の位置と数を確認しておく。

② 本時の活動

⑦ ねらい

むし歯の進み方や症状を知り、自分の歯を大切にしようとする意欲をもつことができる。

⑧ 準 備

(児童) 歯の健康ファイル

(教師) むし歯の絵・断面図 写真

ポイントカード 記録用紙

むし歯予防がんばりカード

④ 展 開

過程	学習活動	教師の支援および留意点	資料・用具
つかむ 10分	1. 今日の学習内容を知る。 2. むし歯の原因を理解する。	・むし歯の図（むっCーくん）の掲示により、学習意欲を喚起する。 ・どうしてむし歯になるのか考えさせ、ポイントカードで、むし歯のできる仕組みやむし歯になる条件をわかりやすく表す。	むし歯の図考えるポイントカード
つきとめる 30分	3. むし歯が進行する様子とその状態を表す用語について理解する。	・むし歯が悪化していく様子をとらえさせるため、C 1～C 4 の歯の断面図を段階ごとに掲示する。そのとき、C 1～C 4 の用語とその意味もおさえるようにする。	むし歯の断面図
	4. C 1～C 4 ではどんな症状があるか考える。	・C 1～C 4 でおこる症状について考える場面では、歯が痛くなったことのある児童（yk. kh. wm.）を意図的に指名し、体験談を話させることにより、児童が自分たちの	

つきつめる 30分	5. むし歯予防についてグループで話し合い、発表する。  6. 治療したあとどうしたらいいか考える。	問題としてとらえられるよう配慮する。 ・冷たいものがしみた。 ・ものを食べると痛かった。 ・氷でひやしたことがある。 ・むし歯の原因からその予防について考えるよう助言する。 ・円滑に話し合いが進められるよう、必要に応じてグループごとに助言する。 ・各グループの意見を参考にして自分なりの考えが持てるよう援助する。 ・予防と同時に早期治療も大切であることに触れる。 ・治療済みの歯が再びむし歯になった写真を使って、治療した歯でも再びむし歯になることを知らせ、予防には日頃の食生活に気をつけることや歯みがきが大切であることをおさえる。	記録用紙  写真
		7. むし歯予防のめあてをもつ  ・グループの話し合いや染め出しの結果等をもとに、実践できる具体的なめあてをたてよう助言する。 ・自分のめあてをカードに記入することで、むし歯予防の意欲づけを図る。	歯の健康ファイル  むし歯予防がんばりカード

## ② 評価の観点

- ・むし歯の原因がつかめたか。
- ・むし歯の進行の様子が理解できたか。
- ・むし歯の予防に対する自分の考えをもち、実践への意欲がもてたか。

### ③ 事後の活動

- ① 学習後は「むし歯予防がんばりカード」に記入しながら、めあてが実践できるようにする。
- ② 現在むし歯になっている歯を早い段階で治療させるようする。

## (2) 事前の活動での児童の様子

各自の口の中の様子をつかませるために、家の人と一緒に歯列図に乳歯、永久歯、むし歯、治療した歯を記入させた。しかし、担任が4月の歯科検診の結果と照らし合わせてみると、まちがいが多く、児童が以外に自分の

口の中の様子がつかめていない実態がうかびあがってきた。

前学年で学習したむし歯のできる原因についても、歯みがきをしながら、甘いものを食べるからなどの漠然とした回答が多く、むし歯の四要素（歯質、糖、菌、時間）について答えられた児童はほとんどいなかった。

染め出しテストの結果やふだんのブラッシングの様子からも歯を大切にし進んでむし歯予防に努めているとは言いきれない。

むし歯の進行と予防の学習にはいる前に、「歯のはかせになろう」コーナーに初期のむし歯の絵を掲示し「このままにしているとどうなるだろう」という呼びかけをした。また、その愛称を募集したところ、沢山の応募があり、キャラクターに親しみをもちながら、今後むし歯がどうなっていくか関心を高めることができた。

### (3) 授業反省

事前にむし歯の絵に愛称をつけておいたことで、スムーズに学習にはいることができた。むし歯の進行の様子をわかりやすく伝えることができた。むし歯予防について考える場面では、グループでの話し合い活動を行い、意見を出し合うなかで一人一人が自分にあった具体的なめあてをもつことができた。治療したあとはどうしたらいいか考えさせる場面では、治療したあと新しいむし歯ができる写真が児童に衝撃をあたえ効果的だった。

しかし、次のような点が反省として残った。児童は、どうすればむし歯にならないのか、どんなふうに歯みがきをすればいいのかなどの知識はもっているが、実践に結びついていない児童もいたので、なぜ児童の知識が実践に結びつかないのか分析し、子どもたち同士の相互評価を取り入れるなど励みになるような活動を取り入れたり、自分から楽しく歯みがきに取り組めるような工夫をしたりするなど、児童の主体的な活動をもう少し取り入れる方がよかった。

### (4) 事後の活動での児童の変容と考察

がんばりカードをみると、ほとんどの児童が自分のたてためあてを実践することができた。なかでも、歯医者にいくことをいやがっていたYKは、むし歯をそのままにしておくとたいへんなことになることがわかり治療に通い始めた。同じように治療に積極的でなかったIRも通院を始めた。歯みがきの習慣があまり定着していなかったKHは6月朝、昼、夜一度も忘れずに歯をみがくことができた。配慮をする児童に大きな変化がみられた。今後もはげまし意欲の継続化を図ってていきたい。

## ② 毎日の実践

### (1) 給食配膳の工夫

昨年度に比べて給食時間が5分伸びたものの、配膳に時間がかかり、歯みがきの時間を確保することは難しい面がある。したがって、給食の配膳をセルフサービス方式にしたり、給食当番の分を仕事の早く終わった当番が配ったりするなど、「歯みがきの時間」が確実にとれるように工夫している。

### (2) 時間差歯みがきの継続

4年生4クラスは、階段、トイレによって1・2組、3・4組に分けられている。水飲み場はちょうどその中間にあるため、クラスごとの給食の進み具合や教室から水道までの距離によって、水飲み場を使う時間差が保たれている。したがって、歯みがきの流れは昨年とほぼ同様である。

- ・ビデオを見ながら、3分間の歯みがきをする。  
↓
- ・口の中にたまつた唾を出す。  
↓
- ・ぶくぶくうがいをする。  
・うがいの水を捨てる。  
・使った歯ブラシを洗う。  
↓
- ・歯ブラシは、ランチセットにしまう。  
↓
- ・牛乳パック・コップを洗う。

### (3) 歯みがきカレンダーの取り組みの工夫

歯をみがいても、まだカレンダーにつけ忘れてしまうことが多いので、1日の中で記入の時間を必ず確保できるようにするとともに、毎月の歯みがきカレンダーをファイルに綴じ込んで保管している。また、歯みがきカレンダーのファイルにみがいた回数の一覧表

をはり、個々の記入で自分の歯みがきの状況を把握することによって、歯みがきの意欲を高めるようにしている。

#### (4) 歯の健康ファイルの活用について

歯の保健指導を効果的で充実したものにするために、授業で使う資料や児童の意識付けのための「がんばりカード」を、授業のたびにファイルに綴じ込んでいる。綴じ込んだファイルで今までの学習を振り返ることができるようになっている。

#### (5) 「ピカピカくんだより」配布時の指導について

「ピカピカくんだより」を配布する時には、書かれている内容を簡単に説明して、児童の興味・関心を高めるとともに、その内容についての理解を図り、親子への啓発がスムーズに図れるようにしている。

#### (6) 歯垢染め出しテストについて

毎学期一回、定期的に歯垢染め出しテストを行い、どこにみがき残しがあるのか確認させるとともに、みがき残しのないみがき方ができるように各自にめあてを持たせるようにしている。また、その結果鏡を用いながら歯列図に色塗りし、「歯の健康ファイル」に綴じ込むことによって、自分の歯みがき方の状態を把握できるようにしている。

#### (7) 「歯の博士コーナー」について

階段の踊り場に設置した、4学年の「歯の博士になろうコーナー」では、歯の保健指導年間計画に基づいて、4年生の学習に役立つ資料を計画的に掲示している。「むし歯の進行とその予防」の題材では、「ぼくはこの今まで、どうなってしまうのだろう」という、初期のむし歯の絵の問い合わせによって、児童の興味・関心を喚起できるようにした。次の資料への関心をつなぐため、むし歯の進度の絵を小出ししながら掲示するなど工夫して活用している。

#### (8) 教室掲示について

教室掲示については、歯の保健指導のコーナーを設け、ピカピカくんだよりやむし歯治療を促す表示やどの歯がむし歯か治療が多いかを示した歯列図などをまとめて掲示している。「歯の博士コーナー」だけでなく、教室の中でも環境作りを心がけている。

#### (9) むし歯ポスター・標語について

むし歯予防標語については、日頃の歯みがきの気持ちよさや大切さを訴えるものが多く歯についての意識を高めることにもつながった。

### ③ 保護者への啓発

#### (1) 学年だよりの利用

毎月発行される学年だよりに、むし歯治療のお願いを載せ、3号にわたって呼びかけたところ、治療率の向上につながった。

#### (2) ピカピカくんだよりの意見・感想から

ピカピカくんだよりのアンケートに寄せられる意見・感想から、歯についての知識の定着とともに、歯みがき（みがき方）に對して幅広く関心が高まっていることがわかる。

#### ピカピカくんだより2号の意見・感想から

おやつを食べた後の歯みがきをきちんとできる様にしたいと思います。前よりは、みがき方がとってもていねいになり、とっても良い事だと思います。

#### ピカピカくんだより5号の歯みがきの実践例から

末娘はまだ3歳です。食事後すぐみがけるように、コップの中に水を入れ歯ブラシも置いておきます。食事がすみしだい、そのまま歯をみがくようにしています。お兄ちゃんたちは9時になると声をかけあいながら家族全員でゴシゴシとみがいています。

しかし、このように関心が深まってきている中、アンケートを寄せてくれない家庭もあり、また、それらの家庭はむし歯治療の遅れている家庭に多いことがわかる。

このような家庭へ、別個に粘り強く働きかけていくことが今後の課題である。

## 4. まとめと今後の課題

### (1) まとめ

#### ① 学級活動の指導を通して

- ・事前の活動や指導過程を工夫したことにより、むし歯の進行や症状について関心をもって学習に取り組むことができた。
- ・むし歯をそのまま放置しておくとたいへんなことになることを具体的につかませたことにより、それまで治療を嫌がっていた児童の中からも進んで治療に通う児童もあらわれるなど意識の変容がみられた。

#### ② 日常の実践を通して

- ・昨年からの実践の積み重ねにより、進んで歯みがきに取り組む児童が増えていく。また、歯みがきの時間も長くていねいになってきている。
- ・給食後の歯みがきの時間をいかに確保するかは、配膳をいかに効率よく行うかが課題となる。そこで、セルフサービス方式等を導入したが、それにより歯みがきタイムを確保できるようになってきた。

#### ③ 家庭との協力を通して

- ・保健室からのむし歯治療勧告書の発行に合わせて、学年だよりでもむし歯の早期

治療を3回にわたって呼びかけた。それにより、むし歯治療が完了した児童が増えている。

・ピカピカくんだよりのアンケートをみると、昨年よりもさらに具体的な実践をしている家庭が増えている。また、ピカピカくんだよりについての要望も多様化、具体化してきている。

### (2) 今後の課題

・児童の取り組みにしても保護者の取り組みにしても差が拡がりつつある。児童の歯みがきの様子については、進んで取り組み、ていねいにみがけている児童がいる一方で、道具を忘れたり、簡単に歯みがきを済ませてしまったりする児童も依然としているのが現状である。また、むし歯予防や治療に関して関心が低い家庭もある。取り組みが十分ではない児童や家庭については、今後も個別に粘り強く働きかけていくことが必要である。

・実践例の学級活動では「むし歯を放置しておくとたいへんなことになる」という意識をもたせることで実践化を図った。しかし、常にそのような方法だけでは、児童によっては知識だけにとどまり、必ずしも実践に結びつかないということも生じてくるであろう。自分からたのしく歯みがきに取り組めるような工夫や発想の転換が必要である。

・児童主体の学習になるよう、支援の仕方や学習形態について、さらに工夫をしていきたい。

## ◆◆ 5 年 の 取 り 組 み ◆◆

### 1. 学年の児童の実態、重点目標

児童の実態	
日常の観察から	アンケート結果から
<p>◆ 基本的な生活</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元気で明るい。</li> <li>・指示されたことはできる。</li> <li>・自主的に行動できない。</li> <li>・自分に甘く、人に対して厳しい。</li> </ul> <p>◆ 学習面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・好奇心が旺盛である。</li> <li>・するべきことはきちんとする。</li> <li>・作業的学習を好む。</li> <li>・難しい課題に対しての諦めが早い。</li> </ul> <p>◆ 健康・安全面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・危険度の高いことはしない。</li> </ul>	<p>① 歯の健康づくり（保護者の取り組み）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口の中の様子に対する関心は高まってきたが、むし歯予防のための食べ物に気をつけている家庭はやや少ない。</li> </ul> <p>② 健康な歯づくり（児童の取り組み）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歯に対する関心が高まり、毎食後歯をみがけている児童が増えてきた。</li> <li>・歯みがきの時間が長くなってきた。</li> </ul> <p>③ 生活のようす（児童）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣に自立の傾向が見られ、健康のために運動する児童が多くなってきた。</li> <li>・おやつにスナック菓子、甘いものが多い。</li> </ul>



重 点 目 標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の歯の形や歯ならびの様子を確認し、歯ならびにあった歯みがきの仕方を身につける。</li> <li>・食品中に含まれる砂糖の量を知り、健康を考えた食生活を実践しようとする意欲をもつ。</li> </ul>



歯の健康づくりに関する実態	めざす児童像	指導の手立て
<ul style="list-style-type: none"> <li>・むし歯は病気であるととらえている児童は多くなってきている。</li> <li>・自分の歯に対する関心が高まってきた。</li> <li>・むし歯があっても歯医者に行くことのできない児童が何人かいる。</li> <li>・歯肉炎・歯周炎について理解していない。</li> </ul>	<p>自分の歯の様子 が分かる子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・むし歯は病気だと思って</li> <li>・自分の歯を歯列図に記入し、むし歯がないか確認させる。</li> <li>・染め出しテストで、みがき残しがあることを確認させる。</li> <li>・12歳臼歯の特徴を理解させる。</li> <li>・歯にはそれぞれの特徴があることを確認させる。</li> <li>・歯肉炎・歯周炎の症状と予防について理解させる。</li> </ul>

歯みがきの時間の大半が3分くらいである。	自分から歯をきれいにみがける子	染め出しテストによってみがき残しがあることを確認させる。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯みがきの意義は理解できている。</li> <li>・自分の歯にあったみがき方ができていない児童が多い。</li> <li>・毎食後に歯みがきができている児童が多い</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の歯にあったみがき方があることを確認させる。</li> <li>・歯肉炎や歯周炎があることを確認させ、予防するためのみがき方を身に付けさせる。</li> </ul>

が、おやつの後の歯みがきを行っている児童は少ない。

- ・毎朝、きちんと朝食をとることができている。
- ・おやつに、スナック菓子や甘いものを取る児童が多い。
- ・食べ物の好き嫌いのある児童が多い。

健康を考えた食生活ができる子

- ・食べ物には、それぞれ栄養があることを理解させバランスのとれた食事ができるよう実践意欲をもたせる。
- ・そしゃくの大切さを理解させふだんの食生活の中でよく噛むための、実践意欲をもたせる。

## 2. 研究の経過

月	研究の内容	児童への取り組み
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学年会           <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修組織（学習部・実践部・啓発部）配属。</li> <li>・歯みがきタイム実践方法検討。</li> <li>・「歯の博士コーナー」への掲示物の検討。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯みがきタイム継続実施</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校内研修</li> <li>○校内研修</li> <li>○学年会           <ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科検診の集計及び結果分析。</li> <li>・歯みがきカレンダーへの取り組み検討。</li> <li>・むし歯予防デーへの取り組み。</li> <li>・6、7月の「歯の博士コーナー」掲示物の検討に関する児童の実態把握。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・むし歯のない子への賞状配布。</li> <li>・むし歯治療の勧告書配布。</li> <li>・歯みがきカレンダーの記録指導。</li> <li>・ポスター作成。</li> <li>・染め出しテストにより自分の歯みがき残りを確認。</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学年会</li> <li>○学年会           <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画訪問反省。</li> <li>・歯みがきカレンダーの集計、考察。</li> <li>・親子ブラッシング講習会</li> </ul> </li> <li>○校内研修</li> <li>○学年会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯みがきカレンダーの記録指導。</li> <li>・授業実践。</li> <li>・むし歯治療勧告書2回目配布</li> <li>・指導案検討。</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校内研修</li> <li>○職員会議</li> <li>○学年会           <ul style="list-style-type: none"> <li>・歯みがきカレンダーの集計、考察。</li> </ul> </li> <li>○校内研修・学年会</li> <li>○学年会           <ul style="list-style-type: none"> <li>・紀要原稿作成。（実態、目標、指導の手立て、日常の実践、授業実践、まとめと今後の課題）</li> </ul> </li> <li>○要請訪問</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯みがきカレンダーの記録指導。</li> <li>・むし歯治療勧告書3回目配布</li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校内研修</li> <li>○学年会 紀要原稿検討。</li> </ul>	

### 3. 実践例

#### ◇ 授業

##### (1) 指導案

###### 学級活動（保健指導）指導案

###### 授業の視点

自分の食事の内容、食事の仕方に気付き、固い食べ物をよくかんで食べることが人間のからだにとってよい影響をもたらすことを知ったならば、毎日の食事の内容、食事の仕方を見直すであろう。

###### 1. 題材名

「そしゃくの大切さ」

###### 2. 考察

###### ① 題材にかかわる価値

昔は、「よくかむこと」は、子育て・しつけの上でとても大切なこととされてきた。しかし、最近は、かまない子、かめない子が、増えている。そんな子供たちに共通に見られるのは、①歯ごたえのある物を嫌う、②スナック菓子・アイスクリーム・プリンなどの口当たりの良いものが好き、③ごはんパンなどをよくかまないで汁や飲み物で流し込む、④野菜や肉を飲み込めない、⑤口を大きくあけられない、などである。よくかんでいないことが、①あごの発達が遅れて、歯並びが悪くなる。②むし歯・歯周炎になりやすい。③味覚が発達していない。④言葉がはっきりしていない。⑤かむ力が弱いなど、一生にかかわる重大な問題を作り出している。

現在、子供たちはすべてにおいて「早く行うこと」を強制されていると言っても過言ではないほどの状況におかれている。食事についてもそれは言える。かむというよりは、飲み込むというような食べ方をしている子も多い。また、子供た

ちの好きな献立は、「オカアサンヤスマ」と言われるもので、オーオムレツ、カーカレーライス、サンーサンドウイチ、ヤーやきそば、スースパゲティ、メー目玉焼きといった比較的柔らかい物ばかりである。従ってかむ回数は、少ないのではないかと考えられる。

そこで、消化吸収という面からよくかむことの重要性に気付かせ、消化吸収を助けるためにも歯を守っていくことが大切であることを分からせる。自分の今までの食事について振り返り、より良い食事内容、食事の仕方について考えていくよい機会となるであろう。また、「かむこと」を通じて人間のからだの素晴らしさにも目を向けさせたい。

###### ② 系統（略）

###### ③ 児童の実態

（男子18名、女子17名、計35名）

給食の時間には、それぞれが自分の食べられる量に合わせて、たしたり減らしたりしていてクラス全体としては、残量も少なく、ほとんど残らないことが多い。しかし、その食べる量の違の他、好みもだいぶ違っているようである。肉類を食べない子、野菜を減らす子、全体的に少食な子といろいろである。たくさん食べた子は、かきこむようにして食べ、お代わりにでてくる。よくかむということことができない。

次のような質問をしてみた。結果は（ ）の中の数字。

・食事の時、「よくかみなさい」といわれるか？

は い (20)

いいえ (15)

・食事の時、自分でよくかむように気を付けているか？

は い (15)

いいえ (20)

・あなたは、さきいかやセロリなどの固いものがすきか？

は い (33)

いいえ (2)

④ 指導方針

〈事前の活動〉

⑦ 1週間の食事を調べ、食事の内容、かんだ回数などの記録から気付いたことをプリントに書き出し、自分の食事のだいたいの様子をつかむ。

〈本時〉

① 現代人と古代人との頭蓋骨を比較するTPを見せ、下顎の違いに気付かせ、どうしてその違いがうまれたのかを調べようという意欲を持たせる。

② つきつめる段階では、実際にかみごたえのある物、柔らかいものの二種類を用意し、食べさせ、噛みごたえの違いを実感させる。

③ かみごたえ表で自分の食事の内容を調べ、柔らかい物が多いが、固い物が多いか考えさせることにより、これらの食事内容について考える材料にしたい。

④ 「よくかむ」基準を「1日15回、一食900回」と示してやり、実践しやすいようにさせる。

〈事後の活動〉

⑤ 実践カードを一週間つけ、習慣化を

図る。

⑥ 歯みがきカードを利用して、食後の歯みがきを振り返り、自分の歯を守る計画を立てる。

〈教育目標の関連〉

学校教育目標 学級教育目標 指導方針との関連

きまりを守り、なかよくする子	人の気持ちを考え、行動する子	⑥
じょうぶな体で、がんばりぬく子	健康で頑張りぬく子	⑤ ⑦
すすんで学び、よく考える子	自分から学び、良く考える子	① ② ③ ④

〈同和教育上の配慮〉

⑧ 食事調べについては、食事の内容についていろいろいうのではなく、使われている材料について見ていき、お互いの食事内容について豪華とか粗末などという言葉が出ないようにさせる。

⑨ 食事調べが全部できていない子もできている所だけみて学習するように言い、認めていきたい。

③ 活動の経過

① 事前の活動

・一週間の食事調べとかんだ回数調べを行う。

② 本時の活動

⑦ ねらい

そしゃくと消化吸収の関係から、歯の働きに気付かせ、よくかむことがからだにとって様々な良い効果を及ぼすことを知り、自分の食生活を見直そうとする気持ちを持たせる。

## ① 展開

過程	学習活動	教師の支援および留意点	資料・用具
つかむ 5分	・古代人と現代人の頭蓋骨を比較したTPを見て、違いの原因について考える。	・下顎の違いに気付かせる。 ・自分の食事調べの結果表を参考にしながら、食生活が関係していることに気付くよう援助したい。 ・噛む回数の違いに気付かせたい。	・OHP ・TPシート
つきとめる 30分	・固い食べ物と柔らかい食べ物をかんで、それを飲み込むまでの回数を数える。  ・よくかむのとかまないのでは、どちらの方がからだによいか考えたり聞いたりする。	・回数の違いに気付かせ、その理由を考えさせたい。 * 固い物は、かみ砕くのに時間がかかるから * 柔らかい物は、かみ砕くのに時間がかかるないから ・自分達の経験から考えさせたい。 ・食物を小さくし、消化しやすくすることに気付かせたい。 ・かむことの「8大効用」を知らせ、かむことの大切さを知るよう援助したい。 * 「ひ」肥満防止 * 「み」味覚の発達 * 「こ」言葉の発音 * 「の」脳の発達 * 「は」歯の病気予防 * 「が」癌の予防 * 「いー」胃腸快調 * 「ぜ」全力投球	・するめ ・豆腐 ・かみごたえ表 ・8大効用図
つきつめる 30分	・自分の食事調べを見てかみごたえのある食物をとっていたか、かみごたえ表をみながら印をつけ、だいたいの傾向を知る。	・献立の部分に赤丸をつけさせ、自分の傾向をつかめるよう援助する。	・かみごたえ表のプリント ・赤鉛筆
活かす 10分	・今後の自分たちの食生活について考え、ワークシートに記入し、発表する。	・具体的な目標を持てるように机間巡視しながら助言する。 ・よくかむことが実践できるように支援する。 ・人間らしい健康なからだを保っていくためには、常に生活に留意する必要があることに気付かせたい。	・ワークシート

## ② 評価の視点

- ・よくかむことが、人間のからだにとって良い影響をもたらすことが分かったか。
- ・自分の食生活を見直そうという気持

ちが持てたか。

## ③ 事後の活動

- ・実践カードをつけ、自分の目当てを持って食事ができたか記入する。

## (2) 事前の活動での児童の様子

ここで学習する「そしゃくの大切さ」の事前学習として、児童一人一人が自分の食事の内容について調べたり、その食事でどのくらいの回数のそしゃくが行われているかを調べたりするために一週間の食事調べを行った。

その中での感想としては、「固いものの時は、よくかまないとのみこめない。」「うどんのようなやわらかい物より、お肉のような固いもののほうが、かむ回数が多くなる。」「かたいものを食べるとあごが強くなるから、いっぱい食べたい。」「お肉とかたくさんかまないと食べずらかった。」など食べ物のかたさとかむ回数について気付いた児童も何人かいた。

かむ回数については、神奈川県下の小学生男女児童（1年生から3年生）114名の5日間の給食の様子をビデオにとり、一人一人のそしゃく回数と食事時間を測定したものと比較してみると次の通りである。

そしゃく平均回数

	神奈川県下	本学級
500回まで (かめない子)	32%	41%
500から900回まで (かまない子)	43%	52%
900回以上	25%	7%

食事調べに意欲的に取り組み、学習の課題をつかんでいた。

## (3) 授業研究会で話し合われた内容

- ① 実態のなかで「固い食べ物とは、どんな物と考えているのか」をあげさせ、驚きや発見をさせるようにしたらよいのではないか。
- ② 「かむことの8大効用」を全部知らせてしまうのではなく、2つでも3つでも児童に気付かせるようにするとよかったです。
- ③ 今日の授業は、「顔形」からその原因を

探っていったが、その反対に、こういう条件が「顔形」を変えていくという授業も組めるのではないか。

## (4) 事後の活動での児童の変容と考察

事後の活動では、「かみかみ実行カード」に自分の目当てがまもれたかどうか記入した。結果は、ほとんどの児童が目当てを守ることができ、その反省・感想には、「この5日間、目標が守れてよかったです。これからはなるべく、やわらかいものを少なくして食べたいです。」「すごいかんだ数だなと思う。」などよく意識して実行できたようである。

この学習を通し、毎日の食事の内容、食事の仕方を見直すことができたと言える。

## ② 毎日の実践

### (1) 毎日の歯みがき

学校での毎日の歯みがきは、給食後に実施している。今年度は、少しでもゆとりを持って歯みがきができるように、給食時間を昨年度より5分延長して、12:20～13:05と45分間としてある。

新学期当初は、昨年度使用したビデオを見ながら、もう一度歯みがき方を確かめさせながら行った。その後は、ビデオなしでも児童は自主的に歯みがきに取り組んでいた。児童の何人かは手鏡を持参し、みがき残しがないようにみがき方を工夫していた。

給食を食べ終わった人から順に自分の席でみがき、みがき終わった人から流し場の方にいって口をゆすぐ方法をとった。この方法の利点は、流し場の混雑の解消につながるということと、自主的な歯みがき態度を育てる実践の場となるということがあげられる。

学年全体を通してみると、児童には給食

後の歯みがきはすっかり定着し、自主的に歯みがきに取り組む態度は確実に育っている。しかし、一部には、毎日の事なのでしだいに歯みがきに慣れ、形だけ実施して済ませてしまう児童が見られた。

そこで、定期的にビデオを見せる指導を取り入れたり、染め出しテストの結果や学級活動との関連を図ったりした。また、時には一斉みがきを取り入れるなどいろいろな活動と関連させながら、その都度正しく、自主的に歯みがきが実践できるような態度の育成に努めた。

#### (2) 染め出しテストによるみがき方の再確認

最低学期1回を目標に、カラーテスターによる染め出しテストを実施し、自分のみがき方を振り返らせた。

毎日の指導の中で、児童自身はかなり意識的に歯みがきに取り組み、きれいにみがけているように思っている。しかし、改めて染め出しテストを実施してみると、ほとんどの児童がみがき残しがあることに気づき、改めてしっかりみがこうという意識を持って取り組むようになった。

#### (3) 歯みがきカレンダーの活用

歯みがきカレンダーについては学級保管とし、朝自習の始まる前の時間に記入させている。保管方法としては、全員がカレンダーをファイルにとじ、記入前に保健委員が配布している。

ファイルは昨年からのものをそのまま引き続いて使用している。少し古くなっているが、継続してつけているという意識を高めるためという意味で使用している。

今年度は、表紙に絵をつけたり、子ども自身がみがいた回数を自覚できるように一覧表を裏表紙につけたりして工夫している。

#### (4) 歯の博士コーナーの充実と活用

2階と3階の間の踊り場にある、「歯の博士コーナー」の内容の充実と活用の工夫に努めた。場所的に朝・帰りはもちろん、休み時間にも頻繁に児童はその場所通り、目にする場所なので、日常的な啓発には大変有効な場所である。

その掲示を通して、知識理解を深めたり、学級指導の資料として利用したりして活用を図った。

#### (5) むし歯予防ポスター・標語による啓発

6月4日のむし歯予防デーにあわせて、むし歯予防ポスターに取り組ませた。よい作品は学年・学校で表彰し、校内に掲示し啓発を図った。

また、児童会募集によるむし歯予防標語にも積極的に応募し、児童自身が募集から応募、表彰まで取り組めるよう支援し、進んでむし歯予防に取り組む態度の育成を目指し工夫した。

#### (6) 家庭科での学習と連携

5年生では家庭科が初めての教科として登場する。学習内容も身近な題材や実習が多いことから、児童は大変学習意欲を持って取り組んでいる。

5年生の1学期の題材に「なぜ食べるのか考えよう」という題材がある。その中で毎日の食生活を振り返せたり、「食物と栄養の関係」や「栄養素のはたらき」について学習したりする。

これらの学習の中で「食生活とむし歯予防」について、関連づけて指導した。例えば毎日の食生活をふりかえる時に、おやつにも関心を向けさせたり、「おやつと砂糖」についても調べさせたりした。また、栄養素のところでは、「カルシウムの摂取」など歯を形成する栄養素について触れ、むし歯と歯質や食事の関係についても

学習した。

#### (7) 「ピカピカくんだより」の活用

月2回配布される「ピカピカくんだより」を児童に配布する際に、児童にも読んで聞かせたり、親からのアンケートの回答で家庭での歯みがき実践で参考になるものは児童に紹介したりして、実践への意欲化を図った。

#### ③ 保護者への啓発

##### (1) 「ピカピカくんだより」の回収状況から

昨年度に引き続き「ピカピカくんだより」を発行し、保護者に同じ項目でアンケートをとった。結果は以下の通りである。

	調査項目	回収率	回 答	
昨年	お子さんのむし歯の数を知っていますか。	55%	知っている 79%	知らない 21%
2号	お子さんのむし歯の数を知っていますか。	88%	知っている 73%	知らない 18%
昨年	お子さんの口の中を点検していますか。	66%	している 60%	していない 40%
2号	お子さんの口の中を点検していますか。	72%	している 73%	していない 27%

① 各号とも昨年に比べ回収率が高まってことから、「ピカピカくんだより」に対する保護者の関心は高まっていると思われる。

② 子どものむし歯の数を知らない人や口の中の点検をしていない人が減ってきてことから、子どもの口の中の健康に注意を払っている保護者が増えてきていると思われる。

③ 子どものむし歯の数を忘れてしまっている保護者がわずかに増えていることから、保護者の意識の継続を図ることが今後の課題である。

また、ピカピカくんだよりにたくさんの保護者の意見や感想が寄せられた。主な意見や感想は、以下の通りである。

- ・ブラシのいろいろな部分を使ってみがくよう子供から教えられ、親の方がみがき方に注意するようになった。(2号)
- ・家族5人なのに、学校用、自宅用などで14本の歯ブラシがあり、何時でもみがけるようにしている。(4号)
- ・歯ブラシをおふろと洗面所においてあり、いつでもみがけるようにしている。(6号)
- ・みがき残しがあるかどうか確認するため、みがき終ったあと、人差指で歯の上下・左右・裏側の上下・左右・奥の方とこすり・キュキュと音がしないときはそこをみがく。(6号)

・以前にTVのCMの時間に歯をみがくとき「だるまさんが転んだ」と唱えていました。それで、1か所につき10回ブラシが動くわけです。家ではこの言葉を言いながらみがいています。(6号)

以上のことから、「ピカピカくんだより」を通して保護者の健康な歯づくりに対する関心が深まってきたことがうかがえる。

##### (2) 学年だよりの利用

学年だよりを利用して、むし歯治療のお願いや「歯の健康」講演会を紹介した。

##### (3) 家庭との連携を通して

学年だよりやピカピカくんだよりを通して、口の中の健康について情報を伝えたところ、家庭独自に考え、工夫した歯のみがき方や食事のとり方を試みる保護者が増えてきた。

## 4. まとめと今後の課題

### (1) まとめ

#### ① 学級活動の指導を通して

- ・調べ学習や体験的な学習などを取り入れ、指導方法を工夫したことにより、児童の興味・関心を引き出せ、授業が活性化し深まった。
- ・家庭科の学習と関連させ、授業に取り組んだことで、児童の理解がより一層深まった。
- ・自分の健康づくりのためには、どんなことが必要であるかなどが分かり、進んで健康づくりに取り組む態度が育ってきた。

#### ② 日常の実践を通して

- ・毎日の歯みがき実践によって、子供たちの歯みがき習慣は向上し高まりが見られた。
- ・さまざま、啓発活動によって歯や歯みがきに対する知識・理解が高まり、進んで歯を大切にしていこうとする実践意欲の高まりが見られた。

#### ③ 家庭との連携を通して

- ・学年だよりやピカピカくんだよりを通して、口の中の健康について情報を伝えたところ、家庭独自に考え、工夫した歯のみがき方や食事のとり方を試みる保護者が増えてきた。

### (2) 今後の課題

- ・家庭での昼の歯みがき習慣定着が朝・夜に比べてよくない。啓発部との連携を図りながら、家庭の協力を得て昼の歯みがき習慣の定着を図る。
- ・学年が変わる年度末・年度始めの時期は、学校を離れ担任を離れるので歯みがきカレンダーの活用意識が薄れる傾向がある。進級によって実践が途切れることなく、スムーズに次学年へ実践が継続されるように意識を高める。
- ・学校での毎日の歯みがき実践では、より自的にそして正しく、汚れた部分や歯みがきのポイントを意識しながら実践できるように、今後も啓発や指導を工夫し習慣化を図る。

# ◆◆ 6 年 の 取 り 組 み ◆◆

## 1. 学年の児童の実態、重点目標

児童の実態	
日常の観察から	アンケート結果から
<p>◆ 基本的な生活習慣</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・素直で元気。</li> <li>・忘れ物が多い。</li> <li>・指示されたことができない児童がいる。</li> <li>・自主的に行動できない。</li> <li>・自分には甘く、人に対して厳しい。</li> </ul> <p>◆ 学習面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遅れている児童の面倒はよくみる。</li> <li>・大半の児童はすべきことはするがまだできない児童もいる。</li> <li>・作業的学習を好む。</li> <li>・とりかかわりは良いが根気よく取り組めない。</li> <li>・難しい課題に対して、あきらめが早い。</li> </ul> <p>◆ 健康・安全面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・危険度の高いことはしない。</li> <li>・正しい姿勢ができない。</li> <li>・欠席が少なく健康的である。</li> </ul>	<p>① 歯の健康づくり（保護者の取り組み）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口の中のようすや歯みがきの状態に対する関心は高まっているが、食物に気をつけるまでにはいたっていない。</li> </ul> <p>② 健康な歯づくり（児童の取り組み）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歯に対する関心が高まり、歯みがきの時間や回数も増えている。</li> <li>・おやつ後に歯みがきをする子がいない。</li> </ul> <p>③ 生活のようす（児童）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の起床時間等に多少自立の傾向が見られるが、まだ完全ではない。</li> <li>・おやつにスナック菓子、ジュースが多い。</li> </ul>



重 点 目 標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の口の中のようすを詳しく確認するとともに、12歳臼歯の特徴を理解し、歯肉炎予防のための正しい歯みがきの仕方を身に付ける。</li> <li>・栄養のバランスや歯の健康を考えた食事の大切さを知り、正しい食生活の実践への意欲を持つ。</li> </ul>



歯の健康づくりに関する実態	めざす児童像	指導の手立て
<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯みがきをする心構えはできている。</li> <li>・むし歯は病気だと思っている児童が多くなっている。</li> <li>・数人決まった児童がむし歯があってもなかなか歯医者に行かない。</li> <li>・歯みがきをする理由は理解しているが歯肉についてまでは理解していない。</li> <li>・歯みがきをする児童が多くなっている。</li> </ul>	自分の歯の様子 が分かる子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のむし歯や欠けている歯を歯列図に記入し、確認させる。</li> <li>・歯垢染め出しテストにより、みがき残しがあることを確認させる。</li> <li>・歯にはいろいろな種類やはたらきがあることを確認させる。</li> <li>・12歳臼歯（第二大臼歯）の特徴を理解させる。</li> <li>・歯は3つの役割（咀嚼、発音、容姿）があることを理解させる。</li> <li>・むし歯の進み方や症状を理解させる。</li> </ul>

自分の歯の様子 が分かる子	<ul style="list-style-type: none"> <li>むし歯の進行を防ぐには、早期発見、早期治療が大切なことを理解させる。</li> <li>歯周病の原因や症状を理解させる。</li> <li>ブラッシング時の体験を生かし、自分の歯肉の状態を理解させる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>歯みがきの時間は3分くらいの児童が大半である。</li> <li>自分の歯にあったみがき方今まで至っていない児童が多い。</li> <li>歯ブラシの状態には気を配っている児童が多い。</li> <li>おやつの後で歯をみがく児童はいない。</li> </ul>	自分から歯をきれいにみがける子 <ul style="list-style-type: none"> <li>歯垢染め出しテストにより、みがき残しがあることを確認させる。</li> <li>自分の歯の形や歯並びに合わせたみがきの仕方を身に付けさせる。</li> <li>歯肉炎を予防するための正しい歯みがき方を身に付けさせる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>朝、時間にゆとりのない児童が多い。</li> <li>スナック菓子やジュース等のおやつが多い。</li> <li>好き嫌いのある児童が多い。</li> </ul>	健康を考えた食生活ができる子 <ul style="list-style-type: none"> <li>栄養のバランスや歯の健康を考えた食事が大切であることを理解させ、実践への意欲を持たせる。</li> <li>よく噛んで食べることが顎の発育を促し、歯の発育に良いことを理解させ、実践への意欲を持たせる。</li> </ul>

## 2. 研究の経過

月	研究の内容	児童への取り組み
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学年会               <ul style="list-style-type: none"> <li>研修組織（学習・実践・啓発）編成</li> <li>給食後の歯みがきの仕方について</li> <li>歯の博士コーナーについて</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歯科検診</li> <li>4月歯みがきカレンダー</li> <li>歯の博士コーナー展示</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校内研修               <ul style="list-style-type: none"> <li>仮説について</li> <li>研究内容について</li> <li>研修計画について</li> </ul> </li> <li>○校内研修               <ul style="list-style-type: none"> <li>各部会の研修内容について</li> </ul> </li> <li>○学年会               <ul style="list-style-type: none"> <li>歯科検診の集計・分析・考察</li> <li>むし歯予防デーの取り組みについて</li> <li>6・7月「歯の博士コーナー」について</li> <li>むし歯予防デーの取り組みについて</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>むし歯のない子・保護者への賞状配布</li> <li>むし歯治療の勧告書配布</li> <li>5月歯みがきカレンダー</li> <li>健康な歯づくりアンケート（児童・保護者対象）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>むし歯予防ポスター作成</li> <li>6月歯みがきカレンダー</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校内研修               <ul style="list-style-type: none"> <li>計画訪問について</li> <li>紀要について</li> </ul> </li> <li>○学年会               <ul style="list-style-type: none"> <li>指導案について</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>試行授業</li> </ul>

6	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材開発</li> <li>○学年会</li> <li>・計画訪問反省</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試行授業</li> <li>・研究授業</li> <li>・むし歯治療勧告 2回目</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校内研修</li> <li>・歯みがきカレンダーによる指導について</li> <li>○学年会</li> <li>・紀要原稿作成</li> <li>○要請訪問</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯みがきカレンダー集計と反省</li> <li>・むし歯治療勧告 3回目</li> </ul>

### 3. 実践例

#### ◇ 授業

##### (1) 指導案

###### 学級活動（保健指導）指導案

###### 授業の視点

歯周病の恐ろしさや原因がわかり、自分たちの日常の取り組みで予防や治療が可能なことを知れば、歯周病予防への関心が高まり、実践的意欲が向上するであろう。

###### 1. 題材名

歯肉の病気を予防する歯みがき方

###### 2. 考察

###### ① 題材にかかる価値

本題材は、学級活動の活動内容(2)日常生活や学習への適応及び健康や安全に関することの中の「健康で安全な生活態度の形成」にあたるものである。

歯周病は、むし歯と並んで口腔の二大疾患といわれ、私たちが歯を失う主な原因となっている。歯周病は、その進行状況によって歯肉炎と歯周炎とに分けられる。歯肉炎は、プラークの中の細菌などの刺激や歯石によって、歯に接する歯肉に炎症が起こって赤く腫れている状態をいう。特に痛みは感じられないが、歯みがきなどによって容易に出血する。歯肉炎を長く放置すると、炎症は広がり次第に深部に及び、歯をささえている骨（歯

槽骨）にまで達する。これが歯周炎である。歯周炎は、末期になると歯槽骨が壊れ歯がぐらぐらする。歯と歯肉の間からは血や膿が出て、最後には歯が抜け落ちてしまう。このような状態を歯槽膿漏という。（現在では歯槽膿漏という言葉は使用しないが、歯肉炎の程度を表す言葉としてあえて使用する。）歯槽膿漏にまでなると病巣が深く完治しにくくなるので、日頃から予防することや、歯肉炎程度で発見し、治してしまうことが大切である。予防法としては、規則正しい生活を心がけること、歯肉をマッサージすることが良いとされているが、もっとも重要なのが、ブラッシングによって口の中をいつも清潔に保つことである。

児童はこれまで、むし歯予防のための歯みがきの仕方、むし歯の原因、むし歯の進み方、おやつの取り方などについて学習してきている。歯肉に関しては、歯肉炎の原因と症状をすでに学習している。しかし児童にとって歯肉炎はむし歯ほど気にならないらしく、歯みがきタイムの時間などを見ていても歯肉にまで注意してブラッシングしている児童は少ない。これは児童が歯肉炎の延長にある歯周病の恐ろしさを知らないためと考えられる。しかし、実際には4月の検診で歯周炎と診断された児童が1名、ブラッシング時に歯から出血したことのある児

童が14名もあり、歯周病の始まりが感じられる。

軽度の歯肉炎が始まるこの時期に歯周病の学習をすることは意義があると考えられる。また、小学校高学年のこの時期に歯周病の学習をすることは次のような点で意義があると考える。第一に、「歯肉の健康状態を自分自身でとらえることができる。」歯肉に炎症が起きると、歯肉が腫れる、弾力がなく引き締まりがなくなる、歯肉の色が赤みを帯びてくる、少しの刺激で出血する等の症状が現れてくる。これらは鏡による歯肉の健康観察や日常の歯みがき時の出血の有無などで小学生でも容易に自分の歯肉の健康状態を把握することができる。第二に、「歯肉炎は、みがき残しのない歯みがきで改善され、比較的短期間に実践の結果や「成果を確かめやすい。」歯肉炎の原因はプラークである。プラークを取り除くことによって歯肉炎は比較的短期間で治る。歯と歯ぐきの間の部分を丁寧にみがくことによって、児童自身で歯肉の問題を解決し、それを自分自身の目で確かめることができる。第三に、「歯肉の健康状態を観察することにより、日頃の歯みがきの状態を自己評価できる。」歯肉炎の原因はみがき残したプラークである。歯肉に炎症があるということは、歯ブラシの毛さきが歯や歯肉に十分届いていないなどみがき方に問題があるということになる。歯肉の健康状態の観察は、日頃の歯みがき状況を自己評価することになる。

歯肉は直接目で見えるところにあるので、適切な指導により、自分の歯肉の健康状態を把握することが可能である。毎朝髪形を気にするように、日頃から自分

の歯肉の状態に关心を持ち、適切な歯みがきを実行できれば、成人後の歯周病が減少することは確実であり、一生自分の歯で過ごすことも可能である。

また、この授業全体を通して身に付けさせたい資質や能力として、劇の導入や身近な教材を取り入れることにより児童の健康に対する興味・関心を高めたり、歯周病の原因を考えさせることや正しい歯みがきの方法を考えることを通して思考力・判断力を養ったり、歯肉炎を予防する歯みがきを継続的に身に付けさせることで技能を身に付けさせたりしていきたい。そして、その学習過程を通して歯周病についての正しい知識を学ばせていきたいと考える。

以上のように自分の努力で歯肉炎を予防・改善し、健康を取り戻せることを、小学校高学年の今、学習させて生涯にわたる健康の基礎づくりをしておきたいと考え、本題材を決定した。

## ② 系統 略

### ③ 児童の実態

男子17名、女子18名合計35名のクラスである。明るく活発な児童が多いが、精神的にまだ幼く基本的な生活習慣がよく身に付いていない児童も数名見られる。本授業に先立ちアンケートと歯垢染め出しテストを行ったところ次のようないくつかの結果であった。

〈アンケートから〉

⑦ 1日に何回歯をみがきますか。

みがかない…………… 0人

1回…………… 1人 (3%)

2回…………… 0人

3回…………… 31人 (91%)

4回…………… 2人 (6%)

ほとんど全員の児童が一日3回歯み

がきをしている。

① いつ歯をみがきますか。

起きてすぐ	2人 (6%)	……29人 (85%)
朝食後	31人 (91%)	歯肉炎にならないため
給食後	33人 (97%)	……3人 (9%)
おやつ後	0人	病気にならないため
夕食後	10人 (29%)	……7人 (21%)
寝る前	27人 (79%)	年をとっても自分の歯でいたいため
おやつの後歯みがきをする児童や夕食後歯みがきをする児童が少ない。まだ歯みがきの理由が理解できていないと考えられる。		……6人 (18%)

② 歯みがきに何分ぐらいかけますか。

1分ぐらい	2人 (6%)	大部分の児童は歯みがきイコールむし歯予防と考えているが、何名かの児童は更に進んで健康のためと考えている。
3分ぐらい	20人 (59%)	
5分ぐらい	10人 (29%)	
7分ぐらい	2人 (6%)	

給食後の歯みがきタイムの習慣が身に付いているためか3分以上みがく児童が多い。

③ 人に言われなくとも歯みがきをしていますか。

は い	26人 (76%)	④ 歯ぐきが赤く腫れたりブラッシングの時血が出たりしたことがありますか。
いいえ	8人 (24%)	(複数回答、%は全体35人に対する割合)

まだ24%の児童が人に言われないと歯みがきができない状態である。

⑤ 自分の歯はきれいにみがけていますか。

は い	9人 (26%)	赤く腫れたことがある
ふつう	24人 (71%)	……6人 (18%)
いいえ	1人 (3%)	血が出たことがある

大部分の児童がまあまあみがけているとを考えている。歯垢染め出しテストの結果と比べると確認の甘さが見られる。

⑥ なぜ歯みがきをするのですか。(複数回答。%は全体35人に対する割合)

むし歯にならないため		……14人 (41%)
------------	--	-------------

⑦ 歯肉炎を知っていますか。

言葉もどんな病気かも知っている	18人 (53%)	どちらもない	14人 (41%)
-----------------	-----------	--------	-----------

言葉は知っているがどんな病気かは知らない

15人 (44%)
-----------

知らない

1人 (3%)
---------

⑧ 歯周病を知っていますか。

言葉もどんな病気かも知っている	0人
-----------------	----

言葉は知っているがどんな病気かは知らない

14人 (42%)
-----------

知らない

20人 (58%)
-----------

⑨ 歯槽膿漏を知っていますか。

言葉もどんな病気かも知っている	
-----------------	--

…… 7人 (21%)

言葉は知っているがどんな病気かは  
知らない……………26人 (76%)

知らない……………1人 (3%)

歯肉炎は知っているが歯周炎、歯槽  
膿漏になると知らない児童が増える。

歯肉炎が進行するとどのようになるか  
理解されていない。

〈歯垢染め出しテストから〉

A (きれいにみがけている)

……13人 (38%)

B (少し汚れている)

……15人 (44%)

C (だいぶ汚れている)

…… 6人 (18%)

意識ではきれいにみがけていると考えている児童が大部分であるが、実際にきれいにみがけている児童は13人 (38%) であり、まだまだみがき残しをしている児童が多く、意識と実際のズレが見られる。

全体として、人の言わないとまだ歯みがきができないこと、歯周病を予防するような正しい歯みがきの仕方が身に付いていないこと、歯周病についての正しい知識を知らないことが問題としてあげられる。

具体的には、まだ正しい歯みがきの仕方が身に付いていないK. Hや a. kに正しい知識を持たせ、みがき残しのないみがき方を身に付けさせていきたい。

#### ④ 指導方針

〈事前の活動〉

⑦ 歯垢染め出しテストを行い、日常のブラッシングにおけるみがき残しの位置を明らかにすることにより、一人一人の児童に自分の問題点を把握させて

おく。

⑧ 家族の「歯肉調べ」を行うことによって、自分たちがこれから歯肉炎になる可能性が高いことを身近に感じさせ、自分の問題としてとらえ歯周病予防の意欲を高められるようにしたい。

⑨ 家族の「歯肉調べ」を行うことによって、児童一人一人に授業に参加しているという意識を持たせたい。

⑩ 縄棒で「つんつん」みがきすることにより、みがき残しの多いところの歯肉が赤く腫れていたり、ブヨブヨしていることに気づかせたい。

〈本時の活動〉

⑪ 家族の「歯肉調べ」の結果をまとめてグラフにして指示することにより、自分の活動がクラスの役に立っているという気持ちを持たせ、個人と集団の関わりの意識を高めていきたい。

⑫ 「歯肉調べ」のグラフや「つんつん」みがきの結果から歯みがきと歯周病との関係を考えさせることにより、思考力を養っていきたい。その時、グループやクラスでの話し合いを行い、協力や助け合いの気持ちを育てていきたい。

⑬ 授業の導入の段階で、児童の劇を取り入れることにより、題材に対する興味・関心を高めたい。

⑭ 写真、VTRを利用することにより、歯周病の恐ろしさを視覚に訴え、歯周病予防の意欲を高めたい。また、歯周病の原因もしっかりと押さえたい。

⑮ 染め出しテストにより自分のブラッシングのめあてをはっきりさせ、歯周病を予防する歯みがきの仕方を気づかせたい。

⑯ ブラッシングの時には2人で向き合

い、みがき残しないかお互いに確認することにより、協力して問題を解決していく態度を養いたい。

④ 自分にあった歯みがきの仕方を発表することにより、児童一人一人の考えを深めるとともに表現力を身に付けさせたい。

⑤ 話し合い活動を取り入れ、保健委員を活躍させることにより、児童に自信を持たせ、自主的に課題を追求しようとする態度を育てたい。

#### 〈事後の活動〉

⑥ 給食後の歯みがきタイムのあと継続して「みがき方確認カード」をつけることにより、常に自分にあったみがき方でみがけるよう行動の習慣化を図りたい。

⑦ 自分にあったみがき方が家庭でもできるよう学級通信などにより、家庭との連携を図りながら指導を進めたい。

#### 〈同和教育上の配慮〉

⑧ 友達の意見や発表は常によく聞き、ともに考えさせるようにしたい。

⑨ 歯肉の状態には個人差があるので、歯肉炎になっている児童に対する態度に留意したい。

⑩ 友達の口の中なども自由に観察し合える雰囲気づくりに努めたい。

⑪ 友達一人一人の言動や様子、態度などに十分注意を払い、多面的な指導理解に努める。

⑫ 常に児童の良さを認め励ます指導を行う。

⑬ 個人や集団を暖かく包み込む受容的で支持的な学級の雰囲気づくりに努める。

#### 〈学校教育目標と関連〉

学校教育目標	学級教育目標	指導方針との関連
きまりを守り 仲良くする子	相手の気持ちを 考えて 行動できる子	④ ⑤ ⑧ ⑫ ⑯ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰
じょうぶな体で がんばりぬく子	自ら進んで体を 鍛える子	⑩ ⑪
すすんで学び よく考える子	目標をもって 粘り強く 学習する子	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑨

### 3. 活動の経過

#### ① 事前の活動

月 日	時 間	対象者	活動内容
6月4日	裁 量	全 員	歯垢染め出しテストを行い、自分のみがき残しをしやすい部分はどこか一人一人が明らかにしておく。「つんつん」みがきを行い、歯肉が赤く腫れたりブヨブヨしているところを歯列図に記録しておく。
6月4日 ～ 6月8日	家 族	全 員	家族の「歯肉調べ」を行い、歯周病の経験の有無と歯みがきの状況を調べておく。
6月10日	放課後	保 健 員	家族の「歯肉調べ」の結果を集計して、グラフにしておく。

#### ② 本時の活動

##### ア ねらい

歯周病の原因と症状を知り、その予防の仕方について考え、歯肉炎を予防する歯のみがき方を実践しようとする意欲を持つことができる。

##### イ 準 備

教師 健康な歯肉の写真

歯肉炎の写真

歯槽膿漏の写真

アンケート集計結果グラフ

VTR（歯周病の原因）

ポイントカード

歯の模型セット

染め出し用具

ワークシート

児童 手鏡、歯ブラシ、コップ、吐き出し用パック、タオル、歯の学習ファイル

## (7) 展開

過程	学習活動	教師の支援および留意点	資料・用具
つかむ 10分	今日の学習内容について知る。 歯肉炎、歯周炎とはどのような病気なのかを考える。 家族の歯肉調べの結果について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ブラッシング時の出血の体験を劇にし、教材の提示の工夫をすることにより児童の興味・関心を高めたい。</li> <li>○ 健康な歯肉の写真と歯肉炎の写真、歯周炎の写真を見せ、歯肉炎、歯周炎の特徴に気づくよう支援する。</li> <li>○ 保健委員に発表やまとめをさせ活躍の場を設定したい。活動に対しては労をねぎらい、賞賛し自信を持たせる。</li> <li>○ 歯周病は身近な病気であり、将来自分もなる可能性が高いことに気づかせたい。<ul style="list-style-type: none"> <li>・大部分の人が歯周病を経験したことがある。</li> <li>・年齢が高くなるほど歯周病を経験した割合が高くなる。</li> </ul> </li> </ul> <p>☆個人で考えさせたりグループで考えさせたり学習形態を工夫することにより、協力して問題を解決する態度が養えるよう支援していく。</p>	健康な歯肉の写真 歯周炎の写真 歯周炎の写真 家族の歯肉調べの結果のグラフ
つきつめる 25分	<p>歯周病の原因について考える。</p> <p>VTRを見て歯周病の原因についてまとめる。</p> <p>歯周病の予防のしかたについて考える</p> <p>染め出しをし、自分にあったみがき方を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家族の歯肉調べの結果のグラフや「つんつん」みがきの記録をもとにみがき残しの多いところが歯周病になっていることに気づくよう支援していく。</li> <li>・歯みがきの時間や回数の少ない人ほど歯肉炎になっている。</li> <li>・みがき残しのところが歯肉炎になっている。</li> </ul> <p>☆ただ単に歯周病の原因を教えるのではなく、グラフや記録から歯周病の原因を読み取らせることにより思考力を養いたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ VTRや歯の模型を使い、視覚にうつしたことにより児童の理解を援助する。</li> <li>○ 歯周病の原因から原因を取りのぞけば歯周病にならないことに気づくよう支援する。</li> <li>・歯みがきでブラークを落とす。</li> <li>・歯と歯肉の境目に気をつけてみがく。</li> <li>・食べたらすぐみがく。</li> <li>・手鏡を見てみがき残しがないように丁寧にみがく。</li> </ul> <p>☆個人で考えさせたりグループで考えさせたり学習形態の工夫をし、協力して問題を解決する態度が養えるよう支援していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1本の歯を3つの面（外側、内側、噛み合わせ面）に分けてみがき方を工夫させたい。</li> </ul>	家族の歯肉調べの結果のグラフ VTR（歯周病の原因） 歯の模型 染め出しセット

つきつめる 25分	自分にあったみがき方をワークシートに書く。みがき方のめあてを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歯ブラシのあて方や毛先の使い方などについて援助する。</li> <li>☆二人で向き合ってみがき残しを調べるなど、協力しあって問題を解決できるよう働きかけていく。</li> <li>☆工夫したみがき方を考えることにより思考力を養っていきたい。</li> </ul>	ワークシート
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○みがき方のめあてを書かせることにより、実践の見通しが持てるよう支援していく。</li> <li>○めあてを発表しあい、工夫している点を賞賛していくことにより実践に向けての意欲づけを図る。</li> <li>☆全体の前で自分の意見を発表することにより表現力を身に付けさせたい。</li> <li>○ワークシートを記録していくことにより、意欲の継続が図れるよう支援していく。</li> <li>○歯みがきタイムにおいても、手鏡を使いみがき残しのないようなみがき方ができるよう助言していく。</li> <li>○家庭でも丁寧な歯みがきができるように声掛けをする。</li> </ul>	

## ② 評価の観点

- ・歯周病について関心を持ち、歯周病予防に努めようとする意欲が持てたか。
- ・歯周病の原因や予防法が考えられたか。
- ・歯周病を予防するみがき方を考えることができたか。
- ・自分の考えをみんなにわかりやすく発表できたか。

## ③ 事後の活動

月 日	時 間	対象者	活動内容
6月15日 ～ 6月22日	歯みがき タイム	全 員	給食後の歯みがきタイムで、めあてにそったみがき方を続け、ワークシートに記録していく。
6月22日	家 庭	全 員 & 保護者	家庭で親子揃って染め出しテストを行い、歯肉炎についての意識の高揚を図る。

## (2) 事前の活動での児童の様子

- ① 給食後の歯みがきの後や登校後など条件をいろいろ変えながら月に一度歯垢染

め出しテストを行っている。綿棒に染め出し液をつけ、鏡を見ながら一本一本ていねいに染め出しをしていく。初めは染め出し液を服に付けたり時間がかかったが、次第になれ朝の短学活でもできるようになった。記録を調べてみると、同じ箇所をいつもみがき残している児童が多く、ただ漫然と歯みがきをしている様子がうかがえる。

② 家族の「歯肉調べ」を行った。祖父や祖母になるほど、歯肉炎になった経験が多いことがわかり、友達と見せ合いながら家族のことを話し合う様子が見られ、歯肉炎に対する関心が高まってきていた。

③ 綿棒で歯肉を「つんづん」し、歯肉が赤く腫れているところ、ブヨブヨしているところ、歯と歯の間の歯肉が丸くなっているところを調べ歯列図に記録した。歯垢染め出しテストの結果と比べさせた

ところみがき残しの多いところが歯肉炎になりかけていることに気づいた児童が6名いた。

### (3) 授業研究会で話し合われた内容

#### ① 「つかむ」の段階では

- ・導入に児童の劇を取り入れたことにより、本題材に対する興味・関心が大変高まり効果的であった。
- ・家族の「歯肉調べ」の結果を保健委員が発表したが、結果の発表だけでなくそのまま保健委員に司会をさせ児童の感想をまとめさせるとさらに良かったのではないか。

#### ② 「つきつめる」の段階では

- ・家族の「歯肉調べ」の結果だけから歯肉炎と歯みがきの関係を導きだすのには少し無理があったのではないか。
- ・VTRの後、大型の歯模型を使って歯肉炎の原因を確認したのはわかりやすかった。
- ・歯肉炎の予防の仕方は考える段階では、もう少しじっくり考える時間を持つたらどうか。

#### ③ 「活かす」段階では

- ・自分なりの課題を持ちながらワークシートを記録していく方法は、意識の定着化を測る方法としては良いのではないか。
- ・ワークシートの最後に自己評価をさせる欄を設けたほうが良い。

### (4) 事後の活動での児童の変容と考察

授業実践の後6日間、給食後の歯みがきでめあてにそったみがき方を続けみがき方確認カードに記録した。その結果、記録をとった6日間は約94%の児童が、各自の目当てにそって丁寧にみがけたと答えていた。また、歯周病の恐さがよく理解できたためか、歯肉に対する関心が高まり鏡で自

分の歯肉の色や形などに気をつけている様子が見られるようにナッタ。また給食後の歯みがきでは言われなくても手鏡を持ち、一本一本丁寧にみがく児童が大半になった。特に、今まであまり歯みがきに関心のなかったa.kなども熱心にみがくようになり、みがいた後「これくらい丁寧にみがければ歯肉炎にならない。」と自分の口中を点検してもらいにくるようになった。

これらの児童の変容からも、歯周病について具体的に理解することにより自分の歯を丁寧にみがこうとする意欲は高められ、仮説は検証されたと考えられる。

## ② 毎日の実践

### (1) 給食後の歯みがきの工夫

今年度は、手鏡を見ながら「自分の歯に合ったみがき方」ができるように、毎日の歯みがき指導を行ってきた。昨年度、使用していた歯みがきのビデオは、みがき方やみがく順番を確認するために、週に一度だけ使用した。その他は、約3分の音楽テープを用意して、その音楽に合わせて手鏡を見ながら歯みがきを行わせた。染め出しテストで自分の歯のみがき方の癖を知り、みがき残しの多い部分に気をつけてみがくようになり、また歯の保健指導の中で、12歳臼歯の萌出状況に応じたみがき方や歯肉炎を予防するみがき方の学習を通して、歯ブラシのあて方や毛先の使い方にも工夫が見られるようになってきた。

### (2) 歯みがきカレンダーの取り組みの工夫

歯みがきカレンダーのファイルを用意し、学級で保管するようにした。前日の夜と朝の歯みがきも、給食時の歯みがき後に色ぬりをさせた。また、月末の集計は、朝の会や帰りの会を利用して行った。その結果、カレンダーのつけ忘れや紛失をする児

童が減った。

### (3) 定期的な歯垢染め出しテストの取り組み

「自分の歯に合ったみがき方」ができるように、月一度の歯垢染め出しテストを実施した。みがき残しがどこにあるか一人一人に自分の目で確認させ、自分に合った正しいみがき方が身に付けられるようにさせた。テストの判定は担任が行い、その結果と反省をみがき残し発見カードに記入させた。染め出しテストを行うのに従って、A判定の児童の割合がかなり増えてきたが、ほんの僅かではあるが、いまだにC判定の児童も見られる。

### (4) 資料・展示室の活用

各学年の保健指導で使用した資料を系統的に一室に展示してある。各クラスごとに展示室へ行き、学習を進めた。児童は、いろいろな展示物に目を輝かせていた。展示室を利用する利点としては、その場で動かずして他学年の内容も含めて系統的な指導ができる、指導時間の短縮ができる等があげられる。

### (5) 歯の博士コーナーの活用

児童のむし歯予防に対する興味・関心を高めるために、階段おどり場の掲示板に「歯の博士コーナー」を設置した。掲示内容は、歯の保健指導年間計画に基づいて、計画的に設定した。その掲示板の横には鏡もあり、掲示板を見ては、鏡で自分の口の中をのぞき込んで確認している児童をよく見かけるようになった。

4・5月 「歯列図と歯の名称、永久歯のむし歯の罹患状況」

6・7月 「正しい歯みがきと歯肉炎予防」

9・10月 「そしゃくとあごの発達」

11・12月 「12歳臼歯の特徴とみがき方」

1・2・3月 「3つの食品群とバランス

のよい食事」

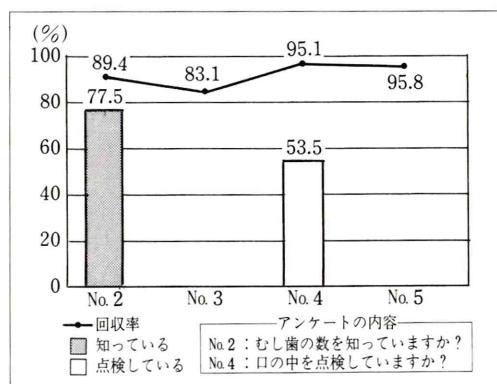
### (6) むし歯予防ポスター・標語への取り組み

むし歯予防ポスター、むし歯予防標語を全員の児童に取り組ませた。作品には、日頃の歯みがきの習慣の大切さを訴えるものが多く、保健指導の成果がうかがえた。

## ③ 保護者への啓発

### (1) ピカピカくんだよりの回収状況から

「ピカピカくんだより」を発行し、保護者への啓発を行った。「ピカピカくんだより」の下の欄では、保護者の意見・感想やアンケートをとった。6年生のアンケート回収率と結果は次のグラフの通りである。



回収率を見ると4号、5号では95%を越えており「ピカピカくんだより」を読んでいる保護者が増え、家庭の歯に対する関心が高くなったといえる。

また、毎回保護者から下記のような意見、感想を寄せてもらった。

- 歯のみがき方のきめこまかい指導において、ていねいにみがく大切さを感じました。(2号)
- ・年齢、口に合った歯ブラシを使っています。
  - ・1か月に1回、毛先が開いてきたら取り替えています。(3号)
- 歯ブラシはついつい長い間使用してし

まっていたので、今回の替える時期がとても参考になりました。(4号)

- ・お風呂に入っているとき、浴槽につかりながら歯みがきをすると長くみがけてよい。
- ・「食べたらみがく！」の掛け声をかけている。(5号)

このような意見、感想から保護者への啓発によって親のむし歯予防に対する正しい知識が身に付いてきていることがわかった。また、各家庭で工夫した歯みがきをするようにまでなり、むし歯予防に対する関心が高まってきたことがうかがえる。

#### (2) 相馬歯科衛生士による親子ブラッシング講座(平成6年6月22日)において

講座には6年生の保護者も多数参加した。参加した親から『相馬先生のお話を楽しくうかがいました。歯ブラシに関して、テレビコマーシャルなどにだまされないよう口の大きさに合ったものを選ぼうと思いました。』という感想が出され、講座が家庭生活での実践に役立つものと考えられる。これからも保護者への啓発に努め、学校と家庭が一体となった歯の保健指導を継続していきたい。

### 4. まとめと今後の課題

#### (1) まとめ

本学年では、研究主題を受け、児童一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組むことを目指し、研究を進めてきた。その結果得られた成果と課題は次のとおりである。

#### ① 学級活動の指導を通して

歯肉炎や歯周病の写真を提示したり家族の歯周病調査を行うことにより、児童は従来の「歯を研く」という感覚から、「歯と歯ぐきをみがく」ことの大切さに気づき、健康は口の中からを意識する姿勢へと変

わってきた。併せて、歯肉に関する関心が高まり、歯肉炎を予防しようとする態度や正しい歯みがきの仕方が身についてきた。

授業の中に児童の主体的な活動を取り入れたり、児童を活躍させる場面を設けたりしたことにより、歯みがきの時だけでなく清潔検査などの他の場面でも児童が自信を持って生き生きと活動できるようになってきた。

#### ② 日常の実践を通して

本研究以前から取り組んできた給食後の歯みがきでは、ただ時間内にみがき終えるみがき方にとどまっていたが、自分にあったみがき方のめあて等を持たせることにより、給食後も手鏡を持ち自分の口の中を観察しながら自分の歯の萌出状況や歯並びにあったみがき方ができるようになるなど、歯みがきに対する姿勢が前向きで意欲的になってきた。

歯みがきカレンダーの習慣化により、歯みがきの回数は増え、学校でも家庭でもむし歯予防に対して自主的に取り組もうとする姿勢が伺えるようになった。

#### ③ 家庭との連携を通して

ピカピカくんなどよりの配布や日常生活に関するアンケートの回収等を通して、児童の歯みがきに関する実態や各家庭における意識を的確に把握することができ、家庭に対する啓発に役立てることができた。その結果、むし歯予防に対する児童と親との一体化や家庭での意識の向上が図られるようになった。

#### (2) 今後の課題

本研究を通して得られた成果を今後継承、発展させるため次のような取り組みが更に必要であると考えられる。

- ・指導方法 (T・Tや児童の主体的な活動を

取り入れた授業) の研究と改善  
・個別指導を必要とする児童に対しての支援の仕方の工夫  
・健康づくりに対する意識を向上させるた

めの児童会活動の活性化  
・学年集会等を利用した児童の主体性を生かす場の設定  
・家庭との連携の拡充と強化



## 1. 研究の成果

### (1) 研究主題、研究のねらいについて

児童一人一人が、学級活動の授業を通し、自分の健康状態を正しく理解し、すんで解決しようとする意欲を身につけた児童が多くなった。

日常の歯みがき指導や啓発活動を通し、児童が自らの判断と意志決定により進んで健康づくりに取り組む姿勢が見られ、健康に適した生活をおくるようになり、定着化に結びつき始めた。

### (2) 研究の実践について

#### ① 仮説 1 について

- ・歯の保護指導の要素表や年間指導計画、指導系統図等を作成し、授業研究をすす

めながら、その改善点を見いだし修正をしてきた。その結果、各学年の系統や、児童の発達段階に即した科学的な学習内容が明らかになってきた。

- ・歯の保健指導において、問題を「つかむ」、「つきつめる」、「活かす」という一連の学習過程を工夫したり、児童の実態を的確にとらえ一人一人に応じた支援を重視して指導したりしたことは、児童が自分の歯や口の健康状態を正しくとらえ、すんで課題を解決しようとする意欲を高めるのに有効であった。

#### ② 仮説 2 について

- ・歯みがき指導や歯みがきカレンダーを継続したことで、一日三回、歯みがきを行う児童が増加してきた。また、染め出し

は順序をおさえ、ていねいにみがくようになったことや、自分のめあてをもって歯みがきに取り組めるようになってきたことから有効であったと考える。

- ・保健委員会や代表委員会で、活動の計画から運営、反省まで教師が支援しながら児童に考えさせ、工夫させたことで、児童の意欲と実践力向上を図るうえで有効であった。

③ 仮説3に関して

- ・啓発資料「ピカピカくんより」を計画的に発行したことは、家庭のむし歯・歯肉炎予防についての対話の場を生み、食生活の改善を図ったり、家庭での歯みがきを充実させたりすることに有効であった。また、親子ブラッシングや講習会は専門家の協力で保護者も学校職員も正しい知識を得ることができた。
- ・資料展示室や、歯のコーナー等の掲示物の整備活用により、児童は歯の健康づくりの系統や、内容について知ることができ

きた。また、自分たちの活動を振り返ったり、見直したりすることができ、健康づくりの定着化に有効であった。

## 2. 今後の課題

(1) 仮説1に関して

事後指導のあり方と他教科にも生かせる問題解決学習の指導法を探っていきたい。

(2) 仮説2に関して

教科、学校行事・児童会活動との関連をさらに密接なものにし、歯の保健指導で培われた力を健康づくりにまで広げ、自らの健康を保持、増進できるよう、日常の歯みがき指導をさらに研究継続していきたい。

(3) 仮説3に関して

むし歯予防に対する個別指導の充実を図ると同時に、家庭の教育力を一層高めるため、連携の方法や学校と家庭の意見の相互交流の場を工夫する研究を継続していきたい。



## おりに

本校では、平成5年度より、「自分の体を知り、すすんで健康づくりに取り組む子どもの育成」を研究主題に、①学級活動の授業実践、②日常の歯みがき指導、③保護者との協力を3つの柱として研究を推進してまいりました。

①については、自分の歯や口の状況を正しくとらえ、そこから生まれた自分の課題を進んで解決しようとする意欲と歯や口の健康に関する科学的理解を大切にして指導にあたりました。それには、健康教育に関わる各種の計画が必要です。本校で作成した諸計画はむし歯・歯肉炎予防の範囲だけですが、ご利用いただければと思います。②については、給食後のブラッシング指導を中心として、①から生まれた自分の課題解決のために実践する力を身につける場として設定しました。自分で判断し、自分で処理できる力は今後、ますます必要になるものです。そのため、歯みがきカレンダーと染め出しを活用しながら、児童の態度化を図ってきました。しかし、むし歯・歯肉炎予防は、学

校だけで定着するものではありません。保護者との協力が不可欠です。ものを食べる機会は家庭の方が断然多いので、家庭での予防が大変重要になります。そこで、③については、啓発資料の発行、親子ブラッシング教室、講習会等を通して、学校での取り組みを理解してもらったり、正しい知識を実践に移してもらったりすることで、家庭での予防の徹底と習慣化を図ることにしました。

このような取り組みを通して、少しずつではありますが、着実に児童・保護者・教師の意識の変容と定着化が図られてきたことは、本日の発表からも伺えることと存じます。本研究も2年が経過しようとしていますが、残された課題も幾つかあります。

今後も、本校児童の健康づくりに全職員が一丸となって取り組んでいく所存でございます。本日の諸発表、諸資料から、お気付きになられた点がございましたら、御指摘いただけるようお願いし、おわりにあたっての御挨拶と致します。

### 執筆・研究に携わった職員

#### 〈平成6年度〉

五十嵐 甫	中原 紀子	真 塩 三律夫	星 野 一敏
黒田 克義	高橋 春昭	大澤 公美子	
小林 勇	酒井 和子	西澤 恭順	
荻原 弘美	瑞岩 典子	岸 裕子	前川 ヨシ江
木村 保美	富岡 絹子	棚木 義弘	横田 さよ子
田中 照美	羽生田 志律子	山田 雅美	大廣 克幸
除村 和子	高山 恭子	中島 克子	岸 環
高浦 俊子	田中 博信	原田 佳美	各務 明彦
品田 悅子	本多 祥子	増山 志律子	藤 隆
佐藤 多佳子	関口 義幸	松本 博明	佐恵子
茂木 直人	岸 美由紀	中里 美恵子	光代
相澤 季利子	右井 義人	飯塚 英子	小暮 聰子
清水 静子	持木 美恵子	小林 幸子	南 久恵

#### 〈平成5年度〉

## むし歯予防推進指定校 研究主題

### 福島県田島町立荒海小学校

健康に关心を待ち、主体的に健康づくりに取り組む子どもの育成

——「みがく」「かむ」「あける」で健康な口腔つくり——

### 千葉県成田市立本城小学校

自分の健康に关心を待ち、たくましい心と体づくりに取り組む子の育成

——地域連携を基にしたよい歯の健康づくりを通して——

### 滋賀県びわ町立びわ北小学校

子供たちが、主体的に取り組む健康づくり

——すこやかな歯と口づくりを通して——

### 愛媛県城川町立魚成小学校

主体的に健康づくりに取り組む児童の育成

——自ら進んでよい歯をつくろうとする魚成っ子をめざして——

### 宮城県都農町立都農小学校

一人一人が健康に关心を持ち、進んで取り組む健康つくり

——歯や口の中の病気予防を通して——

## 第45回全国学校保健研究大会

# “生涯にわたり心豊かでたくましく生きぬく 子どもの育成”をめざして

平成7年11月16～17日於徳島県

全国学校保健研究大会は「生涯にわたり心豊かでたくましく生きぬく子どもの育成」を主題に平成7年11月16日から17日の2日間にわたって徳島市アスティとくしま及び同市内12会場にわかつて開催された。主催は、文部省、徳島県教育委員会、徳島市教育委員会、日本学校保健会、日本体育・学校健康センター、徳島県学校保健連合会。

### △第1日

全体会：開会式及び学校保健・学校安全の功労者に対する文部大臣表彰が行われた。

特別講演「愛死について」瀬戸内 寂聴

日学保評議員会、課題別研究協議会事前打合

せ会、全国学校保健協議会事前打合せ会開催。

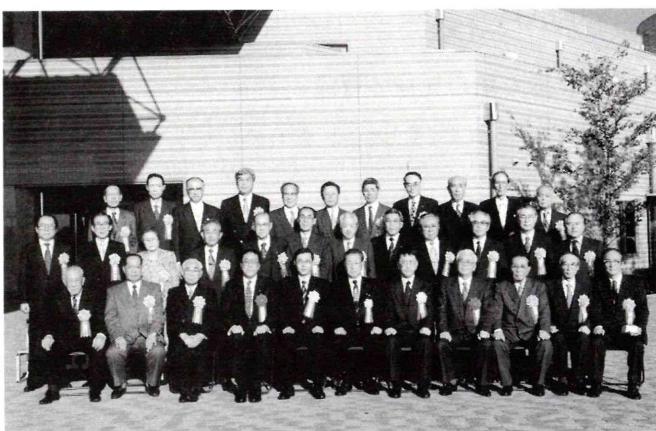
### △第2日

課題別研究協議会が午前10時より午後3時30分まで開催され、4時からは全国学校保健協議大会が開かれた。

課題別研究協議会はそれぞれ12の研究協議題に分けて討議された。そのなかで、第9課題は「歯・口の健康つくりをめざす学校歯科保健活動」をテーマに討議されているので、この部分についてご報告する。

研究協議題設定の趣旨としては、自らすすんで歯・口に関心をもち、問題を自分で考え処理できる態度や習慣を育てることが必要である。

また、歯や口への健康つくりには家庭や地域との連携が必要である。このための指導方法や連携のあり方について研究協議する、というもので、研究協議の内容としては①学校歯科健診の進め方と事後措置について②発達段階に応じた歯科保健指導の指導内容と指導方法の工夫について③指導内容の定着を図る家庭や地域との連携の進め方について、の3項目にわけられている。



文部大臣賞を受けられた学校歯科医の先生方



まず、徳島大学歯学部中村 亮教授よりテーマに添って研究協議の内容の3項目についてそれぞれ総括的な講義が行われた。①学校における歯科健診の改正内容と改正の趣旨について②8020運動達成のためにも、生涯を通じた関心と活動が必須のものであることを指導者自ら再認識する必要性を強調、教職員に対する積極的な働きかけを訴えている③COを例にとってみても家庭や地域との連携が如何に大切であるかが解る、としている。

#### 「学校歯科保健」新時代を迎えて

東京都世田谷区池之上小学校  
校長 高田 公子

指導助言者の立場から、学校歯科保健－新時代を迎えて、と題して学校現場からの報告がなされた。生涯を通じて健康で安全な生活を営む能力と態度を育てること、そのため実践するかどうかは子ども自身主体的に考え、判断し、意志決定ができる。これが「保健の学力」ということにつながる。この新しい学力観をこれから歯と口の健康づくりに生かしていくことが「学校歯科保健－新時代」を迎えた私たちの課題であるが主な内容。

#### 歯科健診の進め方と事後措置

徳島県鴨島町立飯尾敷地小学校  
学校歯科医 川井晃二

徳島県児童生徒等歯・口の健康づくり推進事業

に関する報告、これは特に鴨島町内における幼稚園、小学校の1園3校を対象とした過去3年間のCO、G検診結果にもとづくものである。

- 1 検診内容：CO=平成5年8月に小学校低学年314名の第一大臼歯のみを対象とし1年間でどう変化するかを調べた。  
G=小学校高学年346名を対象に発赤、炎症の程度、歯垢付着状態の数値化、変化を調べた。
- 2 検査結果について：平成5年の時点ではCO歯は337歯あった。これが1年後には113歯(33.5%)が未処置歯に、68歯(20.2%)が処置歯に移行していた。1年間で53.7%がう蝕に移行したと考えられる。CO歯と健全歯の変化を比較して未処置歯に移行する部分がいかに多いかがわかる。(G関係略)
- 3 今後の課題：特に萌出後間もない第一大臼歯の小窩裂溝部のCOには、積極的にシーラントやフッ化物局所塗布を勧めるべきである。このためには地域の医療機関との連携及び保護者の理解が必要不可欠であり、種々の啓発活動を通して地域ぐるみのコンセンサスが必要となってくる。

他に、高知県立宿毛市立平田小学校山田速美教諭、広島県東広島市立小谷小学校陶山都教頭からそれぞれ提案がなされた。

# 新しい健診の考え方

## 疾病指向（検診）から予防指向（振るい分け）へ

日本学校歯科医会

副会長 櫻井 善忠



昨年4月の学校健診に向けて4ヵ月前に急遽文部省の通知が出されたことで、我々学校歯科医は言うに及ばず、養護教諭はじめ学校保健関係者も戸惑いがありました。

そもそもは、数年前から日本学校保健会のセンター的事業の中の学校健診検討委員会で内科歯科全体の見直しの検討がなされており、一足先に眼科と耳鼻科の一部見直しが施行されていました。

要は、時代の要請にマッチした健診体制、特にでき得る限りの簡素化をテーマとして取り組んでいた委員会でした。昨年になって歯科健診の改訂に進んだわけですが、主旨は前述の通りがありました。

現代の健診は病気探しではなく、いかに児童生徒が、学業に支障なく、しかも生涯を通して自分の健康は自分で守る知識と習慣を身に付けさせることができるかを実現させるためのものでなくてはならなくなっています。

したがって学校健診の場では、0・1・2と三つに振り分け（分類）するだけで良いのです。即ち、0は健全な状態です。1は学校内での保健管理の対象者です。2はより詳しく専門医の診査を要します。とこれだけのことです。

そして歯列・咬合・顎関節・歯垢の状態、歯肉の状態についても、0・1・2に分類しておいて下さいと言うものです。

振るい分けについて歯科学的に解説されると実に長文となり、それにもとづいて検査するかと思うと長時間要するように感じ、このたびの改訂は大変手間暇がかかるものだと気が重くなりそうですが、そうではなく、学校歯科医の専門的見識をもってすれば、ほとんど瞬時に0・1・2の振るい分けができるはずで、従来の健診時間と大差ないはずと、推進者もみているようです。

堀り下げ指向でなく、振るい分け指向で取り組みましょう。

平成 7 年度

## 加盟団体長会開催される

平成 8 年 2 月 16 日新歯科医師会館において

平成 8 年 2 月 16 日（金）午後 1 時から、新歯科医師会館において、平成 7 年度加盟団体長会が開催された。小林専務の司会進行のもと、桜井副会長の開会の辞に続き、西連寺会長より、昨年 4 月 1 日から学校保健法の施行規則の一部改正が行われ、これに対応するための準備が着々と進んでいる旨報告、また、第 60 回全国学校歯科保健研究大会の東京開催と大会席上行われる文部大臣表彰の件について触れられた挨拶が行われた。

来賓として、文部省学校健康教育企画官鬼沢佳弘氏、日本歯科医師会副会長西野恭正氏よりそれぞれご挨拶をいただいた。小林専務より新執行部の紹介が行われた後、庶務報告会計報告があり、協議に入る。

協議 I 平成 8 年度事業計画案の大綱と、それに伴う収支予算案の大綱について、小林専務、浦島常務からその内容について説明があり、熱心な協議が行われ、要望も出された。

その主なものは次の通りであった。

- 何故正式な事業計画案・予算案が出されないのか
- 学校歯科医の配置基準について
- 不正咬合の診断と診療体制について
- 私立学校に対する認識及びその対応について
- 県立高等学校の学校歯科医の配置について
- 学校歯科医報酬アンケート調査について
- 全国大会について日学歯の考え方
- 終身会員制度の導入の件

など、千葉県、島根県、奈良県、滋賀県、鹿児島県、福岡市、横浜市、札幌市の各加盟団体代表者より活発なご意見やご要望などをいただいた。

最後に第 60 回全国学校歯科保健研究大会準備状況について開催地区の東京都学校歯科医会田中専務から報告が行われ、松島副会長の閉会の辞で終了した。

# 平成7年度学校保健統計調査速報

区分	(男女合計)										(男)				(女)					
	歯・口腔					歯・口腔					歯・口腔									
	歯			疾口 病腔 ・ の 異常	歯			疾口 病腔 ・ の 異常	歯			疾口 病腔 ・ の 異常								
	むし歯(う歯)		歯その他の疾患		むし歯(う歯)		歯その他の疾患		むし歯(う歯)		歯その他の疾患		計	完処了置者	る歯未者	の処置	あ置			
幼稚園	5歳	74.66	27.77	46.88	1.69	0.48	74.73	27.43	47.26	1.55	0.44	74.58	28.08	46.50	1.84	0.53				
小学校	計	87.33	40.59	46.74	12.77	0.79	87.35	39.68	47.67	12.75	0.77	87.32	41.55	45.76	12.80	0.81				
	6歳	82.82	31.34	51.48	8.65	0.57	82.94	31.19	51.75	8.10	0.54	82.70	31.51	51.19	9.23	0.59				
	7歳	86.96	35.52	51.44	11.01	0.73	86.90	34.94	51.96	10.61	0.68	87.03	36.14	50.90	11.43	0.79				
	8歳	90.19	39.92	50.27	12.88	0.74	90.15	38.98	51.17	12.70	0.71	90.24	40.91	49.33	13.06	0.76				
	9歳	90.73	43.06	47.67	14.70	0.77	90.71	41.37	49.33	14.31	0.73	90.76	44.83	45.93	15.12	0.82				
	10歳	88.19	45.65	42.54	14.92	0.92	88.74	44.75	43.99	15.47	0.93	87.61	46.59	41.02	14.33	0.90				
	11歳	84.93	46.42	38.51	13.89	0.97	84.49	45.30	39.19	14.59	0.98	85.38	47.58	37.80	13.17	0.96				
中学校	計	86.62	46.23	40.39	12.35	0.79	85.08	44.47	40.61	13.26	0.85	88.23	48.07	40.16	11.39	0.73				
	12歳	85.12	46.86	38.26	13.92	0.76	83.83	45.58	38.25	15.14	0.88	86.48	48.21	38.27	12.63	0.63				
	13歳	86.22	45.73	40.49	11.97	0.80	84.37	43.91	40.46	12.85	0.85	88.16	47.65	40.51	11.06	0.76				
	14歳	88.47	46.09	42.38	11.19	0.81	87.00	43.95	43.05	11.83	0.83	90.00	48.34	41.66	10.51	0.79				
高等学校	計	90.63	48.70	41.92	8.90	0.92	89.61	45.72	43.89	9.29	1.02	91.66	51.71	39.95	8.51	0.82				
	15歳	89.44	48.37	41.07	8.85	0.91	88.29	45.65	42.63	9.56	0.98	90.62	51.16	39.46	8.12	0.84				
	16歳	90.77	49.09	41.69	9.00	0.88	89.71	46.15	43.56	9.25	0.92	91.84	52.03	39.81	8.74	0.85				
	17歳	91.68	48.66	43.02	8.85	0.97	90.85	45.36	45.49	9.05	1.15	92.50	51.94	40.56	8.66	0.78				
区分	永久歯の一人当たり平均う歯数					永久歯の一人当たり平均う歯数					永久歯の一人当たり平均う歯数									
	計	う歯			計	う歯			計	う歯			計	う歯						
		喪失歯数	計	歯処置		喪失歯数	計	歯処置		喪失歯数	計	歯処置		喪失歯数	計	歯処置	喪失歯数	歯未数処置		
		(本)	(本)	(本)		(本)	(本)	(本)		(本)	(本)	(本)		(本)	(本)	(本)	(本)	(本)		
	計	3.72	0.05	3.67	2.69	0.98	3.41	0.04	3.37	2.44	0.93	4.04	0.05	3.99	2.97	1.02				
	12歳	3.72	0.05	3.67	2.69	0.98	3.41	0.04	3.37	2.44	0.93	4.04	0.05	3.99	2.97	1.02				

## 開催予告

## 第60回

## 全国学校歯科保健研究大会

## ▲主題 21世紀の学校歯科保健

- －確かな健康観の育成－

▲主催 日本学校歯科医会、日本学校保健会、  
東京都学校歯科医会、東京都歯科医師会、  
東京都教育委員会

## ▲期日 平成8年11月21日（木）～22日（金）

## ▲会場 第1日（11月21日）

- ・開会式 東京文化会館（大ホール）
- ・表彰式

## ・シンポジウム

## ・記念講演

## ・懇親会 上野精養軒

## 第2日（11月22日）

## ・領域別研究協議 東京文化会館（小ホール）・上野精養軒

## ・全体協議会

## ・閉会式 東京文化会館（小ホール）

## ▲日程

	10:00		12:00		13:00		14:30		16:30		17:00		
21 日 (木)	受付	開会式 表彰式	昼食 アトラクション	特別講演	シンポジウム		移動	懇親会					
22 日 (金)	受付	領域別研究協議	昼食	全体会	協議会	閉会式							

## 平成8年度

むし歯予防推進指定校協議会  
学校歯科保健研究協議会

## ▲趣旨 歯及び口腔に関する保健活動について研究協議を行い、学校保健における歯科保健活動の充実を図る。

## ▲主催 文部省、東京都教育委員会、日本学校歯科医会、東京都学校歯科医会

## ▲共催 東京都歯科医師会、東京都学校保健会

## ▲期日 平成8年11月20日（水）

## ▲会場 東京文化会館（小ホール）

日程	10:00		12:00		13:00		17:00	
20 日 (水)	受付	開会行事	実践報告	研究協議	昼食	閉会		

## 編 集 後 記

◆群馬県藤岡市立藤岡第一小学校の平成7年度むし歯予防推進指定校協議会公開授業を参観して、学校歯科医が非常勤の学校保健専門職員として、もっと積極的に学校歯科保健に取り組むことへの反省をこめて、学校教育の一端を担っているということを再認識させられた。児童生徒の心理的な面についても、歯科保健が係わっていると考えると、学校歯科医も安閑としていられないのではないだろうか。

(佐藤貞彦)

◆地区的学校保健大会で、「子どもの虐待について」と題する講演を聞く機会があった。虐待されて育った子供が親になった時、再び自分の子供を虐待する習性があるという非常に恐ろしい話の内容であった。欧米諸国では、すでに1970年代より保健医療福祉の領域で、系統的な体制作りがなされ注目されていた。そして日本でもここ10年来、この問題に一般的関心が高まりつつある。虐待は子供に死の危険があるだけでなく、子供の人権侵害に関わる大きな問題である。また、演者は“親は暖かい家庭にあって、良き教育者であれ”と、結んでおられた。心に残る叫びであった。 (出口和邦)

◆平成7年11月1日朝、前橋市民文化会館に到着した。静かな街である。この県では始めての表記協議会のため会場は殆ど満員の盛況であった。期待していた紅葉の素晴らしいさも暖冬のせいか鮮やかさがみられないのが残念だった。

講義Iの戸田芳雄先生・講義IIの森本 基先生・講義III赤坂守人先生そして講義IVの平山宗宏先生それぞれの立場での熱のこもった講義に席を立つ者もいなかった。

この1年オウム教騒動で明け暮れの日が続いた。目先の事ばかりに気をとられないで21世紀を担う児童生徒の口の健康を真摯に考えるべきである。 (菅谷和夫)

◆学校歯科保健研究協議会に参加した。前橋市民文化会館は駅からも近く広い敷地に多くの樹々で囲まれた立派な会場で、受付では暖かいもてなしを感じた。 (松谷真一)

◆最近の小学校児童の健診の現場では予期せぬことが起こっている。それは児童数の減少とそれに伴う学級数の減少である。ところが、さらに驚かされるのは、外国人児童数が年々増加していることである。都心周辺の地区では2~3ヶ国語の就学案内が作られ、就学困難な場合は、言語指導士が学校へ派遣されるそうだ。このような国際化の現場状況からみて、今後の学校歯科保健活動には、数ヶ国語の使用が必要となり、ひいては日学歯広報ならびに会誌でもその必要性がないとは云いきれない時代がきそそうだ。 (古川 正)

◆阪神淡路大震災、地下鉄サリン事件、二信組、銀行の経営破綻などの暗い世相の平成7年とも別れをつけ、戦後51年目の新たな年、平成8年を迎えた。

21世紀まであと4年、相変わらずの長期低迷下の経済環境と少子化・高齢化という人口構成をもった、社会環境の中で、次代の担い手である児童・生徒への学校歯科保健活動を通じ、学校・家庭・地域社会の連携の下、『心豊かで、たくましく生きる人間の育成』を再度確認し21世紀を迎える準備をしたいものであります。 (塚本 亨)

◆1995年を振りかえってみると、1月に兵庫県大震災がおこり、1、2月には山口敏夫元労相の逮捕、スポーツにおいては、イチローの大活躍、野茂のアメリカ野球日本人はじめての新人王等があり、日本学校歯科医会においては、新会長西連寺会長になって早や1年がすぎようとしております。

会誌・広報編集委員会の先生方のご協力で年2回発行の会誌を会員の先生方にお届けすることが出来ました。会誌の表紙は、平成7年度国画ポスター・コンクール入選作品より載せ、グラビアの方も国画ポスター・コンクール入選作品を載せてあります。日学歯の会誌は、記録保存という立場ですので会員の先生方の歯科保健活動にお役立て頂ければ幸甚です。

(中田郁平)

◆前々号から会誌の表紙を国画ポスター・コンクール入選作品の中から選んで飾ることになりました。次号からも優秀な作品も多いので楽しみにしていて下さい。聞くところによれば、広報費の方は会員との大切なパイプ役ということで、来年度若干増額になる由、これからも会員とのコミュニケーションを大切に頑張って行く積もりです。どうぞ宜しくお願いいたします。

(片山公平)

### 日本学校歯科医会会誌 第75号

印 刷 平成8年3月20日  
発 行 平成8年3月31日  
発行人 日本学校歯科医会 小林 菊生  
東京都千代田区九段北4-1-20  
TEL (03)3263-9330 FAX (03)3263-9634  
編集委員 佐藤貞彦・出口和邦・菅谷和夫  
松谷真一・古川 正・塙本 亨  
中田郁平(担当常務理事)・片山公平(担当理事)  
印刷所 一世印刷株式会社